科　目　名	連携ゼミナールII		
科目コード	22104	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	221043
授業形態	講義	開講時期	3年通年
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	30時間
先修条件	無		
教員名	大谷　恵		
実務経験	看護師として病院勤務		
オフィスアワー	グループを担当する教員が指定する。		
科目概要	既修の科目（連携ゼミナールⅠ）　で学んだことを基盤に、学生が各自の関心課題を明確にして研究疑問（又は、課題解決のためのプロジェクトの目的）として表現する。さらに、研究疑問から研究テーマ（又は、プロジェクトのテーマ）に変換し、テーマとして表現する。テーマに関する文献検討を行い、研究計画書（又は、プロジェクト計画書）を作成する。各自の計画を発表して、計画書を洗練し、修正をして完成する。これらのプロセスを通して、論理的な思考力と表現力、討論への積極的な参加への姿勢、課題解決に向けた実践能力を向上させる。		
到達目標	①自己の研究疑問から研究テーマに変換して表現できる。 ②研究テーマに関する文献検討を行い、テーマに沿って整理することができる。 ③研究計画書を作成することができる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①②③	全体ガイダンス	全員
2	①②	文献検索の方法	各教員
3	①②	文献検索と文献管理の方法	各教員
4	①②	レポートテーマに関する文献検索・資料収集 ①	各教員
5	①②	レポートテーマに関する文献検索・資料収集 ②	各教員
6	①②③	文献の読み方、文献表記の方法、文献の活用	各教員
7	①②③	文献の読み方、文献表記の方法、文献の活用	各教員
8	①②③	レポートの構成と作成方法	各教員
9	①②③	プレゼンテーションと資料作成	各教員
１０	①②③	レポート作成①	各教員
１１	①②③	文献抄読と討論 ①	各教員
１２	①②③	文献抄読と討論 ②	各教員
１３	①②③	文献抄読と討論 ③	各教員
１４	①②③	レポート作成 ②	各教員

事前・事後学修	事前学修：講義の前に前回までの内容を確認。各回120分 事後学修：講義最後に次回の学修内容を指示する。各回120分
評価方法	レポート（100%）

課題に対するフィードバック	課題レポート等はコメント等を付して返却する。
教　　科　　書	配布資料
参　　考　　書	必要に応じて、担当する教員が提示する。
履修上の注意点及び取扱い	必要に応じて、担当する教員が提示する。

科　目　名	英語文献講読		
科目コード	22106	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B221064
授業形態	講義	開講時期	4年後期
必修・選択	選択		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	伊東　裕康		
実務経験	無		
オフィスアワー	伊東：金曜日15：30～17：00 （内線：1204　e-mail：h.ito.t@ikc.ac.jp）		
科目概要	英文を読み、論文や専門書の構成やよく使用される用語の使用方法を理解し、読解力を育む。英語で書かれた学術誌や専門書を読み、ポイントや大意、概要を要約し、ディスカッションを行う。		
到達目標	①英語文献に触れ、新しい情報や知見を得る資料として活用することができる。 ②英語文献の構造が理解でき、ポイントを読み取ることができる。 ③自分のテーマにあった文献を検索し、内容を把握できる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①②③	ガイダンス　英語文献を読む意味　英語文献の紹介	伊東
2	①②③	英語文献の検索	伊東
3	①②③	学術誌の要旨を読む	伊東
4	①②③	英語文献の概要をつかむ	伊東
5	①②③	説明資料の作成	伊東
6	①②③	英語論文の紹介とディスカッション①	伊東
7	①②③	英語論文の紹介とディスカッション②	伊東

事前・事後学修	事前学修：講義の前に前回までの内容を確認。各回120分 事後学修：講義最後に次回の学修内容を指示する。各回120分
評価方法	各回の指示された事前・事後学修の達成状況およびディスカッションへの参加状況（50%）及び説明資料（50%）で評価する。
課題に対するフィードバック	課題レポート等はコメント等を付して返却する。
教科書	文献や資料を必要に応じて提示します。
参考書	文献や資料を必要に応じて提示します。
履修上の注意点及び取扱い	ディスカッションでは積極的に発言すること。

科　目　名	看護情報学		
科目コード	23309	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B233094
授業形態	講義	開講時期	4年後期
必修・選択	選択		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	石井　成郎		
実務経験	無		
オフィスアワー	授業終了後10分間（事前にアポイントメントを取ってください） 内線4323、n.ishii.t@ikc.ac.jp		
科目概要	看護情報は、患者ケアのための基礎知識や新しい知識を得るのみではなく、看護情報を活用することで、より効果的に看護を実践できるように看護師を支援するものであり、看護教育、看護研究、看護管理の分野において活用されている。本科目では、看護と医療情報の定義、医療、看護分野における情報化の動向、看護情報を活用する目的と意義、情報保護の基本、病院情報と電子カルテシステムの運用、医療の評価と意思決定について理解し、保健・医療・看護活動や看護の研究への活用と活用上の課題について学修する。 「別表３：科学的思考の基盤」		
到達目標	①看護情報を活用する目的や意義を理解できる。 ②看護情報の運用や管理における情報保護の基本が理解できる。 ③病院情報と電子カルテシステムの運用を理解できる。 ④看護情報を看護実践や看護研究、教育等に活用するために必要な取り扱い上の基本を理解できる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①③	ガイダンス　看護情報学概論	石井
2	①③	医療情報と看護情報の定義、医療・看護分野における情報化の動向（グループワーク）	石井
3	②	病院情報と電子カルテシステムの運用（グループワーク）	石井
4	①	情報の取り扱い、倫理的課題（グループワーク）	石井
5	②③	医療情報・看護情報の共用と管理、質評価、医療の標準化、クリニカルパス（グループワーク）	石井
6	②③	看護情報の活用：看護実践・看護教育への活用（グループワーク）	石井
7	③	看護情報学の活用方法に関するGW（グループワーク）	石井
レポート	①②③④	レポート	石井

事前・事後学修	事前学修：講義の前にワークシート（学修目標）を記入する（各回1時間）。 事後学修：講義終了後にワークシート（学修成果）を記入する（各回3時間）。
評価方法	レポート：60%、ワークシート：40%
課題に対するフィードバック	ワークシート、レポートはコメント等を付して返却する。
教科書	必要に応じてプリント等を配布する。
参考書	必要に応じてプリント等を配布する。
履修上の注意点及び取扱い	グループワークには積極的に参加すること。 事前・事後学修のワークシートの記入方法は授業で説明する。

科目名	コミュニケーション支援論		
科目コード	23310	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B233104
授業形態	講義	開講時期	4年後期
必修・選択	選択		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	大谷　恵・緒川　和代・鈴木　絵理奈		
実務経験	看護師として病院勤務（大谷） 公認心理師・臨床心理士として病院勤務（緒川）		
オフィスアワー	事前にメールでアポイントメントをとってください。		
科目概要	発達障害・聴覚障害・高次機能障害（失語など）により意思伝達における障害を持つ人々のコミュニケーション上の課題を理解する。そのうえで、実際的な意思伝達の方法について学び、人々へのより良い支援の必要性と方法を学修する。授業では、高次機能障害である失語症患者、発達障害を持つ小児、聴覚障害者、及び高齢者との効果的なコミュニケーション方法を取り上げる。		
到達目標	①意思伝達における障害を持つ人々のコミュニケーション上の課題を理解できる。 ②意思伝達の実際的な方法について学び、人々とのより良いコミュニケーションの基本的な方法と必要性を理解できる。 ③意思伝達における障害を持つ人々のコミュニケーション上の課題と支援の必要性を理解し、コミュニケーションの基本的な方法を理解する。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①②③	対人関係技術としてのコミュニケーション 事前学修：対人援助職に必要なコミュニケーション技術とはなにか考える。 事後学修：授業内容をノートにまとめる。	緒川
2	①②③	神経発達症の基礎知識 事前学修：神経発達症について調べる。 事後学修：授業内容をノートにまとめる。	緒川
3	①②③	神経発達症を持つ人とのコミュニケーション１ 事前学修：障害を持つ人とのコミュニケーションをイメージする。 事後学修：授業内容をノートにまとめる。	緒川
4	①②③	神経発達症を持つ人とのコミュニケーション２ 事前学修：課題となる参考書を読む。自己にて文献を調べる。 事後学修：授業から理解したことをレポートにまとめる。	緒川
5	①②③	対人援助における聴くこと・伝えること 事前学修：対人援助場面におけるコミュニケーションについてイメージしてくる。 事後学修：授業内容を復習しておく。	鈴木
6	①②③	人の心への理解と支援におけるかかわり 事前学修：提示する資料を読んでおく。 事後学修：授業内容を復習しておく。	鈴木
7	①②③	障害をもつ人とのコミュニケーション 事前学修：提示する資料を読んでおく。 事後学修：授業内容を復習しておく。	鈴木
レポート	①②③	レポート	大谷
事前・事後学修		事前学修：講義の前に前回までの内容を確認。各回120分 事後学修：講義最後に次回の学修内容を指示する。各回120分	
評価方法		レポート（100%）	

課題に対するフィードバック	課題レポート等はコメント等を付して返却する。
教　科　書	必要に応じて、授業中に資料や文献を提示する。
参　考　書	滝川一廣：「子どものための精神医学」医学書院
履修上の注意点及び取扱い	グループ学修では、主体的なリーダーシップやメンバーシップが求められる。したがって、個々がグループダイナミクスを意識し、学びを進めることができるよう、自己の役割を考えながら参加すること。 講義中の不必要な私語やスマートフォンの操作は他の受講生への影響を考えて控えること

科目名	女性の健康生活支援看護実習		
科目コード	24206	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B242063
授業形態	講義	開講時期	3～4年通年
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	90時間
先修条件	１．「基礎看護学実習Ⅱ」「女性の健康生活支援看護Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること。２．「総合看護実習」の単位数先修条件となる。		
教員名	小島　徳子・大瀬　恵子・野々山　英里・平野　友美		
実務経験	助産師として病院勤務(小島・大瀬・野々山・平野)		
オフィスアワー	実習時間後		
科目概要	周産期における母子とその家族の身体的・心理的・社会的特性を理解し、それぞれの発達過程に応じた個別的な看護を実践するための基礎的能力を養う。また、母子保健医療チームの一員である看護者の役割と責任について考える。各種保健指導や妊婦健康診査見学などを行い、周産期の対象に実施される健康教育について学修し、母子とその家族への継続した支援を考える。		
到達目標	①対象（妊婦・産婦・褥婦・胎児・新生児）の特徴を理解する。さらに、対象の生活や発達課題を理解し、家族を含めたケアや支援を実践する。 ②外来の特性を理解し、地域の中で、母性看護が妊産褥婦および新生児とその家族に果たす役割について考えることができる。 ③母子保健に関連する法規や制度を理解し、母子及び家族支援のための社会資源の活用について考えることができる。 ④対象や家族との関わりの中で、自己の母性・父性意識を発展させることができる。 ⑤カンファレンスを通して、母性看護について考察し、自分の考えを深め、看護職者として守るべき看護倫理を理解し、必要な資質を養うことができる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	○
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
１日目	①②③④⑤	学内実習：実習オリエンテーション、母性看護に必要な技術練習 病棟実習：病棟案内、避難経路、病棟内の物品の場所、受け持ち対象選定、対象への挨拶、情報収集	全員
２日目	①②③④⑤	病棟実習：受け持ち対象の看護（情報収集・アセスメント）、カンファレンス	全員
３日目	①②③④⑤	病棟実習：受け持ち対象の看護（アセスメント・計画立案）、カンファレンス	全員
４日目	①②③④⑤	病棟実習：受け持ち対象の看護（実施・評価）、カンファレンス	全員
５日目	①②③④⑤	病棟実習：受け持ち対象の看護（実施・評価）、振り返り、まとめ、最終カンファレンス	全員
６日目	①②③④⑤	学内技術練習：実習オリエンテーション、母性看護に必要な技術練習補佐 学内実習：DVD視聴等	全員
７日目	①②③④⑤	学内実習：妊婦健診事前学修、母親学級などの動画視聴、トピックスの発表準備	全員
８日目	①②③④⑤	外来実習：妊婦健診、マタニティヨガの見学、学びの発表	全員
９日目	①②③④⑤	外来実習：妊婦健診、母親学級の見学、学びの発表	全員
１０日目	①②③④⑤	学内実習：母子保健に関するトピックス発表、妊婦健診での学びの発表、振り返り、記録のまとめ	全員
事前・事後学修		事前学修はあらかじめ指示された課題を、実習で活用できるようにまとめておく。 事後学修については実習初日のオリエンテーション時に指示する。	
評価方法		実習評価表を基に、実習記録、カンファレンスへの参加、出席状況等、総合的に評価する。	

課題に対する フィードバック	課題レポート等はコメントを付して返却する。
教　科　書	女性の健康生活支援看護Ⅰ・Ⅱに準ずる。
参　考　書	事前学修としてまとめたものや講義時に配布した資料や演習資料等を活用する。領域に関連する国家試験問題（mediLink等）なども参考にする。
履修上の注意点 及び取扱い	１．学生としての基本的態度を厳守する。 １）限られた実習期間であるため主体的に実習できるよう心掛ける。 ２）服装、身だしなみについては、清潔・安全・機能性に留意する。 ３）報告・連絡・相談を徹底する。 ２．事前学修課題について １）事前学修の書式は自由、実習中に活用しやすいよう、各自工夫して作成する。 ２）アセスメントや計画を実践に活かせるよう、十分な知識と具体的な看護を記載する。 ３）これまでの講義資料と演習資料（看護過程演習を含む）をよく復習する。 ４）実習前に提出する。 ３．事前技術練習を十分に実施していない場合、実習対象とならないことがある。 ４．レポートや記録物の提出日時は厳守する。 ５．既定の出席を満たし、実習記録が提出された場合に評価対象となる。

科　目　名	療養生活支援看護実習		
科目コード	24210	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B242103
授業形態	実習	開講時期	3～4年通年
必修・選択	必修		
単位数	4単位	時間数	180時間
先修条件	１．「基礎看護学実習Ⅱ」「療養生活支援看護Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること。 ２．「総合看護実習」の単位数先修条件となる。		
教員名	安藤　詳子・増永　悦子・馬場　美穂・小澤　直樹・小野寺　美佳		
実務経験	看護師として病院勤務(安藤・増永・小澤・小野寺) 看護師として病院・地域包括支援センター勤務(馬場)		
オフィスアワー	帰校日（学内実習終了後から17時まで）		
科目概要	慢性の病いをもち、医療機関や地域の療養施設及び自宅で生活している患者とその家族を全人的・統合的に理解し、治療施設から自宅における日常生活に復帰するために、自らの力で生活を維持・拡大するセルフマネジメント・スキルの獲得やQOLの向上を支援する看護実践と倫理的な配慮などの看護実践能力の基礎を育む。病院や療養施設及び自宅で生活する患者と家族への看護や家族支援の実際を理解し、支援システムの活用上の課題や活用の在り方を考察する。訪問看護における看護マネジメントと訪問看護師によるケア提供や家族支援、他職種によるチーム連携・協働、社会資源の活用の実際を理解し、その課題と看護師の役割について学修する。また、慢性の病いから終末期を迎える人と家族への看護についても学修する。		
到達目標	①慢性の健康課題をもつ看護の対象（家族を含む）に関連する看護の概念や主要な理論を活用できる。 ②慢性の健康課題をもつ看護の対象の発達課題の特徴、健康と生活上の課題を理解して、セルフマネジメント・スキルの獲得やQOLの向上を支援する看護、及び退院支援、継続看護を実施し評価できる。 ③訪問看護における看護マネジメントと訪問看護師によるケア提供や家族支援の場に参加し、在宅における看護提供と看護実践の基礎を身につける。 ④保健・医療・福祉システムにおける他職種との連携や協働、社会資源の活用の実際を理解し、その課題と看護師の役割を考察する。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	○
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
１日目	①②④	午前：健康状態の確認、外来看護実習の全体オリエンテーション 外来（実習部署）案内 午後：外来（実習部署）オリエンテーション、情報収集	全員
２日目	①②④	外来（退院支援センターを含む）看護実習：継続看護 カンファレンス	全員
３日目	①②④	外来（退院支援センターを含む）看護実習：継続看護 カンファレンス	全員
４日目	①②④	外来（退院支援センターを含む）看護実習：継続看護 カンファレンス	全員
５日目	①②④	外来看護実習のまとめ、記録の整理　（学内）	全員
６日目	①②④	午前：健康状態の確認、在宅看護実習の全体オリエンテーション 午後：在宅（訪問看護ステーション）オリエンテーション、受け持ち患者選定、情報収集	全員
７日目	①②④	受け持ち患者の看護（訪問看護師に随行）　記録　カンファレンス	全員
８日目	①②④	受け持ち患者の看護（訪問看護師に随行）　記録　カンファレンス	全員
９日目	①②④	受け持ち患者の看護（訪問看護師に随行）　記録　カンファレンス	全員
１０日目	①②④	在宅看護実習のまとめ、記録の整理　（学内）	全員
１１日目	①②③	午前：健康状態の確認、病棟オリエンテーション 午後：受け持ち患者選定、情報収集	全員

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
１２日目	①②③	受け持ち患者の看護　情報の整理・分析 記録の整理（学内実習）	全員
１３日目	①②③	受け持ち患者の看護　情報の整理・分析 カンファレンス	全員
１４日目	①②③	受け持ち患者の看護情報の統合・看護計画立案 カンファレンス	全員
１５日目	①②③	受け持ち患者の看護 中間カンファレンス：情報の統合　看護計画の立案	全員
１６日目	①②③	受け持ち患者の看護　看護計画に基づく実践 カンファレンス	全員
１７日目	①②③	受け持ち患者の看護　看護計画に基づく実践 カンファレンス	全員
１８日目	①②③	受け持ち患者の看護　看護計画に基づく実践の評価 カンファレンス	全員
１９日目	①②③	受け持ち患者の看護　看護計画に基づく実践の評価 病棟最終カンファレンス：実習のまとめ	全員
２０日目	①②③④	午前：自己評価　個人面接 午後：実習全体のまとめ、記録の整理　（学内）	全員
事前・事後学修		事前学修：実習前に前回までの内容を確認。 事後学修：実習後に次回の学修内容を指示する。	
評　価　方　法		実習目標の達成度（実習記録）：50% グループワーク（主体性、探求性、協調性、客観性、知的誠実性で評価）：20% 課題レポート：30%	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教　科　書		授業科目で使用した教科書以外については、必要な場合に後日紹介する。	
参　考　書		適宜、紹介する。	
履修上の注意点及び取扱い		１．本実習は通年で開講する。3学年次の後期に病棟実習、4学年次前期に在宅・外来実習を行う。評価は各々の実習終了後に評価し、4学年次前期の実習終了後に、最終的に全体の成績評価をする。 ２．実習記録、実習態度、グループへの参加度で総合的に評価する。 ３．上記に示した実習スケジュールは、実習施設、患者等の状況によって変更する場合がある。 ４．各々の実習終了後に実習評価表を用いて自己評価を行い、評価面接で教員評価との調整を行う。	

科　目　名	急性期回復支援看護実習		
科目コード	24213	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B242134
授業形態	実習	開講時期	3～4年通年
必修・選択	必修		
単位数	3単位	時間数	135時間
先修条件	１．「基礎看護学実習Ⅱ」「急性期回復支援看護Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること。 ２．「総合看護実習」の単位数先修条件となる。		
教員名	小倉　久美子・岩井　美世子		
実務経験	看護師として病院勤務(小倉・岩井)		
オフィスアワー	実習時間後：自習室		
科目概要	急性期・周術期看護を必要とする対象を総合的に理解し、根拠に基づいた看護計画の立案・実施・評価の一連の看護過程の展開を実施する。また看護過程の展開の中で、患者との援助的な人間関係の構築について体験する。 退院後の生活を見据えて、早期回復へのリハビリテーションおよび退院後の日常生活に必要な教育・看護支援について計画立案し実施する。		
到達目標	①周術期または急性増悪の患者を身体的・心理的・社会的側面から総合的に理解する。 ②周術期または急性増悪の患者に対して看護計画を立案することができる。 ③疾患や手術・治療による生体反応や回復を促進するための条件および予測される問題を踏まえ、援助の優先順位を判断し実践・評価することができる。 ④周術期または急性増悪の患者に対して退院後の生活を見据えて、リハビリテーションなど回復の援助ができる。 ⑤看護専門職としての態度を習得できる、		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1日目	①⑤	手術室・ICU実習オリエンテーション	全員
2日目	①⑤	手術室・ICU実習	全員
3日目	①⑤	手術室・ICU実習	全員
4日目	①⑤	手術室・ICU実習	全員
5日目	①⑤	手術室・ICU実習	全員
6日目	①②⑤	病棟オリエンテーション、受け持ち患者の選定と情報収集	全員
7日目	①②③④⑤	急性憎悪または周手術期の患者を受け持ち(以下、受け持ち患者）、観察およびコミュニケーションを通した情報収集	全員
8日目	①②③④⑤	受け持ち患者に対して観察の実践およびコミュニケーションを通した情報収集	全員
9日目	①②③④⑤	受け持ち患者の回復に向けて、行動計画に基づいた看護実践	全員
10日目	①②③④⑤	受け持ち患者の回復に向けて、行動計画に基づいた看護実践	全員
11日目	①②③④⑤	受け持ち患者の回復に向けて、行動計画に基づいた看護実践	全員
12日目	①②③④⑤	受け持ち患者の回復に向けて、行動計画に基づいた看護実践	全員
13日目	①②③④⑤	受け持ち患者の回復に向けて、行動計画に基づいた看護実践および退院指導	全員
14日目	①②③④⑤	受け持ち患者の回復に向けて、行動計画に基づいた看護実践および退院指導	全員
15日目	①②③④⑤	受け持ち患者の看護過程展開の振り返りとカンファレンスの実施	全員

事前・事後学修	事前学修：急性期・周手術期看護に関する学修。各回60分 事後学修：看護過程の記録の整理と。不明な点を調べる。各回60分
評　価　方　法	臨床実習の評価は、臨床での実習行動および実習レポートで総合的に評価する。
課題に対する フィードバック	看護過程のフィードバックは実習時間内に行う。
教　　科　　書	①矢永勝彦他、臨床外科看護総論、医学書院 ②北島政樹他、臨床外科看護各論、医学書院
参　　考　　書	急性期回復支援看護Ⅰ・Ⅱの授業資料。 適宜紹介する。
履修上の注意点 及び取扱い	1.実習スケジュールは、入院患者の状況によって変更する場合がある。 2.実習レポートの提出について、公的な理由がない限り指定した日時、指定場所に提出すること。 3.その他、 注意点は実習オリエンテーションにおいて説明する。

科目名	高齢者の健康生活支援看護実習Ⅱ		
科目コード	24217	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B242174
授業形態	講義	開講時期	4年前期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	90時間
先修条件	１．「基礎看護学実習Ⅱ」「高齢者の健康生活支援看護Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること。２．「高齢者の健康生活支援看護実習Ⅰ」を履修していること。３．「総合看護実習」の単位数先修条件となる。		
教員名	野村　千文・佐久間　美里・川井　伸恵		
実務経験	看護師として病院勤務(野村・佐久間・川井)		
オフィスアワー	野　村：授業日・授業終了後～17：00（c.nomura.t@ikc.ac.jp） 佐久間：授業日・授業終了後～17：00（m.sakuma.t@ikc.ac.jp） 川　井：授業日・授業終了後～17：00（n.kawai.t@ikc.ac.jp）		
科目概要	高齢者とその支援者を支える看護のあり方を理解したうえで、治療の目的で医療機関に入院中の高齢者を受け持ち、健康への回復、合併症の予防、日常生活行動の回復と拡大、身体機能の改善と回復、自宅への復帰に向けた看護実践の基礎的能力を身につける。また、医療施設から地域の高齢者施設や自宅に移行する高齢者とその家族を支える継続看護をとおして、医療チームにおける多職種との連携と協働、看護マネジメントの実際と重要性、看護師の役割について学修する。		
到達目標	①対象者の加齢に伴う身体的特性を観察・測定し、健康課題と生活行動上の課題をアセスメントできる。 ②対象者の健康課題や治療が身体的側面に及ぼす影響についてアセスメントできる。 ③対象者の健康課題や治療が心理的側面に及ぼす影響についてアセスメントできる。 ④対象者の健康課題や治療が生活機能に及ぼす影響についてアセスメントできる。 ⑤対象者に生じやすい二次的な合併症についてアセスメントできる。 ⑥対象者の健康課題や生活機能低下が家族の機能や役割に与える影響について理解できる。 ⑦対象者と家族の情報を統合し全体像を記述できる。 ⑧全体像を基に、看護問題、看護目標、期待される結果を作成できる。 ⑨看護目標を基に、個別性のある看護計画を作成できる。 ⑩対象者への看護援助の留意点について分析できる。 ⑪対象者への看護援助を適切な時間内で安全に実施できる。 ⑫実施した援助を対象者の反応や結果を踏まえ、報告・記録できる。 ⑬看護実践を踏まえ、看護計画を評価できる。 ⑭実施した看護の要約を記述できる。 ⑮看護倫理を踏まえ対象者や家族に対して、尊重した態度で対応できる。 ⑯看護において人々の基本的人権を擁護するための手段・方法が実施できる。 ⑰保健・医療・福祉システムにおける多職種間の連携の現状と課題を理解し、看護職の役割について考察できる。 ⑱チームの一員としてケアに参画できる。 ⑲主体的に、実習に臨むことができる。 ⑳自己の看護を振り返り看護観について考えることができる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
１日目	①	施設オリエンテーション 看護過程の展開：情報収集、学生による身体診察 カンファレンス	全員
２日目	②③④	看護過程の展開：情報収集、身体診察、アセスメント ケア場面の見学：環境整備、清潔、食事、排泄、移動、リハ見学 カンファレンス	全員
３日目	⑤⑥⑦⑲	看護過程の展開（全体像記述、看護問題抽出、初期看護計画立案） カンファレンス	全員
４日目	⑧	看護過程の展開（看護計画立案）	全員

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
５日目	⑨	看護過程の展開（初期看護計画の完成）、看護実践、カンファレンス	全員
６日目	⑩⑪⑲	看護過程の展開（看護計画修正）、シミュレーション演習（対象者への看護技術）	全員
７日目	⑫⑮⑯	看護過程の展開（看護計画修正、経過記録）、看護実践、カンファレンス	全員
８日目	⑬⑲	看護過程の展開（看護問題の評価、要約案作成）	全員
９日目	⑭⑱	看護過程の展開（看護問題の評価、要約作成） 実習まとめカンファレンス	全員
１０日目	⑰⑳	評価面接、実習記録整理、学びの整理、記録提出	全員
事前・事後学修		事前学修：実習前に事前学修課題を提示する。 事後学修：学修内容をまとめる。	
評　価　方　法		1．実習評価表の項目に基づき実施する。	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教　　科　　書		1．堀内ふき他、編：「ナーシング・グラフィカ老年看護学①高齢者の健康と障害」（第6版）、メディカ出版、2022 2．　堀内ふき他、編：「ナーシング・グラフィカ老年看護学②高齢者看護の実践」（第5版）、メディカ出版、2022	
参　　考　　書		1．渡邊トシ子他、編：「ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく　実践　看護アセスメント　ー同一事例による比較ー （第3版）」、ヌーヴェルヒロカワ、2019 2．奥宮暁子他、編：「ウェルネスの視点にもとづく老年看護過程第2版 生活機能に焦点をあてたアセスメント（第2版）」、医歯薬出版、2019 3．上鶴重美訳：「NANDA-I看護診断　ー定義と分類 2021-2023（原書第12版）」、医学書院、2021	
履修上の注意点及び取扱い		1．上記に示した実習スケジュールは、対象者の状況によって変更する場合がある。	

科　目　名	こどもの健康生活支援看護実習		
科目コード	24220	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B242203
授業形態	講義	開講時期	3～4年通年
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	90時間
先修条件	１．「基礎看護学実習Ⅱ」「こどもの健康生活支援看護Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること。２．「総合看護実習」の単位数先修条件となる。		
教員名	河村　江里子・小平　由美子		
実務経験	看護師として病院勤務（小平、河村）		
オフィスアワー	実習終了時（前もって教員にコンタクトをとることを希望） 河村：e.kawamura.t@ikc.ac.jp		
科目概要	こどもと家族についての主要な看護理論や発達理論を理解したうえで、実際のこどもについて理解する。 小児病棟での受け持ち実習・外来実習を通して、こどもとその家族への身体的・心理的・社会的側面を理解し、適切な看護を行うための基本的な知識・技術・態度を習得する。また、健康障害をもちながら家庭や地域で生活するこどもと家族の継続看護の在り方を考察する。 さらにこどもの看護実践における倫理と権利の擁護者としての看護師の役割について理解を深める。		
到達目標	①ヘルスプロモーションの視点から、こどもの成長・発達過程および発達課題を説明できる。 ②こどもと家族の情報をもとに、健康障害をもつこどもの心身の状態をアセスメントできる。 ③根拠に基づき、こどもと家族に必要な看護計画が立案できる。 ④看護計画に基づき、看護上の問題解決に向けた援助の実施と評価ができる。 ⑤こどもの安全・安楽に心がけた看護実践ができる。 ⑥地域におけるこどもの健康な生活（QOL）および成長・発達に向けた社会制度を理解し、多職種連携の必要性が説明できる。 ⑦看護専門職者としての基本的姿勢をもち、こどもの人権擁護にもとづいた倫理的配慮ができる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	○
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1日目	①②⑥⑦	学内実習：実習オリエンテーション（一般外来と乳児健診・特殊外来について）、技術演習（身体計測、ディストラクション・遊び等を含めた外来での対応）、発達段階・特殊外来患者の一般的な病態生理・看護の予習・復習をする。 【事前学修】行動計画の作成、実習前に指示された事前学修 【事後学修】本日の振り返りの記述	全員
2日目	①②③④⑤⑥⑦	外来実習：一般外来において、予習をもとに患者家族とコミュニケーション、こどもへのディストラクションを通して患者家族を理解する。 【事前学修】行動計画の作成、外来看護計画の作成 【事後学修】実施したケアの結果と評価、本日の振り返りの記述 情報収集とアセスメントの追加・修正	全員
3日目	①②③④⑤⑥⑦	外来実習：乳児健診・特殊外来（アレルギー外来）において、情報収取・予習をもとに患者家族とコミュニケーション、こどもへのディストラクションを通して患者家族を理解する。 【事前学修】行動計画の作成、外来看護計画の作成 【事後学修】実施したケアの結果と評価、本日の振り返りの記述 情報収集とアセスメントの追加・修正	全員
4日目	①②⑥⑦	学内実習：健康なこども・健康問題をもつこどもとその家族の動画視聴から、双方の類似点・相違点を理解する。/情報共有・振り返り、記録のまとめをする。 【事前学修】行動計画の作成 【事後学修】本日の振り返りの記述	全員

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
5日目	①②⑥⑦	学内実習：１週間の学びを共有・まとめ、実習記録の整理をする。 事前学修：行動計画の作成、発表資料の作成 事後学修：本日の振り返りの記述	全員
6日目	①②⑤⑥	病棟実習：病院・病棟の概要オリエンテーション（病棟：受け持ち患児の紹介・あいさつ）、受け持ち患児や家族の情報収集・アセスメント、看護の方向性について相談・検討 事前学修：行動計画の作成 事後学修：本日の振り返りの記述、情報収集、アセスメント	全員
7日目	①②③④ ⑤⑥⑦	病棟実習：受け持ち患児の看護・情報収集・アセスメント・統合、看護計画の立案、カンファレンス 【事前学修】行動計画の作成、情報収集とアセスメント 【事後学修】実施したケアの評価（SOAP）、本日の振り返りの記述 情報収集とアセスメントの追加・修正、計画立案	全員
8日目	①②③④ ⑤⑥⑦	病棟実習：受け持ち患児の看護・実践と評価、看護計画の修正・立案、カンファレンス 【事前学修】行動計画の作成、看護計画の立案 【事後学修】実施したケアの評価（SOAP）、本日の振り返りの記述	全員
9日目	①②③④ ⑤⑥⑦	病棟実習：受け持ち患児の看護・実践と評価、看護計画の修正・立案、カンファレンス 【事前学修】行動計画の作成、看護計画の追加、修正 【事後学修】実施したケアの評価（SOAP）、本日の振り返りの記述	全員
10日目	①②③④ ⑤⑥⑦	病棟実習：受け持ち患児の看護・実践と評価、最終カンファレンス 病棟実習の学びの整理 【事前学修】行動計画の作成、看護計画の追加、修正 【事後学修】実施したケアの評価（SOAP）、本日の振り返りの記述 実習記録の整理	全員
事前・事後学修		【事前学修】実習の進度に合わせその都度指示する：各120分 【事後学修】実習の進度に合わせその都度指示する：各120分	
評　価　方　法		実習評価表にある項目ごとの評価の合計点数で評価する。	
課題に対するフィードバック		日々の実習で、個人指導、カンファレンス、記録へのコメント等でフィートバックを行う。	
教　科　書		１．奈良間美保他：系統看護学講座　小児看護学１　小児看護学概論　小児臨床看護総論（第14版）、医学書院、2022年、3040円 ２．奈良間美保他：系統看護学講座　小児看護学２　小児看護学各論（第14版）、医学書院、2022年、3440円 ３．浅野みどり編：根拠と事故防止からみた小児看護技術（第３版）、医学書院、2020年、4400円	
参　考　書		浅野みどり　杉浦太一　山田知子編集：発達段階から見た小児看護過程（第4版）、医学書院、2021年、4290円 その他、講義資料を積極的に活用する。	
履修上の注意点及び取扱い		１．実習ガイダンスには必ず出席する。実習方法、実習内容、実習施設を確認し、実習要項、実習資料を熟読して実習に臨む。 ２．学生としての基本的態度を厳守し、主体的に実習する。 ３．こどもの健康生活支援看護Ⅰ・Ⅱの講義内容を復習し、活用する。 ４．実習評価表を用いて自己評価を行う。 ５．実習スケジュールは、対象の状況等によって変更する場合がある。	

科　目　名	こころの健康生活支援看護実習		
科目コード	24223	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B242234
授業形態	講義	開講時期	3・4年通年
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	90時間
先修条件	１．「基礎看護学実習Ⅱ」「こころの健康生活支援看護Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること。２．「総合看護実習」の単位数先修条件となる。		
教員名	大谷　恵・村岡　大志・髙島　孝晃		
実務経験	看護師として病院勤務(大谷・村岡・髙島)		
オフィスアワー	実習時間後30分間（実習施設）。その他はアポイントメントをとってください。 メールによる問い合わせ先は以下の通りです。 大谷：m.otani.t@ikc.ac.jp、村岡：h.muraoka.t@ikc.ac.jp、 高島：t.takashima.t@ikc.ac.jp		
科目概要	精神障害をもつ人を対象に、その人となりを生活上の文脈において理解し、対象のリカバリーに向けた課題にともに取り組むための支援について学修する。		
到達目標	①精神障害をもつ人が日常生活を送る上で，身体・行動・対人関係などの面でどのような課題を抱　えているのか，また，それはどのような生きにくさの体験なのかを理解することができる。 ②精神障害をもつ人が体験している生きにくさをその人の生育史や生活背景から捉え、対象のストレングスやレジリエンスに着目した援助の方向性を考えることができる。 ③対象とかかわる中で生じた自らの感情や考えを言語化し，患者－看護者の治療的関係の視点からやりとりを解釈し，考察したことをかかわりに活かすことができる。 ④治療的環境が，精神障害をもつ人にどのような相互作用を生み出しているのかを捉えるとともに，自らが治療的環境の一部として存在していることを意識して行動することができる。 ⑤精神保健医療福祉における各職種の役割を知り、調整・協働・連携における看護師の役割を考察できる。 ⑥精神障害をもつ人を取り巻く環境や支援の現状について、その人の立場に立って考え、今後の課題を考察できる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	○
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
１日目	①②④⑤	実習施設・病棟オリエンテーション 患者とのかかわり ＊事前学修：既習科目の学修内容を復習する。学内実習オリエンテーションの資料を読む。 ＊事後学修：実習内容を記録に整理する。	全員
２日目	①②④⑤	患者とのかかわり、受け持ち患者の決定 患者の日常生活への参加をとおしてアセスメント プロセスレコードによる患者―看護師関係の振り返り① ＊事前学修：実習1日目の学びや課題を振り返り	全員
３日目	①②③⑤	患者とのかかわり：患者の日常生活への参加をとおして アセスメント：観察・かかわり・記録物などをとおして ＊事前学修：実習２日目の学びや課題を振り返り、必要なアセスメント項目を確認する。 ＊事後学修：実習内容を記録に整理する。	全員
４日目	①②③④	患者とのかかわり：患者の日常生活への参加をとおして アセスメント：観察・かかわり・記録物などをとおして ＊事前学修：実習３日目の学びや課題を振り返り、必要なアセスメント項目を確認する。 ＊事後学修：実習内容を記録に整理する。	全員
５日目	①②③④	患者とのかかわり：患者の日常生活への参加をとおして アセスメント（全体像の理解）：観察・かかわり・記録物などをとおして ＊事前学修：実習４日目までを振り返り、現時点までの患者の全体像を言語化する。 ＊事後学修：実習内容を記録に整理する。	全員

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
６日目	①②③④⑤	患者とのかかわり：患者の日常生活への参加をとおして アセスメントの追加・修正 ＊事前学修：1週目の実習をを振り返り、2週目に向けての課題と取り組みを考え、言語化する。 ＊事後学修：実習内容を記録に整理する。	全員
７日目	①②③④⑤	患者とのかかわり：患者の日常生活への参加をとおして 患者の全体像、援助の方向性の検討 ＊事前学修：実習６日目の学びや課題を振り返り、アセスメントの修正を行い、患者のありたい姿、希望を検討する。 ＊事後学修：実習内容を記録に整理する。	全員
８日目	①②③④⑤⑥	患者とのかかわり：患者の日常生活への参加をとおして 患者の全体像、援助の方向性の検討 プロセスレコードによる患者―看護師関係の振り返り② ＊事前学修：実習7日目までの患者とのかかわりを振り返り、患者のリカバリーを支援するかかわりを考える。関係の終結について調べる。 ＊事後学修：実習内容を記録に整理する。	全員
９日目	①②③④⑤⑥	患者とのかかわり：患者の日常生活への参加をとおして 患者と援助の方向性を話し合う 実習での学びの整理・終結の準備 ＊事前学修：実習8日目までの患者とのかかわりを振り返り、援助の方向性について考える。終結の具体的な方法について考える。 ＊事後学修：実習内容を記録に整理する。	全員
１０日目	①②③④⑤⑥	受け持ち患者との終結 実習のまとめ・ケースカンファレンス 個人面談 ＊事前学修：実習9日目までの患者とのかかわりを振り返り、患者との関係の終結、継続看護について考える。ケースカンファレンスの準備を行う。 ＊事後学修：実習内容を記録に整理する。	全員
事前・事後学修		事前学修：指定された事前学修課題を実施する。 事後学修：指定された事後学修課題を実施する。	
評　価　方　法		実習目標の達成度：60% カンファレンスの参加度（主体的参加、積極性）：20% 記録物の提出：20%	
課題に対するフィードバック		日々の実習では、個人面談、カンファレンス、記録へのコメント等でフィートバックを行う。 実習最終日に個人面談を行う。	
教　科　書		武井麻子、他（2021）系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護の基礎　精神看護学①　医学書院 武井麻子、他（2021）系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護の展開　精神看護学②　医学書院	
参　考　書		適宜、紹介する。	
履修上の注意点及び取扱い		１．主体性をもって取り組む。 ２．実習前ガイダンスに参加する。 ３．実習スケジュールは、対象の状況等によって変更する場合がある。	

科目名	グローバルヘルスケア論		
科目コード	24228	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B242284
授業形態	講義	開講時期	4年後期
必修・選択	選択		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	榊原　久孝		
実務経験	産業医として勤務		
オフィスアワー	授業後10分間		
科目概要	本科目では、疾病のリスクや疾病を抱える人々の健康問題に焦点をあて、保健、医療、福祉を含めた総合的なケアサービスを提供 するために必要なチームアプローチのあり方を検討する。本科目では、「地域包括ケアシステムの現状と課題」について調査を目的としたフィールドワークを行う。得られた結果をレポートにまとめ、発表する。これらの学修を通して、有効なチーム医療のあり方とチーム医療を推進する看護師の役割、さらにリーダーシップとメンバーシップについても考察する。		
到達目標	①グローバルヘルスの概念について理解する。 ②「グローバルヘルスケア及び地域包括ケアシステムの現状と課題」についてまとめ、説明することができる。 ③日本における保健、医療、福祉を含めた総合的なケアサービスの提供のあり方をディスカッションすることができる。 ④1～3をもとに、チームアプローチのあり方とチーム医療を推進する看護師の役割、リーダーシップとメンバーシップについて考察することができる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	○
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①	ガイダンス、グローバルヘルスケア概論 事前学修：地域包括ケアシステムについて復習、事後学修：授業内容のまとめ	榊原
2	①②	グローバルヘルスケアの概念と扱う範囲、社会的な背景 チームアプローチとは 事前学修：自ら取り組むテーマの考案	榊原
3	②	文献調査及びフィールドワークの方法、フィールドワークの目的の明確化と計画 事前・事後学修：文献調査及びフィールドワークの計画作成	榊原
4	②	フィールドワークの実施① 事前・事後学修：文献調査及びフィールドワーク準備とまとめ	榊原
5	②	フィールドワークの実施② 事前・事後学修：文献調査及びフィールドワーク準備とまとめ	榊原
6	②	結果のまとめ①　データ分析 事前・事後学修：データ結果まとめ	榊原
7	②③④	結果のまとめ②　データからの考察 事前・事後学修：データ考察まとめ	榊原
レポート	②③④	レポート（グローバルヘルスケア及び地域包括ケアシステムの現状と課題）	榊原

事前・事後学修	事前学修：講義の前に前回までの内容を確認。各回120分 事後学修：講義最後に次回の学修内容を指示する。各回120分
評価方法	文献調査及びフィールドワーク(30%)、発表およびディスカッションへの参加度（20%）、課題レポート（50%）
課題に対するフィードバック	課題レポート等はコメント等を付して返却する。
教科書	必要に応じて、資料・文献を提示する。

参　考　書	必要に応じて、資料・文献を提示する。
履修上の注意点 及び取扱い	積極的に課題を見つけ、取り組むこと 文献調査やフィールドワークについては、授業３回目までに担当教員から説明を受け、具体的な方法や準備について相談すること

科　目　名	看護管理学		
科目コード	24303	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B243034
授業形態	講義	開講時期	4年前期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	無		
教員名	鈴江　智恵・大久保　清子		
実務経験	管理者・看護師として病院勤務（鈴江） 看護管理者・病院管理者・看護師として病院勤務（大久保）		
オフィスアワー	授業終了後の30分間。 鈴江：t.suzue.t@ikc.ac.jp 大久保：k.ohkubo.t@ikc.ac.jp		
科目概要	質の高い看護サービスを提供するため、看護管理の概念と基本的な考え方を学び、そのうえで組織・個人が担う役割や、看護サービスの質を保障するための仕組みについて学修する。具体的には保健医療福祉サービスの仕組み、医療施設の組織構造、看護部門の構造機能、看護提供システムの仕組み、チームにおける他職種との連携・協働、看護管理の実際について理解する。また、看護の質の向上に向けて看護職が直面している諸問題とその政策過程について関心を持ち。将来、看護職の一員として、看護の質の向上を目指し、継続して自己の能力を発展させる重要性と責務への自覚を育む。		
到達目標	①看護管理の目的、看護管理の基本的な理論を説明できる。 ②医療施設の組織構造が説明できる。 ③看護サービス提供システムについて説明できる。 ④チームにおける専門職間の連携・協働について説明できる。 ⑤看護サービスの質を保障する方法について説明できる。 ⑥看護職の責務を理解し、個人の責務について説明できる。 ⑦保健医療福祉サービスの仕組みについて説明できる。 ⑧看護専門職のキャリア形成について考えることができる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	○
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①⑥	＜学修ガイダンス＞ 看護管理学の学修方法・評価方法の説明 【講義】事前学修：教科書p.16-36.を読んでおく。 ・社会の変化と看護の関わり ・日本の看護職の活動の変遷 事後学修：講義の内容から、重要な用語、疑問、考えたことを自己学修ノートにまとめる。	鈴江・大久保
2	①②③	【講義】事前学修：教科書p.76-90.を読んでくる. 看護マネジメントとは ・看護マネジメントのプロセス ＜グループワーク＞ 実習での学びをふまえ、講義内容の疑問点についてグループで検討し発表する。 事後学修：講義、グループワークの内容から、疑問、考えたことを自己学修ノートにまとめる。	大久保
3	①③④	【講義】事前学修：教科書p.38-53,91-95を読んでくる. 他者とともに看護する ・チームを効果的に看護する ・リーダーシップ ・フォロワーシップ ・効率的・効果的に看護するということ 事後学修：講義の内容から、重要な用語、疑問、考えたことを自己学修ノートにまとめる。	鈴江

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
4	①④⑥	【講義】事前学修：教科書p.54-74を読んでくる. チームの一員に求められる協働のための行動 ・コミュニケーション、マナー・自己表現・アサーティブ ・継続看護のための協働 ＜グループワーク＞ 実習での学びをふまえ、講義内容の疑問点についてグループで検討し発表する。 事後学修：講義、グループワークの内容から、疑問、考えたことを自己学修ノートにまとめる。	鈴江
5	③④⑥⑦	【講義】事前学修：教科書p.98-121.を読んでくる. 組織で取り組む看護活動 ・組織とその構造・機能・分業と協働のしくみ・サービスマネジメント・サービスマネジメントの動向や将来 事後学修：講義の内容から、重要な用語、疑問、考えたことを自己学修ノートにまとめる。	鈴江
6	①④⑤⑥	【講義】事前学修：教科書p.122-157.を読んでくる. 働く人を生かすマネジメント ・人材マネジメント・多様な人材を生かす・ワークライフバランス ・モノの管理、情報の管理、カネの管理・非常時の備え ＜グループワーク＞ 実習での学びをふまえ、講義内容の疑問点についてグループで検討し発表する。 事後学修：講義、グループワークの内容から、疑問、考えたことを自己学修ノートにまとめる。	鈴江
7	①⑤⑥	【講義】事前学修：教科書p.160-183.を読んでくる. 看護の質向上のための取り組み ・看護組織の活動と倫理 ・医療安全 事後学修：講義の内容から、重要な用語、疑問、考えたことを自己学修ノートにまとめる。	鈴江
8	①⑤⑦⑧	【講義】事前学修：教科書p.184-202を読んでくる. 医療・看護の質改善 ・医療全体のサービスの質・外部による評価・看護の質を向上させるための取り組み・組織変革の方法 ＜グループワーク＞ 実習での学びをふまえ、講義内容の疑問点についてグループで検討し発表する。 事後学修：講義、グループワークの内容から、疑問、考えたことを自己学修ノートにまとめる。	鈴江
9	④⑤⑥	【講義】事前学修：教科書p.206-234.を読んでくる. 看護と経営 ・看護と経済・業務のマネジメント、チームメンバーとの情報共有 ・多重課題における対処 事後学修：講義、グループワークの内容から、疑問、考えたことを自己学修ノートにまとめる。	鈴江
１０	①⑥⑧	【講義】事前学修：教科書p.236-253.を読んでくる. セルフマネジメント ・健康的な働き方・ヘルスリテラシー・メンタルヘルス・時間の管理 ＜グループワーク＞ 実習での学びをふまえ、講義内容の疑問点についてグループで検討し発表する。 事後学修：講義、グループワークの内容から、疑問、考えたことを自己学修ノートにまとめる。	鈴江
１１	①⑥⑧	【講義】事前学修：教科書p.256-283.を読んでくる. 看護専門職とキャリア ・社会人になること・専門職としてのキャリア・看護職の生涯学習 ・看護管理に必要な能力 事後学修：講義の内容から、疑問、考えたことを自己学修ノートにまとめる。	鈴江
１２	①⑤⑥⑧	【講義】事前学修：教科書p.286-299.を読んでくる。 看護現場に影響を与える制度と法律 ・看護マネジメントに関係する法律・看護に関わる医療・介護制度 ・医療制度改革 ＜グループワーク＞ 実習での学びをふまえ、講義内容の疑問点についてグループで検討し発表する。 事後学修：講義、グループワークの内容から、疑問、考えたことを自己学修ノートにまとめる。	大久保
１３	④⑤⑥⑦	【講義】事前学修：教科書p.299-318.を読んでくる. 保健医療福祉政策と最近の動向 ・政策・制度と看護サービス・少子高齢化による制度改革の必要性 事後学修：事後学修：講義の内容から、疑問、考えたことを自己学修ノートにまとめる。	大久保

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
１４	①②③④⑤⑥⑦⑧	【講義】学修内容の振りかえり 事前学習 本科目のすべての講義・グループワークを振り返り、疑問点、重要点を自己学修ノートで明らかにしておく。 事後学習：学習のまとめをし、自己の不足点を自己学修ノートにまとめる。	鈴江
試験	①②③④⑤⑥⑦	定期試験	大久保・鈴江
事前・事後学修		事前学修：指定範囲の教科書の頁を読んで授業に参加する。用語など不明な場合は、事前に調べておく。 事後学修：事前学修、講義内容、考えたこととを自己学習ノートにまとめる。	
評　価　方　法		・定期試験70%、自己学習ノートの記載内容30% ・自己学習ノートの様式は自由であるが、紙ファイル、ノート形式とし1冊にまとめてあること ・講義及ぶグループワークでの学修内容（疑問点、重要点）が記載してあること ・記載時の月日を記載してあること ・表紙に学籍番号、氏名を記載していること ・提出は14回目の授業終了時に指定場所に提出する。 ・やむを得ず期日に提出できない場合は前もって連絡したあと、提出について教員の指示を受ける。	
課題に対するフィードバック		講義・グループワークの内容についての質問は、講義の中で説明する。また、必要に応じて次回の講義で資料を配布する。	
教　科　書		①吉田千文他編『ナーシング・グラフィカ看護の統合と実践①看護管理』メディカ出版	
参　考　書		必要時、参考資料を配布する。	
履修上の注意点及び取扱い		１．出席の確認および単位取得に必要な出席回数は、学修ガイダンスにある通りである。 ２．各授業の学修内容が多いので、必ず教科書の指定頁を読んで出席すること。 ３。14回目の学習のまとめでは、クリッカーを使用し、知識の確認を行うので間違ったところは補っておく。 ４．欠席した場合は、担当教員まで連絡のうえ次回の授業までに資料を取りにくること。 ５．定期試験、自己学修ノートの評価の合計が大学の評価基準の合格（60点以上）に満たなかった場合は、再試験を受ける	

科　目　名	災害看護論		
科目コード	24304	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B243044
授業形態	講義	開講時期	4年後期
必修・選択	選択		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	坪井　秀介		
実務経験	看護師として病院勤務		
オフィスアワー	授業終了後10分間(講師控室)		
科目概要	地域や病院等における健康危機管理と災害に対する減災、防災および災害時の対応を理解し、地域や病院等における災害看護のあり方、考え方とその実際を学ぶ。また、人々の健康と生活に及ぼす影響を理解し、災害の準備期から発災直後および中・長期にわたり必要となる看護活動に必要な基本的な知識を学び、災害サイクルや活動現場に応じた看護の果たす役割について理解する。そして、災害看護への関心と看護が果たす役割についてを講義と学生同士のディスカッションにて理解を深める。		
到達目標	①災害看護の定義、倫理原則、倫理的概念を説明できる。 ②災害の種類と被害、疾病の特徴を理解し、災害サイクル各期における被災者のニーズの変化を説明できる。 ③減災・防災の概念とその意味を説明できる。 ④CSCATTTとは何かが理解できる。 ⑤災害時における被災者および支援者の心理を理解した上で、ストレスマネジメントの特徴を説明できる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
各専門職の役割を理解した上で、多職種と協働し、保健医療福祉のチームの一員として、看護職の役割を果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
継続的に学ぶ姿勢を身につけている	
自己を研き自らの力を伸ばすことができる	

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①	【ガイダンス】【災害看護の定義・倫理原則】 講義の内容、成績評価の仕組みなどを説明する。そして、基本となる災害看護の定義、倫理原則について学修する。	坪井
2	②	【災害の種類と災害サイクル】 災害の種類と被害、疾病の特徴を学び、災害サイクル各期における被災者ニーズの変化を理解する。	坪井
3	①③	【災害医療に関する国の政策と法律、減災・防災マネジメント】 災害医療に関する国の政策を学び、 被災者支援体制などの社会資源を理解する。また、減災・防災の概念とその意義を学び、事業継続計画 (BCP)の重要性を理解する。また、災害時の情報収集と分析・連携と共同について知る。	坪井
4	②⑤	【配慮を必要とする人への支援と看護】 災害時における子供や妊産婦、高齢者、障害者、外国人への支援と看護を学び、継続的な治療を受けている患者に対する災害時の支援と看護のポイントを学ぶ。また、遺族の心理的特徴を学び、支援と看護を理解する。	坪井
5	②⑤	【被災者と支援者の心理】 災害時における被災者と支援者の心理を学び、被災地現地の医療従事者は「被災者であり、支援者である」ことの苦悩があることを理解する。	坪井
6	②③	【災害初期から中長期における看護活動】 医療救護所、指定避難所、応急仮設住宅についての特徴を学ぶ。また、自宅避難者なども含めた被災者の生活に応じた看護を理解する。	坪井
7	④	【災害時に必要な医療・看護技術】 CSCATTTとは何かを学び、トリアージ、応急処置・治療、移送・搬送について理解する。	坪井
試験	①②③④⑤	筆記試験（一部持ち込み可）	坪井

事前・事後学修	・既習の専門基礎科目や専門科目を想起・統合しながら主体的に学ぶこと。 ・教科書の該当箇所を事前学修した上で授業に望むこと。 ・必ず事後学修を行い、分からないことは質問すること。 ・事前学修を30分以上、事後学修を60分以上行うこと。（合計で240分を行うこと）
評　価　方　法	定期試験：80% レポート：20%
課題に対する フィードバック	第 5 回講義終了時に「被災者と支援者の心理」についてのレポートの課題を課す。 フィードバックは第 7 回講義時に授業内で行う。
教　　科　　書	1. ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践 3 災害看護、酒井明子・長田恵子・三澤寿美・長谷川素美、メディカ出版
参　　考　　書	必要に応じて提示
履修上の注意点 及び取扱い	・講義は2/3以上の出席（5回以上の出席）により、筆記試験の権利を得ることとする。

科　目　名	キャリア形成論		
科目コード	24305	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B243054
授業形態	講義	開講時期	4年後期
必修・選択	選択		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	清水　輝子		
実務経験	管理者・看護師として病院勤務		
オフィスアワー	授業終了後10分間(講師控室)		
科目概要	キャリアとは、組織内の昇進、専門職の体系的なステップ、生涯にわたる職業経歴、社会的な認知、仕事に関連した生涯にわたる諸経験などである。本科目では、キャリア形成とは、どのようなことかを問い、そのプロセスを通じて、看護職となる自分を見つめ、将来の仕事・職業、社会に主体的に向き合い、自己の目標を実現する考え方や能力を育む。授業では、キャリア形成の概念、自分らしさの発見、職業観の形成、看護職の特性、キャリア準備、キャリア・ラダー、自己管理、自己実現、社会貢献について事例の提示や討論によって理解を深める。		
到達目標	①キャリアの概念とキャリア形成の意義を理解できる。 ②社会の看護へのニーズと看護職のキャリア形成との関連を考えることができる。 ③自己の職業観、将来像について考えることができる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
各専門職の役割を理解した上で、多職種と協働し、保健医療福祉のチームの一員として、看護職の役割を果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
継続的に学ぶ姿勢を身につけている	
自己を研き自らの力を伸ばすことができる	

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①②③	ガイダンス　キャリア形成の概念	清水
2	①②③	自分らしさの発見	清水
3	②	将来の職業像	清水
4	②	看護職のキャリア形成とは	清水
5	②	キャリア・ラダーとは	清水
6	②③	キャリア形成の道（プロセス）	清水
7	②③	なりたい自分の将来像を明らかにする	清水
試験	①②③	定期試験	清水

事前・事後学修	事前学修：講義の前に前回までの内容を確認。各回120分 事後学修：講義最後に次回の学修内容を指示する。各回120分
評価方法	定期試験：100%
課題に対するフィードバック	課題レポート等はコメント等を付して返却する。
教科書	必要に応じて、資料を提示する。
参考書	必要に応じて、提示する。
履修上の注意点及び取扱い	無

科　目　名	総合ゼミナール		
科目コード	24306	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B243064
授業形態	演習	開講時期	4年通年
必修・選択	選択必修		
単位数	2単位	時間数	45時間
先修条件	無		
教員名	大谷　恵・安藤　詳子・石井　成郎・榊原　久孝・鈴江　智恵・野村　千文・藤本　悦子・小倉　久美子・小島　徳子・小平　由美子・増永　悦子・伊東　裕康・岩井　美世子・大瀬　恵子・小澤　直樹・河村　江里子・後藤　美恵・佐久間　美里・佐々木　久美子・滝沢　美世志・肥田　武・村岡　大志		
実務経験	産業医として勤務（榊原） 助産師として病院勤務(小島・大瀬) 看護師として病院勤務(安藤・大谷・鈴江・野村・小倉・小平・増永・岩井・小澤・河村・後藤・佐久間・佐々木・滝沢・村岡)		
オフィスアワー	授業日・授業終了後から17時まで・担当教員メールアドレス宛てに連絡		
科目概要	連携ゼミナールⅡで取り組んできたテーマに沿って活動を進め、実施した研究計画またはプロジェクト計画の結果を論文（レポート）にまとめるとともに、自己の今後の課題を明確にする。またポートフォリオを作成し、学修過程を振り返る。学修成果についての発表会を実施し、学生間で意見交換を行う。これらの一連の取り組みを通して、課題解決に向けた企画力・行動力、表現力、コミュニケーション能力、課題解決能力などの総合的な実践力を育む。		
到達目標	①研究計画書またはプロジェクト計画書を作成することができる。 ②データを分析し、結果を導くことができる。 ③学生間の意見交換を通して、考察を深めることができる。 ④結果をまとめ、論文（レポート）を作成することができる。 ⑤学修過程を振り返り、今後の自己の課題を明確にすることができる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	○
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①	ガイダンス 研究テーマまたはプロジェクトの目的、内容、方法の確認	各教員
2	①	研究計画書またはプロジェクト活動計画の作成 倫理審査申請書の作成（必要時）	各教員
3	①②③	研究計画またはプロジェクト活動、結果の記録と整理 倫理審査結果の確認と修正（必要時）	各教員
4	①②③	研究計画またはプロジェクト活動、結果の記録と整理	各教員
5	②③④	研究計画またはプロジェクト活動　結果の記録 学生間の意見交換	各教員
6	②③④	研究計画またはプロジェクト活動　結果の記録 学生間の意見交換	各教員
7	②③④	研究計画またはプロジェクト活動　結果の記録 学生間の意見交換	各教員
8	②③④	研究計画またはプロジェクト活動　結果の記録 学生間の意見交換	各教員
9	②③④	研究計画またはプロジェクト活動　結果の記録 学生間の意見交換	各教員
１０	②③④	結果の分析、考察 学生間の意見交換	各教員
１１	②③④	結果の分析、考察 学生間の意見交換 ポートフォリオ振り返り	各教員
１２	②③④⑤	論文作成	各教員
１３	②③④⑤	論文作成	各教員

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
１４	②③④⑤	論文作成	各教員
１５	②③④⑤	論文作成	各教員
１６	②③④⑤	論文作成	各教員
１７	②③④⑤	論文作成	各教員
１８	②③④⑤	論文作成	各教員
１９	②③④⑤	論文作成	各教員
２０	②③④⑤	論文作成	各教員
２１	②③④⑤	論文作成 ポートフォリオ振り返り	各教員
事前・事後学修		各回の事前・事後学修は4時間とする	
評　価　方　法		ポートフォリオ、論文90%　授業参加態度10%	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教　　科　　書		必要に応じてプリントを配布する。	
参　　考　　書		適宜紹介する。	
履修上の注意点及び取扱い		1.各自で主体的に計画し行動すること。 2.「卒業研究」か「総合ゼミナール」のどちらかを履修すること。	

科　目　名	卒業研究		
科目コード	24307	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B243074
授業形態	演習	開講時期	4年通年
必修・選択	選択必修		
単位数	2単位	時間数	45時間
先修条件	無		
教員名	大谷　恵・安藤　詳子・石井　成郎・榊原　久孝・鈴江　智恵・野村　千文・藤本　悦子・小倉　久美子・小島　德子・小平　由美子・増永　悦子・伊東　裕康・岩井　美世子・大瀬　恵子・小澤　直樹・河村　江里子・後藤　美恵・佐久間　美里・佐々木　久美子・滝沢　美世志・肥田　武・村岡　大志		
実務経験	産業医として勤務（榊原） 助産師として病院勤務(小島・大瀬) 看護師として病院勤務(安藤・大谷・鈴江・野村・小倉・小平・増永・岩井・小澤・河村・後藤・佐久間・佐々木・滝沢・村岡)		
オフィスアワー	授業日・授業終了後から17時まで・担当教員メールアドレス宛てに連絡		
科目概要	本科目では、研究の必要性を理解し、研究疑問を明らかにして、文献検討、研究の目的、研究デザイン、研究倫理を踏まえて研究計画書を作成するための基礎的能力を養う。研究指導教員のもとで、研究計画に基づいて研究を行い、論文を作成して発表する。これらの一連の過程を通して、広い視野を持って問題をとらえ、科学的な態度で問題解決に向かう姿勢を養うとともに、学術的なものの見方・態度などの総合的な課題解決能力を培う。また、指導教員や研究協力者などとの交流を通して人間理解を深め、看護の可能性を広げる視点を養う。		
到達目標	①研究疑問から研究の目的を表現することができる。 ②文献を収集して文献検討を行い、自己の研究の目的・方法を明確にすることができる。 ③研究計画書を作成できる。 ④倫理審査申請書を作成し、必要な倫理的配慮を実施することができる。 ⑤データを分析し、結果・考察を導くことができる。 ⑥所定の様式に従い研究結果をまとめ、論文を作成することができる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	○
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①②③	ガイダンス　研究目的の明確化　研究デザインの確認	各教員
2	①②③④	研究計画書の作成 倫理審査申請書の作成（必要時）	各教員
3	①②③④	研究計画書の作成 倫理審査申請書の作成（必要時）	各教員
4	③④	研究準備（研究依頼書の作成）	各教員
5	③④	研究の準備（研究依頼）	各教員
6	③④	研究の準備（研究依頼）	各教員
7	③④⑤	研究データ収集	各教員
8	③④⑤	研究データ収集	各教員
9	③④⑤	研究データ収集	各教員
１０	⑤⑥	研究結果の分析	各教員
１１	⑤⑥	研究結果の分析	各教員
１２	⑤⑥	研究結果の分析	各教員

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
１３	⑤⑥	論文作成	各教員
１４	⑤⑥	論文作成	各教員
１５	⑤⑥	論文作成	各教員
１６	⑤⑥	論文作成	各教員
１７	⑤⑥	論文作成	各教員
１８	⑤⑥	論文作成	各教員
１９	⑤⑥	発表原稿の作成	各教員
２０	⑤⑥	発表会	各教員
２１	⑤⑥	論文提出	各教員
事前・事後学修		各回の事前・事後学修は4時間とする	
評　価　方　法		論文90%、授業参加態度10%	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教　　科　　書		必要に応じてプリント等を配布する。	
参　　考　　書		適宜紹介する。	
履修上の注意点及び取扱い		1.各自で主体的に計画し行動すること。 2.「卒業研究」か「総合ゼミナール」のどちらかを履修すること。	

科　目　名	総合看護実習		
科目コード	24308	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B243084
授業形態	講義	開講時期	4年通年
必修・選択	必修		
単位数	3単位	時間数	135時間
先修条件	全ての看護専門領域実習の単位を修得していること。		
教員名	小平　由美子・安藤　詳子・大谷　恵・鈴江　智恵・野村　千文・藤本　悦子・小倉　久美子・小島　徳子・増永　悦子・岩井　美世子・大瀬　恵子・小澤　直樹・河村　江里子・後藤　美恵・佐久間　美里・佐々木　久美子・滝沢　美世志・村岡　大志・小野寺　美佳・川井　伸恵・髙島　孝晃・野々山　英里・平野　友美・横井　優子		
実務経験	助産師として病院勤務(小島・大瀬・野々山・平野) 看護師として病院勤務(安藤・大谷・鈴江・野村・小倉・小平・増永・岩井・小澤・河村・後藤・佐久間・佐々木・滝沢・村岡・小野寺・川井・高島・横井)		
オフィスアワー	授業日・授業終了後から17時まで・担当教員メールアドレス宛てに連絡		
科目概要	地域や在宅で生活する人と家族が持つ健康課題を総合的に捉え、看護の対象が必要とするケアを立案し実践する。看護実践では、保健・医療・福祉関係者との連携や資源の活用、看護マネジメント、相談、教育、調整なども必要に応じて計画して実施し、評価を行う。看護の実践を通して総合的な看護実践能力を培う。また、地域包括ケアシステムにおけるチームの中で、医療機関における入院生活から在宅や地域の施設への移行、又は在宅から医療機関への移行において必要な看護を提供し、看護職が果たす役割と看護提供のあり方、責任感、倫理観、自己の看護観を探究する。		
到達目標	①地域や在宅で生活する人とその家族が持つ健康問題を総合的に捉え、生活や文化を理解して寄り添いながら看護を展開する意義を理解できる。 ②あらゆる発達段階にある患者とその家族を対象に、心身の回復を促進して生活の再構築を支える看護を実践するための看護実践能力を養う。 ③保健・医療・福祉関係者との連携や資源の活用、看護マネジメント、相談、教育、調整なども必要に応じて計画して実施し、評価を行う。看護の実践を通して、総合的な看護実践能力を培う。 ④地域包括ケアシステムにおいて、連携や協働の意義と課題、看護の役割を理解するとともに、看護実践のあり方としてのキャリア形成を探求する。 ⑤自己の倫理観を深めるとともに、看護観を明らかにし、自ら学習していく姿勢や責任ある態度を身につける。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	○
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
１日目	①②③④⑤	実習全体オリエンテーション　・領域別オリエンテーション 事前学修：実習要項を読んでおく。 事後学修：オリエンテーションに基づき、実習計画を立案する。	全員
２日目	①②③	実習（各領域） 事前・事後学修：領域ごとに提示する。	全員
３日目	①②③	実習（各領域） 事前・事後学修：領域ごとに提示する。	全員
４日目	①②③	実習（各領域） 事前・事後学修：領域ごとに提示する。	全員
５日目	①②③	実習（各領域） 事前・事後学修：領域ごとに提示する。	全員
６日目	①②③	実習（各領域） 事前・事後学修：領域ごとに提示する。	全員
７日目	①②③	実習（各領域） 事前・事後学修：領域ごとに提示する。	全員
８日目	①②③	実習（各領域） 事前・事後学修：領域ごとに提示する。	全員
９日目	①②③	実習（各領域） 事前・事後学習：領域ごとに提示する。	全員

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
１０日目	①②③	実習（各領域） 事前・事後学修：領域ごとに提示する。	全員
１１日目	①②③	実習（各領域） 事前・事後学修：領域ごとに提示する。	全員
１２日目	①②③	実習（各領域） 事前・事後学修：領域ごとに提示する。	全員
１３日目	①②③	実習（各領域） 事前・事後学修：領域ごとに提示する。	全員
１４日目	①②③④⑤	実習（各領域） 事前・事後学修：領域ごとに提示する。	全員
１５日目	①②③④⑤	実習（各領域） 事前・事後学修：領域ごとに提示する。	全員
事前・事後学修		各回の事前・事後学修は4時間とする	
評　価　方　法		1．実習評価表に基づき評価する。到達目標の詳細は領域ごとに提示する。	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教　　科　　書		領域ごとに提示する。	
参　　考　　書		領域ごとに提示する。	
履修上の注意点及び取扱い		領域ごとに提示する。	

科目名	看護実践論		
科目コード	24309	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B243094
授業形態	講義	開講時期	4年後期
必修・選択	選択		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	小倉　久美子・藤本　悦子・小島　德子・小平　由美子・佐久間　美里・馬場　美穂・村岡　大志		
実務経験	助産師として病院勤務(小島) 看護師として病院勤務(小倉・小平・馬場・佐久間・村岡)		
オフィスアワー	授業日・授業終了後から17時まで・担当教員メールアドレス宛てに連絡		
科目概要	急激に変化している医療・社会環境の中、看護職者として、保健・看護・医療の分野における実践や研究の理解を深めるため、各領域の看護実践・研究・教育における最近のトピックスを取り上げ、最新の動向や知見から看護の専門性に対する理解を深める。また、専門性の高い看護実践とはどのようなものか、看護師が果たす役割は何かを理解し、多職種連携のもと協働できる。また、看護師としての専門性の向上や高い倫理観を身に付けるための自己の課題を考察する。		
到達目標	①専門分野における社会情勢、最新情報および専門職者の活動を理解する。 ②多専門性の高い看護実践の内容と実践者としての役割を理解し、協働できる。 ③看護実践のあり方について自己の考えを深め、高い倫理観を身に付ける。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	◯
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①②③	基礎看護学：看護基礎教育で学ぶ看護技術と実際に臨床で行われている看護技術の違いや「正しい看護技術」の変遷を確認することを通して、科学的根拠に基づく看護を実践する意味について考察する	藤本
2	①②③	こころの健康生活支援看護：こころの健康に関する重要課題（アディクション、自殺予防、トラウマ）について概観し、精神看護師の役割について考察する	村岡
3	①②③	療養生活支援看護（在宅看護を含む）：慢性期から終末期を中心に、代表的な慢性疾患（慢性腎臓病、糖尿病、がん、等）を健康課題にもち、地域で療養生活をおくる人と家族に必要な看護(社会資源を含む)を考察する	馬場
4	①②③	急性期回復支援看護：周術期における課題（成人看護学総論、呼吸器・循環器・消化器・脳神経の治療と看護など）から急性期回復支援について考察する	小倉
5	①②③	こどもの健康生活支援看護：社会状況とこどもの健康生活の課題（感染予防対策、健康教育、生活習慣病予防、予防接種、治療ガイドライン改定等）を題材にこどもの健康生活支援について考察する	小平
6	①②③	女性の健康生活支援看護：周産期を取り巻く課題（人工妊娠中絶・望まない妊娠・産後うつ・DVなど）をあげ、人間の生命と尊厳を尊重する態度を養うとともに、切れ目のない支援について考察する	小島
7	①②③	高齢者の健康生活支援看護：高齢者に特有な健康課題（フレイル、摂食嚥下障害、認知症、感染症など）や多様な生活の場で展開する看護について考察する	佐久間
試験	①②	筆記試験	全員
事前・事後学修		事前学修：授業の前に各領域で学んできた内容を確認しておく。各回120分 事後学修：各領域の配布資料をもとに関連する国家試験の過去問題を整理する。各回120分	
評価方法		定期試験：基礎15%・療養（地域在宅含む）25%・急性期15%・こころ10%・女性10%・こども10%・高齢者15%	

課題に対するフィードバック	課題レポート等はコメント等を付して返却する。
教　科　書	教科書は各領域の担当教員の指示による。
参　考　書	参考書は各領域の担当教員の指示による。
履修上の注意点及び取扱い	国家試験対策にもつながる重要な科目であり、可能な限り受講することを希望する。

科目名	助産学演習		
科目コード	25006	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B250064
授業形態	講義	開講時期	4年前期
必修・選択	選択		
単位数	1単位	時間数	30時間
先修条件	「助産学実習Ⅰ」の科目先修条件となる。		
教員名	大瀬　恵子・小島　徳子・野々山　英里・平野　友美		
実務経験	助産師として病院勤務(小島・大瀬・野々山・平野)		
オフィスアワー	講義や演習前後の休み時間内		
科目概要	助産診断・技術学Ⅰ・Ⅱで学んだ知識や助産技術を活用し、臨床推論に基づいた異常分娩へのケアを提供できる能力や技術を修得する。加えて、急速遂娩時やフリースタイル分娩介助、産科処置、分娩期に必要な技術、健康教育など、今後、助産師として必要な知識や技術を学修する。		
到達目標	①臨床推論に基づいたケアを提供するための能力や技術を修得する。 ②異常分娩の介助に必要な技術を修得する。 ③急速遂娩やフリースタイル分娩の介助技術を体験できる。 ④健康教育・保健指導の企画、運営について修得する。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	◯
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	○
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①	科目ガイダンス：演習オリエンテーション 分娩介助技術の振り返り	大瀬
2	④	思春期・青年期への健康教育①	野々山
3	④	思春期・青年期への健康教育②③（ワーク）	野々山
4	①	産褥・新生児期へ援助と保健指導の実際①	大瀬
5	①②	分娩期の助産診断　発表・討論・評価	大瀬/全員
6	①②	分娩期の助産診断　発表・討論・評価	大瀬/全員
7	①②③	分娩期の助産診断　発表・討論・評価 分娩期に必要な技術（分娩促進への支援、産痛緩和、基本的ニーズへの援助等）	大瀬/全員
8	①②③	リアル助産診断（援助の実際）	大瀬/全員
9	①②③	リアル助産診断（援助の実際）	大瀬/全員
１０	④	思春期・青年期への健康教育発表準備④　発表⑤	野々山/全員
１１	②③	分娩介助技術応用編：異常分娩時の介助、管理 ＊事前事後配布資料確認	平野/全員
１２	②③	分娩介助技術応用編：異常分娩時の介助、管理 ＊事前事後配布資料確認	平野/全員
１３	①②	分娩介助技術試験・口頭試問【試験】	全員
１４	①②	産褥・新生児期へ援助と保健指導実際② 分娩介助技術技術到達に向けての確認、振り返り、評価	大瀬
試験	①②③④	まとめ	全員
事前・事後学修		事前学修：授業の前に分娩介助技術の振り返りをして臨むこと。各回30分 事後学修：科目ガイダンス時に学修内容を指示する。各回30分	

評　価　方　法	助産診断課程発表：３０％ 保健指導等発表：１０％ レポート等課題：１０％ 分娩介助技術試験：５０％ 最終評価は総合的に判定する。
課題に対する フィードバック	助産診断過程や保健指導案はコメント等を付して返却する。
教　　科　　書	１．堀内成子編：「助産学講座５　助産診断・技術学Ⅰ」（第６版）、医学書院 ２．我部山キヨ子、武谷雄二編：「助産学講座６[１]　妊娠期」（第６版）、医学書院 ３．我部山キヨ子、藤井知行編：「助産学講座７[２]　分娩期・産褥期」（第６版）、医学書院 ４．我部山キヨ子、廣間武彦編：「助産学講座８[３]　新生児期・乳幼児期」（第６版）、医学書院 ５．北川眞理子：「今日の助産」（第４版）、南山堂 ６．細野茂春監修：「新生児蘇生法テキスト」（第４版）、メジカルビュー社
参　　考　　書	分娩期ケアガイドライン翻訳チーム：「WHO推奨　ポジティブな出産体験のための分娩期ケア」（2021年版）、医学書院 日本産婦人科学会/日本産婦人科医会編：「産婦人科診療ガイドライン　産科編2023」、日本産婦人科学会 太田操編著：「助産ケア臨床ノート分娩期の母児」、医歯薬出版株式会社 医療医用法研究会編：「病気がみえる　Vol.10　産科」（第4版）、メディックメディア 我部山キヨ子、大石時子：「助産師のためのフィジカルイグザミネーション」、医学書院 戸田律子、「マタニティクラスBOOK」、医学書院 仁志田博司：「新生児学入門」（第5版）、医学書院 横尾京子：「新生児ベーシックケア」、医学書院 金山尚裕：「周産期の生理と異常1　イラストで学ぶ『妊娠・分娩・産褥の生理』」（第2版）、メディカ出版 堺武男：「周産期の生理と異常2　イラストで学ぶ『新生児の生理と代表的疾患』」（第2版）、メディカ出版
履修上の注意点 及び取扱い	【履修について】 １　事例を含めた資料を提示し、参加型授業を行う。 ２　分娩介助演習における技術の習得については、積極的な自己学習活動を求める。 ３　資料は講義ごとに配布するが、事前事後の学習を怠らないこと。 【出欠席について】 １　無断欠席は一切認めない。 ２　やむを得ず欠席する場合は、担当教員に連絡すること。 【定期試験の受験資格について】 学修ガイダンスに準ずる。 【成績評価について】 健康教育・助産診断等を総合評価する。 ただし、分娩介助試験に関して合格していない場合は、単位を取得することができず助産学実習Ⅰを履修することができない。 【不合格者に対する取扱いについて】 （助産師課程要項参照） 不合格（再試験でD評価）の場合、次年度に再履修することはできない。 したがって、助産師課程離脱となる。

科目名	助産学実習Ⅰ		
科目コード	25007	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B250074
授業形態	実習	開講時期	4年通年
必修・選択	選択		
単位数	9単位	時間数	405時間
先修条件	１．「助産学演習」「助産学実習Ⅱ」を除く、全ての助産師課程必修科目の単位を修得していること。 ２．「助産学演習」を履修していること。 ３．「助産学実習Ⅱ」の単位数先修条件となる。		
教員名	大瀬　恵子・小島　徳子・野々山　英里・平野　友美		
実務経験	助産師として病院勤務(小島・大瀬・野々山・平野)		
オフィスアワー	実習期間内		
科目概要	マタニティサイクル各期の母児とその家族を対象とした助産過程を展開し、助産ケアの実践を通して助産学に必要な理論と原理、原則及び知識・技術・態度を学修する。継続事例を通して、正常な妊娠・分娩・産褥期のケアを実践し、母児の安全・安楽な妊娠・出産や育児への支援のために、助産師としての役割・責務を理解し、母子及び家族への健康生活に必要な助産ケアを提供する能力を育む。また、　緊急時及び周産期における異常時の処置や、ハイリスクな対象者とその家族への援助の実際を学ぶ。		
到達目標	①妊娠・分娩・産褥期・新生児期における助産過程を展開し、助産診断に基づくケアを実践・評価することができる。 ②これまでに修得した知識や技術を用いて、正常分娩の介助を行い、母児の安全な出産のために、ニーズに即した個別的な看護を実践できる。 ③母子および家族の健康生活に必要な継続性のある助産ケアを提供できる。 ④助産業務の特性と母子保健活動における助産師の役割が体験的に理解でき、助産師の責務・倫理について説明ができる。 ⑤助産師としての専門職の役割を認識し、アイデンティティの形成を目指すことができる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1週目	①②③	病棟オリエンテーション：病棟案内、避難経路、病棟内の物品の場所 分娩１例の見学実習	全員
２週目	①②③	病棟実習：未分娩者を受け持ち産婦と胎児を継時的に把握し、助産過程を展開する。出生直後の母児へのケアを行う。継続事例１例を受け持ち、正常な妊婦への助産過程を展開する。	全員
３週目	①②③	病棟実習：未分娩者を受け持ち産婦と胎児を継時的に把握し、助産過程を展開する。出生直後の母児へのケアを行う。	全員
４週目	①②③④⑤	病棟実習：未分娩者を受け持ち産婦と胎児を継時的に把握し、助産過程を展開する。出生直後の母児へのケアを行う。継続事例の妊娠期の助産過程を展開し、保健指導を実施する。 中間カンファレンスにて振り返りを行う。	全員
５週目	①②③	病棟実習：未分娩者を受け持ち産婦と胎児を継時的に把握し、助産過程を展開する。出生直後の母児へのケアを行う。	全員
６週目	①②③	病棟実習：未分娩者を受け持ち産婦と胎児を継時的に把握し、助産過程を展開する。出生直後の母児へのケアを行う。継続事例の妊娠期の助産過程を展開する。	全員
７週目	①②③	病棟実習：未分娩者を受け持ち産婦と胎児を継時的に把握し、助産過程を展開する。出生直後の母児へのケアを行う。継続事例の分娩期の助産過程を展開する。	全員
８週目	①②③	病棟実習：未分娩者を受け持ち産婦と胎児を継時的に把握し、助産過程を展開する。出生直後の母児へのケアを行う。帝王切開事例を受け持ち術前術後のケアを実践する。	全員
９週目	③④⑤	分娩10例（継続事例含む）のまとめ、振り返り 最終カンファレンスを実施する。	全員
事前・事後学修		事前学修：実習の前に前回までの内容を確認し行動計画を立案する。 事後学修：実習後振り返りを行い、次回への準備をする。	

評　価　方　法	実習評価表：50% 分娩記録及び分娩介助技術評価表：50% 最終評価は総合的に判定する。
課題に対する フィードバック	各事例の助産記録や分娩介助評価記録は、その都度コメント等を付して返却する。
教　　科　　書	これまで使用した教科書に加え、配布された資料等を活用すること。
参　　考　　書	これまで提示した参考書などを活用すること。
履修上の注意点 及び取扱い	実習方法、実習内容、実習施設についての詳細は、実習要項・てびきを参照すること。実習停止となった場合、助産師課程離脱となる。また、合格点に満たない場合も同様である。

科目名	助産学実習II		
科目コード	25008	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B250084
授業形態	実習	開講時期	4年通年
必修・選択	選択		
単位数	2単位	時間数	90時間
先修条件	「助産学実習Ⅰ」の単位を修得していること。		
教員名	大瀬　恵子・小島　徳子・野々山　英里・平野　友美		
実務経験	助産師として病院勤務(小島・大瀬・野々山・平野)		
オフィスアワー	実習期間内		
科目概要	助産学実習Ⅰを踏まえ、ハイリスク児の特徴とケア、新生児医療システムの現状と課題について理解を深める。また、母子保健活動における助産師の役割を理解し、関係する多職種と連携・協働ができる能力を養う。さらに助産所での実習を通して、開業助産師の地域における母子保健活動及び助産所業務の管理運営の実際を学び、地域で活動する助産師の専門性と役割について理解を深める。		
到達目標	①ハイリスク児の特徴とケアの実際を理解できる。 ②母子保健活動における助産師の役割と実際を理解できる。 ③地域で開業する助産師の助産業務管理について理解をできる。 ④多職種連携と協働の実際を理解をできる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	○
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
１日目	①②③④	学内：学内オリエンテーション	全員
２日目	②③④	臨地：助産所実習	全員
３日目	②③④	助産所実習	全員
４日目	②③④	助産所実習　まとめ	全員
５日目	①②③④	実習のまとめ　家庭訪問または健康教育指導案作成	全員
６日目	②④	保健センターオリエンテーション（４月第４週目に実施）	全員
７日目	②④	保健センター実習　カンファレンス	全員
８日目	①④	NICU実習・学内振り返り	全員
９日目	①④	NICU実習・学内振り返り	全員
10日目	①②③④	学内：実習のまとめ	全員

事前・事後学修	事前学修：実習の前に前回までの内容を確認し行動計画を立案する。 事後学修：実習後振り返りを行い、次回への準備をする。
評価方法	実習評価表：50% 実習記録及び課題レポート：50% 最終評価は総合的に判定する。
課題に対するフィードバック	提出された実習記録は、各指導のコメント等を付して返却する。

教　　科　　書	１．我部山キヨ子編：「助産学講座３　基礎助産学[３]　母子の健康科学」（第６版）、医学書院 ２．我部山キヨ子、菅原ますみ編：「助産学講座４　基礎助産学[４]　母子の心理・社会学」（第６版）、医学書院 ３．我部山キヨ子編：「助産学講座９　地域母子保健・国際母子保健」（第６版）、医学書院 ４．我部山キヨ子編：「助産学講座10　助産管理」（第６版）、医学書院
参　　考　　書	特に定めないが、これまでの教科書・参考書に加え、配布資料等を活用する。
履修上の注意点及び取扱い	実習方法、実習内容、実習施設についての詳細は実習要項、実習資料を参照すること。

科　目　名	哲学入門		
科目コード	31101	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B311011
授業形態	講義	開講時期	1年前期
必修・選択	選択		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	久保田　進一		
実務経験	無		
オフィスアワー	授業終了後及びメール（pxk06600@nifty.com）にて対応します。		
科目概要	「哲学する」とは、どういうことであるのかを、これまでの哲学者の思考を辿って、講義します。哲学と言っても、その扱う分野は様々なところに波及しております。過去の頭の賢い人たちが、人生を通して考えてきたことは、面白くないわけがありません。きっと面白いものだと思います。日頃、当然と思われていることに、疑問を抱き、再び考え直していくのには、柔軟で耐久性のある思考が必要です。できたら、この授業を通して知的な喜びを味わってもらいたいと思います。 「別表３：人間と生活・社会の理解」		
到達目標	①哲学の面白さを知り、ものの見方を広げていける。 ②ソクラテスを通して、知の営みと死の受容について理解できる。 ③イデア論について説明できる。 ④デカルトの懐疑について説明できる。 ⑤カントの義務論について説明できる。 ⑥自由と責任の関係について、説明することができる。 ⑦ベンサムとミルの功利主義について説明できる。 ⑧人間の幸福と社会のあり方について説明できる。 ⑨実存主義について説明できる。 ⑩人間存在のあり方について理解すること。 ⑪哲学がどのような学問かについて理解できる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
各専門職の役割を理解した上で、多職種と協働し、保健医療福祉のチームの一員として、看護職の役割を果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
継続的に学ぶ姿勢を身につけている	
自己を研き自らの力を伸ばすことができる	

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①⑪	哲学とは何か：哲学がどのような学問であり、どのようなことを問題にしているのかを解説する。	久保田
2	①②	ソクラテス：ソクラテスの知の営みと死の受容について解説する。	久保田
3	①③	プラトン：プラトンのイデア論という考え方と理想の国家について解説する。	久保田
4	①④	デカルト：デカルトの懐疑と「私」の確実性について解説する。	久保田
5	①⑤⑥	カント：カントの義務論について解説する。	久保田
6	①⑦⑧	功利主義：ベンサムとJ.S.ミルの功利主義について解説する。	久保田
7	①⑨⑩	実存主義：実存主義について解説する。	久保田
8	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪	定期試験	久保田

事前・事後学修	事前学修：講義の前に前回までの内容を確認。各回120分 事後学修：講義最後に次回の学修内容を指示する。各回120分
評価方法	定期試験による評価（100%）
課題に対するフィードバック	課題レポート等はコメント等を付して返却する。

教　科　書	使用しません。プリントを配布します。
参　考　書	適宜、紹介します。
履修上の注意点 及び取扱い	講義形式であるが、一方通行の授業にならないため、皆さんにも振りますので、何らかのリアクション・発言をしてください。

科目名	心理学		
科目コード	31102	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B311021
授業形態	講義	開講時期	1年後期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	無		
教員名	石井　成郎		
実務経験	無		
オフィスアワー	授業終了後10分間（事前にアポイントメントを取ってください） 内線4323、n.ishii.t@ikc.ac.jp		
科目概要	人間と社会の仕組みに関する社会心理学（人間関係）及び発達心理学を中心に、心理学領域の諸理論を学ぶ。『エリクソンの発達段階』の概念を基本に、子どもの健やかな成長、青年、成人、高齢者における発達とは何か、人の発達はどのようなものか、発達段階別の特徴とともに、発達を阻害する要因及び発達を促すための支援についても理解する。これらの学びから、人間理解を深め、良好な人間関係を築くための自己と人間関係のあり方を考察する。 「別表３：人間と生活・社会の理解」		
到達目標	①人間関係に関する社会心理学の諸理論を説明することができる。 ②各発達段階の発達課題とその支援方法を説明することができる。 ③良好な人間関係を築くための方法を具体的に説明することができる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	②③	胎児期・新生児期の特徴・小テスト	石井
2	②③	乳幼児期の運動機能の特徴・小テスト	石井
3	②③	乳幼児期の認知機能の特徴・小テスト	石井
4	②③	乳幼児期の情動と社会性の特徴・小テスト	石井
5	②③	学童期～老年期の特徴・小テスト	石井
6	②③	発達心理学の理論とモデル・小テスト	石井
7	②③	演習課題	石井
8	①③	対人距離（グループワーク）	石井
9	①③	対人魅力（グループワーク）	石井
１０	①③	ステレオタイプ（グループワーク）	石井
１１	①③	集団意思決定（グループワーク）	石井
１２	①③	協同問題解決（グループワーク）	石井
１３	①③	説得・葛藤（グループワーク）	石井
１４	①③	アフォーダンス（グループワーク）	石井

事前・事後学修	第1回～第7回 事前学修：授業前に教科書の指定されたページを読む（各回2時間）。 事後学修：授業後に小テスト結果の見直しを行う（各回2時間）。 第8回～第14回 事前学修：授業前に資料を読む（各回2時間）。 事後学修：授業後にワークシート（学修成果）を記入する（各回2時間）。
評　価　方　法	ワークシート：40%、小テスト：40%、演習課題：20%
課題に対する フィードバック	ワークシート、演習課題はコメント等を付して返却する。 小テストについては授業中に解説する。
教　　科　　書	教科書：手にとるように発達心理学がわかる本、小野寺敦子著、かんき出版、2009年 その他、必要に応じてプリント等を配布する。
参　　考　　書	必要に応じてプリント等を配布する。
履修上の注意点 及び取扱い	グループワークでは積極的に参加すること。 小テストは各自のスマートフォンやタブレット端末等を用いて実施する。 事後学修のワークシートの記入方法は授業で説明する。

科　目　名	教育学		
科目コード	31103	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B311031
授業形態	講義	開講時期	1年後期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	肥田　武		
実務経験	無		
オフィスアワー	月曜日13:30～15:10 メールでアポイントメントをとってください（t.hida.t@ikc.ac.jp） 対面・オンラインの相談機会を設定します		
科目概要	医療者には、患者さんや後輩に対して、時に指導者としての役割を果たすことも求められる。この科目では、学修者の力を最大限に引き出しながら指導を実践するために必要な教育学の知識や技能の基礎を理解する。それに基づいて、指導を適切に検討できるようになるとともに、指導を自らデザインするという課題に取り組み、指導を実践する力を身に付ける。 「別表３：人間と生活・社会の理解」		
到達目標	①人の学習に関する基本的な知識や考え方を説明することができる（知識）。 ②指導に関する基本的な知識や考え方を説明することができる（知識）。 ③上述の知識や考え方を適用し効果的な指導計画を立てることができる（技能）。 ④学習者の自発的な学びを引き出すことの重要性を認めようとする（態度）。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	○
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①②	教育と学習の重要性 〇看護師が行う指導 / 教育の意義 ＊事後学修：授業内容を振り返り、要点を自分で説明できるようにしておく	肥田
2	①②④	発達・学修意欲 〇発達段階 / 発達理論 / 動機づけ / 学習意欲を引き出す工夫 ＊事後学修：授業内容を振り返り、要点を自分で説明できるようにしておく	肥田
3	①②④	指導者・コミュニケーション技法［ロールプレイ］ 〇指導者の複数の役割 / 求められるコミュニケーション ＊事後学修：授業内容を振り返り、要点を自分で説明できるようにしておく	肥田
4	①②③④	指導設計1 〇効果的な目標設定［ロールプレイ］/ 教材作成の基礎［演習］ ＊事後学修：授業内容を振り返り、要点を自分で説明できるようにしておく	肥田
5	①②③④	指導設計2 〇学修過程の基本形［演習］/ 評価のバリエーション ＊事後学修：授業内容を振り返り、要点を自分で説明できるようにしておく	肥田
6	③④	学修指導案を書く1［演習］ 〇シナリオの読み込みと情報交換 ＊事後学修：ペアワークを適宜自主的に進める	肥田
7	③④	学修指導案を書く2［演習］ 〇学修指導案の協働作成 ＊事後学修：ペアワークを適宜自主的に進める	肥田
試験	①②④	定期試験	肥田
事前・事後学修		事前学修：事前に配信される資料に目を通す。各回120分 事後学修：講義の学修内容を振り返り、残された課題があれば取り組む。各回120分	

評　価　方　法	毎時の課題提出40%、定期試験60%
課題に対する フィードバック	課題は採点して返却する。必要に応じて全体の場でコメントする。
教　　科　　書	無
参　　考　　書	1．中井俊樹他：「看護のための教育学」、医学書院 2．中井俊樹他：「看護現場で使える教育学の理論と技法――個別指導や参加型研修に役立つ100のキーワード」、メディカ出版
履修上の注意点 及び取扱い	1．講義資料は事前配信する（欠席者は自身で対応する） 2．講義資料には所々空欄を設けている（説明内容を書き込みながら受講する） 3．講義中には最低限のマナーを求める（飲食や私語をしない） 4．対面講義であるが授業中にオンラインでの課題提出を求める 5．学修のまとめとして第6～7回にペアワークを課す（協力して積極的に臨む） 6．詳細は第1回に配布する「初回配布用シラバス」に示す

科　目　名	法学		
科目コード	31104	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B311041
授業形態	講義	開講時期	1年前期
必修・選択	選択		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	無		
教員名	近藤　真		
実務経験	無		
オフィスアワー	講義の前後10分間		
科目概要	本科目では、法の概念と成立、法が扱う範囲と枠組み、歴史的変遷等の法学の基礎、日本国憲法及び憲法の成立の経緯とその沿革、構成、及び意義について学修し、理解を深めることを目的とする。授業では、基本権などの人権に焦点を当てて関連する法制度の仕組みと目的、意義を解説する。また、事例を通して、社会で起きる出来事を法制度との関わりの中で理解する。さらに、日本国憲法の成り立ちや内容が、国民の生活にどのように影響しているかを理解し、医療者として法の遵守の重要性を学ぶ。 「別表３：人間と生活・社会の理解」		
到達目標	①法の体系を理解できる。 ②法の役割と限界を理解できる。 ③具体的なケースに対して法的な観点から解決策を示すことができる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
各専門職の役割を理解した上で、多職種と協働し、保健医療福祉のチームの一員として、看護職の役割を果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
継続的に学ぶ姿勢を身につけている	
自己を研き自らの力を伸ばすことができる	

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①	ガイダンス	近藤
2	①	法とは何か(法と道徳、法の分類、法の段階構造)	近藤
3	①	憲法とは何か（社会契約論、立憲主義、憲法尊重擁護義務）	近藤
4	①	基本的人権の全体像（人権の分類、幸福追求権）	近藤
5	①	看護と刑事法①：刑事法の基礎（刑事手続、犯罪成立の三要件）	近藤
6	②③	看護と刑事法②：具体的事例（チーム医療と事故防止、終末期医療）	近藤
7	①	看護と民事法①：民事法の基礎（損害賠償責任、民事紛争の処理）	近藤
8	②③	看護と民事法②：具体的事例（使用者責任の機能）、授業の振り返り	近藤
9	①	看護と情報①：個人情報保護（守秘義務、個人情報の範囲）	近藤
１０	②③	看護と情報②：インフォームド・コンセント（病名の告知、ICにおける看護師の役割）	近藤
１１	①	看護と労働法①：労働基準法（労働契約の特徴、賃金、労働時間、学生アルバイト）	近藤
１２	②③	看護と労働法②：男女雇用機会均等法他（女性の保護、産前産後休暇、育児休業）	近藤
１３	①	看護と行政法①：看護師の資格（看護師の義務、看護師の業務、不利益処分と救済）	近藤
１４	②③	看護と行政法②：医療提供者の資格（医療提供施設の分類）	近藤
事前・事後学修		事前学修：講義の前に前回までの内容を確認。各回120分 事後学修：講義最後に次回の学修内容を指示する。各回120分	

評　価　方　法	テキスト要約課題（60%）、課題レポート(10%×2回＝20%)、平常点(課題提出状況等 20%)
課題に対する フィードバック	課題レポート等はコメント等を付して返却する。
教　　科　　書	健康支援と社会保障制度[4]　看護関係法令
参　　考　　書	無
履修上の注意点 及び取扱い	無

科　目　名	文化人類学		
科目コード	31105	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B311051
授業形態	講義	開講時期	1年前期
必修・選択	選択		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	無		
教員名	日丸　美彦		
実務経験	無		
オフィスアワー	授業後終了後10分以内(講師控室)およびメールによる問い合わせは随時可能 メールアドレス＜yhimaru50@gmail.com＞		
科目概要	「多文化社会」の日常化は、私たちの身近な地域や医療現場に広がっている。文化の違いには、国籍や言語だけでなく、社会階級、ジェンダー、世代、地域などの差異や、障害の有無等も含まれる。多文化共生やダイバシティ（多様性）の課題を把握しながら、いかなるコミュニケーションの方法でその課題を克服しうるのか。フィールドワークを通じて世界の様々な民族の文化の多様性と普遍性を追究してきた文化人類学の視点から考察する。各回の授業では、グループワークを取り入れて行う。 「別表３：人間と生活・社会の理解」		
到達目標	①　文化人類学の視点を活用して、他者と自己を俯瞰し洞察する力を養う ②　フィールドワークの手法を用いて、傾聴し対話する力を養う ③　文化の多様性の醍醐味を知る		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
各専門職の役割を理解した上で、多職種と協働し、保健医療福祉のチームの一員として、看護職の役割を果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	○
継続的に学ぶ姿勢を身につけている	○
自己を研き自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①②③	ガイダンス 「多文化社会」「文化人類学」「医療人類学」って何？ 事前・事後学修：配布の教材と参考文献を読む	日丸
2	①②③	「日常化する多文化社会」と「あたりまえを疑う文化人類学」 事前・事後学修：配布の教材と参考文献を読む	日丸
3	①②③	自然と知識　＜人は自然と どう向き合うのか＞ 事前・事後学修：配布の教材と参考文献を読む	日丸
4	①②③	技術と環境　＜人がつくり出す世界とは＞ 事前・事後学修：配布の教材と参考文献を読む	日丸
5	①②③	呪術と科学　現実と異世界　＜「かもしれない」領域とは＞ 事前・事後学修：配布の教材と参考文献を読む	日丸
6	①②③	写真観察法によるフィールドワークの手法 事前・事後学修：配布の資料と参考文献を読む。	日丸
7	①②③	モノと芸術　＜人にとって美しさとは、芸術とは＞ 事前・事後学修：配布の教材と参考文献を読む	日丸
8	①②③	贈り物と負債　貨幣と信用　＜人はなぜ贈り物、交換をするのか＞ 事前・事後学修：配布の教材と参考文献を読む	日丸
9	①②③	親族と結婚＜「家族」という怪物＞ 事前・事後学修：配布の教材と参考文献を読む	日丸
１０	①②③	親族と名前　ケアと共同性　＜個人主義を超えて＞ 事前・事後学修：配布の教材と参考文献を読む	日丸
１１	①②③	写真観察法によるフィールドワーク　グループ内発表 事前・事後学修：配布の教材と参考文献を読む	日丸
１２	①②③	グループ別発表① 事前・事後学修：配布の教材と参考文献を読む	日丸
１３	①②③	グループ別発表② 事前・事後学修は別途指示する	日丸
１４	①②③	グールプ発表のまとめ 事前・事後学修：配布の教材と参考文献を読む	日丸

事前・事後学修	事前学修：授業の前に前回までの内容を確認。 事後学修：授業の最後に次回の学修内容を指示する。
評　価　方　法	「授業の参加状況」50%、「課題、レポートの提出内容」50%
課題に対する フィードバック	課題、レポートはコメントを付して返答する。
教　　科　　書	松村圭一郎ほか編『文化人類学の思考法』世界思想社
参　　考　　書	適宜、授業内で紹介する。
履修上の注意点 及び取扱い	1.事前学修として、授業に関連した教材を読んで授業に参加する。 　授業後は事後学修として教材を復習する。 2.授業終了時に授業の感想・課題を提出する。 3.主体的に学ぶ姿勢を望む。遅刻及び授業時間中の離席、私語は慎む。

科　目　名	現代社会と経済		
科目コード	31106	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B311061
授業形態	講義	開講時期	1年後期
必修・選択	選択		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	無		
教員名	高橋　勉		
実務経験	無		
オフィスアワー	授業後15分間（講師控室）		
科目概要	本科目では、経済学の基礎を学び、現代の社会が直面する様々な問題を経済の側面から考察します。経済の基本的な仕組みや現代の経済の考え方を理解し、現代社会で起きている主要な問題である不況・失業の経済分析、多重債務やブラック企業の出現、経済格差と貧困層の拡大への対応、年金制度、税金問題などの大要を把握するとともに、問題解明のための手法を学び、問題解決への方途を考察します。人間らしい暮らし、社会保障の充実、さらに、より良い医療や看護の実現について考えます。 「別表３：人間と生活・社会の理解」		
到達目標	①社会経済問題の原因や解決策を自ら考えるための基礎知識を身につける。 ②格差、貧困、医療・介護難民などの、様々な社会経済問題に関する情報に関心を持ち、自ら調べ、考察する。 ③社会経済問題の原因や解決策に関する情報や知見を表現する。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
各専門職の役割を理解した上で、多職種と協働し、保健医療福祉のチームの一員として、看護職の役割を果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
継続的に学ぶ姿勢を身につけている	
自己を研き自らの力を伸ばすことができる	

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①②	第１回・戦後日本経済の歩み(1)：戦後復興、朝鮮戦争、高度経済成長、所得倍増計画：［事前学修］キーワードについて図書館・インターネットなどで調べ、まとめておく：［事後学修］資料の該当箇所を再読し、授業のまとめを作成する。練習問題を使って自分の理解を確認する。	高橋
2	①②	第２回・戦後日本経済の歩み(2)：第４次中東戦争、石油ショック、バブル経済、リーマンショック：［事前学修］キーワードについて図書館・インターネットなどで調べ、まとめておく：［事後学修］資料の該当箇所を再読し、授業のまとめを作成する。練習問題を使って自分の理解を確認する。	高橋
3	①②	第３回・市場の仕組みと物価の動き：市場メカニズム、物価指数、インフレ、デフレ：［事前学修］キーワードについて図書館・インターネットなどで調べ、まとめておく：［事後学修］資料の該当箇所を再読し、授業のまとめを作成する。練習問題を使って自分の理解を確認する。	高橋
4	①②	第４回・経済の仕組みと家計：経済主体、エンゲルの法則、消費者問題、消費者庁：［事前学修］キーワードについて図書館・インターネットなどで調べ、まとめておく：［事後学修］資料の該当箇所を再読し、授業のまとめを作成する。練習問題を使って自分の理解を確認する。	高橋
5	①②	第５回・私たちの生活と労働：労働基本権、労働三法、日本的雇用慣行、ディーセントワーク：［事前学修］キーワードについて図書館・インターネットなどで調べ、まとめておく：［事後学修］資料の該当箇所を再読し、授業のまとめを作成する。練習問題を使って自分の理解を確認する。	高橋
6	①②	第６回・資本主義経済と企業：資本主義、社会主義、株式会社、中小企業：［事前学修］キーワードについて図書館・インターネットなどで調べ、まとめておく：［事後学修］資料の該当箇所を再読し、授業のまとめを作成する。練習問題を使って自分の理解を確認する。	高橋

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
7	①②	第７回・貨幣と金融：金融、日本銀行、手形、小切手：［事前学修］キーワードについて図書館・インターネットなどで調べ、まとめておく：［事後学修］資料の該当箇所を再読し、授業のまとめを作成する。練習問題を使って自分の理解を確認する。	高橋
8	①②	第８回・財政の役割：一般会計、消費税、財政赤字、グローバルタックス：［事前学修］キーワードについて図書館・インターネットなどで調べ、まとめておく：［事後学修］資料の該当箇所を再読し、授業のまとめを作成する。練習問題を使って自分の理解を確認する。	高橋
9	①②	第９回・景気循環と政府の政策：景気循環、財政政策と金融政策、構造改革、アベノミクス：［事前学修］キーワードについて図書館・インターネットなどで調べ、まとめておく：［事後学修］資料の該当箇所を再読し、授業のまとめを作成する。練習問題を使って自分の理解を確認する。	高橋
１０	①②③	第10回・アベノミクスについて考える：３本の矢、マイナス金利、偽薬効果、名目賃金と実質賃金：［事前学修］キーワードについて図書館・インターネットなどで調べ、まとめておく：［事後学修］資料の該当箇所を再読し、授業のまとめを作成する。課題レポートを作成し、提出する。	高橋
１１	①②	第11回・社会保障の仕組み：生存権、社会保障、年金、少子高齢社会：［事前学修］キーワードについて図書館・インターネットなどで調べ、まとめておく：［事後学修］資料の該当箇所を再読し、授業のまとめを作成する。練習問題を使って自分の理解を確認する。	高橋
１２	①②	第12回・国際経済と日本：国際収支、円高と円安、TPP、パリ協定：［事前学修］キーワードについて図書館・インターネットなどで調べ、まとめておく：［事後学修］資料の該当箇所を再読し、授業のまとめを作成する。練習問題を使って自分の理解を確認する。	高橋
１３	①②	第13回・持続可能な社会について考える：四大公害病、環境権、地球温暖化、SDGs：［事前学修］キーワードについて図書館・インターネットなどで調べ、まとめておく：［事後学修］資料の該当箇所を再読し、授業のまとめを作成する。練習問題を使って自分の理解を確認する。	高橋
１４	①②③	第14回・日本社会のこれまでとこれから：大国化、岸信介、中曽根康弘、安倍晋三：［事前学修］キーワードについて図書館・インターネットなどで調べ、まとめておく：［事後学修］資料の該当箇所を再読し、授業のまとめを作成する。課題レポートを作成し、提出する。	高橋
試験	①②③	定期試験	高橋

事前・事後学修	事前学修：各回120分 キーワードについて図書館・インターネットなどで調べ、まとめておく。 事後学修：各回120分 資料の該当箇所を再読し、授業のまとめを作成する。練習問題を使って自分の理解を確認する。
評　価　方　法	定期試験（80%）と課題レポート２回（20%）
課題に対するフィードバック	課題レポートはコメントを付して返却します。 定期試験については、平均点、及び、正答率の低い問題についての解説等を、ポータルにて配信します。
教　　科　　書	指定しません。必要に応じて資料等を配布します。
参　　考　　書	授業の中で適宜紹介します。
履修上の注意点及び取扱い	１．授業中は、スマホ、雑誌、私語など、この授業と関係のない行為をしないようにしてください。ご協力をお願いします。 ２．資料は印刷して配布します。 ３．レポート課題の提出方法については、授業の中で説明します。

科　目　名	ジェンダー論		
科目コード	31107	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B311071
授業形態	講義	開講時期	1年後期
必修・選択	選択		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	助産師課程必修科目		
教員名	竹内　愛		
実務経験	無		
オフィスアワー	講師控室において授業後10分間個別で対応します。		
科目概要	現代社会を最も根底的に規定する要素のひとつである「性差」を分析の基軸とし、身近な制度や慣習の成り立ち、男女のイメージの変容など、社会の中に溶け込んだ事象について論じる。今日の社会における重要な課題であるリプロダクティブ・ヘルス及びリプロダクティブ・ライツについても解説する。具体的には、ジェンダーの社会的特性と生物学的特性、ジェンダーと家族、性別役割と家族、セクシュアルマイノリティ、リプロダクティブ・ヘルス及びリプロダクティブ・ライツの概念と諸問題などの事例について学び、理解を深める。 「別表３：人間と生活・社会の理解」 「別表２：基礎助産学」		
到達目標	①「ジェンダー」、「性別役割」等の知識を理解し、身近な問題として考えることができる。 ②「セクシュアルマイノリティ」について学び、性の多様性について理解する。 ③「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」の概念について理解し、その課題と支援について考えることができる。 ④「男女共同参画社会」を実現するためには、男女がどのような関係性であるべきなのか、労働・結婚・出産・育児の面から多面的に考えることができる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	
各専門職の役割を理解した上で、多職種と協働し、保健医療福祉のチームの一員として、看護職の役割を果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
継続的に学ぶ姿勢を身につけている	○
自己を研き自らの力を伸ばすことができる	

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①	「ジェンダーとは何か」：事前・事後学修として、新聞記事やジェンダーに関する図書を読み、ジェンダー問題が身近なところにあることを理解する。	竹内
2	①④	「ジェンダーと家族」：事前学修として、自分自身の家庭、もしくはメディアでニュースとなっている家庭の家族の問題、役割分担についてまとめる。事後学修として、授業で学んだ家族問題の背景について、配布する資料や図書を読んで授業内容の理解を深める。	竹内
3	①②	「セクシュアルマイノリティ①」：事前学修として、セクシュアルマイノリティに関する資料を読んでそれについてまとめる。事後学修として、授業で学んだ性の多様性について復習し、まとめる。	竹内
4	①②	「セクシュアルマイノリティ②」：事前学修として、性別違和の人びとについての資料を読んで、それについてまとめる。事後学修として、授業で学修した性別違和の人々の抱える困難、法律、制度などの諸問題を復習し、まとめる。	竹内
5	①②④	「セクシュアルマイノリティ③：事前学修として、同性愛者の人々についての資料を読み、それをまとめる。事後学修として、同性愛者の人々の抱える困難と世界の同性婚やパートナーシップ制度についてまとめる。	竹内
6	③	「リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念」：事前・事後学修として、配布資料を理解し、リプロダクティヴ・ヘルス／ライツの概念の出来上がった歴史的背景や概念の重要点についてまとめる。	竹内
7	③	「リプロダクティブ・ヘルス／ライツにおける諸問題」：事前・事後学修として、配布資料を読み、授業内容をより深く理解する。	竹内

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
試験	①②③④	定期（筆記）試験	竹内
事前・事後学修		事前学修：講義の前に前回までの内容を確認。各回120分 事後学修：講義最後に次回の学修内容を指示する。各回120分	
評　価　方　法		定期試験（100%）による。	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教　　科　　書		必要に応じてプリント等を配布する。	
参　　考　　書		必要に応じて文献や資料を紹介する。	
履修上の注意点及び取扱い		全て対面授業で行う。	

科　目　名	現代社会と家族		
科目コード	31108	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B311081
授業形態	講義	開講時期	1年後期
必修・選択	選択		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	助産師課程必修科目		
教員名	佐々木　政司		
実務経験	無		
オフィスアワー	授業開始前10分間(講師控室)		
科目概要	本科目では、社会学の主要な理論と家族に関連する理論の基礎を学び、現代社会における家族の構造や形態及び機能、家族の歴史的変容、結婚及び夫婦の役割分担などの意識の変化について学修する。現代社会において課題となっている育児問題や、高齢化に伴う介護問題、家族に対する社会的制度の変遷などの事例を通して、社会と家族のつながりや家族の心理を、社会学的側面から理解する。これらの学修を通して、家族を育む地域社会の風土、行政の政策、地域のサポートシステムについて考察する。 「別表３：人間と生活・社会の理解」 「別表２：基礎助産学」		
到達目標	①家族の歴史的変遷と現代日本家族の特徴について理解する。 ②現代社会における様々な家族生活問題について理解し、社会学的観点から考察を深める。 ③健康問題を持つ家族に対して、家族を一つの単位として支援する必要性を理解する。 ④家族の健康問題によって発生する家族問題とその援助の必要性を理解する。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
各専門職の役割を理解した上で、多職種と協働し、保健医療福祉のチームの一員として、看護職の役割を果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
継続的に学ぶ姿勢を身につけている	
自己を研き自らの力を伸ばすことができる	

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①②	人間と社会 個人と社会との関係、社会の中の人間、人間の中の社会、医療・保健と社会、社会学的想像力 【事前学修】シラバスを確認しておくこと 【事後学修】社会とは何か、医療・保健における社会学的想像力について整理すること。	佐々木
2	①②	地位と役割、社会的規範 地位と役割、医療者と病人役割・患者役割、社会的規範、社会的アイデンティティ、アイデンティティの流動化 【事前学修】自らのアイデンティティについてまとめておくこと。 【事後学修】これまでどのような社会的地位や社会的役割を経験してきたか、またその影響について整理すること。	佐々木
3	①②	社会化とライフコース 社会的剥奪、社会化と人間形成、近代社会の構造とライフイベント、社会的役割の取得と経歴、出生コホートと予備的社会化 【事前学修】これまでの生活で社会からどのような影響を受けてきたのかについてまとめておくこと。 【事後学修】自らの成長に、家族、学校、地域社会や日本社会がどのように関わっていたかについて整理すること。	佐々木
4	①②	家族 家族の定義、近代家族と「家」制度、家族の現代的変化、核家族化、家族の多様化・個人化・ライフスタイル化 【事前学修】自らが考える家族の範囲とその理由についてまとめておくこと。 【事後学修】家族の定義とその歴史的変遷、現代的意味について整理すること。	佐々木

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
5	②	配偶者選択と結婚、未婚化・晩婚化 配偶者選択の過程、結婚と離婚、パートナーシップの多様化、未婚化・晩婚化の原因、婚活 【事前学修】自らの恋愛観・結婚観についてまとめておくこと。 【事後学修】現代社会における結婚の社会的意味と、未婚化・晩婚化による社会の変化について整理すること。	佐々木
6	②	家族の関係性 出産、母性・父性、親子関係、夫婦関係、家庭内性別役割分担、生殖補助医療、養子・里親、高齢者虐待、老々介護、看取り 【事前学修】自らの家族の関係について振り返っておくこと。 【事後学修】親子・夫婦を中心とした家庭内での地位・役割関係について整理しておくこと。	佐々木
7	②③④	主要な家族理論 家族システム論、家族発達理論、家族役割理論、家族ストレス対処論 【事前学修】看護における患者の家族との関わりについて考えておくこと。 【事後学修】家族を理解するための基礎となる諸理論について整理すること。	佐々木
試験	①②③④	定期試験	佐々木
事前・事後学修		事前学修：講義の前に前回までの内容を確認。各回120分 事後学修：講義最後に次回の学修内容を指示する。各回120分	
評　価　方　法		定期試験（100%）による。	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。 リアクションペーパー等は授業内で講評する。	
教　　科　　書		指定しない。適宜資料や文献を提示する。	
参　　考　　書		適宜資料や文献を提示する。	
履修上の注意点及び取扱い		日頃から家族や社会について関心を持ち、様々なメディアに触れること。	

科目名	生命倫理		
科目コード	31109	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B311091
授業形態	講義	開講時期	1年後期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	久保田　進一		
実務経験	無		
オフィスアワー	授業終了後及びメール（pxk06600@nifty.com）にて対応します。		
科目概要	医療において、倫理的問題が問われることが多々ある。特に、近年、医療技術および科学技術の発展により一層倫理的問題が問われてきている。そこで、本講義においては、医療現場における具体的な事例を通して、倫理的問題を考えていきたい。また、倫理的問題の多くは、正解などはなく、どのような立場あるいはどのような価値観から主張しているのかで結論も変わってくる。もちろん、多くの人が納得する主張でなければ、社会には受け入れられない。そのため、各学生は自ら考えて、倫理的判断ができるように、自分なりの主張を持てるようになってもらいたい。 「別表３：人間と生活・社会の理解」 「別表２：基礎助産学」		
到達目標	①現代医療における倫理的課題について、その背景や特徴をふまえ、何がどのように課題となるかを多面的に理解する。 ②生命倫理において、「人間の尊厳」を理解する概念を身に付けることができる。 ③生命と人格への尊厳を持ち、社会への関わりについて自分で考えることができる。 ④医療制度のもとで社会への関わりと看護者としての自己の役割を確認する。 ⑤今後の医療技術における倫理的問題について洞察することができる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
各専門職の役割を理解した上で、多職種と協働し、保健医療福祉のチームの一員として、看護職の役割を果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
継続的に学ぶ姿勢を身につけている	
自己を研き自らの力を伸ばすことができる	

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①②⑤	生命倫理学とは何か：生命倫理学がどのような学問であり、どのような経緯で登場してきたのかを解説する。	久保田
2	①②③	生殖技術と人工妊娠中絶：生命の誕生をめぐって、その倫理的問題を扱う。	久保田
3	①②③	移植医療と脳死：移植医療は、他人の臓器をもらうことである。また、脳死と移植医療は切っても切れない関係である。移植医療をめぐる倫理的問題を扱う。	久保田
4	①②③	安楽死・尊厳死：人間の死において、どのような死に方が人間らしい死に方となるのか、その倫理的問題を扱う。	久保田
5	①④⑤	遺伝子技術：遺伝子技術による治療は、さらにはデザイナーベイビーにつながる問題へと発展しかねない。その場合、医療は治療といえるだろうか。その倫理的問題を扱う。	久保田
6	①④⑤	テクノロジーと人間改造：いまやテクノロジーの発展により、人間の身体は拡張されてきている。その倫理的問題を扱う。	久保田
7	①④⑤	今後の医療と生命倫理学：今後の医療において、生命倫理学はどのような問題に関わっていくのかについて解説する。	久保田
試験	①②③④⑤	定期試験	久保田

事前・事後学修	事前学修：講義の前に前回までの内容を確認。各回120分 事後学修：講義最後に次回の学修内容を指示する。各回120分
評価方法	定期試験による評価
課題に対するフィードバック	課題レポート等はコメント等を付して返却する。

教　　科　　書	今井道夫　『生命倫理学入門』　産業図書
参　　考　　書	適宜、紹介します。
履修上の注意点 及び取扱い	講義形式であるが、一方通行の授業にならないため、皆さんにも振りますので、何らかのリアクション・発言をしてください。

科　目　名	運動の科学		
科目コード	31110	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B311101
授業形態	講義	開講時期	1年前期
必修・選択	選択		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	黒柳　淳		
実務経験	無		
オフィスアワー	講義後15分間（講師控室）		
科目概要	今日では、適切な身体運動やスポーツが健康維持・増進のために重要であることが科学的・医学的観点から説明され、社会に浸透している。本科目では、人間が生涯にわたり健康を維持獲得するための運動と運動習慣について理解する。現代生活における健康と運動の意義、運動と心身の健康との関係、生涯にわたって健康な生活を送るための運動習慣を身につける必要性を理解する。 また、医療に携わる看護職が健康への助言者として必要な身体運動の実践に伴う身体機能の改善や留意点について理解を深める。 「別表３：人間と生活・社会の理解」		
到達目標	①運動による健康づくりのための身体の動かし方について説明できる。 ②運動と心の健康との関係が説明できる。 ③生涯にわたって健康な社会生活が送れる運動習慣について説明できる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
各専門職の役割を理解した上で、多職種と協働し、保健医療福祉のチームの一員として、看護職の役割を果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
継続的に学ぶ姿勢を身につけている	
自己を研き自らの力を伸ばすことができる	

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①②	健康、運動の意義：健康の定義（体の健康、心の健康、社会的な健康）、運動の重要性 各回の授業内容に関する事前・事後学修のDVDを視聴するので、それに対するレポートをA5用紙1枚にまとめて提出する。詳細は授業中に示す。	黒柳
2	①②	測定と評価の教育的意義：測定と評価とは、健康づくりのための測定と評価 各回の授業内容に関する事前・事後学修のDVDを視聴するので、それに対するレポートをA5用紙1枚にまとめて提出する。	黒柳
3	①	体育測定評価の実際：形態測定、行動力要因別テスト（筋力、持久力、柔軟性、調整力）、抵抗力 各回の授業内容に関する事前・事後学修のDVDを視聴するので、それに対するレポートをA5用紙1枚にまとめて提出する。	黒柳
4	①③	授業の振り返り 健康づくりのための身体活動：全面性の原理、個別性の原理、漸進性の原理 各回の授業内容に関する事前・事後学修のDVDを視聴するので、それに対するレポートをA5用紙1枚にまとめて提出する。	黒柳
5	①③	健康づくりのための身体活動：継続性の原理、過重負荷の原理、自覚性の原理 各回の授業内容に関する事前・事後学修のDVDを視聴するので、それに対するレポートをA5用紙1枚にまとめて提出する。	黒柳
6	①③	身体運動の実践による効果：種類と強度、改善点、留意点 各回の授業内容に関する事前・事後学修のDVDを視聴するので、それに対するレポートをA5用紙1枚にまとめて提出する。	黒柳
7	①③	自然環境と身体づくり：夏の身体活動、冬の身体活動 各回の授業内容に関する事前・事後学修のDVDを視聴するので、それに対するレポートをA5用紙1枚にまとめて提出する。	黒柳
試験	①②③	定期試験	黒柳
事前・事後学修		事前学修：講義の前に前回までの内容を確認。各回120分 事後学修：講義最後に次回の学修内容を指示する。各回120分	

評　価　方　法	定期試験90%、視聴レポート10%
課題に対する フィードバック	視聴レポートは内容を確認して返却する。質問に答える。
教　　科　　書	適宜資料配布
参　　考　　書	適宜資料配布
履修上の注意点 及び取扱い	日常生活の中でも自他の健康に対する理解を深めておくこと。

科　目　名	運動の科学・実技		
科目コード	31111	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B311111
授業形態	演習	開講時期	1年通年
必修・選択	選択		
単位数	1単位	時間数	30時間
先修条件	無		
教員名	黒柳　淳		
実務経験	無		
オフィスアワー	講義終了後10分間		
科目概要	運動の科学で学んだ身体運動が及ぼす健康への影響や身体の運動機能が、社会的環境や加齢などによって、どのように変化するか、及び身体運動の実践に伴う身体機能への影響を理解したうえで、健康づくりに効果的な身体運動を体験学習し、将来、健康支援を行うための基礎的な能力を身につける。また、身体運動の体験を通して生涯にわたる身体活動の習慣化、活発化を図る。さらに、生涯にわたる余暇活動の能力を高め、身体運動の経験を通して現代の教養人としての資質を高める。授業では、室内で実施可能な体力テスト、バレーボールと卓球（基礎運動、基礎技術練習、応用技術練習、ゲーム）を行う。 「別表３：人間と生活・社会の理解」		
到達目標	①卓球の基礎的技術を習得し、自分たちだけで楽しく試合ができることを目標とする。 ②運動の実践により、健康の保持増進につなげることができる。 ③バレーボールの基本技術を習得し、楽しく試合ができる。また、チームワークを身につける。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
各専門職の役割を理解した上で、多職種と協働し、保健医療福祉のチームの一員として、看護職の役割を果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
継続的に学ぶ姿勢を身につけている	
自己を研き自らの力を伸ばすことができる	

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①②③	ガイダンス　実技実施上の注意事項と内容、評価などについて説明 バレーボールのDVD視聴	黒柳
2	②③	バレーボール　対人パス、円陣パス、サーブ、ルールと審判法 本日の反省と次回の目標を発表	黒柳
3	②③	バレーボール　対人パス、円陣パス、サーブ、スパイク、ゲーム形式 本日の反省と次回の目標を発表	黒柳
4	②③	バレーボール　対人パス、円陣パス、サーブ、スパイク、ゲーム 本日の反省と次回の目標を発表	黒柳
5	②③	バレーボール　チーム練習、ゲーム 本日の反省と次回の目標を発表	黒柳
6	②③	バレーボール　チーム練習、ゲーム 本日の反省と次回の目標を発表	黒柳
7	②③	バレーボール　まとめ、実技試験、ゲーム 本日の反省を発表	黒柳
8	①②	卓球　グリップとボールの慣れ、スイングとサーブ、ボールの回転と特性を理解する。ロングでのラリー 本日の反省と次回の目標を発表	黒柳
9	①②	卓球　ストロークを理解する。ロングでのラリー、サーブ、スマッシュ、ゲーム形式、ルールと審判法 本日の反省と次回の目標を発表	黒柳
１０	①②	卓球　ラリー、サーブ、スマッシュ、シングルスゲーム 本日の反省と次回の目標を発表	黒柳
１１	①②	卓球　ラリー、スマッシュ、シングルスゲーム 本日の反省と次回の目標を発表	黒柳
１２	①②	卓球　ラリー、シングルスゲーム 本日の反省と次回の目標を発表	黒柳

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
１３	①②	卓球　ダブルスゲーム　ルールと審判法 本日の反省と次回の目標を発表	黒柳
１４	①②	卓球　まとめ、実技試験、ダブルスゲーム 本日の反省を発表	黒柳
事前・事後学修		事前学修：講義の前に前回までの内容を確認。各回120分 事後学修：講義最後に次回の学修内容を指示する。各回120分	
評　価　方　法		①実技試験70%(パス、サーブ、チームプレー、ストローク、スマッシュ等) ②授業態度(積極性)10% ③レポート20%	
課題に対するフィードバック		課題レポート等は確認をして返却する。質問があれば答える。	
教　　科　　書		無	
参　　考　　書		無	
履修上の注意点及び取扱い		①健康づくりを目標に、怪我や事故等に注意し、楽しく真剣かつ積極的に授業に取り組んでもらいたい。 ②運動服と運動靴(グラウンド、体育室)、必要に応じて水分、タオル、帽子を用意 ③天候、グラウンド状況、そのほかの事情により、バレーボールをソフトバレーボールやビーチボールに変更する場合がある。	

科目名	日本語表現		
科目コード	31201	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B312011
授業形態	講義	開講時期	1年前期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	無		
教員名	肥田　武		
実務経験	無		
オフィスアワー	月曜日13:30～15:10 メールでアポイントメントをとってください（t.hida.t@ikc.ac.jp） 対面・オンラインの相談機会を設定します		
科目概要	本科目では、日本語の音声言語表現や文字言語表現に関して幅広く学ぶ。社会人として、また職業人として必要とされる時・場・状況に即した言葉遣いや日本語特有の表現、さらに在学中に求められる様々な文章の作成方法の基礎を学ぶ。音声言語表現は、複数回のロールプレイを通して理解する。文字言語表現は、小レポート等の論理的表現から詩等の文学的表現まで演習を通して理解する。 「別表３：人間と生活・社会の理解」		
到達目標	①日本語の語彙・文法・文章表現の基礎を正しく説明できる（知識）。 ②日本語を時・場・状況に即して適切に使用できる（技能）。 ③思考やコミュニケーションを支える日本語を重視しようとする（態度）。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	③	オリエンテーション（授業の目的、学修の進め方、学修ルール、評価方法 など） ＊事後学修 参考書を読むなどして日本語表現に対する関心を高める。	肥田
2	①②③	会話表現の基礎1（敬語） ［ロールプレイ］ ＊事後学修 日常生活の類似場面で学習内容を実践し、意識的に練習する。	肥田
3	①②③	会話表現の応用1（自己紹介） ［演習］ ＊事前学修 自己紹介の内容を大まかに考えておく。	肥田
4	①②③	会話表現の応用2（実習での話し方） ［ロールプレイ］ ＊事後学修 日常生活の類似場面で学習内容を実践し、意識的に練習する。	肥田
5	①②③	会話表現の応用4（職場での話し方） ［ロールプレイ］ ＊事後学修 日常生活の類似場面で学習内容を実践し、意識的に練習する。	肥田
6	①②③	振り返り ＊事前学修 第1～7回の授業資料を復習しておく。	肥田
7	①②③	文章表現の基礎1（正しい表記、慣用句 など） ［演習］ ＊事後学修 授業資料を復習する。宿題を行う。	肥田
8	①②③	文章表現の基礎2（避けるべき表現、記号 など） ［演習］ ＊事後学修 授業資料を復習する。	肥田
9	①②③	文章表現の基礎3（メールの使い方） ［演習］ ＊宿題を行う。	肥田
10	①②③	文章表現の基礎4（文の長さ、語順、読点 など） ［演習］ ＊事後学修 日常生活や他授業などで学習内容を実践し、意識的に練習する。	肥田
11	①②③	文章表現の応用1（段落構成） ［演習］ ＊事後学修 日常生活や他授業などで学習内容を実践し、意識的に練習する。	肥田
12	①②③	文章表現の応用2（礼状） ［演習］ ＊事後学修 授業資料を復習する。	肥田

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
13	①②③	文章表現の応用3（詩1）［演習］ ＊事後学修 詩集を読み他の人が書いた詩のおもしろさを味わう。下書き。	肥田
14	①②③	文章表現の応用3（詩2）［演習］ ＊事後学修 詩集を読み他の人が書いた詩のおもしろさを味わう。仕上げ。	肥田
試験	①②③	定期試験	肥田
事前・事後学修		事前学修：事前に配信される資料に目を通す。各回120分 事後学修：講義の学修内容を振り返り、残された課題があれば取り組む。各回120分	
評　価　方　法		毎時の課題40%、中間試験30%、定期試験30%で評価する。	
課題に対するフィードバック		課題は採点して返却する。必要に応じて全体の場でコメントする。	
教　　科　　書		無	
参　　考　　書		適宜、紹介する。	
履修上の注意点及び取扱い		1．講義資料は事前配信する（欠席者は自身で対応する） 2．講義資料には所々空欄を設けている（説明内容を書き込みながら受講する） 3．講義中には最低限のマナーを求める（飲食や私語をしない） 4．対面講義であるが授業中にオンラインでの課題提出を求める 5．ペアや個人での演習を頻繁に実施する（積極的に取り組む） 6．詳細は第1回に配布する「初回配布用シラバス」に示す	

科　目　名	英語 I		
科 目 コ ー ド	31202	科 目 ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B312021
授　業　形　態	講義	開　講　時　期	1年前期
必修　・　選択	必修		
単　位　数	2単位	時　間　数	30時間
先　修　条　件	無		
教　員　名	Matthew B.C. Estelle		
実　務　経　験	無		
オフィスアワー	授業終了後10分間（講師控室）		
科　目　概　要	高校までに学習した英文法を復習しつつ、英語の基本的構文や文法の理解、文章読解力の向上を図る。また日常生活場面や看護場面を想定した実践的な英語表現能力の育成を図る。具体的には、日常生活で必要な挨拶や自己紹介等の表現及び応答が可能な基礎的なコミュニケーション能力と看護場面における病歴聴取に必要な語彙や表現を修得するとともに、ディクテーションやペアでのYouTubeビデオ作成を通し、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。 「別表３：人間と生活・社会の理解」		
到　達　目　標	①リスニング・スピーキング・ライティングなどの演習を通して、応用力を身につける。 ②ロールプレイと振り返りを通して、基礎的な文章構成と表現を身につける。 ③英語であいさつ、自己紹介、簡単な日常会話ができる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健 ・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	
自己を研き自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①②③	コースの紹介と説明 Class Introduction and Explanation (コースの紹介と説明) Unit 1 Personal Information (自己紹介)	Matthew B.C. Estelle
2	①②③	Unit 2 My Interests （趣味） Unit 3 Dining Out （外食）	Matthew B.C. Estelle
3	①②③	Review 1 Review of Units 1-3	Matthew B.C. Estelle
4	①②③	Unit 4 Part-time Jobs （アルバイト） Unit 5 Talking about Music and Movies （音楽と映画について）	Matthew B.C. Estelle
5	①②③	Unit 6 Lets Go Shopping （ショッピング） Review 2 Review of Units 4-6	Matthew B.C. Estelle
6	①②③	Unit 7 Summer Time （夏休み） Units 8 What Does She Look Like? （外観）	Matthew B.C. Estelle
7	①②③	Units 9 How does it Taste? (食べ物の説明) Unit 10 Long Time, No see （挨拶）	Matthew B.C. Estelle
8	①②③	Review 3 Review of Units 8-10	Matthew B.C. Estelle
9	①②③	Unit 11 My Boss is a Really Nice Guy （個性、性格） Unit 12 Ouch, That Hurts! （〈…を〉痛める）	Matthew B.C. Estelle

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
１０	①②③	Unit 13 Hotel & Travel Tips （ホテルと旅行のヒント） Review 4 Review of Units 11-13	Matthew B.C. Estelle
１１	①②③	Unit 14 Fashion Advice （ファッション） Unit 15 The Holiday Season (休日)	Matthew B.C. Estelle
１２	①②③	Review 5 Review of Units 14-15	Matthew B.C. Estelle
１３	①②③	Review of Course materials	Matthew B.C. Estelle
１４	①②③	Review for Final Test	Matthew B.C. Estelle
試験	①②③	定期試験	Matthew B.C. Estelle
事前・事後学修		事前学修：講義の前に前回までの内容を確認。各回120分 事後学修：講義最後に次回の学修内容を指示する。各回120分	
評 価 方 法		平 常 点 ：振り返りとして書いた文をペアで見直し毎ユニット提出10%、授業態度（YouTube videos：upload25%・writing25%） 50% 中間試験・定期試験：授業で学修した内容理解のための英語の文構造、慣用表現、専門語彙、質問の答えから出題 各20%	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教 科 書		教科書：A Single Step to English Communication (著者:Steven E. Quasha/出版社: Akebono Press / ISBN: 978-4-905426-70-7)	
参 考 書		無	
履修上の注意点及び取扱い		語学の勉強は日々の積み重ねが大切なので、事前・事後学修を必ず行うこと。 なお事前・事後学修の内容は授業で説明する。	

科　目　名	英語II		
科目コード	31203	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B312031
授業形態	講義	開講時期	1年後期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	無		
教員名	Matthew B.C. Estelle		
実務経験	無		
オフィスアワー	授業終了後10分間（講師控室）		
科目概要	英語Ⅰで学んだ英語の基本的構文や文法の理解をもとに、文章読解力の向上と日常生活場面や看護場面を想定した実践的な英語表現能力の育成を図る。具体的には、医療関連の資料を用いて自分の考えを構成し、英文で表現するエッセイ・ライティングの手法を学び、またロールプレイでコミュニケーション能力の向上を図る。本科目では、解説文（Expositive Essay）と論文形式の文章（Argumentative Essay）の作成を通じて、英語の文章構成や表現の基礎的な能力を育む。 「別表３：人間と生活・社会の理解」		
到達目標	①リスニングやスピーキングなどの演習を通じて、応用力を身につける。 ②看護の現場で必要となる、基本的な語彙と表現を身につける。 ③看護場面での病歴聴取に必要な会話や表現をロールプレイで使える。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健 ・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①②③	コースの紹介と説明 Class introduction and explanation (コースの紹介と説明)	Matthew B.C. Estelle
2	①②③	Unit 1 Meeting Patients (患者登録と生活習慣アンケートをする)	Matthew B.C. Estelle
3	①②③	Unit 2 Taking a Medical History (病歴および健康状態を把握する) Unit 3 Assessing Patients' Symptoms (病状や症状をアセスメントする)	Matthew B.C. Estelle
4	①②③	Unit 4 Taking Vital Signs I (バイタル・サインを確認する) Unit 5 Taking a Specimen (検体を採取する)	Matthew B.C. Estelle
5	①②③	Unit 6 Conducting Medical Examinations (検査の注意や指示をする)	Matthew B.C. Estelle
6	①②③	Review for Midterm test	Matthew B.C. Estelle
7	①②③	小テスト１ Review and Test of Unit 1-6 (まとめと小テスト１)	Matthew B.C. Estelle
8	①②③	Unit 7 Assessing Pain (疾病・負傷による痛みをアセスメントする)	Matthew B.C. Estelle
9	①②③	Unit 8 Advising about Medication (処方された投薬についてアドバイスする)	Matthew B.C. Estelle
１０	①②③	Unit 9 Improving Patients' Mobility (体の機能回復を介助・援助する)	Matthew B.C. Estelle
１１	①②③	Unit 10 Maintaining a Good Diet (栄養と食餌についてアドバイスする)	Matthew B.C. Estelle

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
１２	①②③	Unit 11 Caring for Inpatients (入院病棟で患者ケアをする)	Matthew B.C. Estelle
１３	①②③	Unit 12 Coping with Emergencies I (緊急事態に対処する)	Matthew B.C. Estelle
１４	①②③	Review for Final Test	Matthew B.C. Estelle
試験	①②③	定期試験	Matthew B.C. Estelle
事前・事後学修		事前学修：講義の前に前回までの内容を確認。各回120分 事後学修：講義最後に次回の学修内容を指示する。各回120分	
評　価　方　法		平 常 点 ：授業態度（YouTube videos：upload20%・writing20%） 40% weekly quiz20% 中間試験・定期試験：授業で学修した内容理解のための英語の文構造、慣用表現、専門語彙、質問の答えから出題 各20%	
課題に対する フィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教　科　書		教科書：Caring for People (出版社Cengage Learning/ISBN:978-4-86312-256-7)	
参　考　書		無	
履修上の注意点 及び取扱い		語学の勉強は日々の積み重ねが大切なので、事前・事後学修を必ず行うこと。 なお事前・事後学修の内容は授業で説明する。	

科目名	中国語Ⅰ		
科目コード	31204	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B312042
授業形態	講義	開講時期	2年前期
必修・選択	選択		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	無		
教員名	李　徳林		
実務経験	無		
オフィスアワー	講義終了後10分間(講師控室)		
科目概要	中国語の基礎であるピンイン（日本語のひらがなに相当）の読み書き、日常会話で使用される語彙、基本文法を学び、日常会話、医療に関する中国語の語彙や表現を学修する。これらの学修を通して中国語圏の人々の価値観、見方・考え方、文化などについて理解する。中国語の学修では、正確で美しい中国語を話せるようになるために必要な57個の発音と6つの基本文型を学び、自己紹介、質問と応答、簡単な説明などの基本的な日常会話能力を身につける。 「別表３：人間と生活・社会の理解」		
到達目標	①中国語の基礎となる基本文型を理解し、識別することができる。 ②中国語圏の人々の価値観、見方・考え方、文化などについて理解する。 ③正確で美しい中国語を話せるようになるために必要な57個の発音と６つの基本文型を学び、自己紹介、質問と応答、簡単な説明などの基本的な日常会話能力を身につける。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	
保健 ・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①②	発音（1）単母音 事前・事後学修はその都度指示する。	李
2	①②	発音（2）二重母音 事前・事後学修はその都度指示する。	李
3	①②	発音（3）三重母音　子音 事前・事後学修はその都度指示する。	李
4	①②	発音（4）鼻母音 事前・事後学修はその都度指示する。	李
5	①②	声調変化　軽声 事前・事後学修はその都度指示する。	李
6	①②	“儿”化　声調記号 事前・事後学修はその都度指示する。	李
7	①②	基本文型、授業の振り返り 事前・事後学修はその都度指示する。	李
8	①②③	我是学生（1） 事前・事後学修はその都度指示する。	李
9	①②③	我是学生（2） 事前・事後学修はその都度指示する。	李
１０	①②③	今天天气真热！（1） 事前・事後学修はその都度指示する。	李
１１	①②③	今天天气真热！（2） 事前・事後学修はその都度指示する。	李
１２	①②③	今天星期几？（1） 事前・事後学修はその都度指示する。	李
１３	①②③	今天星期几？（2） 事前・事後学修はその都度指示する。	李
１４	①②③	你现在在哪儿？（1） 事前・事後学修はその都度指示する。	李

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
試験	①②③	定期試験	李
事前・事後学修		事前学修：講義の前に前回までの内容を確認。 事後学修：講義最後に次回の学修内容を指示する。	
評　価　方　法		参加態度(ロールプレイへの参加状況、積極的な学習態度）などの平常点30%、定期試験70%で、総合的に評価する。	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教　　科　　書		1・2・3の中国語　王武雲（ほか共著）　郁文堂	
参　　考　　書		無	
履修上の注意点及び取扱い		語学の勉強は日々の積み重ねが大切なので、事前・事後学修を必ず行うこと。 なお事前・事後学修の内容は授業で説明する。	

科　目　名	中国語Ⅱ		
科目コード	31205	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B312052
授業形態	講義	開講時期	2年後期
必修・選択	選択		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	無		
教員名	李　徳林		
実務経験	無		
オフィスアワー	講義終了後10分間(講師控室)		
科目概要	中国語の基礎であるピンイン（日本語のひらがなに相当）の読み書き、日常会話で使用される語彙、基本文法を学び、日常会話、医療に関する中国語の語彙や表現を学修する。これらの学修を通して中国語圏の人々の価値観、見方・考え方、文化などについて理解する。 車の両輪に相当する中国語の基礎（発音と基本文型）を固めたうえで、単語をフレーズに、フレーズをセンテンスにし、読むだけではなく、簡単な日常会話ができるようにする基礎力を養成します。学習者が自立して継続学習できる（医療・医薬や看護などに関わる一般的な専門表現でも理解できる）レベルになるまで指導することを目的とします。 「別表３：人間と生活・社会の理解」		
到達目標	①中国語の基礎となる発音を理解し、正確に聞き取ったり発声したりすることができる。 ②基本文型や発音の理解に基づいて、中国語の文章を正確に読み、内容を説明することができる。 ③基本文型を適用して単語からフレーズやセンテンスを構成し、中国語で日常会話をすることができる。 ④中国語のおもしろさや重要性に気づき、看護に関する中国語を自ら継続的に学修しようとする。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健 ・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①②③④	名詞述語文　“…有…” 事前・事後学修はその都度指示する。	李
2	①②③④	動詞・前置詞の“在”　反復疑問文 事前・事後学修はその都度指示する。	李
3	①②③④	助動詞の“想”　選択疑問文 事前・事後学修はその都度指示する。	李
4	①②③④	文中の“了”　数量補語 事前・事後学修はその都度指示する。	李
5	①②③④	助詞の“吧”　連動文 事前・事後学修はその都度指示する。	李
6	①②③④	前置詞の“离”　比較文 事前・事後学修はその都度指示する。	李
7	①②③④	進行を表す“呢”　“…是…的” 事前・事後学修はその都度指示する。	李
8	①②③④	前置詞の“给”　動詞＋“过” 事前・事後学修はその都度指示する。	李
9	①②③④	助動詞の前置詞の“能”“会”“可以” 事前・事後学修はその都度指示する。	李
１０	①②③④	“快…了”　結果補語 事前・事後学修はその都度指示する。	李
１１	①②③④	動詞の重ね方　状態補語 事前・事後学修はその都度指示する。	李
１２	①②③④	連動文　“把”構文 事前・事後学修はその都度指示する。	李

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
１３	①②③④	二重目的語　可能補語 事前・事後学修はその都度指示する。	李
１４	①②③④	“一点儿也不…”　方向補語 事前・事後学修はその都度指示する。	李
試験	①②③④	筆記試験	李
事前・事後学修		事前学修：講義の前に前回までの内容を確認。 事後学修：講義最後に次回の学修内容を指示する。	
評　価　方　法		参加態度(ロールプレイへの参加状況、積極的な学習態度）などの平常点30%、筆記試験70%で、総合的に評価する。	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教　　科　　書		1・2・3の中国語　王武雲（ほか共著）　郁文堂	
参　　考　　書		無	
履修上の注意点及び取扱い		語学の勉強は日々の積み重ねが大切なので、事前・事後学修を必ず行うこと。 なお事前・事後学習の内容は授業で説明する。	

科　目　名	ポルトガル語		
科目コード	31206	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B312062
授業形態	講義	開講時期	2年前期
必修・選択	選択		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	無		
教員名	久保原　信司		
実務経験	在名古屋ブラジル総領事館、サンパウロ新聞社及びポルトガル新聞社に勤務		
オフィスアワー	授業後10分間		
科目概要	ポルトガル語は、主として日本の東海地方で生活する外国人の多くが母国語として使用する言語であり、通常は、居住地域内では母国語で意思疎通を行っているが、医療を必要とする場合には近隣の医療機関等を受診する。そのため、医療機関におけるポルトガル語の通訳へのニーズは高い状況にある。本科目では、ポルトガル語によって基本的な日常会話や意思疎通ができることを目標に、ポルトガル語の基本的な文法や単語、会話表現を学修する。ポルトガル語を使用する国々の歴史や文化、価値観についても親しみを持って理解する。 「別表３：人間と生活・社会の理解」		
到達目標	①基本的なポルトガル語文法が理解できる。 ②ポルトガル語で簡単な会話ができる。 ③地域のブラジル人を身近な存在として感じられるようになる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健 ・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	③	ブラジル社会やポルトガル語、日本のブラジル・コミュニティーについての概説。 事後学修：以下の動画の視聴（※本シラバス内で指定するすべての動画は久保原自身による制作物です） https://youtu.be/WH65-gCDB_Q	久保原
2	①	ポルトガル語の文字や発音記号、発音の規則、アクセントなどを学ぶ。 事前学修：以下の動画の視聴 https://youtu.be/ZTZXFGsdYZM https://youtu.be/Hz7BfmqiDUg 事後学修：次回の小テスト準備。出題の形式は授業内で伝える。	久保原
3	②	発音練習の仕上げにボサノバの名曲「イパネマの娘」を歌えるようにする。数字の学修。 事前学修：以下の動画の視聴 https://youtu.be/vR5o9DOm4t8 https://youtu.be/8O4pauuGLUw https://youtu.be/-NIsMbFxm2s https://youtu.be/yeOGORyXOcg https://youtu.be/NSaOgkOtvs4 事後学修：次回の小テスト準備。出題の形式は授業内で伝える。	久保原
4	①	ポルトガル語のbe動詞に当たるser動詞の活用と名前、出身地、国籍、職業、既婚・未婚の別などの聞き方と答え方を学修する。 事前学修：以下の動画の視聴 https://youtu.be/83r1a--jN6w https://youtu.be/f5GDwUJ6L4c https://youtu.be/WlleiJosJx8 https://youtu.be/9aUmR8Yd9jM https://youtu.be/5iXzdbX-JAo 事後学修：次回の小テスト準備。出題の形式は授業内で伝える。	久保原

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
5	②	ser動詞を使ったあいさつ、自己紹介のダイアローグを暗唱、発表。 事前学修：以下の動画の視聴 https://youtu.be/jNvwriJV8AA https://youtu.be/xQcVO5h5Hh8 事後学修：次回の小テスト準備。出題の形式は授業内で伝える。	久保原
6	③	ビデオ学習：ブラジルに日本人が移民した歴史経緯を概観し、ブラジルの多民族社会や今日の「出稼ぎ」ブラジル人問題につながる背景について考える。 事前・事後学修はその都度指示する。	久保原
7	①	所有詞①：「私の」「あなたの」「私たちの」の使い方を学修する。 事前学修：以下の動画の視聴 https://youtu.be/cjZ_crVbaSM 事後学修：次回の小テスト準備。出題の形式は授業内で伝える。	久保原
8	①	所有詞②：「彼の」「彼らの」の使い方を学ぶ。 事前学修：以下の動画の視聴 https://youtu.be/HbSt90KDaJo 事後学修：次回の小テスト準備。出題の形式は授業内で伝える。	久保原
9	①	ポルトガル語のbe動詞に当たるestar動詞の活用と用法を学修する。 事前学修：以下の動画の視聴 https://youtu.be/D6Hpdstfdq8 事後学修：次回の小テスト準備。出題の形式は授業内で伝える。	久保原
１０	①	estar動詞を使った体調、感情の表現を学修する。 事前学修：以下の動画の視聴 https://youtu.be/HwdfTeF9VDk 事後学修：次回の小テスト準備。出題の形式は授業内で伝える。	久保原
１１	①	ビデオ学習：日本におけるブラジル人たちの生活を学び、世代別に直面する様々な問題について考える。 事前・事後学修はその都度指示する。	久保原
１２	①	規則動詞の活用と用法を学修する。 事前学修：以下の動画の視聴 https://youtu.be/92VVJGFzDio 事後学修：次回の小テスト準備。出題の形式は授業内で伝える。	久保原
１３	①	前置詞と疑問詞の用法を学修する。 事前学修：以下の動画の視聴 https://youtu.be/hX9CrNdFWDc https://youtu.be/M6KWxKFKxig https://youtu.be/iUC8_GvW2U8 事後学修：次回の小テスト準備。出題の形式は授業内で伝える。	久保原
１４	②	医療現場での通訳アシスタントを想定した会話の暗唱と発表。 事前学修：以下の動画の視聴 事後学修：次回の定期試験準備。	久保原
試験	①	定期試験	久保原
事前・事後学修		事前学修：講義の前に前回までの内容を確認。 事後学修：講義最後に次回の学修内容を指示する。	
評　価　方　法		小テスト40%、定期試験60%、計100%	
課題に対するフィードバック		レポート等はコメント等を付して返却する。	
教　　科　　書		『ブラジル人による生きたブラジルポルトガル語・初級』同学社	
参　　考　　書		無	
履修上の注意点及び取扱い		１．事前学修は授業の補助教材として久保原が制作・公開している動画を視聴し、予習とする。 ２．前回の授業内容を確認する小テストを授業の最初に行うので、事後学修をしっかり行うこと。	

科　目　名	医療英語		
科目コード	31207	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B312073
授業形態	講義	開講時期	3年前期
必修・選択	選択		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	小澤　淑子		
実務経験	無		
オフィスアワー	講義開始前10分間（教室）、講義終了後10分間（講師控室） メールでの質問も受け付ける（連絡用メールアドレス: yoshikozawa2004@yahoo.co.jp）発信タイトルに「研伸」と「学生氏名」を明記し、回答は返信で受け取れるようにしておくこと。		
科目概要	診療録、医学・看護の関連文献、ケア場面に用いられる英語の語彙力や表現（述語の構造・用法）を学び、医療チームや患者との英語コミュニケーション能力の基礎を培う。呼吸器系、循環器系、消化器系、神経・感覚器系、腎・泌尿器系の解剖と生理学に関連する用語、徴候や症状、検査、診断で用いられる用語と用法を中心に学修する。また、精神医学・精神看護学や小児医学・小児看護学に関連する用語についても学修する。 「別表３：人間と生活・社会の理解」		
到達目標	①学生は解剖・生理学、疾患についての英文の内容が理解できる。そのために準備された質問の答えを英文から読み取り、自分の答えを書くことができる。 ②学生は、解剖・生理学、疾患について読み取った内容を説明することができる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①②	学生はThe Digestive Systemに関する英文理解を深めるため、グループディスカッションで設問の答えの根拠を英文中に見い出し、その内容を発表することができる。 事前学修：p. 23のMedical Terminologyの意味を習得し、Reading Comprehensionの質問の意味を考えてまとめておく。 事後学修：pp. 25、26のFigureとExerciseの解答をしながら学修内容を振り返る。	小澤
2	①②	学生はThe Circulatory Systemに関する英文理解を深めるため、グループディスカッションで設問の答えの根拠を英文中に見い出し、その内容を発表することができる。 事前学修：p. 39のMedical Terminologyの意味を習得し、Reading Comprehensionの質問の意味を考えてまとめておく。 事後学修：pp. 41、42のFigureとExerciseの解答をしながら学修内容を振り返る。	小澤
3	①②	学生はThe Respiratory Systemに関する英文理解を深めるため、グループディスカッションで設問の答えの根拠を英文中に見い出し、その内容を発表することができる。 事前学修：p. 47、48のMedical Terminologyの意味を習得し、Reading Comprehensionの質問の意味を考えてまとめておく。 事後学修：pp. 49、50のFigureとExerciseの解答をしながら学修内容を振り返る。	小澤
4	①②	学生はThe Central Nervous Systemに関する英文理解を深めるため、グループディスカッションで設問の答えの根拠を英文中に見い出し、その内容を発表することができる。 事前学修：p. 63のMedical Terminologyの意味が分かるようにし、Reading Comprehensionの質問の意味を考えてまとめておく。 事後学修：pp. 65-67のFigureとExerciseの解答をしながら学修内容を振り返る。	小澤

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
5	①②	学生はThe Peripheral Nervous Systemに関する英文理解を深めるため、グループディスカッションで設問の答えの根拠を英文中に見い出し、その内容を発表することができる。 事前学修：p. 73、74のMedical Terminologyの意味を」習得し、Reading Comprehensionの質問の意味を考えてまとめておく。 事後学修：pp. 75、76のFigureとExerciseの解答をしながら学修内容を振り返る。	小澤
6	①②	学生はThe Endocrine Systemに関する英文理解を深めるため、グループディスカッションで設問の答えの根拠を英文中に見い出し、その内容を発表することができる。 事前学修：p. 99、100のMedical Terminologyの意味を習得し、Reading Comprehensionの質問の意味を考えてまとめておく。 事後学修：pp. 101-103のFigureとExerciseの解答をしながら学修内容を振り返る。	小澤
7	①②	学生はThe Immune Systemに関する英文理解を深めるため、グループディスカッションで設問の答えの根拠を英文中に見い出し、その内容を発表することができる。 事前学修：p. 117、118のMedical Terminologyの意味を習得し、Reading Comprehensionの質問の意味を考えてまとめておく。 事後学修：pp. 119、120のFigureとExerciseの解答をしながら学修内容を振り返る。	小澤
試験	①②	定期試験	小澤
事前・事後学修		事前学修：内容理解ができるように学修予定範囲の専門用語を習得し、英文に関する設問の意味とその答えを事前に考えておく。各回120分 事後学修：学修内容に関するfigureとexerciseを解答し、わからない点を明確にする。各回120分	
評　価　方　法		事前学修提出物12%、事後学修提出物12%、小テスト30%、定期試験46%	
課題に対するフィードバック		レポート等はコメント等を付して返却する。	
教　　科　　書		医療従事者のためのベーシックイングリッシュ、小澤淑子編著、平井聡子、服部しのぶ　他著、オーム社、2020	
参　　考　　書		必要に応じて紹介する。	
履修上の注意点及び取扱い		１．課題提出は指定時刻までに指定の場所に提出してください。英和辞書（電子辞書も可、携帯電話・スマホの辞書機能は禁止）は必携です。 ２．授業中には授業に不要な物は出さないでください。	

科　目　名	コミュニケーション論（2年）		
科目コード	31208	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B312082
授業形態	講義	開講時期	2年前期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	石井　成郎		
実務経験	無		
オフィスアワー	授業終了後10分間（事前にアポイントメントを取ってください） 内線4323、n.ishii.t@ikc.ac.jp		
科目概要	情報の伝達や他者との意思疎通に必要なコミュニケーションとは何か、コミュニケーションの意味や方法、非言語的（身体的）コミュニケーションから言語的コミュニケーションなどの様々なレベルでのより良いコミュニケーションのあり方について学修する。様々な場面におけるコミュニケーションをロールプレイし、自分のみならず、他者とのコミュニケーションを振り返り、そこにある様々な力関係や規範の問題、より良いコミュニケーションについて考察する。 「別表３：人間と生活・社会の理解」		
到達目標	①対人認知に関する心理学的理論を説明することができる。 ②集団行動に関する心理学的理論を説明することができる。 ③より良いコミュニケーションをとるための方法を説明することができる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①③	コミュニケーションに関する心理学的理論①：対人認知(1)（グループワーク）	石井
2	②③	コミュニケーションに関する心理学的理論②：集団行動(1)（グループワーク）	石井
3	①③	コミュニケーションに関する心理学的理論③：対人認知(2)（グループワーク）	石井
4	②③	コミュニケーションに関する心理学的理論④：集団行動(2)（グループワーク）	石井
5	①③	コミュニケーションに関する心理学的理論⑤：対人認知(3)（グループワーク）	石井
6	①②③	心理学的理論を活用したコミュニケーション演習①（グループワーク）	石井
7	①②③	心理学的理論を活用したコミュニケーション演習②（グループワーク）	石井
レポート	①②③	レポート	石井

事前・事後学修	事前学修：授業前にワークシート（学修目標）を記入する（各回1時間）。 事後学修：授業後にワークシート（学修成果）を記入する（各回3時間）。
評価方法	ワークシート：70%、レポート：30%
課題に対するフィードバック	ワークシート、レポートはコメント等を付して返却する。
教科書	必要に応じてプリント等を配布する。
参考書	必要に応じてプリント等を配布する。
履修上の注意点及び取扱い	グループワークに積極的に参加すること。

科　目　名	コミュニケーション論（1年）		
科目コード	31208	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B312082
授業形態	講義	開講時期	1年前期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	石井　成郎		
実務経験	無		
オフィスアワー	授業終了後10分間（事前にアポイントメントを取ってください） 内線4323、n.ishii.t@ikc.ac.jp		
科目概要	情報の伝達や他者との意思疎通に必要なコミュニケーションとは何か、コミュニケーションの意味や方法、非言語的（身体的）コミュニケーションから言語的コミュニケーションなどの様々なレベルでのより良いコミュニケーションのあり方について学修する。様々な場面におけるコミュニケーションをロールプレイし、自分のみならず、他者とのコミュニケーションを振り返り、そこにある様々な力関係や規範の問題、より良いコミュニケーションについて考察する。 「別表３：人間と生活・社会の理解」		
到達目標	①対人認知に関する心理学的理論を説明することができる。 ②集団行動に関する心理学的理論を説明することができる。 ③より良いコミュニケーションをとるための方法を説明することができる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①③	コミュニケーションに関する心理学的理論①：対人認知(1)（グループワーク）	石井
2	②③	コミュニケーションに関する心理学的理論②：集団行動(1)（グループワーク）	石井
3	①③	コミュニケーションに関する心理学的理論③：対人認知(2)（グループワーク）	石井
4	②③	コミュニケーションに関する心理学的理論④：集団行動(2)（グループワーク）	石井
5	①③	コミュニケーションに関する心理学的理論⑤：対人認知(3)（グループワーク）	石井
6	①②③	心理学的理論を活用したコミュニケーション演習①（グループワーク）	石井
7	①②③	心理学的理論を活用したコミュニケーション演習②（グループワーク）	石井
レポート	①②③	レポート	石井

事前・事後学修	事前学修：授業前にワークシート（学修目標）を記入する（各回1時間）。 事後学修：授業後にワークシート（学修成果）を記入する（各回3時間）。
評価方法	ワークシート：70%、レポート：30%
課題に対するフィードバック	ワークシート、レポートはコメント等を付して返却する。
教科書	必要に応じてプリント等を配布する。
参考書	必要に応じてプリント等を配布する。
履修上の注意点及び取扱い	グループワークに積極的に参加すること。

科　目　名	化学		
科目コード	31301	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B313011
授業形態	講義	開講時期	1年前期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	杉浦　信夫		
実務経験	主席研究員として製薬会社勤務		
オフィスアワー	対面：毎回の講義終了後 10分程度（講師控室） メール：随時 （アドレス： nobuo.sugiura@gmail.com）		
科目概要	化学は，物質の構造・特性・変化などを扱う基本的な学問であり、人の営みに密接に関与している。今後学修する生化学・生理学・栄養学・薬理学などの分野を理解するため、さらに看護の実務において、化学の知識は必須であり，修得していなければならない。 そのために、化学で用いられる専門用語、化学の基礎的な法則を学修する。化学の基本知識として、元素記号、物質の量と単位、物質の三態、気体・液体の性質、化学反応、化学平衡、原子と化学結合、無機・有機化学などについて理解する。		
到達目標	①　化学の知識と用語で表現される生化学・生理学・栄養学・薬理学などの分野を理解するために、化学で用いられる専門用語と、化学の基礎的な法則を修得する。 ②　生体反応や医薬品等の取扱いなどを理解するために、化学の単位、物質の状態、物質の変化などの基礎概念、および化学的な計算方法を修得する。 ③　生体の機能や医薬品等の性質を理解するために、化学反応や化学平衡の概念、および無機・有機化学の基本概念を修得する。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健 ・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①②	化学の基礎　看護と化学　単位と周期表　（第１、2章） 事前学修：教科書第１章（p4-18）と第２章（p20-30）および該当する講義資料の予習 事後学修：教科書と講義資料の復習、章末問題（p18、 p30）実施	杉浦
2	①②	物質の状態１　物質の三態　気体の性質　（第3、4章） 事前学修：教科書第３章（p34-42）と第４章（p44-53）および該当する講義資料の予習 事後学修：教科書と講義資料の復習、章末問題（p42、p53）実施	杉浦
3	①②	物質の状態２　液体・溶液の濃度と性質　（第５章） 事前学修：教科書第５章（p56-71）および該当する講義資料の予習 事後学修：教科書と講義資料の復習、章末問題（p71）実施	杉浦
4	①②③	物質の変化１　化学反応　熱化学反応　酸化還元　（第6章） 事前学修：教科書第６章（p76-90）および該当する講義資料の予習 事後学修：教科書と授講義資料の復習、章末問題（p90）実施	杉浦
5	①②③	物質の変化２　反応速度　化学平衡　酸塩基　（第7，8章） 事前学修：教科書第７章（p92-98）と第８章（p100-118）および該当する講義資料の予習 事後学修：教科書と講義資料の復習，章末問題（p98、 p118）実施	杉浦
6	①③	物質の構成１　原子の構造　化学結合　無機化学　（第9、10章） 事前学修：教科書第９章（p122-146）と第１０章（p148-170）および該当する講義資料の予習 事後学修：教科書と講義資料の復習，章末問題（p146、 p170）実施	杉浦

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
7	①③	物質の構成２　有機化学　高分子化学　（第11、12章） 事前学修：教科書第１１章（p172-204）と第１２章（p206-226）および該当する講義資料の予習 事後学修：教科書と講義資料の復習，章末問題（p204、 p226）実施	杉浦
試験	①②③	定期試験	杉浦
事前・事後学修		事前学修：教科書の指定ページおよび該当する講義資料を精読し、内容を理解しておく。各回120分 事後学修：講義内容を資料や教科書などを使い整理し、小テストの見直しと、章末問題を解く。各回120分	
評　価　方　法		定期試験（70%）と、小テスト・小レポート（30%）の成績で評価する。成績が規定値に達しない者には、再試験を行う。	
課題に対するフィードバック		講義内容の理解を深めるために、毎回の講義中に小テストまたは小レポートを実施し、次回の講義でそれらの解説と評価を行う。さらに毎回の講義内容をまとめた資料をポータルシステムにアップするので、各自ダウンロードして学修の助けにすること。	
教　科　書		奈良　雅之　著　「系統看護学講座　基礎分野　化学」　医学書院	
参　考　書		無	
履修上の注意点及び取扱い		第１学年の前期に，本授業が必修科目として組まれているのは、「化学」の知識が今後の学修と卒後の職務に必須であると理解すること。 学修内容が多く、かつ履修期間が短いので、事前・事後学修の指示に従い、予習・復習は必ず行うこと。 毎回の講義ごとに課す小テストあるいは小レポートは確実に提出すること。	

科　目　名	生物と環境		
科目コード	31302	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B313021
授業形態	講義	開講時期	1年前期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	無		
教員名	伊東　裕康		
実務経験	無		
オフィスアワー	金曜日16：30～17：00 （内線：1204　e-mail：h.ito.t@ikc.ac.jp）		
科目概要	本科目では、細胞の構造、遺伝子の発現や複製、代謝などの生物学の基礎知識を理解する。また、生物の進化と多様性を持った個体が生まれる仕組みを理解する。そのうえで、生物が持つ多様性や生命現象の特徴、生物の発達、生命維持の仕組みについて学修し、感染症やがんなどの病気とその治療法についての理解の一助とする。 「別表３：科学的思考の基盤」		
到達目標	①高校で履修した生物学の基礎を身につける。 ②遺伝子の発現について理解する。 ③代謝について理解する。 ④生物の進化と多様性について理解する。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①	自然科学：科学とは何か、種と分類 事前学修：高校の生物基礎を復習しておくこと 事後学修：その都度指示する	伊東
2	①②	細胞を構成する分子：水、タンパク質、脂質、核酸など 事前学修：テキストの1章を読んでおくこと 事後学修：その都度指示する	伊東
3	①②	細胞の構造：細胞小器官、細胞骨格 事前学修：テキストの2章を読んでおくこと 事後学修：その都度指示する	伊東
4	①②	遺伝：遺伝情報の伝達、転写と翻訳 事前学修：テキストの2章を読んでおくこと 事後学修：その都度指示する	伊東
5	②③	遺伝子の発現：遺伝と環境、DNAやタンパク質の化学修飾 事前学修：テキストの3章を読んでおくこと 事後学修：その都度指示する	伊東
6	②③	発生：細胞分化、器官形成 事前学修：テキストの4章を読んでおくこと 事後学修：その都度指示する	伊東
7	②③	老化と再生医療：テロメア、ES細胞、iPS細胞 事前学修：テキストの4章を読んでおくこと 事後学修：その都度指示する	伊東
8	②③	がん：細胞周期、アポトーシス 事前学修：テキストの6章を読んでおくこと 事後学修：その都度指示する	伊東
9	②③	がんの治療：放射線治療、化学療法、分子標的療法、免疫療法 事前学修：テキストの6章を読んでおくこと 事後学修：その都度指示する	伊東
１０	③	代謝：消化、腸内細菌、酵素の働き 事前学修：テキストの7章を読んでおくこと 事後学修：その都度指示する	伊東

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
１１	③	感染症：細菌、真菌、ウイルス 事前学修：テキストの8章を読んでおくこと 事後学修：その都度指示する	伊東
１２	③	免疫：免疫担当細胞、抗体、免疫記憶、アレルギー 事前学修：テキストの8章を読んでおくこと 事前・事後学修：その都度指示する	伊東
１３	④	環境と適応：進化と適応、中立進化、個体群 事前学修：テキストの9章を読んでおくこと 事後学修：その都度指示する	伊東
１４	④	ヒトの進化と協力について：看護と進化 事前学修：テキストの9章を読んでおくこと 事後学修：その都度指示する	伊東
試験	①②③④	定期試験	伊東
事前・事後学修		事前学修：講義の前に前回までの内容を確認。各回120分 事後学修：講義最後に次回の学修内容を指示する。各回120分	
評　価　方　法		定期試験100％	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却するか、次回講義時に解説する。	
教　　科　　書		「現代生命科学 第3版」編：東京大学生命科学教科書編集委員会 出版社：羊土社　出版年：2020	
参　　考　　書		講義の中で随時紹介する。	
履修上の注意点及び取扱い		復習を必ずすること。 私語や音の出る機器で、他の受講者の視聴を妨げてはならない。	

科　目　名	情報科学		
科目コード	31303	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B313031
授業形態	講義	開講時期	1年前期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	無		
教員名	石井　成郎・伊東　裕康・肥田　武		
実務経験	無		
オフィスアワー	石井：授業終了後10分間　（事前にアポイントメントを取ってください。内線4323、n.ishii.t@ikc.ac.jp） 伊東：授業終了後10分間（事前にアポイントメントを取ってください。内線1204、h.ito.t@ikc.ac.jp） 肥田：授業終了後10分間（事前にアポイントメントを取ってください。内線1205、t.hida.t@ikc.ac.jp）		
科目概要	情報とは何かを理解し、社会においてどのように情報を活用すると良いかを考えるために、情報及び情報通信技術（ICT）の役割や影響、今日の情報管理及び倫理の課題について理解する。ICTをより良く活用するために必要な情報リテラシー全般に渡る知識・技能を学び、科学的な根拠（エビデンス）を示す方法として必要な情報を識別し活用するために、インターネットによる情報収集・分析の方法、情報の整理、さらに分析した情報をより良く他者に説明するためのプレゼンテーション技術について学習する。 「別表３：科学的思考の基盤」		
到達目標	①医療従事者として必要な情報リテラシーについて説明することができる。 ②インターネットを活用して必要な情報を収集することができる。 ③パソコンを活用してプレゼンテーションに必要な書類を作成することができる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	②③	コンピュータの基本操作	石井・伊東・肥田
2	②③	Wordを使った文書作成(1)：基本操作の確認	石井・伊東・肥田
3	②③	Wordを使った文書作成(2)：演習課題	石井・伊東・肥田
4	②③	PowerPointを使った資料作成(1)：基本操作の確認	石井・伊東・肥田
5	②③	PowerPointを使った資料作成(2)：演習課題	石井
6	②③	Excelを使ったデータ処理(1)：基本操作の確認	石井・伊東・肥田
7	②③	Excelを使ったデータ処理(2)：演習課題	石井・伊東・肥田
8	①②③	応用課題(1)：Googleフォームを使ったアンケートの作成	石井・伊東・肥田
9	①②③	応用課題(2)：Googleフォームを使ったアンケートの実施・集計	石井・伊東・肥田
１０	①②③	応用課題(3)：Excelを使った表・グラフの作成	石井・伊東・肥田
１１	①②③	応用課題(4)：PowerPointを使った発表資料作成	石井・伊東・肥田
１２	①②③	応用課題(5)：PowerPointを使ったプレゼンテーション	石井・伊東・肥田

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
１３	①②③	Wordを使った小レポート作成（アンケート調査のまとめ）	石井・伊東・肥田
１４	①②③	Wordを使った小レポート作成（医療従事者としての情報モラル）	石井・伊東・肥田
事前・事後学修		事前学修：授業前に資料を読む（各回2時間）。 事後学修：授業後にワークシート（学修成果）を記入する（各回2時間）。	
評　価　方　法		ワークシート：20%、演習課題：30%、応用課題：30%、小レポート：20%	
課題に対するフィードバック		課題、ワークシート、小レポートはコメント等を付して返却する。	
教　　科　　書		必要に応じてプリント等を配布する。	
参　　考　　書		必要に応じてプリント等を配布する。	
履修上の注意点及び取扱い		毎回USBメモリを持ってくること（詳しくは初回の授業で説明します）。 事後学修のワークシートの記入方法は授業で説明する。	

科　目　名	統計学		
科目コード	31304	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B313042
授業形態	講義	開講時期	2年後期
必修・選択	選択		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	石井　成郎・伊東　裕康		
実務経験	無		
オフィスアワー	石井：授業終了後10分間（事前にアポイントメントを取ってください。内線4323、n.ishii.t@ikc.ac.jp） 伊東：授業終了後10分間（事前にアポイントメントを取ってください。内線1204、h.ito.t@ikc.ac.jp）		
科目概要	データを数理科学的に捉えるための数学の基礎や統計学の基本的な考え方（分布、平均、標準偏差、中央値、分散、サンプルと母集団など）、統計処理を行う目的や意義、その限界を理解する。そのうえで、データの種類や研究目的に適した検定方法（二項検定、相関検定、t検定）の選択、統計処理ツールを使用した検定、検定結果の適切な解釈や表現など、適切な統計処理の基本を学習する。さらに社会におけるデータサイエンスの現状やその留意事項についても理解を深める。 「別表３：科学的思考の基盤」		
到達目標	①統計学の基本的な用語や考え方を説明することができる。 ②データの種類や研究目的に適した検定方法を選択することができる。 ③ツールを使って各検定を行うことができる。 ④検定結果を適切に解釈することができる。 ⑤データサイエンスの現状やその留意事項を説明することができる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①	平均と分散・小テスト	石井・伊東
2	①	記述統計・演習課題	石井・伊東
3	②③④	二項検定・演習課題	石井・伊東
4	②③④	相関検定・演習課題	石井・伊東
5	②③④	t検定・演習課題	石井・伊東
6	⑤	データサイエンスの現状・小テスト	石井・伊東
7	⑤	データサイエンスに関する留意事項・小テスト	石井・伊東

事前・事後学修	事前学修：授業前に資料を読む（各回2時間）。 事後学修：返却された演習課題・小テストの見直しを行う（各回2時間）。
評価方法	演習課題：60%、小テスト：40%
課題に対するフィードバック	演習課題、小テストはコメント等を付して返却する。
教科書	必要に応じてプリント等を配布する。
参考書	必要に応じてプリント等を配布する。
履修上の注意点及び取扱い	演習課題にはパソコンを使用するため、使い方に不安のある者は事前に復習しておくこと。

科目名	微生物学		
科目コード	31305	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B313051
授業形態	講義	開講時期	1年後期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	伊東　裕康・林　将大		
実務経験	無		
オフィスアワー	伊東：金曜日16：30～17：00 （内線：1204　e-mail：h.ito.t@ikc.ac.jp） 林：講義前10分間～講義後20分間(講師控室)		
科目概要	微生物学の基本について理解するために、微生物とは何か、微生物の基本的な構造と機能、微生物の分類とその特色について、概要を説明する。看護に必要な知識として、人に対して病原性を持つ微生物の種類や特徴について、主な病原体を例に解説する。また、臨床上問題となっている微生物の薬剤耐性の獲得についても説明する。 「別表３：科学的思考の基盤」		
到達目標	①真核生物と真正細菌、ウイルス、プリオンの性状を説明できる。 ②人に対する病原性微生物と主要な感染症について説明できる。 ③病原体の薬剤耐性機構について理解する。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①	微生物の構造：真正細菌、古細菌 事前学修：第5章①～③を読んでおくこと 事後学修：講義内容について復習しておくこと	伊東
2	①	微生物の構造：ウイルス、プリオン 事前学修：第6章①～③を読んでおくこと 事後学修：講義内容について復習しておくこと	伊東
3	①	微生物の構造：真核生物 事前学修：第7章①～③、第8章①を読んでおくこと 事後学修：講義内容について復習しておくこと	伊東
4	②	人に対する病原微生物：病原性とは、病原性細菌、日和見細菌 事後学修：講義内容について復習しておくこと	林
5	②	人に対する病原微生物：ウイルスの病原性、ウイルス感染症 事後学修：講義内容について復習しておくこと	林
6	②	人に対する病原微生物：病原性真菌、病原性原虫による感染症 事後学修：講義内容について復習しておくこと	林
7	③	人に対する病原微生物：遺伝情報の水平伝播、臨床上問題となっている薬剤耐性 事後学修：講義内容について復習しておくこと	林
試験	①②③	定期試験	伊東・林

事前・事後学修	事前学修：講義の前に前回までの内容を確認。各回120分 事後学修：講義最後に次回の学修内容を指示する。各回120分
評価方法	定期試験100%（伊東50%　林50%）
課題に対するフィードバック	課題レポート等はコメント等を付して返却するか、次回講義時に解説する。
教科書	「わかる！身につく！ 病原体・感染・免疫　第3版」著：藤本秀士　目野郁　小島夫美子 南山堂　出版年：2017年
参考書	必要に応じて適宜紹介する。

履修上の注意点 及び取扱い	学修内容が多いので復習を必ずすること。 私語や音のでる機器の他者の講義の視聴を妨害してはならない。

科　目　名	加齢の科学		
科目コード	31306	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B313061
授業形態	講義	開講時期	1年後期
必修・選択	選択		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	黒柳　淳		
実務経験	無		
オフィスアワー	講義後15分間（講師控室）		
科目概要	体格や運動能力などの発達と加齢とはどのようなことかを解説し、身体能力の発達と加齢変化との関連、形態の発育と加齢変化、身体機能の発達と加齢変化、運動能力の発達と加齢変化、さらに、これらの変化と体力・運動能力テストとの関連について解説する。また、からだの発達と加齢に関するトピックスとして、子どもの肥満と身体活動、高齢者の筋量・骨量低下等の発育・加齢に伴って起こる健康上の課題を取り上げて健康寿命と食生活、運動生活、睡眠などの生活習慣のあり方について考察する。 「別表３：科学的思考の基盤」		
到達目標	①身体能力、身体機能の発達、と形態の発育についての加齢変化が説明できる。 ②子どもの肥満と身体活動について説明ができる。 ③高齢者の健康維持と体力について説明ができる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健 ・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①	身体発達と加齢変化:発育曲線、身体の加齢変化 各回の授業内容に関する予習、復習のDVDを視聴するので、それに対するレポートをA5用紙1枚にまとめ提出する。詳細は授業中に示す。	黒柳
2	①	身体発達と加齢変化:影響する諸因子（遺伝的要因、環境的要因、複合的要因） 各回の授業内容に関する予習、復習のDVDを視聴するので、それに対するレポートをA5用紙1枚にまとめ提出する。	黒柳
3	①	形態発達と加齢変化：身体各部の発達と加齢変化、体形･姿勢の加齢変化、身体組成の加齢変化 各回の授業内容に関する予習、復習のDVDを視聴するので、それに対するレポートをA5用紙1枚にまとめ提出する。	黒柳
4	①	授業の振り返り 機能の発達と加齢変化:骨格筋の発達と加齢変化、神経系と呼吸器･循環器系の加齢変化 各回の授業内容に関する予習、復習のDVDを視聴するので、それに対するレポートをA5用紙1枚にまとめ提出する。	黒柳
5	①③	高齢者の体力：体力の構成と検査法、体力の加齢変化、体力の特徴と個人差、健康寿命と食生活 各回の授業内容に関する予習、復習のDVDを視聴するので、それに対するレポートをA5用紙1枚にまとめ提出する。	黒柳
6	②	子どもの肥満、身体活動:子どもの肥満の問題点と食習慣、運動不足 各回の授業内容に関する予習、復習のDVDを視聴するので、それに対するレポートをA5用紙1枚にまとめ提出する。	黒柳
7	①	身体能力、身体機能の発達：T-score 各自の体格・体力を確認し、考察しておく。また、T-score計算後、レポートをA4用紙1枚にまとめ提出する。	黒柳
試験	①②③	定期試験	黒柳
事前・事後学修		事前学修：講義の前に前回までの内容を確認。各回120分 事後学修：講義最後に次回の学修内容を指示する。各回120分	

評　価　方　法	定期試験90%、講義レポート10%
課題に対する フィードバック	視聴レポートは内容を確認して返却する。質問に答える。
教　　科　　書	適宜資料配布
参　　考　　書	適宜資料配布
履修上の注意点 及び取扱い	日頃から周りの子ども、高齢者の活動、運動に関心を持つこと。

科　目　名	性と生殖の科学		
科目コード	31307	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B313072
授業形態	講義	開講時期	2年前期
必修・選択	選択		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	助産師課程必修科目		
教員名	小島　徳子・野々山　英里・中北　武男		
実務経験	助産師として病院勤務（小島・野々山） 専門医・指導医、母体保護法指定医として病院勤務（中北）		
オフィスアワー	講義時間の前後		
科目概要	生命の誕生以来、途切れることなく続いてきたヒトの生殖細胞系列の形成メカニズム、性決定／分化／転換、「性」と「生殖」の発達と特徴を理解する。また、生殖補助医療に関わる医学的、倫理的な課題、今日増加している性感染症の問題など、さまざまなライフサイクルおよび健康レベルにある人々の一生を通じた性と生殖に関する健康問題について学修し、性と生殖の発達における健康問題について、問題解決のための援助方法を看護の視点で考える。 「別表３：科学的思考の基盤」 「別表２：基礎助産学」		
到達目標	①ヒトの生殖細胞系列の形成メカニズム、性決定／分化／転換、「性」と「生殖」の発達と特徴を理解する。 ②生殖補助医療（体外受精や卵管内移植など）に関わる医学的、倫理的な課題を理解する。 ③さまざまなライフサイクルおよび健康レベルにある人々の一生を通じた性と生殖に関する健康問題を理解する。 ④性と生殖の発達における健康問題について、看護の役割を理解し、問題解決のための支援を考える。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①	人間の性と生殖の概念、生殖器の形態と機能、生殖機能 事前学修「母性看護学概論」p100-127、事後学修　配布資料参照	中北
2	①	ヒトの生殖細胞系列の形成メカニズム、性決定／分化／転換 事前学修「母性看護学概論」p100-127、事後学修　配布資料参照	中北
3	②③	セクシュアリティ、リプロダクティブヘルス／ライツ 事前学修「母性看護学概論」p22-31、事後学修　配布資料参照	野々山
4	②③④	人工妊娠中絶と避妊（家族計画） 事前学修「母性看護学概論」p252-258、p283-298、事後学修　配布資料参照	野々山
5	②③④	不妊と生殖補助医療の実際 事前学修「母性看護学各論」p30-60、事後学修　配布資料参照	小島
6	②③④	性感染症とその予防 事前学修「母性看護学概論」p259-283、事後学修　配布資料参照	小島
7	②③④	性暴力（DV・デートDV・性の商品化） 事前学修「母性看護学概論」p299-308、事後学修　配布資料参照	小島
試験	①②③④	定期試験	小島、野々山

事前・事後学修	事前学修：講義の前に前回までの内容を確認。各回120分 事後学修：講義最後に次回の学修内容を指示する。各回120分
評価方法	定期試験：中北20%、小島50%、野々山30%
課題に対するフィードバック	提出されたレポートはコメントを付して返却する。
教科書	森恵美編：「系統看護学講座専門分野　母性看護学概論」（第14版）、医学書院 森恵美編：「系統看護学講座専門分野　母性看護学各論」（第14版）、医学書院

参　考　書	益田早苗著：「ヒューマン・セクシュアリティ論ノート」、大空社 関口久志著：新版「性の“幸せ”ガイド」若者たちのリアルストーリー、エイデル研究所 橋本紀子、田代美江子、関口久志編：「ハタチまでに知っておきたい性のこと」　大月書店
履修上の注意点及び取扱い	各自、各テーマに関して考え、意見を言えるようにしておくこと。

科　目　名	教養ゼミナール		
科目コード	32101	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B321011
授業形態	演習	開講時期	1年通年
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	30時間
先修条件	無		
教員名	肥田　武・安藤　詳子・石井　成郎・大谷　恵・榊原　久孝・鈴江　智恵・野村　千文・藤本　悦子・小倉　久美子・小島　德子・小平　由美子・増永　悦子・伊東　裕康・岩井　美世子・大瀬　恵子・小澤　直樹・河村　江里子・後藤　美恵・佐久間　美里・佐々木　久美子・滝沢　美世志・村岡　大志・小野寺　美佳・川井　伸恵・髙島　孝晃・野々山　英里・平野　友美・横井　優子		
実務経験	産業医として勤務（榊原） 助産師として病院勤務(小島・大瀬・野々山・平野) 看護師として病院勤務(安藤・大谷・鈴江・野村・小倉・小平・増永・岩井・小澤・河村・後藤・佐久間・佐々木・滝沢・村岡・小野寺・川井・高島・横井)		
オフィスアワー	授業日・授業終了後から17時まで・担当教員メールアドレス宛てに連絡		
科目概要	本科目では、プロジェクト活動を通して、大学生に求められる主体的な学びの基盤となる知識・技能・態度を修得する。プロジェクト活動では、今年度は大学の立地する一宮市を"地元"と捉え、"地元"固有の課題を把握・検討し、その課題の改善策を計画・提案する。 前半はプロジェクト活動を効果的に進めるために必要な基礎を一斉講義で学び、"地元"の課題に関する調査を行う。後半は議論と提案資料作成を少人数のゼミナールで協働実施する。 作成された資料は学年全員でオンライン共有し、印象に残った提案に対する意見と協働活動をとおして学んだことを各自で簡易レポートにまとめる。 「別表３：科学的思考の基盤」		
到達目標	①"地元"の課題を識別し分かりやすく説明できる（知識）。 ②課題の分析に基づき改善策を計画・立案できる（知識）。 ③少人数での協働を計画的に首尾よく実施できる（技能）。 ④自発的言動と協働の重要性を認めようとする（態度）。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	○
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①②③④	地域に根ざしたプロジェクト活動について（図書館の使い方を含む）	肥田・野村
2	③④	グループでの協働について（図書館の使い方を含む）	大谷・肥田・野村
3	①	一宮市のまちづくりについて	肥田・野村
4	①	一宮市の健康・福祉について	肥田・野村
5	①	一宮市の子育て・教育について	肥田・野村
6	①	一宮市の防災について	肥田・野村
7	①	"地元"の課題の調査1	肥田・野村・大谷
8	①	"地元"の課題の調査2	肥田・野村・大谷
9	②③④	課題の検討と改善策の立案1	各教員
10	②③④	課題の検討と改善策の立案2	各教員
11	③④	提案資料の作成1	各教員

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
12	③④	提案資料の作成2	各教員
13	①②④	簡易レポートの作成	各教員
14	①②④	簡易レポートへのフィードバックと推敲	各教員
事前・事後学修		事前学修：グループを担当する教員が指示する。各回120分 事後学修：グループを担当する教員が指示する。各回120分	
評　価　方　法		コメントカード25%、提案資料25%、少人数協働への貢献25%、簡易レポート25% 詳細はグループを担当する教員が指定する。	
課題に対するフィードバック		簡易レポート等に対しては適宜コメントを付す。	
教　　科　　書		必要に応じて、担当する教員が提示する。	
参　　考　　書		佐藤望他：「アカデミック・スキルズ　第3版――大学生のための知的技法入門」、慶応義塾大学出版会	
履修上の注意点及び取扱い		必要に応じて、担当する教員が提示する。	

科　目　名	看護研究法		
科目コード	32102	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B321022
授業形態	講義	開講時期	2年後期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	肥田　武・榊原　久孝		
実務経験	産業医として勤務（榊原）		
オフィスアワー	講義時間前後、これ以外はアポイントメントを取ること		
科目概要	臨床において看護実践を行う中で、多岐にわたる問題が生じる。その解決のためには、科学的に根拠をもって対応する必要がある。それには研究という手法を用いる。この科目では、看護実践に必要な研究の基礎となる知識を修得することを目的としている。看護研究の必要性を理解し、研究疑問から研究の目的、デザイン、倫理など、研究計画立案のためのプロセスを学修する。 「別表３：科学的思考の基盤」		
到達目標	①看護研究の意義と役割を理解する ②看護研究方法とプロセスを理解する ③研究における倫理的配慮と研究者の倫理的姿勢を理解する ④文献検索および文献検討の方法を理解する ⑤量的研究・質的研究それぞれの方法を理解する ⑥研究疑問から研究計画書作成までのプロセスを理解する		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①	看護研究の意義と役割：看護研究とは？ 事後学修と次回の事前学修を指示する。	榊原
2	②	看護研究課程の概観：研究デザイン、研究方法 事後学修と次回の事前学修を指示する。	榊原
3	③	看護研究における倫理的配慮：研究における倫理、倫理的姿勢とは 事後学修と次回の事前学修を指示する。	肥田
4	②④	文献レビュー：文献とは、文献クリティーク 事後学修と次回の事前学修を指示する。	肥田
5	⑤	質的研究：質的研究とは？質的研究のすすめ方とまとめ方 事後学修と次回の事前学修を指示する。	肥田
6	⑤	量的研究：量的研究とは？量的研究のすすめ方とまとめ方 事後学修と次回の事前学修を指示する。	榊原
7	②⑤⑥	研究計画書：研究計画書を書いてみよう 事後学修と次回の事前学修を指示する。	榊原

事前・事後学修	事前学修：講義の前に前回までの内容を確認。各回120分 事後学修：講義最後に次回の学修内容を指示する。各回120分
評価方法	レポート80%、研究計画書20%
課題に対するフィードバック	課題レポート等はコメント等を付して返却する。
教科書	特になし。
参考書	担当教員の指示による。
履修上の注意点及び取扱い	日々の生活の中で生じる問題や課題、疑問を大切にしてください。

科目名	アカデミックスキルズ		
科目コード	32103	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B321031
授業形態	講義	開講時期	1年前期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	肥田　武・伊東　裕康		
実務経験	無		
オフィスアワー	肥田：月曜日13:30～15:10 （内線: 1205　e-mail: t.hida.t@ikc.ac.jp) 伊東：金曜日16:30～17:00 （内線: 1204　e-mail: h.ito.t@ikc.ac.jp)		
科目概要	大学における学修では、多様な物事に対して自ら関心をもち、疑問を掲げ、その答えを探究することが期待されている。それができるか否かが4年間の学びの質を左右し、修得できる能力の広さや深さに大いに影響する。そこで本科目では入学後の初発段階で、問う、ノートを取る、調べる、読解する、まとめる、伝える等の、大学で今後も求められる一連のスキルの第1歩を経験的に学ぶ。 「別表３：科学的思考の基盤」		
到達目標	①主体的かつ批判的に問うことの意義を説明できる（知識）。 ②ノートテイキング・文献検索・文献読解を要点を押さえて実践できる（技能）。 ③主張・質問・異見を根拠を示しながら交わし合える（技能）。 ④多様な関心にしたがって主体的に教養を積み上げる大学での学びの価値を認めようとする（態度）。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①	大学での学び ＊事前学修 教科書第1章（pp.7-27）を読んでおく。	肥田・伊東
2	②	ノートテイキング ＊事前学修 教科書第2章（pp.29-42）を読んでおく。	肥田・伊東
3	②	優れた看護師になるための看護大学での学び方［講義］	肥田・伊東
4	②	文献の検索・リスト作成［演習］ ＊事前学修 教科書第3章（pp.43-76）を読んでおく。	肥田・伊東
5	②	文献の読解・要約［演習］ ＊事前学修 教科書第4章（pp.77-94）を読んでおく。	肥田・伊東
6	③④	看護大学から始まるキャリア開発（コミュニケーションとホスピタリティ）［講義］	肥田・伊東
7	③	主張・質問・異見［ディスカッション］ ＊事前学修 教科書第7章（pp.139-151）を読んでおく。	肥田・伊東
レポート	①②③④	レポート	肥田・伊東

事前・事後学修	事前学修：教科書の指定箇所を読んでおく。各回120分 事後学修：講義の学修内容を振り返り、残された課題があれば取り組む。各回120分
評価方法	レポート（100%）
課題に対するフィードバック	毎時の小課題は採点して返却する。必要に応じて全体の場でコメントする。
教科書	佐藤望他：「アカデミック・スキルズ　第3版――大学生のための知的技法入門」、慶応義塾大学出版会
参考書	適宜、紹介する。

履修上の注意点 及び取扱い	1．講義資料は事前配信する（欠席者は自身で対応する） 2．講義資料には所々空欄を設けている（説明内容を書き込みながら受講する） 3．講義中には最低限のマナーを求める（飲食や私語をしない） 4．対面講義であるが授業中にオンラインでの課題提出を求める 5．学修のまとめとして第6～7回に個人ワークを課す（学修成果をしっかり表す） 6．詳細は第1回に配布する「初回配布用シラバス」に示す

科　目　名	生化学		
科目コード	33101	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B331011
授業形態	講義	開講時期	1年後期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	小野　富大		
実務経験	無		
オフィスアワー	授業後10分間、非常勤講師室等で対応可能（事前に連絡もらえると助かります）。メールでも質問、相談等対応可能（t30103@ikc.ac.jp）		
科目概要	人間の生命、身体の維持、食物の体内での利用過程などをはじめとする生命活動における生体中の生化学的機能とその仕組みについて学修する。具体的には、 (1)生命体としての人体を概観し、細胞複製及び細胞を構成する各種成分の役割、 (2)人体を構成する臓器の機能がどのように発揮されているか、 (3)タンパク質、アミノ酸、糖質、脂質の代謝経路、及び代謝異常と遺伝病の発症メカニズムについて学ぶ。 「別表３：人体の構造と機能」		
到達目標	①生命体としての人体を概観し、細胞複製および細胞を構成する各種成分の役割を説明できる。 ②人体を構成する臓器の機能がどのように発揮されているのかについて説明できる。 ③タンパク質、アミノ酸、糖質、脂質の代謝経路について説明できる。 ④代謝異常と遺伝病の発症メカニズムについて説明できる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健 ・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①②	分子化学の基礎、および代謝の概要、栄養素について 事前学修：教科書の以下の章に目を通しておくこと 【第1章】生体の分子化学（ｐ１－６） 【第2章】代謝の基礎とビタミンの役割（ｐ７－２８） 事後学修：スライドの復習に加え、練習問題を解く	小野
2	①②③④	糖質の体内における役割、および関連する代謝異常・疾患 事前学修：教科書の以下の章に目を通しておくこと 【第3章】糖質とその代謝（ｐ２９－５４） 事後学修：スライドの復習に加え、練習問題を解く	小野
3	②③④	脂質の体内における役割、および関連する代謝異常・疾患 事前学修：教科書の以下の章に目を通しておくこと 【第4章】脂質とその代謝（ｐ５５－７２） 事後学修：スライドの復習に加え、練習問題を解く	小野
4	①②③④	アミノ酸の体内における役割、および関連する代謝異常・疾患 事前学修：教科書の以下の章に目を通しておくこと 【第5章】タンパク質とその代謝（ｐ７３－８８） 事後学修：スライドの復習に加え、練習問題を解く	小野
5	①②③④	核酸の体内における役割、および関連する代謝異常・疾患 事前学修：教科書の以下の章に目を通しておくこと 【第6章】核酸・ヌクレオチド・遺伝（ｐ８９－１０８） 事後学修：スライドの復習に加え、練習問題を解く	小野
6	①②④	電解質の役割および関連疾患・症状について 事前学修：教科書の以下の章に目を通しておくこと 【第7章】ホメオスタシスを維持するための情報伝達（ｐ１０９－１１８） 【第8章】水・電解質のホメオスタシスの維持（ｐ１１９－１３０） 事後学修：スライドの復習に加え、練習問題を解く	小野

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
7	①②③④	免疫の構造、疾患についての概要 事前学修：教科書の以下の章に目を通しておくこと 【第9章】生体防御（免疫）（ｐ１３１－１３８） 【第10章】疾患の生化学（ｐ１３９－１５２） 事後学修：スライドの復習に加え、練習問題を解く。試験に向けての勉強を行う	小野
試験	①②③④	筆記試験(統括的評価)	小野
事前・事後学修		各講義前： ①講義の前に対応する教科書のページを予習、ノートをとる。思ったこと、自分に関係あること、浮かんだ疑問などを書き留めておくと効果的 ②「読み物チェック」（仮）のオンラインクイズに事前に回答（提出課題） 各回60分以上 各講義後： ①講義の内容をまた復習する ②「練習問題」（仮）のオンラインクイズに回答（提出課題） 各回30分以上 事前事後合わせて240分以上	
評　価　方　法		定期試験（70%）+ 講義中回答参加率等に基づく形成的評価（10%）＋様々な提出課題（20%）を評価のベースラインとする	
課題に対するフィードバック		練習問題等は自動的に採点される。レポートに関してはコメントをつけてフィードバックを提供。	
教　科　書		1．石堂一巳、「看護学テキストNiCE　生化学」南江堂 2．配布資料（スライドの印刷物）	
参　考　書		適宜紹介	
履修上の注意点及び取扱い		クラス全体の習熟の速度やフィードバックなどにより、授業内容に修正を行う場合あり。事前・事後学修に関しては、最新の連絡の内容を確認すること。講義はあくまでも自己学修の手助けという位置付けなので、講義時間外の学修内容への取り組みを行うこと。定期試験で不合格の場合（試験＋参加＋課題の総合が100点中60点未満である場合）、当該年度で再試験を2回まで実施。 形成的評価は、インターネットのアンケート資料などを使用し実施予定。事前・事後学修周辺の理解確認のために行う。詳しくは講義開始後の定期連絡を参照。	

科　目　名	解剖生理学概論		
科目コード	33102	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B331021
授業形態	講義	開講時期	1年前期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	櫻井　武		
実務経験	医師として病院勤務		
オフィスアワー	講義のある日の夕方。それ以外はメール等にてアポイントメントを取ってください。		
科目概要	細胞の構造と機能、それを支えるエネルギー等の基本的な化学、脊椎動物の発生と分化、個体を構成する各臓器、組織の形態と働き、生命・生存の維持に必要な機能とホメオスタシス（恒常性）などの全身の機能と解剖生理学の基本的な用語について学習する。具体的には、真核細胞の形態と機能、臓器の組織とその由来、DNA、RNA、タンパク質、エネルギーの産生と消費、恒常性の維持、体温調節と生体リズム、について解説する。 さらに、新生児期から高齢期に至るまでの人体の構造と機能について発達段階の順序に応じて学習する。具体的には、生殖器について構造と機能を学び、人の発生から小児期・思春期・成人期・老年期までの成長発達（発育）と性発達の特徴及び、妊娠期と出産後の変化について解説する。 「別表３：人体の構造と機能」		
到達目標	①生物がどういう構造になっているか、それぞれのレベルで大まかに説明出来る ②生物を構成する物質の構造と機能を説明出来る ③遺伝という現象を例を挙げて説明出来る ④体の恒常性という概念を説明出来る ⑤ヒトの一生（受精から死ぬまで）を生物学的に説明出来る		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①	細胞、組織、器官　教科書p2-6,p9-13	櫻井
2	②	代謝とエネルギー　教科書p202-213	櫻井
3	③	遺伝子　教科書p5-9	櫻井
4	①②③⑤	発生と生殖器　１　教科書p238-252	櫻井
5	①②③⑤	発生と生殖器　２　教科書p238-252	櫻井
6	③⑤	成長と老化　教科書p253-258	櫻井
7	①④	恒常性、体温調節、生体のリズム　教科書p14-15,p231-237	櫻井
試験	①②③④⑤	定期試験	櫻井

事前・事後学修	事前学修：事前に穴埋め要約を配布するので、その該当部位を教科書を参考にしてできるだけ埋めて完成させること。各回120分 事後学修：講義最後に次回の学修内容を指示する。講義ビデオを視聴し講義内容を復習する。指定されたサイトにアクセスしてグーグルフォームで問題を解いてみる。穴埋め要約を完成させる。各回120分
評価方法	定期試験（100%）
課題に対するフィードバック	グーグルフォームの問題は解答とコメントが出るのでそれを参照し、さらに教科書なりの関連部位を読むこと。質問等は講義中、講義後、あるいはメールを通じて受け付け、適宜回答する。

教　　科　　書	内田さえ編「人体の構造と機能第６版」医歯薬出版
参　　考　　書	様々なレベルに合わせていろいろなものがあるので必要な場合は尋ねること。 例えば、白戸亮吉ら「ていねいな生物学」羊土社（生物学を高校でとっていない人たち向け）とか。最初の講義時にいろいろ紹介する。
履修上の注意点 及び取扱い	資料を配布するので、それに基づいて予習、復習をおこなうこと。また資料はすべてPDF としてお知らせにあげるので、タブレットなどを持っている人はダウンロード可能。 講義はすべてビデオにし視聴可能とするので適宜利用すること。講義を聴きながら講義資料にメモを取る習慣をつけること。 練習問題を講義中にも行うが、それ以外にも自分で練習問題で知識を定着させること。グーグルフォームの問題は試験の問題に近い。 概念を理解して言葉の定義をしっかりと定着させること。

科　目　名	解剖生理学Ⅰ		
科目コード	33103	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B331031
授業形態	講義	開講時期	1年前期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	無		
教員名	櫻井　武		
実務経験	医師として病院勤務		
オフィスアワー	講義のある日の夕方。それ以外はメール等にてアポイントメントを取って下さい。		
科目概要	人体の構造と機能、および発達各期の解剖学的、生理学的な特徴と身体機能の変化について学修する。Ⅰでは循環器、血液、呼吸器、生体防御、消化器、泌尿器、内分泌の解剖と生理について各時期の特徴や変化も含めて学修する。 「別表３：人体の構造と機能」		
到達目標	人体を構成する各器官の基本的な形態と機能を説明出来る ①人体各部位、器官の構造を専門用語で説明出来る ②人体各器官の機能を専門用語で説明出来る ③人体の構造と機能がどのように異常になると病気になることを理解する ④臨床で行うフィジカルアセスメントの基礎となる知識を理解する		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①②③④	循環、体液　1　教科書p95-117 体液とは、体液の調節、循環器系、心臓、心電図、心周期	櫻井
2	①②③④	循環、体液　2　教科書p95-117 血管系、血圧、脈拍、血圧の調節、リンパ系	櫻井
3	①②③④	血液　1　教科書p118-129 血液の成分と機能	櫻井
4	①②③④	血液　2神経系　教科書p118-129 止血機構、血液型	櫻井
5	①②③④	生体防御系　1　教科書p129-141 生体防御系概論、非特異的防御機構にかかわる分子、細胞、炎症、特異的防御機構に関わる分子と細胞、アレルギー、リンパ系組織	櫻井
6	①②③④	呼吸器　1　教科書p142-161 呼吸器系の解剖、構造	櫻井
7	①②③④	中間試験（１－５の範囲に概論の４，５の生殖器の内容も含む）	櫻井
8	①②③④	呼吸器　2　教科書p142-161 呼吸器の生理と調節	櫻井
9	①②③④	消化器　1　教科書p179-202 消化器概論、咀嚼と嚥下、消化吸収、分泌の調節	櫻井
１０	①②③④	消化器　2　教科書p179-202 消化と吸収、物質代謝、栄養素、排便、肝臓、膵臓、胆嚢	櫻井
１１	①②③④	内分泌　1　教科書p214-231 ホルモンとは、分泌調節、視床下部、下垂体	櫻井
１２	①②③④	内分泌　2　教科書p214-231 甲状腺、上皮小体、膵島、副腎皮質、副腎髄質、その他のホルモン	櫻井
１３	①②③④	泌尿器　1　教科書p162-178 尿の生成、泌尿器系の解剖、腎臓の構造と機能	櫻井
１４	①②③④	泌尿器　2　教科書p162-178 排尿、体液の調節	櫻井

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
試験	①②③④	筆記試験（６－１４の範囲、中間試験の範囲は除く）	櫻井
事前・事後学修		事前学修：講義の前に配布資料のあらかじめ調べてほしいことについて教科書等を参考にまとめてみること。各回120分 事後学修：講義最後に次回の学修内容を指示する。講義ビデオを視聴し講義内容を復習する。指定されたサイトにアクセスしてグーグルフォームで問題を解いてみる。まとめてほしいことリストのまとめを完成させる。各回120分	
評　価　方　法		中間試験（５０％）＋期末試験（５０％）	
課題に対するフィードバック		グーグルフォームの問題は解答とコメントが出るのでそれを参照し、さらに教科書なりの関連部位を読むこと。 質問等は講義中、講義後、あるいはメールを通じて受け、適宜回答する。	
教　　科　　書		内田さえ編「人体の構造と機能第６版」医歯薬出版	
参　　考　　書		理解度に応じて様々なものがあるので必要な場合は尋ねること。例えば「からだがみえる」（メディックメディア）、イメカラシリーズ（メディックメディア）。	
履修上の注意点及び取扱い		資料を配布するので、それに基づいて予習、復習をおこなうこと。また資料はすべてPDFとしてお知らせにあげるので、タブレットなどを持っている人たちはダウンロード可能。 講義はすべてビデオにして視聴可能とするので適宜利用すること。講義を聴きながら講義資料にメモを取る習慣をつけること。 練習問題を講義中にも行うが、それ以外にも自分で練習問題で知識を定着させること。配布する問題やグーグルフォームの問題は試験の問題に近い。 進度が早いので知識をきっちりとつんでいくこと。疑問があればその場で解決すること。そうしないと次の知識が入らなくなりオーバーフローしてしまう。 この範囲は特に覚える事が沢山あるので自分で様々な工夫をしながら整理していくこと。	

科目名	解剖生理学II		
科目コード	33104	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B331041
授業形態	講義	開講時期	1年後期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	櫻井　武		
実務経験	医師として病院勤務		
オフィスアワー	講義のある日の夕方。それ以外はメール等にてアポイントメントを取って下さい。		
科目概要	人体の構造と機能、及び発達各期の解剖学的・生理学的な特徴と身体機能の変化について学修する。筋、骨格総論、骨格系について解説し、体幹（体軸）と体肢の骨格の区別やそれぞれの骨の名称と形態、骨の機能について解説する。筋系では筋組織の概要、形態、機能、骨格筋における運動機能との関係について解説する。神経系（中枢神経、末梢神経）では神経系の仕組み、機能と構造、神経系の発達と老化、感覚系（視覚、聴覚、味覚、嗅覚、触覚など）と神経支配との関係について解説する。 「別表３：人体の構造と機能」		
到達目標	人体を構成する各器官の基本的な形態と機能を説明出来る ①人体各部位、器官の構造を専門用語で説明出来る ②人体各器官の機能を専門用語で説明出来る ③人体の構造と機能がどのように異常になると病気になることを理解する ④臨床で行うフィジカルアセスメントの基礎となる知識を理解する		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①②③④	運動器　1　教科書p51-67 骨	櫻井
2	①②③④	運動器　2　教科書p51-67 骨、関節、筋肉	櫻井
3	①②③④	運動器　3　教科書p51-67 筋肉、運動の調節	櫻井
4	①②③④	神経系　1　教科書p19-50 神経系、中枢神経系	櫻井
5	①②③④	神経系　2　教科書p19-50 末梢神経系、自律神経系	櫻井
6	①②③④	感覚器　1　教科書p68-94 感覚、視覚、聴覚、平衡覚	櫻井
7	①②③④	感覚器　2　教科書p68-94 味覚、嗅覚、皮膚感覚、内臓感覚、痛覚、皮膚、粘膜、漿膜	櫻井
試験	①②③④	定期試験	櫻井

事前・事後学修	事前学修：講義の前に配布資料のあらかじめ調べてほしいことについて教科書等を参考にまとめてみること。各回120分 事後学修：講義最後に次回の学修内容を指示する。講義ビデオを視聴し講義内容を復習する。指定されたサイトにアクセスしてグーグルフォームで問題を解いてみる。まとめてほしいことリストのまとめを完成させる。各回120分
評価方法	定期試験（100%）
課題に対するフィードバック	グーグルフォームの問題は解答とコメントが出るのでそれを参照し、さらに教科書なりの関連部位を読むこと。質問等は講義中、講義後、あるいはメールを通じて受け、適宜回答する。
教科書	内田さえ編「人体の構造と機能第６版」医歯薬出版

参　考　書	理解度に応じて様々なものがあるので必要な場合は尋ねること。たとえば「ステイアナトミー」（羊土社）、「脳神経科学がわかるすきになる」（羊土社）、からだがみえる（メディックメディア）
履修上の注意点 及び取扱い	資料を配布するので、それに基づいて予習、復習をおこなうこと。また資料はすべてPDFとしてお知らせにあげるので、タブレットなどを持っている人たちはダウンロード可能。 講義はすべてビデオにして視聴可能にするので適宜利用すること。講義を聴きながら講義資料にメモを取る習慣をつけること。 練習問題を講義中にも行うが、それ以外にも自分で練習問題で知識を定着させること。配布する問題やグーグルフォームの問題は試験の問題に近い。 進度が早いので知識をきっちりとつんでいくこと。疑問があればその場で解決すること。そうしないと次の知識が入らなくなりオーバーフローしてしまう。この範囲は名称がたくさん出てきて覚えるのも一苦労なので、自分で様々な工夫をしながら整理していくこと。

科　目　名	解剖生理学III		
科目コード	33105	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B331052
授業形態	講義	開講時期	2年前期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	櫻井　武・伊東　裕康・千田　隆夫		
実務経験	医師として病院勤務（櫻井）		
オフィスアワー	講義のある日の夕方。それ以外はメール等にてアポイントメントを取って下さい。		
科目概要	人体を直接観察する解剖場面の見学と、循環系、呼吸器系、神経系、感覚系、腎泌尿器系の解剖生理の復習を行い、同時並行中のフィジカルアセスメントや薬理学につながる知識の整理を行う。科学的な根拠に基づく臨床判断の基礎を身につけるとともに、医学・医療や看護において、人の身体を扱うことに対する生命の尊厳と倫理的な態度についても学修する。双方向性の講義と解剖見学からなる。 「別表３：人体の構造と機能」		
到達目標	①フィジカルアセスメントの基礎となる解剖と生理の知識を理解する ②人体の構造と機能がどのように異常になると病気になるかを理解する ③実際の人体に触れて解剖と生理を専門用語で説明出来る		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①②③	循環系の診断と評価　教科書の循環器系のところ 心電図、心臓の解剖生理、循環動態、動脈系、静脈系、胸の写真	櫻井
2	①②③	呼吸器系の診断と評価　教科書の呼吸器系のところ 胸の写真、肺の解剖生理、呼吸機能検査、パルスオキシメーター	櫻井
3	①②③	神経感覚系の診断と評価　教科書の神経系と感覚器のところ 脳神経の解剖と生理と評価、脊髄神経の解剖と評価、意識、筋肉	櫻井
4	①②③	腎泌尿器系の診断と評価　教科書の腎泌尿器のところ 腎臓の解剖と生理と評価、泌尿器系の解剖と生理、体液管理	櫻井
5	③	解剖見学事前説明・講義　参考書の「医療系学生のための解剖見学実習ノート」を使用、12色程度の色鉛筆を持ってくること	千田、伊東
6	③	解剖見学実習（岐阜大学医学部で）	千田、櫻井、伊東
7	③	解剖見学振り返り、解剖生理の総まとめ、振り返り	櫻井
試験	①②③	定期試験	櫻井

事前・事後学修	事前学修：解剖生理学概論、1、２を復習しておくこと。まとめてほしいことのリストを配布するので自分でまとめておくこと。実習見学の前に必ず自分の見たいことをまとめておくこと。各回120分 事後学修：講義内容も参考にさらに自分で解剖生理の知識をまとめておくこと。レポートを完成させること（3回分）。各回120分。 事前講義で説明・指示された「解剖見学実習ノート」の着色と名称記入を解剖見学実習までに完成させて、持ってくること。
評価方法	定期試験（50%）＋レポート３回分（30%）＋見学参加と見学課題の提出（20%）
課題に対するフィードバック	グーグルフォームの問題は解答とコメントが出るのでそれを参照し、さらに教科書なりの関連部位を読むこと。 質問等は講義中、講義後、あるいはメールやメソフィアを通じて受け、適宜回答する。
教科書	内田さえ編「人体の構造と機能第６版」医歯薬出版 千田隆夫・小村一也著「医療系学生のための解剖見学実習ノート」アドスリー フィジカルアセスメント(基礎看護学IV)で指定された教科書

参　考　書	熊谷たまき「看護がみえる３、フィジカルアセスメント」メディックメディア、 「からだがみえる」メディックメディア
履修上の注意点 及び取扱い	解剖見学は土曜日に実施される。やむをえない事由以外で欠席した場合は成績評価の対象としない。 資料を配付するので予習、復習をおこなうこと。 講義はすべてビデオにしてアップロードするので適宜利用すること。 フィジカルアセスメントの講義演習と合わせながら知識を整理していくこと。 配布する「まとめてほしいこと」リストを参考に、一生使えるような解剖生理のまとめ資料として作成すること。

科　目　名	臨床栄養学		
科目コード	33106	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B331062
授業形態	講義	開講時期	2年後期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	山口　節子		
実務経験	管理栄養士として病院・保健センター勤務		
オフィスアワー	講義終了後10分間(講師控室)		
科目概要	栄養と栄養素、食品の機能について学習し、ライフステージと栄養の関係を理解する。生命維持や日常生活の活動に必要な栄養と消化・吸収など栄養摂取の仕組みについて学ぶ。食事摂取基準、栄養評価・判定の方法と、健康状態に対応した栄養管理の基本と栄養管理の実際について学修する。また、入院患者に対する栄養サポートチーム（NST）による栄養管理について学び、看護に必要な臨床栄養学の知識と看護師の役割について理解する。さらに、最近増加傾向の健康食品と医薬品や食品との相互作用についても学ぶ。 「別表３：人体の構造と機能」		
到達目標	①人の健康と栄養の関係が理解でき、栄養摂取の仕組みについて説明できる。 ②栄養状態の評価の基本と栄養補給の方法を示すことができる。 ③食事摂取基準や各疾患のガイドラインを調べ、栄養管理を実施することが理解できる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健 ・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につける ことができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①	ガイダンス、生命の維持・活動と栄養 事前学修：教科書P9～16、238～251を読む 事後学修：栄養素と健康障害との関連についてレポートを作成する 前後各120分	山口節子
2	①②③	人の栄養摂取の仕組み、消化・吸収、水と血液 事前学修：教科書P46～59を読む 事後学修：消化器疾患と栄養管理についてレポートを作成する 前後各120分	山口節子
3	①②③	エネルギー代謝：生命活動と栄養素の役割、エネルギー摂取と消費 事前学修：教科書P74～90を読む 事後学修：1日の消費エネルギーを計算する 前後各120分	山口節子
4	①②③	栄養と代謝：糖質と代謝、脂質と代謝(糖尿病、脂質異常症の栄養管理) 事前学修：教科書P216～220を読む 事後学修：糖尿病、脂質異常症の栄養管理についてレポートを作成する 前後各120分	山口節子
5	①②③	栄養と代謝：たんぱく質と代謝、ビタミンと無機質（腎臓病などの栄養管理） 事前学修：教科書P220～222を読む 事後学修：たんぱく質・食塩制限についてレポートを作成する 前後各120分	山口節子
6	②③	食事摂取基準：栄養状態の評価と判定、栄養管理計画 健康食品と医薬品や食品との相互作用 事前学修：教科書P243、253～261、108～110を読む 事後学修：各自の栄養状態を評価しレポートを作成する 前後各120分	山口節子

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
7	②③	栄養補給法：経口栄養、経管栄養、経静脈栄養 事前学修：教科書P188～205を読む 事後学修：栄養補給法の分類と特徴についてレポートを作成する 前後各120分	山口節子
試験	①②③	定期試験	山口節子
事前・事後学修		事前学修：次回の内容・キーワードについて、テキストを読んでくること 事後学修：講義内容をノートにまとめたり課題レポートを作成する	
評　価　方　法		定期試験　80%　レポート・授業参加状況（発言の内容と回数）　20%	
課題に対するフィードバック		提出の翌週にレポートを返却する	
教　　科　　書		小野章史ら編　「栄養学　人体の構造と機能3」　医学書院　2023年	
参　　考　　書		必要に応じてプリントを配布する	
履修上の注意点及び取扱い		１．事前学修として、次回の内容・キーワードについて、テキストを読んでくること ２．事後学修として、講義内容をノートにまとめたり課題レポートを作成する	

科　目　名	病態治療学概論(病態生理学)		
科目コード	33201	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B332011
授業形態	講義	開講時期	1年後期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	榊原　久孝・三井　伸二・白木　之浩		
実務経験	産業医として勤務（榊原） 医師として病院勤務（三井・白木）		
オフィスアワー	授業終了後10分間		
科目概要	疾病の成り立ちと回復の促進について理解するために、疾病とは何か、疾病の原因や要因、症候や病理学所見とともに、疾病が及ぼす生活への影響、看護のポイントについて学修する。また、現代医療において行われている主要な疾患の診断や治療の動向についても学修する。授業では、病気の原因と分類、細胞・組織の障害と修復、循環器障害、感染症、代謝障害、老化と死、先天異常と遺伝子異常、腫瘍について発症の機序や原因・要因について解説する。 「別表３：疾病の成り立ちと回復の促進」		
到達目標	① 病気および病的状態を分類して説明することができる。 ② 病気の原因、発生の仕組みを説明することができる。 ③ 疾患に対する生体の反応や経過の特徴、転帰を説明することができる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①	病気の原因と分類、細胞・組織損傷と修復、炎症 ＊事前/事後学修：テキスト付章、第1、2章：病理診断の実際、病理学で学ぶこと、細胞・組織の損傷と修復、炎症	白木
2	①②③	免疫,移植と再生医療 ＊事前/事後学修：テキスト第3章：免疫、移植と再生医療	白木
3	①②③	感染症 ＊事前/事後学修：テキスト第4章：感染症	白木
4	①②③	循環障害 ＊事前/事後学修：テキスト第5章：循環障害	白木
5	①②③	代謝障害（黄疸，糖尿病，脂質代謝障害など） 老化と死（老年期，死の三徴候，脳死） ＊事前／事後学修：テキスト第6章 代謝障害 および 第7章 老化と死	三井
6	①②③	先天異常と遺伝性疾患（遺伝子・ゲノム・染色体、遺伝子異常） ＊事前／事後学修：テキスト第8章 先天異常と遺伝性疾患	三井
7	①②③	腫瘍 良性腫瘍と悪性腫瘍、悪性腫瘍の発生・増殖・浸潤・転移 がんの診断・治療 ＊事前／事後学修：テキスト第9章 腫瘍	三井
試験	①②③	定期試験	榊原

事前・事後学修	事前学修：講義の前に前回までの内容を確認。各回120分 事後学修：講義最後に次回の学修内容を指示する。各回120分
評価方法	定期試験（100%）
課題に対するフィードバック	課題レポート等はコメント等を付して返却する。
教科書	1.大橋健一： 「疾病のなりたちと回復の促進（1）病理学（系統看護学講座・専門基礎分野）」 医学書院

参　　考　　書	適宜紹介する
履修上の注意点 及び取扱い	無

科　目　名	病態治療学Ａ(内科学)		
科目コード	33202	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B332022
授業形態	講義	開講時期	2年前期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	無		
教員名	榊原　久孝・岡澤　光芝・海川　和幸・宮部　浩道・村瀬　寛		
実務経験	村瀬：指導医・専門医・認定医(内分泌・糖尿病内科)として病院勤務 海川：指導医・専門医・認定医(循環器内科)として病院勤務 岡澤：医師(呼吸器内科)として病院勤務 宮部：医師（集中治療科）として病院勤務 榊原：産業医として勤務		
オフィスアワー	授業終了後		
科目概要	成人及び高齢者において発生頻度が高い重要な疾患とその特徴（疫学、病態、予後、症状、診断・治療）について学修する。本科目では、成人期における呼吸・循環器系、消化器系、腎・泌尿器系、運動器系、代謝・内分泌系の主要な疾患及び悪性新生物の病態と治療を学び、疾病が及ぼす生活への影響や看護の必要性を理解する。 「別表３：疾病の成り立ちと回復の促進」		
到達目標	①内科疾患の成り立ちの源流を理解する。 ②症状や症候をみて、各種の鑑別診断を思い巡らせる素養を養う。 ③全身のクロストークの元となる、免疫・内分泌・神経の関与を概念だけでなく、実学として理解する。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①②③	代謝疾患（糖尿病）の疫学、病態、予後、症状、診断・治療について学修する。 ＊事前学修：教科書、事後学修：教科書、配布プリント	村瀬
2	①②③	代謝疾患（低血糖、脂質異常症、メタボリックシンドローなど）、内分泌疾患（総論、下垂体疾患など）の疫学、病態、予後、症状、診断・治療について学修する。 ＊事前学修：教科書、事後学修：教科書、配布プリント	村瀬
3	①②③	内分泌疾患（甲状腺疾患、副腎疾患など）の疫学、病態、予後、症状、診断・治療について学修する。 ＊事前学修：教科書、事後学修：教科書、配布プリント	村瀬
4	①②③	循環器検査総論（心電図を中心に）、高血圧、大動脈解離 ＊事前/事後学習：テキスト	海川
5	①②③	狭心症、心筋梗塞 ＊事前/事後学習：テキスト	海川
6	①②③	心臓弁膜症、心筋症、先天性心疾患、心不全 ＊事前/事後学修：テキスト	海川
7	①②③	消化器の解剖と機能 食道逆流症、食道癌、胃十二指腸潰瘍、胃癌 ＊事前/事後学修：テキスト	宮部
8	①②③	虫垂炎、腸閉塞、大腸疾患、肝・胆・膵疾患 ＊事前/事後学修：テキスト	宮部
9	①②③	腎疾患構造と機能 急性腎障害、慢性腎障害、腎癌 ＊事前/事後学修：テキスト	宮部
１０	①②③	尿管、膀胱、前立腺疾患 ＊事前/事後学修：テキスト	宮部
１１	①②③	気道と肺の構造、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患	岡澤

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
１２	①②③	間質性肺炎・肺線維症、肺癌、過敏性肺臓炎、気胸	岡澤
１３	①②③	呼吸器感染症（ウイルス感染症、細菌感染症、結核）	岡澤
１４	①②③	血液疾患（貧血、血友病、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄種）	岡澤
試験	①②③	定期試験	榊原
事前・事後学修		事前学修：講義の前に前回までの内容を確認。各120分 事後学修：講義最後に次回の学修内容を指示する。各120分	
評　価　方　法		定期試験(100%)	
課題に対する フィードバック		課題レポート等にコメント等を付して返却する。	
教　　科　　書		1.林正健二、山内豊明： 「疾病と治療・ナーシンググラフィカ、健康の回復と看護(7)」 メディカ出版	
参　　考　　書		プリント配布あり（授業当日に配布し、プリントに基づいて授業を進行します）	
履修上の注意点 及び取扱い		1.講義はあくまでも自己学修を手助けするものである。講義前の予習を必ず行うこと 2.定期試験で不合格の場合、当該年度で再試験を実施する	

科　目　名	病態治療学Ｂ(外科学)		
科目コード	33203	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B332032
授業形態	講義	開講時期	2年前期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	榊原　久孝・近藤　三隆		
実務経験	近藤：指導医・専門医・認定医(外科)として病院勤務 榊原：産業医として勤務		
オフィスアワー	講義終了後		
科目概要	成人及び高齢者において発生頻度が高い重要な疾患とその特徴（疫学、病態、予後、診断・治療）について学修する。本科目では、悪性新生物、呼吸器系、消化器系、循環器系の主要な疾患および腹部外傷の特徴と診断・治療を学び、疾病が及ぼす生活への影響、看護の必要性を理解する。 「別表３：疾病の成り立ちと回復の促進」		
到達目標	①成人期、及び高齢者における疾患のなり立ちを理解する ②症状から各種の鑑別診断を考えることができる ③循環・呼吸器系、消化器系疾患による症状発現を理解する		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①②	ガイダンス 乳癌 事前/事後学修：臨床外科看護各論　第1章肺および胸部　D乳腺の疾患①乳がん②その他の乳腺疾患	近藤
2	②③	食道、胃・十二指腸の疾患 事前/事後学修：臨床外科看護各論　第3章消化器および腹部　Ａ食道の疾患　Ｂ胃・十二指腸の疾患	近藤
3	②③	腸・腹膜の疾患（消化管憩室、非特異性炎症性腸疾患、特異性炎症性腸疾患、虫垂炎、イレウス、腹膜炎） 事前/事後学修：臨床外科看護各論　第3章消化器および腹部　C腸・腹膜の疾患	近藤
4	②③	腸・腹膜の疾患（大腸・直腸癌、急性腹症、腹部外傷） 事前/事後学修：臨床外科看護各論　第3章消化器および腹部　C腸・腹膜の疾患	近藤
5	②③	肝臓・肝外胆道系の疾患 事前/事後学修：臨床外科看護各論　第3章消化器および腹部　D肝臓・肝外胆道系の疾患	近藤
6	②③	門脈・膵臓の疾患 事前/事後学修：臨床外科看護各論　第3章消化器および腹部　F門脈の疾患　Ｇ膵臓の疾患	近藤
7	①②③	ヘルニア・副腎・肛門疾患 事前/事後学修：臨床外科看護各論　第3章消化器および腹部　Hヘルニア　Ｉ副腎の疾患　C1⑫直腸・肛門の疾患 まとめと最終質問受け。演習問題。	近藤
試験	①②③	筆記試験	近藤

事前・事後学修	事前学修：講義の前に前回までの内容を確認。各120分 事後学修：講義最後に次回の学習内容を指示する。各120分
評価方法	定期試験（100%）
課題に対するフィードバック	課題レポート等はコメント等に付して返却する。

教　　科　　書	1.北島政樹、江川幸二　編集：「系統看護学講座　別巻　臨床外科看護各論」医学書院
参　　考　　書	無
履修上の注意点及び取扱い	講義はあくまでも自己学修を手助けするものである。講義前の予習を必ず行うこと。 定期試験で不合格の場合、当該年度で再試験を実施する。

科　目　名	病態治療学Ｃ(整形外科学・脳神経外科学)		
科目コード	33204	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B332042
授業形態	講義	開講時期	2年前期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	榊原　久孝・犬飼　智雄・今井　秀		
実務経験	今井：指導医・専門医(脳神経外科)として病院勤務 犬飼：専門医・認定医(整形外科)として病院勤務 榊原：産業医として勤務		
オフィスアワー	講義終了後		
科目概要	成人及び高齢者において発生頻度が高い重要な疾患とその特徴（疫学、病態、予後、診断・治療）について学修する。本科目では、脳・神経系、骨・運動器 の主要な疾患の特徴と診断・治療を学び、疾病が及ぼす生活への影響、看護の必要性を理解する。 「別表３：疾病の成り立ちと回復の促進」		
到達目標	①成人期、及び高齢者における疾患のなり立ちを理解する ②症状から各種の鑑別診断を考えることができる ③運動器系、脳神経系疾患による症状発現を理解する		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①②③	ガイダンス 整形外科の目的，運動器の基礎，治療原則 ＊事前/事後学修：ナーシンググラフィカ､健康の回復と看護⑤、1-3章	犬飼
2	①②③	整形外科外傷（脱臼・骨折・捻挫） ＊事前/事後学修：ナーシンググラフィカ､健康の回復と看護⑤、1章、4-5章	犬飼
3	①②③	運動器の加齢性変化（骨粗鬆症、ロコモ、関節症） ＊事前/事後学修：ナーシンググラフィカ､健康の回復と看護⑤、4-6章	犬飼
4	①②③	骨軟部腫瘍，炎症性疾患 ＊事前/事後学修：ナーシンググラフィカ､健康の回復と看護⑤、4章-4	犬飼
5	①②③	脳・神経系疾患と診断・治療(1) 脳腫瘍 ＊事前/事後学修：ナーシンググラフィカ､健康の回復と看護④、1章、2章-2	今井
6	①②③	脳・神経系疾患と診断・治療(2) 脳血管障害 ＊事前/事後学修：ナーシンググラフィカ､健康の回復と看護④、1章、2章-1	今井
7	②③	脳・神経系疾患と診断・治療(3) 頭部外傷、感染症、変性疾患 ＊事前/事後学修：ナーシンググラフィカ､健康の回復と看護④、1章、2章-3-10	今井
試験	①②③	筆記試験	榊原

事前・事後学修	事前学修：講義の前に前回までの内容を確認。各120分 事後学修：講義最後に次回の学習内容を指示する。各120分
評価方法	定期試験（100%）
課題に対するフィードバック	課題レポート等はコメント等を付して返却する。

教　科　書	1.林正健二、山内豊明：「疾病と治療・ナーシング・グラフィカ、健康の回復と看護(5)」運動機能障害 メディカ出版 2.林正健二、山内豊明：「疾病と治療・ナーシング・グラフィカ、健康の回復と看護(4)」脳・神経機能障害/感覚機能障害 メディカ出版
参　考　書	無
履修上の注意点及び取扱い	講義はあくまでも自己学修を手助けするものである。講義前の予習を必ず行うこと。

科　目　名	病態治療学Ｄ(精神科学)		
科目コード	33205	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B332051
授業形態	講義	開講時期	1年後期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件			
教員名	丸井　友泰		
実務経験	専門医・指導医・産業医（精神科）として病院勤務		
オフィスアワー	授業終了後10分間(講師控室)		
科目概要	こころの健康問題は、人生のあらゆる時期や生活している人々の場で生じる最も注目すべき課題である。こころの健康問題が生じたときに、人はどのように対処するか、健康問題発生のメカニズムと発生を予防すること、こころの健康をどのように保っていくか、さらにはこころの健康問題を持つ人を援助することの意義について学修する。主要なこころの健康問題として、身体的愁訴、気分障害（うつ）、認知機能障害、統合失調症、パーソナリティ障害について取り上げ、理解を深める。 「別表３：疾病の成り立ちと回復の促進」		
到達目標	①こころの健康問題の発生の機序を理解し、こころの健康をどのように保っていくかを理解できる。 ②こころの健康問題を持つ人への援助の必要性を理解できる。 ③人が人を援助することの意義について深く考える。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	
各専門職の役割を理解した上で、多職種と協働し、保健医療福祉のチームの一員として、看護職の役割を果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
継続的に学ぶ姿勢を身につけている	○
自己を研き自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①②③	精神医学史・精神症状と面接	丸井
2	①②③	精神疾患の治療（総論）と不安障害	丸井
3	①②③	意識障害とせん妄	丸井
4	①②③	認知症	丸井
5	①②③	統合失調症	丸井
6	①②③	気分障害	丸井
7	①②③	パーソナリティ障害と精神作用物質使用による精神および行動の障害	丸井
レポート	①②③	レポート	丸井

事前・事後学修	事前学修：講義の前に前回までの内容を確認。各回120分 事後学修：講義最後に次回の学修内容を指示する。各回120分
評価方法	レポート(100%)により評価する。
課題に対するフィードバック	課題レポート等はコメント等を付して返却する。
教科書	後日紹介する。必要に応じて資料を提示する。
参考書	後日紹介する。必要に応じて資料を提示する。
履修上の注意点及び取扱い	講義はあくまでも自己学修を手助けするものである。講義前の予習を必ず行うこと。

科　目　名	病態治療学Ｅ(小児科学・産科婦人科学)		
科目コード	33206	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B332062
授業形態	講義	開講時期	2年前期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	無		
教員名	榊原　久孝・河原　幸平・北川　幸子・三鴨　廣繁・登林　由稀・濱田　英五		
実務経験	北川：専門医(小児科)として病院勤務 河原：医師(小児科)として病院勤務 濵田：医師(小児科)として病院勤務 登林：医師(小児科)として病院勤務 三鴨：指導医・専門医・認定医(産婦人科・感染症科)として病院勤務 榊原：産業医として勤務		
オフィスアワー	講義終了後10分		
科目概要	小児（新生児・乳児・幼児・学童）と女性（思春期、妊娠、出産、更年期）に関連して起こる主要な疾患（疫学、病態、予後、病態、　診断・治療）について学修する。また、新生児期と小児期、思春期の発育や発達と発達障害を学び、疾病が及ぼす生活や発達への影響、看護の必要性について理解する。 「別表３：疾病の成り立ちと回復の促進」		
到達目標	①こどもの成長、発達を理解するとともに、こども特有の疾病について理解できる ②女性の妊娠から出産に至る過程と、女性特有の疾病について理解できる ③疾病が及ぼす生活や発達への影響と看護の必要性について理解できる		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①	小児の特徴 ＊事前・事後学修：小児看護学(1)小児看護学概論（第1章‐6章）	北川
2	①③	小児の呼吸器疾患・感染症 ＊事前・事後学修：小児看護学(2)小児臨床看護各論、第7章：呼吸器疾患と看護、第6章：感染症看護	北川
3	①③	小児の神経疾患 ＊事前・事後学修：小児看護学(2)小児臨床看護各論、第13章：神経疾患と看護	濵田
4	①③	小児の消化器疾患 ＊事前・事後学修：小児看護学(2)小児臨床看護各論、第9章：消化器疾患と看護	登林
5	①③	小児の血液・悪性疾患 ＊事前・事後学修：小児看護学(2)小児臨床看護各論、第10章：血液・造血疾患と看護、第11章：悪性新生物と看護	河原
6	①③	小児の腎疾患 ＊事前・事後学修：小児看護学(2)小児臨床看護各論、第12章：腎・泌尿器および生殖器疾患と看護	河原
7	①③	小児のアレルギー疾患 ＊事前・事後学修：小児看護学(2)小児臨床看護各論、第5章：免疫疾患・アレルギー疾患」・リウマチ性疾患と看護	登林
8	①③	小児の循環器疾患 ＊事前・事後学修：小児看護学(2)小児臨床看護各論、第8章：循環器疾患と看護	河原
9	①③	新生児・未熟児疾患、先天異常（染色体異常、TORCH症候群） ＊事前・事後学修：小児看護学(2)小児臨床看護各論、第2章：新生児の看護、第3章：代謝疾患と看護、第1章：染色体異常・胎内環境により発症する先天異常と看護	濵田

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
10	①③	小児の内分泌疾患 ＊事前・事後学修：第3章：小児看護学(2)小児臨床看護各論、代謝疾患と看護、第4章：内分泌疾患と看護	北川
11	②③	妊娠・分娩・新生児・小児科疾患について 女性における性周期（膣内細菌叢、基礎体温、ホルモン周期、子宮内膜周期、排卵） ＊事前・事後学修：母性看護学(1)母性看護学概論 p.100-120、母性看護学(2)母性看護学各論 p.178-199	三鴨
12	②③	正常妊娠と正常分娩（妊娠のメカニズム、分娩のメカニズム） ＊事前・事後学修：母性看護学(1)母性看護学概論 p.113-127、母性看護学(2)母性看護学各論 p.62-81、184-226	三鴨
13	②③	妊娠・分娩中の異常（異所性妊娠、切迫流・早産、過期妊娠、児頭骨盤不均衡、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、回旋異常など） ＊事前・事後学修：母性看護学(2)母性看護学各論p.402-464	三鴨
14	②③	更年期とその症状（更年期障害、ホルモン補充療法） ＊事前・事後学修：母性看護学(1)母性看護学概論 p.216-234	三鴨
試験	①②③	定期試験	榊原
事前・事後学修		事前・事後学修については、各回に記載。 時間は、各120分。	
評　価　方　法		定期試験（100%）	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教　科　書		1.奈良間美保他：「系統看護学講座　小児看護学(1)小児看護学概論･小児臨床看護論」医学書院 2.奈良間美保他：「系統看護学講座　小児看護学(2)小児臨床看護各論」医学書院 3.森恵美：「系統看護学講座専門分野I・母性看護学概論」（第13版）医学書院 4.森恵美：「系統看護学講座専門分野II・母性看護学各論」（第13版）医学書院	
参　考　書		無	
履修上の注意点及び取扱い		講義はあくまでも自己学修を手助けするものである。講義前の予習をかならず行うこと。	

科目名	生体防御機構と免疫		
科目コード	33207	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B332071
授業形態	講義	開講時期	1年後期
必修・選択	選択		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	伊東　裕康・林　将大・畠山　和人		
実務経験	看護師として病院勤務（畠山）		
オフィスアワー	伊東：金曜日15：30～17：00 （内線: 1204　e-mail: h.ito.t@ikc.ac.jp) 畠山：講義終了後の休み時間 林：講義前10分間～講義後10分間(講師控室)		
科目概要	人がもつ病原体に対する防御機構と組織修復の機序について学修し、創傷治癒や生体防御を促進する看護についても学ぶ。人がもつ防御機構につては、自然免疫と獲得免疫について解説し、免疫機構を利用した医療や、移植において生じる免疫による拒絶反応、免疫によって引き起こされる病気について学ぶ。また、創傷治癒や生体防御を促進する看護について実例をもとに解説する。 「別表３：疾病の成り立ちと回復の促進」		
到達目標	①生体防御機構としての免疫を理解する。 ②医療における免疫の利用について理解する。 ③免疫異常について理解する。 ④創傷治癒や生体防御を促進する看護の実際を理解する。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①	免疫とは、免疫・生体防御の機構　概論 事前学修：感染症について復習しておくこと 事後学修：学習内容を復習しておくこと	伊東
2	④	創傷の予防と看護 【事前課題】皮膚の構造とバリア機能について調べてくる。 【事後課題】TIME理論、MDRPU、スキンテアについてまとめる。	畠山
3	①	免疫とその種類 事後学修：講義内容について復習しておくこと	林
4	①	自然免疫と生体防御 事後学修：講義内容について復習しておくこと	林
5	①	獲得免疫と生体防御 事後学修：講義内容について復習しておくこと	林
6	②	免疫を利用した感染症の予防と治療 事後学修：講義内容について復習しておくこと	林
7	①②③	免疫系が関わる事象：移植・輸血、免疫病 事後学修：講義内容について復習しておくこと	林
試験	①②③④	定期試験	全員

事前・事後学修	事前学修：講義の前に前回までの内容を確認。各回120分 事後学修：講義最後に次回の学修内容を指示する。各回120分
評価方法	定期試験（100%：林70%、畠山15%、伊東15%）
課題に対するフィードバック	課題レポート等はコメント等を付して返却する。
教科書	「わかる！身につく！ 病原体・感染・免疫　第3版」著：藤本秀士　目野郁　小島夫美子 南山堂　出版年：2017年
参考書	必要に応じて適宜紹介する。

履修上の注意点 及び取扱い	学修内容が多いので、復習は必ず行うこと。

科目名	臨床薬理学		
科目コード	33208	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B332082
授業形態	講義	開講時期	2年前期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	無		
教員名	吉見　陽		
実務経験	薬剤師として病院・調剤薬局勤務		
オフィスアワー	授業前後10分間（非常勤講師室）、およびメールによる問い合わせは随時可能 メールアドレス　吉見＜ayoshimi@meijo-u.ac.jp＞		
科目概要	種々の疾患に使用される主要な薬物を中心に、薬物の生態に対する作用（薬理作用）と生態の薬物に対する反応（吸収、分布、代謝、排泄等の薬物動態）、及び薬物間の相互作用、薬物と他の物質との相互作用について学修する。薬物処方、投与、管理の方法、留意事項についても学び、適切な薬物療法について理解を深める。 「別表３：疾病の成り立ちと回復の促進」		
到達目標	①薬物の主作用と副作用、相互作用を理解し、説明できる。 ②法律に基づいて、薬物取り扱い上の留意点や適切に投与することの重要性を理解し、説明できる。 ③医師、薬剤師、その他の医療関係者との連携・協働の必要性を理解し、説明できる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健 ・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①②③	ガイダンス、薬理学とは？、薬事関連法規、薬理学の基礎知識 ＊事前・事後学修　テキスト：P3～14　薬理学を学ぶにあたって、P15～63　薬理学の基礎知識、P327～336　付録：看護業務に必要な薬の知識	吉見
2	①②③	抗感染症薬・消毒薬：種類、作用と副作用、取り扱い、投与上の留意点、観察と記録 ＊事前・事後学修　テキスト：P67～102　抗感染症薬、P305～312　消毒薬	吉見
3	①②③	抗がん薬・免疫治療薬：種類、作用と副作用、取り扱い、投与上の留意点、観察と記録 ＊事前・事後学修　テキスト：P103～116　抗がん薬、P117～128　免疫治療薬	吉見
4	①②③	抗アレルギー薬・抗炎症薬：種類、作用と副作用、取り扱い、投与上の留意点、観察と記録 ＊事前・事後学修　テキスト：P129～144　抗アレルギー薬・抗炎症薬	吉見
5	①②③	末梢神経系用薬：種類、作用と副作用、取り扱い、投与上の留意点、観察と記録 ＊事前・事後学修　テキスト：P145～164　末梢での神経活動に作用する薬物	吉見
6	①②③	中枢神経系用薬：種類、作用と副作用、取り扱い、投与上の留意点、観察と記録 ＊事前・事後学修　テキスト：P165～195　中枢神経系に作用する薬物	吉見
7	①②	循環器系用薬：種類、作用と副作用 ＊事前・事後学修　テキスト：P197～237　循環器系に作用する薬物	吉見
8	①②③	循環器系用薬：取り扱い、投与上の留意点、観察と記録 ＊事前・事後学修　テキスト：P197～237　循環器系に作用する薬物	吉見

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
９	①②	呼吸器・消化器・生殖器系用薬：種類、作用と副作用 ＊事前・事後学修　テキスト：P239～258　呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物	吉見
１０	①②③	呼吸器・消化器・生殖器系用薬：取り扱い、投与上の留意点、観察と記録 ＊事前・事後学修　テキスト：P239～258　呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物	吉見
１１	①②③	物質代謝関連薬：種類、作用と副作用、取り扱い、投与上の留意点、観察と記録 ＊事前・事後学修　テキスト：P259～274　物質代謝に作用する薬物	吉見
１２	①②③	皮膚科・眼科用薬・救急用薬：種類、作用と副作用、投与上の留意点、観察と記録 ＊事前・事後学修　テキスト：P275～285　皮膚科用薬・眼科用薬、P287～296　救急の際に使用される薬物	吉見
１３	①②③	漢方薬・輸液製剤・輸血剤：種類、作用と副作用、投与上の留意点、観察と記録 ＊事前・事後学修　テキスト：P297～304　漢方薬、P313～326　輸液製剤・輸血剤	吉見
１４	①②③	授業の振り返り	吉見
試験	①②③	定期試験	吉見

事前・事後学修	全体の事前・事後学修は60時間とする。 事前：内容に対応する教科書の章を精読する（各回1時間） 事後：授業の内容を整理し、章末問題を解く（各回3時間）
評　価　方　法	小テスト（提出課題）30%、定期試験70%
課題に対するフィードバック	小テスト（提出課題）などは、後日授業内で補足解説をする。
教　　科　　書	吉岡充弘他、著：「系統看護学講座 専門基礎分野　薬理学（第15版）」、医学書院
参　　考　　書	医療情報科学研究所、編：「薬がみえるvol.1～3」、株式会社メディックメディア 講義内容のプリントを配付する。 その他、適宜紹介する。
履修上の注意点及び取扱い	１．学修内容が多いので、事前／事後学修を行い知識を整理すること。 ２．プリント等の資料がある場合には、講義開始前に講義室入り口に配置する。欠席した場合は、担当教員に連絡のうえ次回授業までに資料を取りにくること。 ３．講義時間中の離席、私語は厳禁である。授業を途中退出する場合は、授業開始までに理由書を担当教員に提出すること。 ４．知識確認の小テストや課題提出を随時行う予定であり、提出については都度指示をする。

科　目　名	医療概論		
科目コード	33301	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B333011
授業形態	講義	開講時期	1年後期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	伊藤　伸一		
実務経験	理事長として病院経営 専門医・認定医として病院勤務		
オフィスアワー	授業終了後10分間(理事長室)		
科目概要	健康と疾病の概念、及び国民健康づくりの概要、医療の成立における社会資源（人的資源、医療施設や機器、薬剤、医療関連法規、医療保険制度、医療政策）、医療の提供に必要な病院の管理・運営とその組織について理解し、医療の質を向上するための評価の仕組みについて学修する。また、現代医療の動向や現状、及びその課題についても理解し、人々がより健康な生活を送るための医療の提供と医療者の役割、医療者に求められる倫理について学修する。 「別表３：健康支援と社会保障制度」		
到達目標	①医療およびその周辺で起こる問題や環境の変化を深く理解し、実際に看護を行うための教養を身につける。 ②倫理を含めた医療の概念を学び、全人的な看護を提供できるよう広い視野を持つ。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
各専門職の役割を理解した上で、多職種と協働し、保健医療福祉のチームの一員として、看護職の役割を果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
継続的に学ぶ姿勢を身につけている	
自己を研き自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①②	医療と看護の原点：命について考える、死を直視する、医療史と医療観 ＊事前学修：上記の内容について図書館で調べ、ノートにまとめる ＊事後学修：授業内容をノートにまとめる	伊藤
2	①②	生活と健康：医療の仕組み、予防と健康増進、少子高齢社会 ＊事前学修：上記の内容について図書館で調べ、ノートにまとめる ＊事後学修：授業内容をノートにまとめる	伊藤
3	①②	科学技術の進歩と医療：先端医療の最前線 ＊事前学修：上記の内容について図書館で調べ、ノートにまとめる ＊事後学修：授業内容をノートにまとめる	伊藤
4	①②	現代医療の課題：生命倫理、延命治療、脳死、死の判定、医療情報の開示、インフォームドコンセント ＊事前学修：上記の内容について図書館で調べ、ノートにまとめる ＊事後学修：授業内容をノートにまとめる	伊藤
5	①②	患者の安全：インシデント　アクシデント、システムとしての医療のあり方 ＊事前学修：上記の内容について図書館で調べ、ノートにまとめる ＊事後学修：授業内容をノートにまとめる	伊藤
6	①②	新しい潮流：プライマリーケア、緩和ケア ＊事前学修：上記の内容について図書館で調べ、ノートにまとめる ＊事後学修：授業内容をノートにまとめる	伊藤
7	①②	医療関連法規、まとめ ＊事前学修：上記の内容について図書館で調べ、ノートにまとめる ＊事後学修：授業内容をノートにまとめる	伊藤

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
試験	①②	定期試験	伊藤
事前・事後学修		事前学修：講義の前に前回までの内容を確認。各回120分 事後学修：講義最後に次回の学修内容を指示する。各回120分	
評　価　方　法		定期試験100％	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教　　科　　書		小泉俊三、他著「系統看護学講座　健康支援と社会保障制度[１]総合医療論」(第３版)、医学書院	
参　　考　　書		無	
履修上の注意点及び取扱い		１．学修内容が多いので、事前学修は必ず行うこと。 ２．疑問に思ったことをそのままにせず、積極的に質問し、自学自修の習慣をつけること。	

科　目　名	看護援助的関係論		
科目コード	33302	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B333021
授業形態	講義	開講時期	1年後期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	大谷　恵・村岡　大志・髙島　孝晃		
実務経験	看護師として病院勤務（大谷・村岡・高島）		
オフィスアワー	授業日：授業終了後～17：30。 その他は、アポイントメントを取ってください。 メールによる問い合わせ先は以下の通りです。 大谷：m.otani.t@ikc.ac.jp、村岡：h.muraoka.t@ikc.ac.jp、 高島：t.takashima.t@ikc.ac.jp		
科目概要	看護実践の基礎となる援助的人間関係について理解し、その形成に関する理論と技法について学修する。また、対人関係における自己の傾向性や援助的関係形成のための基本的な態度やコミュニケーションについて、グループダイナミクスを活用した援助関係に関するワークを通して体験的に学ぶ。 「別表３：健康支援と社会保障制度」		
到達目標	① 援助的対人関係の基本的な考え方を説明できる。 ② 対人関係におけるこころの動き、相互作用や役割行動を説明できる。 ③ 援助的関係における自己理解と他者理解の必要性を説明できる。 ④ 援助的関係とコミュニケーションの関連を説明できる。 ⑤ 援助的関係における基本的な態度を説明できる。 ⑥ かかわりの場面を振り返り、対人関係における自己の傾向性を考察できる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①	ガイダンス、援助的対人関係とは：援助的対人関係の基本的意義、対人関係と援助的関係、対人関係を構成する要因 ＊事前学修：専門的援助関係について調べる。 ＊事後学修：授業内容についてノートにまとめる。	大谷
2	②	対人関係とこころの動き：人間関係の個人的特徴、対人関係と役割行動 ＊事前学修：対人関係におけるこころの動きについて調べる。 ＊事後学修：授業内容についてノートにまとめる。	村岡
3	②③	自己理解と他者理解；対人意識、対人感情、自己意識・自己分析、対人関係における基本的構え ＊事前学修：自己理解と他者理解について調べる。 ＊事後学修：授業内容についてノートにまとめる。	高島
4	①③④	感情と自己：感情の特徴と意味、かかわりで生じる感情に目を向けること、自分の気持ちを伝える技法 ＊事前学修：対人関係におけるこころの動きについて調べる。 ＊事後学修：授業内容についてノートにまとめる。	大谷
5	②③④⑥	【演習１】自己理解・他者理解・グループでのかかわりの理解：自己を「表現する」こと、相手を「わかる」こと、グループで「話すこと・聴くこと・起きたこと」を考える ＊事前学修：１～４回目の授業資料、演習資料を読む。 ＊事後学修：授業内容についてノートにまとめる。	大谷・村岡・髙島
6	③④⑤	援助的関係におけるコミュニケーション過程：援助的関係のプロセス、援助的コミュニケーション、援助場面の再構成（分析・解釈・評価） ＊事前学習：プロセスレコードについて調べておく。 ＊事後学習：授業内容についてノートにまとめる。	髙島

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
7	①③④⑤⑥	【演習２】援助的関係におけるコミュニケーション：基本姿勢、積極的傾聴と応答、コミュニケーション・プロセスの評価 ＊事前学習：６回目の授業資料を読んでおく。ロールプレイについて調べておく。 ＊事後学習：授業内容についてノートにまとめる。	髙島・村岡・大谷
レポート	①②③④⑤⑥	レポート	大谷・村岡・髙島
事前・事後学修		事前学修：指定された事前課題を実施する。各回120分 事後学修：指定された事後課題を実施する。各回120分	
評　価　方　法		レポート：60% 演習の課題（グループ演習（5回目）10%、ロールプレイ（7回目）10%）：20% 演習への参加状況：10% ミニッツノート：10%	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教　　科　　書		指定しない。必要に応じて文献などを適宜紹介する。	
参　　考　　書		１．深井喜代子編（2017）「基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ第5版」、メヂカルフレンド社. ２．服部祥子（2003）「人を育む人間関係論ー援助専門職者として個人として」、医学書院. ３．石川ひろの、他(2018)「系統看護学講座　基礎分野　人間関係論 第3版」、医学書院. ４．宮本真巳（1995）「感性を磨く技法１　看護場面の再構成」、日本看護協会出版会. ５．岡堂哲雄編（2000）「ナースのための心理学④　人間関係論入門」、金子書房. ６．武井麻子(2002)「グループという方法」、医学書院.	
履修上の注意点及び取扱い		１．事前学修：次回予定している授業内容を提示する。次回の授業までに提示された課題を実施する。予習を通しての次回の授業に関する疑問や問題意識をもって、授業に臨む。 ２．ミニッツノート：授業終了直前、短時間でのミニッツノートの記載を課題とする。ミニッツノートには、授業を振り返り、学んだことや感想、疑問、今後の課題など自由に記載する。記載された内容は授業の中でフィードバックする。 ３．事後学修：授業後は授業を振り返り、事前に抱いていた疑問や問題意識がどのように変化したか、何を学んだかを考えるとともに、事後学修課題に取り組む。 ４．グループ学修では、主体的なリーダーシップやメンバーシップが求められる。したがって、個々がグループダイナミクスを意識し、学びを進めることができるよう、自己の役割を考えながら参加する。 ５．疑問やわからないことがあれば、面談を受け付けているので、電子メールでアポイントをとる。 ６．授業を欠席した場合は、担当教員に連絡のうえ、次回授業前までに資料を取りにくる。 ７．授業を途中退出する場合は、授業開始までに理由書を担当教員に提出する。	

科　目　名	疫学		
科目コード	33303	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B333031
授業形態	講義	開講時期	1年後期
必修・選択	選択		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	榊原　久孝		
実務経験	産業医として勤務		
オフィスアワー	講義終了後10分		
科目概要	疫学の概念、疫学研究の基本を学ぶ。疫学的方法を活用して、個人や集団における健康状態を、文化的要因、環境要因、職業要因、遺伝的要因、生活習慣や年齢要因などから総合的に把握し、健康の維持増進、疾病予防について考えていく。疾病予防・健康の維持・増進を図るために、集団の健康に関する事象の分布を明らかにし、病気の原因や危険因子を多方面から評価することを理解する。授業では、疫学の歴史と概念、疫学指標、疫学研究法、標本の妥当性と精度、疫学的因果関係、スクリーニングの方法、研究における誤差と偏りの制御、論文読解の留意点について解説する。 「別表３：健康支援と社会保障制度」		
到達目標	①疫学の概念・方法を説明できる。 ②各種統計資料（論文を含む）を正しく（批判的に）理解できる。 ③看護研究に疫学研究法を応用できるよう務める。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①	疫学とは：疫学の歴史と概念 事前・事後学修：疾病と要因の関連を解明する疫学研究とは（教科書第1章）	榊原
2	①③	疫学研究法（１）：記述疫学、生態学研究、横断研究、有病率 事前・事後学修：　記述疫学、横断研究の特徴は（教科書 第2章 1、3、4）	榊原
3	①③	疫学研究法（２）：症例対照研究、コホート研究、介入研究、疫学的因果関係 事前・事後学修：症例対照研究、コホート研究の特徴は、エビデンスレベルの高い介入研究は（教科書 第2章 5、6、7、10、11）	榊原
4	①③	罹患率、相対危険、寄与危険、寄与危険割合、オッズ比 事前・事後学修：症例対照研究、コホート研究の暴露効果指標は（教科書 第2章 8、9）	榊原
5	①③	研究における誤差と制御法：選択バイアス、情報バイアス、交絡バイアス 事前・事後学修：疫学研究で注意すべき誤差（バイアス）要因と制御法は（教科書 第2章 12）	榊原
6	②③	疾病頻度の指標：有病率、罹患率、死亡率、致命率、死亡率の年齢調整 事前・事後学修：疾病頻度の各指標の特徴は（教科書 第3章）	榊原
7	②③	スクリーニングの信頼性と妥当性：敏感度と特異度 事前・事後学修：スクリーニング検査の信頼性と妥当性の評価は（教科書第5章）	榊原

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
試験	①②③	定期試験	榊原
事前・事後学修		事前学修：講義の前に前回までの内容を確認。 事後学修：講義最後に次回の学修内容を指示する。 各120分	
評　価　方　法		定期試験：80%、参加状況（課題に取り組む積極性）：20%	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教　　科　　書		浅野嘉延『看護学生のための疫学・保健統計（改訂4版）』（南山堂、2023)	
参　　考　　書		日本疫学会監修『はじめて学ぶやさしい疫学（改訂第4版）』（南江堂，2024） その他、適宜紹介する。	
履修上の注意点及び取扱い		教科書をもとに授業を進めるので、教科書を事前/事後学修して、疫学研究方法について理解すること。	

科　目　名	保健・医療・福祉システム論		
科目コード	33304	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B333042
授業形態	講義	開講時期	2年前期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	無		
教員名	榊原　久孝・江本　厚子		
実務経験	榊原：産業医として勤務 江本：看護師として病院勤務		
オフィスアワー	講義終了後10分		
科目概要	社会保障の理念と制度について、我が国における保健・医療・福祉システムの特色と意義、システムの現状とその課題について理解する。また、健康課題の解決に必要な保健医療福祉行政のサービスや社会資源について学修する。授業では、社会保障の歴史と理念、社会保障の全体像、地域保健法と地域保健行政、健康増進法と健康日本21、母子保健法と健やか親子21、労働基準法、医療保険制度の概要、介護保険と介護サービス、社会福祉法とシステム、精神保健福祉法と精神福祉行政、生活保護法とサービス内容、感染症法と予防接種、医療法、保健医療分野における国際協力源、さらに企業や市民参加などの連携によって行われる具体的な活動について解説する。 「別表３：健康支援と社会保障制度」 「別表２：地域母子保健」		
到達目標	①社会保障の理念と意義について説明できる。 ②保健医療福祉制度の全体像について説明できる。 ③地域保健、産業保健、学校保健、高齢者保健、精神保健に関する法律や政策、サービス内容について述べることができる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①②	社会保障制度の全体像と地域保健法・保健所 事前/事後学修：我が国の社会保障制度の全体像、保健所と市町村保健センターの役割は（配布資料）	榊原
2	②③	健康増進法と健康日本21 事前/事後学修：健康日本21、国民健康・栄養調査について（配布資料）	榊原
3	②③	高齢者医療確保法と特定健康診査 事前/事後学修：特定健康診査、特定保健指導とは（配布資料）	榊原
4	②③	児童福祉法と児童相談所 事前/事後学修：児童福祉法と児童相談所の役割は、健やか親子21の課題と児童虐待への対応は、DV防止法（配布資料）	榊原
5	②③	出産・育児・介護に関する支援制度：労働基準法、男女雇用機会均等法、育児・介護休業法 事前/事後学修：出産・育児・介護に関する支援制度の概要は（配布資料）	榊原
6	②③	医療法と医療機関、医療計画 事前/事後学修：医療施設の定義と医療計画とは（配布資料）	榊原
7	②③	障害者基本法、障害者総合支援法と国際生活機能分類（ICF） 事前/事後学修：障害者支援の歴史的背景と概要は（配布資料）	榊原

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
8	②③	精神保健福祉法と精神保健行政 事前/事後学修：精神障害者の入院形態、地域の精神保健福祉活動の概要は（配布資料）	榊原
9	②③	生活保護法とサービス内容、生活困窮者自立支援対策 事前/事後学修：生活保護制度と生活困窮者支援対策の概要は（配布資料）	榊原
１０	②③	社会保険と年金制度 事前/事後学修：社会保険と年金制度の仕組みとは（配布資料）	江本
１１	②③	保健医療分野における国際協力と国際機関 事前/事後学修：主な国際機関とJAICAの役割は、SDGsについて（配布資料）	榊原
１２	②③	介護保険法と介護保険サービスの概要、高齢者虐待防止法 事前/事後学修：介護保険のシステムとは（配布資料）	江本
１３	②③	医療保険制度の概要：健康保険と国民健康保険、後期高齢者医療保険 事前/事後学修：医療保険のシステムとは（配布資料）	江本
１４	②③	地域保健医療福祉と地域包括ケアシステム、認知症基本法 事前/事後学修：地域包括ケアシステムとは（配布資料）	江本
試験	①②③	定期試験	榊原・江本
事前・事後学修		事前・事後学修については、各回に記載。 時間は、各回120分。	
評　価　方　法		定期試験：80%、参加状況（課題に取り組む積極性）：20%	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教　　科　　書		無	
参　　考　　書		国民衛生の動向 2023/2024（厚生労働統計協会 2023） 健康支援と社会保障制度③社会福祉　（メヂカルフレンド社、2023）	
履修上の注意点及び取扱い		配布資料も使いながら講義をする。参考書も含めて事前/事後学習をして、我が国の保健医療福祉制度の概要を理解すること。	

科　目　名	公衆衛生学（2年）		
科目コード	33305	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B333052
授業形態	講義	開講時期	2年前期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	無		
教員名	榊原　久孝		
実務経験	産業医として勤務		
オフィスアワー	講義終了後10分		
科目概要	公衆衛生学とは、地域社会や産業現場などの公衆（集団）における、人々の健康の維持・増進を図る学問である。共同社会の組織的な努力を通して、地域住民の健康増進・維持、疾病の予防、早期発見に重点をおき、すべての生活者の健康の実現を追及する公衆衛生的考え方の基本を理解する。また、少子高齢社会の日本における出生から高齢までの各段階における健康課題とその対応策についても理解する。授業では、地域保健、産業保健、母子保健、高齢者保健、感染症の動向、我が国及び世界における環境問題について解説する。 「別表３：健康支援と社会保障制度」 「別表２：地域母子保健」		
到達目標	①人々の健康の保持増進について公衆衛生的な理解ができる。 ②少子高齢社会における人生の各段階における健康課題について説明できる。 ③現代の健康課題について公衆衛生的対応を述べることができる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①	公衆衛生の意義と考え方、WHOの健康の定義、予防の3段階 事前/事後学修：WHOの健康の定義と公衆衛生の意義、予防の3段階について（配布資料）	榊原
2	①	保健統計②人口統計、疾病統計と人口・疾病動向 の全体的動向 事前/事後学修：人口静態統計、人口動態統計の特徴は（教科書 第2編 第1章 第2章、配布資料）	榊原
3	②	保健統計②：国民生活基礎調査、患者調査の特徴 事前/事後学修：主な疾病統計（患者統計、国民生活基礎調査）の特徴は（教科書 第2編 第2章 第4章、配布資料）	榊原
4	②	生活習慣病の課題と対応策 事前/事後学修：生活習慣病の現状とその予防対策は。（教科書 第3編 第1章、配布資料）	榊原
5	②③	がんと生活習慣 事前/事後学修：生活習慣が関係するがんは。がんの予防で気をつけることは（教科書 第3編 第4章、配布資料）	榊原
6	②③	喫煙と健康影響 事前/事後学修：喫煙（直接と間接）の健康影響は。電子タバコの影響は（教科書 第3編 第1章、配布資料）	榊原
7	②③	母子保健の現状と母子保健対策 事前/事後学修：母子保健統計（人口動態統計）の特徴は。少子化と育児支援の課題は（教科書 第2編 第2章，第3編 第2章、配布資料）	榊原

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
8	②③	高齢社会の健康課題と対策（１） 事前/事後学修：2025問題とは（教科書 第2編 第3章、配布資料）	榊原
9	②③	高齢社会の健康課題と対策（２） 事前/事後学修：要介護・フレイルと認知症への対策は（教科書 第3編 第2章、配布資料）	榊原
１０	②③	産業保健と職場の衛生管理体制 事前/事後学修：職場の衛生管理の基本は。メンタルヘルス対策は（教科書 第8編 第1章 第2章、配布資料）	榊原
１１	②③	職場環境と職業性疾患 事前/事後学修：職業性疾患の発生に関与する要因は（教科書 第8編 第1章 第2章、配布資料）	榊原
１２	①③	感染症の動向と感染症対策 事前/事後学修：感染症対策の基本は（教科書 第8編 第3章、配布資料）	榊原
１３	①③	感染症法と予防接種法 事前/事後学修：感染症法と予防接種法による感染症対策は（教科書 第8編 第3章、配布資料）	榊原
１４	①③	環境問題の現状と課題 事前/事後学修：環境問題の歴史と現代の課題は（教科書第9編　第1章　第2章　第4章、配布資料）	榊原
レポート	①②③	レポート（現代の公衆衛生の課題と対策について）	榊原
事前・事後学修		事前・事後学修については、各回に記載。 時間は、各120分。	
評　価　方　法		レポート：70%、授業への参加状況（課題に取り組む積極性）：30%	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教　　科　　書		財団法人厚生統計協会編：「国民衛生の動向2023/2024」厚生統計協会	
参　　考　　書		１．古田眞司編著：「公衆衛生学入門－社会，環境と健康－（第6版）」昭和堂 ２．平野かよ子、山田和子、他編：「ナーシング・グラフィカ　公衆衛生（第6版）」メディカ出版 その他、適宜紹介する。	
履修上の注意点及び取扱い		追加資料も配布して授業する。教科書と併せて、各自が現代の公衆衛生の課題への対応を意識して学修すること。	

科　目　名	公衆衛生学（1年）		
科目コード	33305	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B333052
授業形態	講義	開講時期	1年後期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	無		
教員名	榊原　久孝		
実務経験	産業医として勤務		
オフィスアワー	講義終了後10分		
科目概要	公衆衛生学とは、地域社会や産業現場などの公衆（集団）における、人々の健康の維持・増進を図る学問である。共同社会の組織的な努力を通して、地域住民の健康増進・維持、疾病の予防、早期発見に重点をおき、すべての生活者の健康の実現を追及する公衆衛生的考え方の基本を理解する。また、少子高齢社会の日本における出生から高齢までの各段階における健康課題とその対応策についても理解する。授業では、地域保健、産業保健、母子保健、高齢者保健、感染症の動向、我が国及び世界における環境問題について解説する。 「別表３：健康支援と社会保障制度」 「別表２：地域母子保健」		
到達目標	①人々の健康の保持増進について公衆衛生的な理解ができる。 ②少子高齢社会における人生の各段階における健康課題について説明できる。 ③現代の健康課題について公衆衛生的対応を述べることができる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①	公衆衛生の意義と考え方、WHOの健康の定義、予防の3段階 事前/事後学修：WHOの健康の定義と公衆衛生の意義、予防の3段階について（配布資料）	榊原
2	①	保健統計②人口統計、疾病統計と人口・疾病動向 の全体的動向 事前/事後学修：人口静態統計、人口動態統計の特徴は（教科書 第2編 第1章 第2章、配布資料）	榊原
3	②	保健統計②：国民生活基礎調査、患者調査の特徴 事前/事後学修：主な疾病統計（患者統計、国民生活基礎調査）の特徴は（教科書 第2編 第2章 第4章、配布資料）	榊原
4	②	生活習慣病の課題と対応策 事前/事後学修：生活習慣病の現状とその予防対策は。（教科書 第3編 第1章、配布資料）	榊原
5	②③	がんと生活習慣 事前/事後学修：生活習慣が関係するがんは。がんの予防で気をつけることは（教科書 第3編 第4章、配布資料）	榊原
6	②③	喫煙と健康影響 事前/事後学修：喫煙（直接と間接）の健康影響は。電子タバコの影響は（教科書 第3編 第1章、配布資料）	榊原
7	②③	母子保健の現状と母子保健対策 事前/事後学修：母子保健統計（人口動態統計）の特徴は。少子化と育児支援の課題は（教科書 第2編 第2章，第3編 第2章、配布資料）	榊原

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
8	②③	高齢社会の健康課題と対策（１） 事前/事後学修：2025問題とは（教科書 第2編 第3章、配布資料）	榊原
9	②③	高齢社会の健康課題と対策（２） 事前/事後学修：要介護・フレイルと認知症への対策は（教科書 第3編 第2章、配布資料）	榊原
１０	②③	産業保健と職場の衛生管理体制 事前/事後学修：職場の衛生管理の基本は。メンタルヘルス対策は（教科書 第8編 第1章 第2章、配布資料）	榊原
１１	②③	職場環境と職業性疾患 事前/事後学修：職業性疾患の発生に関与する要因は（教科書 第8編 第1章 第2章、配布資料）	榊原
１２	①③	感染症の動向と感染症対策 事前/事後学修：感染症対策の基本は（教科書 第8編 第3章、配布資料）	榊原
１３	①③	感染症法と予防接種法 事前/事後学修：感染症法と予防接種法による感染症対策は（教科書 第8編 第3章、配布資料）	榊原
１４	①③	環境問題の現状と課題 事前/事後学修：環境問題の歴史と現代の課題は（教科書第9編　第1章　第2章　第4章、配布資料）	榊原
レポート	①②③	レポート（現代の公衆衛生の課題と対策について）	榊原
事前・事後学修		事前・事後学修については、各回に記載。 時間は、各120分。	
評　価　方　法		レポート：70%、授業への参加状況（課題に取り組む積極性）：30%	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教　　科　　書		財団法人厚生統計協会編：「国民衛生の動向2023/2024」厚生統計協会	
参　　考　　書		１．古田眞司編著：「公衆衛生学入門－社会，環境と健康－（第6版）」昭和堂 ２．平野かよ子、山田和子、他編：「ナーシング・グラフィカ　公衆衛生（第6版）」メディカ出版 その他、適宜紹介する。	
履修上の注意点及び取扱い		追加資料も配布して授業する。教科書と併せて、各自が現代の公衆衛生の課題への対応を意識して学修すること。	

科　目　名	医療経済		
科目コード	33306	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B333063
授業形態	講義	開講時期	3年前期
必修・選択	選択		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	吉矢　富美子		
実務経験	無		
オフィスアワー	講義終了後10分間(講師控室)		
科目概要	本講義では、医療の持つ様々な経済的特徴を踏まえたうえで、医療の消費者及び提供者の立場から、より良い医療の提供と医療提供の仕組みについて理解する。医療の質管理（医療の標準化、クリニカルパス、病院機能評価）とその評価、医療保険、及び我が国の保険診療と医療費支払い（支払の仕組み、診療報酬制度、社会保険制度、公費負担事業、DPCデータの活用など）について学修する。これらの学びを通して、臨床実践が病院経営に関わっていることを理解する。 「別表３：健康支援と社会保障制度」		
到達目標	①医療の消費者及び提供者の立場から、より良い医療の提供と医療提供の仕組みについて理解できる。 ②医療保険、診療報酬制度、公費負担事業について理解できる。 ③医療の質管理（医療の標準化、第三者評価、標準化など）の必要性について理解できる。 ④公表されている医療データを閲覧し活用することができる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①	医療の消費者と提供者（教科書：序論） キーワーズ：経済の語源、医療経済、医療経営、医療の需要と供給 【事前学修】医療を受ける立場、提供するという立場を身近な問題として考え授業に臨む。 【事後学修】医療はサービスであるという視点を整理する。	吉矢
2	③	医療保険制度（教科書：第1講、第2講） キーワーズ：医療保険、公的医療保険、公費負担事業、国民皆保険、国民医療費 【事前学修】あなたの健康保険証をみて「保険者」は何か、確認しておく。 国民医療費の概況＜厚生労働省ホームページ、 https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-iryohi/18/index.html を閲覧する。 【事後学修】授業の内容をふまえて、第22回医療経済実態調査　（医療機関等調査）　報告、令和元年実施、 https://www.mhlw.go.jp/bunya/iryouhoken/database/zenpan/jittaityousa/22_houkoku.html などを参考に、医療機関でかかる経費を概観する。	吉矢

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
3	①②	高齢者、難病の生活保障（教科書：第3講） キーワーズ：後期高齢者医療制度、介護保険、地域包括ケア 【事前学修】これまでに他の科目で学習した高齢者を対象とする医療や介護保険について確認しておく。 　難病の医療費助成について、難病情報センターのパンフレット https://www.nanbyou.or.jp/entry/1377　で確認しておく。 【事後学修】介護保険サービスの内容を確認する。	吉矢
4	②	診療報酬制度（教科書：第8講、第9講） 病院の財務と経営分析、DPCデータの活用、医療情報（第13講） キーワーズ：診療報酬制度、包括支払い方式（DPC/PDPS)、薬価、医療経営 【事前学修】自身または家族の医療機関での支払い時にだされる診療明細書の記載を確認する。 教科書13.1「厚生労働省が公表する統計」（教科書pp.226-231）をよく読んで授業に臨む。 【事後学修】診療明細書の記載内容を整理しておく。 　①表8-1「主な医療制度とその根拠」（教科書p.152）を理解する。 　②病院情報局　https://hospia.jp/　を閲覧し、気になる情報を収集してデータを活用する。	吉矢
5	①②④	医療提供のしくみ（教科書：第7講、第12講） キーワーズ：医療機関の開設主体、病院の機能分化、病床の区分、資源管理 【事前学修】愛知県の地域医療構想（概要版) https://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/224124.pdf を閲覧して、愛知県の医療提供はどのようにおこなわれているかを閲覧しておく。 【事後学修】気になる医療施設の開設主体、機能、病床などを調べる。	吉矢
6	②	主要国の医療環境（教科書第14講） キーワーズ：社会保険方式、国民保健サービス方式、私的（民間）保険方式 【事前学修】気になる国の医療について調べておく。 【事後学修】医療保険制度（社会保険方式、国民保健サービス方式、私的（民間）保険方式）の特徴をまとめる。	吉矢
7	③	医療の質管理（教科書：第5講） ドナベディアンの質評価、看護の質、第三者評価、標準化 【事前学修】日本医療機能評価機構による評価を　https://www.jq-hyouka.jcqhc.or.jp/accreditation/outline/ から閲覧する。 【事後学修】看護の質評価を具体的なケアを通してノートにまとめる。	吉矢
試験	①②③④	定期試験 定期試験の内容には、事前学習･事後学習を反映した問題を含む	吉矢
事前・事後学修		事前学修：講義の前に前回までの内容を確認。 事後学修：講義最後に次回の学修内容を指示する。	
評　価　方　法		定期試験 100%	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教　　科　　書		細谷圭 他、著：「医療経済学　15講」、新世社	
参　　考　　書		厚生労働統計協会：国民衛生の動向、厚生労働統計協会	
履修上の注意点及び取扱い		事前・事後学修をおこない、授業に積極的に参加をすること。	

科　目　名	コミュニケーション支援論		
科目コード	33307	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B333072
授業形態	講義	開講時期	2年後期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	大谷　恵・緒川　和代・鈴木　絵理奈		
実務経験	大谷：看護師として病院勤務 緒川：公認心理師・臨床心理士として病院勤務		
オフィスアワー	事前にメールでアポイントメントをとってください。		
科目概要	発達障害・聴覚障害・高次機能障害（失語など）により意思伝達における障害を持つ人々のコミュニケーション上の課題を理解する。そのうえで、実際的な意思伝達の方法について学び、人々へのより良い支援の必要性と方法を学修する。授業では、高次機能障害である失語症患者、発達障害を持つ小児、聴覚障害者、及び高齢者との効果的なコミュニケーション方法を取り上げる。 「別表３：健康支援と社会保障制度」		
到達目標	①意思伝達における障害を持つ人々のコミュニケーション上の課題を理解できる。 ②意思伝達の実際的な方法について学び、人々とのより良いコミュニケーションの基本的な方法と必要性を理解できる。 ③意思伝達における障害を持つ人々のコミュニケーション上の課題と支援の必要性を理解し、コミュニケーションの基本的な方法を理解する。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①②③	対人援助における聴くこと・伝えること 事前学修：対人援助場面におけるコミュニケーションについてイメージしてくる。 事後学修：授業内容を復習しておく。	鈴木
2	①②③	人の心への理解と支援におけるかかわり 事前学修：提示する資料を読んでおく。 事後学修：授業内容を復習しておく。	鈴木
3	①②③	障害をもつ人とのコミュニケーション 事前学修：提示する資料を読んでおく。 事後学修：授業内容を復習しておく。	鈴木
4	①②③	対人関係技術としてのコミュニケーション 事前学修：対人援助職に必要なコミュニケーション技術とはなにか考える。 事後学修：授業内容をノートにまとめる。	緒川
5	①②③	神経発達症の基礎知識 事前学修：神経発達症について調べる。 事後学修：授業内容をノートにまとめる。	緒川
6	①②③	神経発達症を持つ人とのコミュニケーション１ 事前学修：障害を持つ人とのコミュニケーションをイメージする。 事後学修：授業内容をノートにまとめる。	緒川
7	①②③	神経発達症を持つ人とのコミュニケーション２ 事前学修：課題となる参考書を読む。自己にて文献を調べる。 事後学修：授業から理解したことをレポートにまとめる。	緒川

事前・事後学修	事前・事後学修については、各回に記載。 時間は、各120分。
評価方法	レポート100%
課題に対するフィードバック	課題レポート等はコメント等を付して返却する。

教　　科　　書	必要に応じて、授業中に資料や文献を提示する。
参　　考　　書	滝川一廣：「子どものための精神医学」医学書院
履修上の注意点 及び取扱い	グループ学修では、主体的なリーダーシップやメンバーシップが求められる。したがって、個々がグループダイナミクスを意識し、学びを進めることができるよう、自己の役割を考えながら参加すること。 講義中の不必要な私語やスマートフォンの操作は他の受講生への影響を考えて控えること

科　目　名	基礎看護学Ⅰ(看護学概論)		
科目コード	34101	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B341011
授業形態	講義	開講時期	1年前期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	「基礎看護学実習Ⅱ」の単位数先修条件となる。		
教員名	渡邉　順子		
実務経験	看護師として病院勤務		
オフィスアワー	各回の講義終了後、10分間（講師控室）		
科目概要	激しく変革する医療を冷静に見据え、的確な看護を診断し、適切な治療的看護介入と看護成果が求められている。そのために看護の歴史的変遷から過去・現在・未来を探求し、看護の科学化に貢献する主な看護理論から看護学の主要概念「人間」「環境」「健康」「看護」を学習し、基本的な看護の機能と役割を学ぶ。さらに看護に必要な倫理的側面と法的側面について考察し、看護実践者として意図的に実践するための論理的思考の基礎を培う。 「別表３：基礎看護学」		
到達目標	１．看護の主要概念を説明できる。 ２．看護の歴史的変遷を説明できる。 ３．代表的な看護理論の概要を説明できる。 ４．看護専門職の役割、機能を説明できる。 ５．看護に関する法律、専門職としての責務や倫理の基礎知識を説明できる。 ６．看護を意図的に実践するための論理的思考ができる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	○
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	②	授業ガイダンス:授業の進め方、事前事後学修の提示と提出、成績評価、大学での看護の学び方を説明する。 ●講義のテーマ：「看護の歴史と成り立ち（欧米編）」 ●事前学修：欧米の看護の歴史について、教科書および関連する文献／図書の該当部分を通読し、その特徴をまとめておく。 ●事後学修：授業において、事前学修で得られなかった欧米の看護の歴史の特徴を追加してまとめる。	渡邉
2	②	●講義のテーマ：「看護の歴史と成り立ち（日本編）」 ●事前学修：日本の看護の歴史について、教科書および関連する文献／図書の該当部分を通読し、その特徴をまとめておく。 ●事後学修：授業において、事前学修で得られなかった日本の看護の歴史の特徴を追加してまとめる。	渡邉
3	①②③	●講義のテーマ：「看護大理論／ナイチンゲール」 医学とは異なる看護というはたらきを、歴史上はじめて明言したナイチンゲールの合理的な考えと実践力について、わかりやすく読み解く。 ●事前学修：ナイチンゲールの看護理論について、教科書および関連する文献／図書の該当部分を通読し、その特徴をまとめておく。 ●事後学修：授業において、事前学修で得られなかったナイチンゲールの看護理論の特徴を追加してまとめる。	渡邉
4	①②③	●講義のテーマ：「セルフケア理論／オレム」 人は自己の生命や機能をコントロールするためにセルフケア活動を行うが、セルフケアができない状態（患者）になると他者からそれを補う援助（看護）をうけると考えたオレムのセルフケア理論を読み解く。 ●事前学修：オレムのセルフケア理論について、教科書および関連する文献／図書の該当部分を通読し、その特徴をまとめておく。 ●事後学修：授業において、事前学修で得られなかったオレムのセルフケア理論の特徴を追加してまとめる。	渡邉

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
5	①②③	●講義のテーマ：「ケアリング理論／ワトソン」 ケアとは何かを問う。ケアリングとは、ケアする人とケアされる人の相互関係によって、双方が成長するとするワトソンの考え方を学ぶ。 。 ●事前学修：ワトソンのケアリング理論について、教科書および関連する文献／図書の該当部分を通読し、その特徴をまとめておく。 ●事後学修：授業において、事前学修で得られなかったワトソンのケアリング理論の特徴を追加してまとめる。	渡邉
6	③④	●講義のテーマ：「看護と人間／看護が必要な人とは」 看護が必要な人について理解を深め,人の生涯と暮らし、家族、社会集団、地域との関係を理解する。 ●事前学修：人の生涯と暮らし、家族、社会集団、地域について、教科書および関連する文献／図書の該当部分を通読し、その特徴をまとめておく。 ●事後学修：授業において、事前学修で得られなかった人の生涯と暮らし、家族、社会集団、地域についてを追加してまとめる。	渡邉
7	②③④	●＜講義のテーマ＞「看護と健康」 WHOの健康の概念と生涯に関わる現代社会の健康課題について考える 。 ●事前学修：健康について、教科書および関連する文献／図書の該当部分を通読し、その概要をまとめておく。 ●事後学修：授業において、事前学修で得られなかった健康に関する課題を追加してまとめる。	渡邉
8	④⑤	●＜講義のテーマ＞「看護と環境」 人の命と暮らしに関わる「環境」について考える。 ●事前学修：環境について、教科書および関連する文献／図書の該当部分を通読し、その概要をまとめておく。 ●事後学修：授業において、事前学修で得られなかった環境に関する課題を追加してまとめる。	渡邉
9	④⑤	＜講義のテーマ＞「看護の法律・医療安全」 看護に関連する法律と医療安全、医療事故防止（ヒューマンエラー、インシデント）について考える。 ●事前学修：看護に関連する法律と医療安全、医療事故防止（ヒューマンエラー、インシデント）について、教科書および関連する文献／図書の該当部分を通読し、その概要をまとめておく。 ●事後学修：授業において、事前学修で得られなかった看護に関連する法律と医療安全、医療事故防止（ヒューマンエラー、インシデント）に関する課題を追加してまとめる。	渡邉
１０	④⑤	＜講義のテーマ＞「看護と倫理」 生命倫理等、看護に関連する倫理について考える。 ●事前学修：生命倫理等、看護に関連する倫理について、教科書および関連する文献／図書の該当部分を通読し、その概要をまとめておく 。 ●事後学修：授業において、事前学修で得られなかった生命倫理等、看護に関連する倫理に関する課題を追加してまとめる。	渡邉
１１	④⑥	●講義のテーマ：「看護診断」 医学診断とは異なる看護診断を理解し、看護実践する上で重要な判断能力：クリティカルシンキングについて、わかりやすく読み解く。 ●事前学修：看護診断とクリティカルシンキングについて、教科書および関連する文献／図書の該当部分を通読し、その特徴をまとめておく。 ●事後学修：授業において、事前学修で得られなかった看護診断とクリティカルシンキングの特徴を追加してまとめる。	渡邉
１２	④⑥	●講義のテーマ：「看護の成果と介入」 看護を実践する上で適切な看護診断に基づいた必要な看護の成果と介入について、具体的な事例をもとにわかりやすく読み解く。 ●事前学修：適切な看護診断に基づいた必要な看護の成果と介入について、教科書および関連する文献／図書の該当部分を通読し、その特徴をまとめておく。 ●事後学修：授業において、事前学修で得られなかった適切な看護診断に基づいた必要な看護の成果と介入の特徴を追加してまとめる。	渡邉
１３	④⑥	●講義のテーマ：「看護の技術」 看護を実践する際の科学的な看護技術について、具体的な事例をもとにわかりやすく読み解く。 ●事前学修：看護を実践する際の科学的な看護技術について、教科書および関連する文献／図書の該当部分を通読し、その特徴をまとめておく。 ●事後学修：授業において、事前学修で得られなかった看護を実践する際の科学的な看護技術の特徴を追加してまとめる。	渡邉
１４	④	●講義のテーマ：「看護教育と看護研究」 看護をより進化発展させるために必要な看護基礎教育と継続教育、および看護の研究について、議論する。 ●事前学修：看護基礎教育と継続教育、および看護の研究について、教科書および関連する文献／図書の該当部分を通読し、その特徴をまとめておく。 ●事後学修：授業において、事前学修で得られなかった看護基礎教育と継続教育、および看護の研究の特徴を追加してまとめる。	渡邉

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
試験	①②③④⑤⑥	定期試験（筆記試験）、毎回の授業時に指定された事前・事後課題レポートをポートフォリオにして提出する	渡邉
事前・事後学修		毎回の授業時に指定された事前・事後学修をポートフォリオにて作成する。事前・事後学修の所要時間は各120分程度。	
評　価　方　法		定期試験：40%、事前・事後学修（ポートフォリオ）：40%、授業姿勢（発言頻度等）：20%	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教　　科　　書		・基礎看護学[1] 看護学概論 第17版（系統看護学講座(専門分野)):医学書院 ・看護職の基本的責務 2024年版：日本看護協会出版会 ・患者の声から考える看護：医学書院、2020	
参　　考　　書		・必要時、授業中に提示する。	
履修上の注意点及び取扱い		遵守１．事前・事後学修を前提として授業を進める。課された学修は随時提出を求め、評価の対象とする。事前・事後学修によって理解を確実に、かつ深める経験を通して、「看護の学び方」の基本が身に付くことを期待する。 ２．履修における基本的な注意事項を遵守しない言動について、評価成績を減じる場合がある。 ３．原則として、提出期限を過ぎた提出物は評価しない。 ４．定期試験は、履修規定に準ずる。原則、再試験は行わない。	

科目名	基礎看護学Ⅱ(基礎看護技術論①)		
科目コード	34102	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B341021
授業形態	講義・演習	開講時期	1年後期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	45時間
先修条件	１．「基礎看護学Ⅰ」を履修していること。２．「基礎看護学実習Ⅱ」の単位数先修条件となる。		
教員名	鈴江　智恵・後藤　美恵・佐々木　久美子・滝沢　美世志・横井　優子		
実務経験	看護師として病院勤務(鈴江・後藤・佐々木・滝沢・横井)		
オフィスアワー	講義・演習終了後(火曜日）、直接または研究室の内線電話・メールでアポイントを取る。必要に応じて別途ゼミナール室等で対応する。 鈴江：内線　4333　t.suzue.t@ikc.ac.jp 後藤：内線　4326　m.goto.t@ikc.ac.jp 佐々木：内線　4322　k.sasaki.t@ikc.ac.jp 滝沢：内線　4320　m.takizawa.t@ikc.ac.jp 横井：内線　4218　y.yokoi.t@ikc.ac.jp		
科目概要	人間の基本的欲求の充足を基盤とした日常生活行動への援助を目的に、科学的根拠に基づいた基本的な生活援助技術を学修する。また、対象者の安全性、安楽性（快適性）、自立性を考慮した日常生活への援助、その人らしく生活を送るための援助の方法について医療機関だけでなく、在宅など看護の提供場所も考慮した援助技術を学修する。学修に当たっては、ロールプレイングやシミュレーション学修を活用して個別の状況を想定した援助方法を考える。 「別表３：基礎看護学」		
到達目標	①日常生活を支える看護師の役割を理解し、その役割達成のための倫理的配慮を説明できる。 ②日常生活を支える看護技術の原理･原則をふまえた基本的な方法が説明できる。 ③対象の状況に合わせた具体的方法について、科学的根拠に基づいた説明ができる。 ④ケアの過程における安全性・安楽性、自立性を配慮した基礎看護技術について考えることができる。 ⑤すべての看護技術において標準予防策が実施できる。 ⑥ボディメカニクスを活用して看護技術が実施できる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①④	＜学修ガイダンス＞ 学修の進め方と評価、授業・演習に必要な身だしなみなど、実習室の使い方と見学 【講義】 教科書p.17-28 ＜看護技術とは何か＞<看護に共通する重要な看護技術の考え方> ・看護技術の根底にあるものと特徴/看護実践を構成する要素 この科目で学ぶ看護技術 ・看護職を目指す者としての身だしなみと行動（白衣の着用） 【事前学修】ラーニング・ポートフォリオの準備をする（A4リングファイル）をし、教科書の指定範囲を精読する。 【事後学修】科目の学修・評価方法、科目概要・到達目標について理解する。授業の最後に学修目標に関してポータルで出題するので、講義内容・自己学修した内容、目標の達成度をラーニング・ポートフォリオで整理する.	鈴江

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
2	①②③④⑤⑥	【講義】教科書p.44-51、教科書p.84-112 【本科目で学修する内容のポイント】 ＜安楽かつ快適性さを確保する技術＞ ・安楽の定義、安楽の援助とは ＜患者の安全・医療従事者の安全を守る技術＞ ・医療安全の概念/個人・組織としての取り組み ・医療事故とその対策 ・医療従事者の安全/ボディメカニクス 細菌・ウィルス曝露、放射線暴露、薬剤曝露の機会と予防策 【事前学修】教科書の指定範囲を読み、太字の用語の説明を自己学修ノートに説明を加える。 【事後学修】事前学修、講義・ポータルによる出題の内容についての理解や疑問に対する学修などから学修目標の達成度をラーニング・ポートフォリオで整理する。	鈴江
3	①②④	【講義】教科書p.114-130、p.143-145 <感染予防を推進する技術> ・感染予防の意義/感染症に関する法律と分類/感染症を成立させる要素と成立過程 ・感染予防のための援助方法 スタンダードプリコーション（標準予防策）/感染経路別予防対策 感染症を予防するための技術 ・医療廃棄物の取り扱い 【事前学修】教科書の指定範囲を読み、太字の用語の説明をラーニングポートフォリオにまとめる。 【事後学修】事前学修、講義・ポータルによる出題の内容についての理解や疑問に対する学修などから学修目標の達成度をラーニング・ポートフォリオで整理する。	佐々木
4	①②③④⑤	【演習】＜感染予防を推進する技術の実際＞ ・手指衛生/個人防護用具（PPE）の選択・着脱手順 手袋、プラスチックエプロン、サージカルマスクの装着 /廃棄物の処理 <シミュレーション>設定した状況から、実際にPPE の選択し、着脱と使用後のPPEの廃棄までの方法を実施する。 【事前学修】指定された事前課題に取り組む 【事後学修】指定された事後課題に取り組む	佐々木、鈴江、後藤、滝沢、横井
5	①②③④	【講義】教科書p.30-42.p.51－62,p.240－254 ＜快適な環境を整える技術（１）＞ ・ 環境の意義と快適な環境を整える技術 ・快適な病室の環境と病床を整える援助 ・ベッド・リネンの管理、ベッドメーキング ＜安楽かつ快適さを確保する技術＞ ・安楽な姿勢と体位の保持 ＜休息・睡眠を促す技術＞ ・休息・睡眠の意義と睡眠を促す援助技術 【事前学修】教科書の指定範囲を読み、太字の用語の説明をラーニング・ポートフォリオに説明を加える。 【事後学修】事前学修、講義・ポータルによる出題の内容についての理解や疑問に対する学修などから学修目標の達成度をラーニング・ポートフォリオで整理する。	鈴江
6	①②③④⑤⑥	【演習】グループワーク ＜快適な環境を整える技術の実際＞ ボディメカニクスを使ってベッドメーキングを行い、グループで方法を検討する。 ＜シミュレーション＞設定した状況にあった援助方法を考える。 【事前学修】指定された事前課題に取り組む 【事後学修】指定された事後課題に取り組む	鈴江、後藤、佐々木、滝沢、横井
7	①②③④	【講義】p.204-238 ＜活動・運動を支援する技術＞ ・活動・運動の意義と生理学的メカニズム 体位変換/移動・移送への援助 車椅子・ストレッチャーを使った移送 【事前学修】教科書の指定範囲を読み、太字の用語の説明をラーニング・ポートフォリオに説明を加える。 【事後学修】事前学修、講義・ポータルによる出題の内容についての理解や疑問に対する学修などから学修目標の達成度をラーニング・ポートフォリオで整理する。	後藤
8	①②③④⑤⑥	【演習】グループワーク ＜活動・運動を支援する援助技術の実際＞ ・安楽な姿勢・体位の保持・体位変換の援助技術 ・移動・移送への援助/ベッドから車椅子への移乗への援助の実際 ＜ロールプレイング＞看護師・患者役をし、援助をする者、受ける者として看護技術を考える。 ＜シミュレーション＞設定した対象にあった援助方法を考える。 【事前学修】指定された事前課題に取り組む 【事後学修】指定された事後課題に取り組む	後藤、鈴江、佐々木、滝沢、横井

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
9	①②③④	【講義】教科書p.256-286 ＜身体の清潔の援助技術（１）＞ ・清潔の意義とその影響 ・清潔のニーズ、セルフケアに影響を与える要因 ・衣生活への援助 ・援助方法の選択と方法 【事前学修】教科書の指定範囲を読み、太字の用語の説明をラーニング・ポートフォリオに説明を加える。 【事後学修】事前学修、講義・ポータルによる出題の内容についての理解や疑問に対する学修などから学修目標の達成度をラーニング・ポートフォリオで整理する。	鈴江
１０	①②③④ ⑤⑥	【演習】グループワーク ＜環境を整える技術＞＜身体の清潔の援助技術＞ ＜活動・運動を支援する技術＞ ・臥床している対象のリネン（シーツ）交換を既習の看護技術を活用して実施する ＜ロールプレイング＞看護師・患者役をし、援助をする者・受ける者として看護技術を考える。 ＜シミュレーション＞設定した対象にあった援助方法を考える。 【事前学修】指定された事前課題に取り組む 【事後学修】指定された事後課題に取り組む	後藤、鈴江、佐々木、滝沢、横井
１１	①②③④ ⑤⑥	【演習】グループワーク ＜衣生活への援助＞＜活動・運動を支援する技術＞」 ・臥床している対象のリネン（寝衣）交換を既習の看護技術を活用して実施する ＜ロールプレイング＞看護師・患者役をし、援助をする者・受ける者として看護技術を考える。 ＜シミュレーション＞設定した対象にあった援助方法を考える。 【事前学修】指定された事前課題に取り組む 【事後学修】指定された事後課題に取り組む	後藤、鈴江、佐々木、滝沢、横井
１２	①②③④ ⑤⑥	【講義】教科書p.256-286 ＜身体の清潔の援助技術＞ ・整容、口腔ケア、入浴、シャワー浴、部分浴、洗髪、全身清拭、陰部洗浄、 ・臥床患者の援助技術 【事前学修】教科書の指定範囲を読み、太字の用語の説明をラーニング・ポートフォリオに説明を加える。 【事後学修】事前学修、講義・ポータルによる出題の内容についての理解や疑問に対する学修などから学修目標の達成度をラーニング・ポートフォリオで整理する。	鈴江
１３	①②③④	【講義】グループワーク ＜身体の清潔の援助技術＞ 援助計画の作成 ＜シミュレーション＞設定した対象にあった援助方法の選択と手順・留意点を援助計画書として作成する。 【事前学修】指定された事前課題に取り組む 【事後学修】指定された事後課題に取り組む	鈴江、横井
１４	①②③④ ⑤⑥	【演習】グループワーク 身体の清潔援助を既習の看護技術を活用して部分浴を実施する。 ＜ロールプレーイング＞看護師・患者役をし、援助をする者、受ける者として看護技術を考える。 ＜シミュレーション＞援助計画書にそって実施する。 【事前学修】指定された事前課題に取り組む 【事後学修】指定された事後課題に取り組む	鈴江、後藤、佐々木、滝沢、横井
１５	①②③④ ⑤⑥	【演習】グループワーク 身体の清潔援助を既習の看護技術を活用して部分清拭を実施する。 ＜ロールプレーイング＞看護師・患者役をし、援助をする者、受ける者として看護技術を考える。 ＜シミュレーション＞援助計画書にそって実施する。 する。 【事前学修】指定された事前課題に取り組む 【事後学修】指定された事後課題に取り組む	鈴江、後藤、佐々木、滝沢、横井
１６	①②③④ ⑤⑥	技術テスト（チェック） 臥床患者のシーツ交換または寝衣交換（体位変換・ボディメカニクス・シーツ交換/寝衣交換）の技術チェックを行う。 事前学修：関連する演習記録を踏まえてチェックリストを作成して技術チェックに臨む。 事後学修：チェックリストを踏まえて技術チェックの結果をふり返り、学修成果を自己評価表にまとめる。	鈴江、後藤、佐々木、滝沢、横井
１７	①②③④	【講義】グループワーク 教科書p.164-169 ＜食事・栄養摂取を促す援助＞ 食事援助の基本、摂食・嚥下障害のある患者の援助 体位・体動制限のある患者の援助 ＜シミュレーション＞援助計画書の作成。 【事前学修】教科書の指定範囲を読み、太字の用語の説明をラーニング・ポートフォリオに説明を加える。 【事後学修】事前学修、講義・ポータルによる出題の内容についての理解や疑問に対する学修などから学修目標の達成度をラーニング・ポートフォリオで整理する。	滝沢

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
１８	①②③④⑤⑥	【演習】グループワーク 食事・栄養に関する援助の実際 ＜ロールプレーイング＞看護師・患者役をし、援助をする者、受ける者として看護技術を考える。 ＜シミュレーション＞設定した対象にあった援助方法（援助計画）を計画し実施する。 【事前学修】指定された事前課題に取り組む 【事後学修】指定された事後課題に取り組む	滝沢、鈴江、後藤、佐々木、横井
１９	①②③④	【講義】教科書p.176-191 ・排泄を促す援助 排尿・排便の意義と生理学的メカニズム 排尿・排便のニーズのアセスメント、 自然排尿・排便を阻害する要因と種類 ・排尿・排便の援助（自然排尿・排便を促す援助） 床上での排尿・排便の援助、おむつを用いた援助 ポータブルトイレ、トイレの援助 【事前学修】教科書の指定範囲を読み、太字の用語の説明を自己学修ノートに説明を加える。 【事後学修】事前学修、講義・ポータルによる出題の内容についての理解や疑問に対する学修などから学修目標の達成度をラーニング・ポートフォリオで整理する。	後藤
２０	①②③④⑤⑥	【演習】グループワーク 排尿・排便の援助 ＜シミュレーション＞設定した対象にあった援助方法を計画し、実施する。 【事前学修】指定された事前課題に取り組む 【事後学修】指定された事後課題に取り組む	鈴江、後藤、佐々木、滝沢、横井
２１	①②③④	学修の振り返り、まとめ	鈴江、滝沢、後藤、、佐々木
試験	①②③④	定期試験	鈴江、後藤、佐々木、滝沢、横井
事前・事後学修		事前学修：教科書（講義範囲ページ）の内容を読んで講義を受ける。演習においては演習の事前課題に取り組む。 講義：各回120分、演習：各30分 事後学修：講義・演習内容を振り返り返り、提示したワークシートあるいは演習の事後課題に取り組む。 講義：各回120分、演習：30分	
評　価　方　法		ラーニング・ポートフォリオの内容10%、定期試験７0%、技術テスト（評価基準を用いたチェックシートの使用）20%	
課題に対するフィードバック		・学修内容の疑問は当日の講義または次回の講義内で説明する。 ・講義の最後に行うアンケートで正解率が低かった内容を最終回で振り返り、解説する。	
教　科　書		教科書：松尾ミヨ子他編：ナーシング・グラフィカ　基礎看護学③　「基礎看護技術Ⅱ　看護実践のための技術」（2022年度版）、メディカ出版.	
参　考　書		必要時、資料を配布する。 参考書： １．茂野香おる他：「基礎看護技術Ⅰ」（改定18版）、医学書院 ２．茂野香おる他：「基礎看護技術Ⅱ」（改定17版）、医学書院 ３．任和子他著：「根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術」（第2版）、医学書院 ４．医療情報科学研究所編：「看護技術がみえるvol.1　基礎看護技術」、メディックメディア ５．竹尾恵子監修：「看護技術プラクティス」（第4版）、学研メディカル秀潤社	
履修上の注意点及び取扱い		１．講義・演習にかかわらず原則、受講はすべて白衣着用とするが、演習項目によってポロシャツの着用を指示する。身だしなみを整えて受講する。 ２．演習項目によっては、メンバーチェンジしているのでメンバー表の確認を必ず事前に行う。 ３．学修の成果をラーニング・ポートフォリオにまとめ、指定日に提出する。配布資料、演習課題（ワークシートなど）、自己学習などの事前・事後学修は授業の順序の通りにインデックスをつけてファイルに綴じる。 【提出物】Ａ４紙ファイル、背表紙に学籍番号、氏名を明記したもの ４.演習前に取り組んだ事前課題は演習当日に持参し、教員の確認を受け演習に活用する。 ５.演習はグループ（4～5人）で演習要項に沿って主体的に進める。グループで検討した結果は事後課題としてまとめる。演習後の課題は提出期限を設けて、提出を求める。期限外に提出する場合は授業担当の教員に連絡する。原則として期限内の提出を成績の評価対象とする。 ６.講義の出欠席の確認はシステムを使用する。実習室での演習については、ベッドグループ毎に開始時と終了時に担当教員が確認する。 6.技術テストを受ける前に技術アワーを積極的に活用し、教員による指導を受けることを推奨する。技術テストで基本技術項目が一定基準を満たさなかった場合は、再チェックを受ける。 7.単位取得に必要な出席回数は、学修ガイダンスにある通りである。 8.定期試験、技術テスト、ラーニングポートフォリオの評価の合計が大学の評価基準の合格（60点以上）に満たなかった場合は、再試験を受ける。	

科目名	基礎看護学III(看護過程の理論と展開)		
科目コード	34103	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B341032
授業形態	講義	開講時期	2年前期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	１．「基礎看護学Ⅰ・Ⅱ」を履修していること。２．「基礎看護学実習Ⅱ」の単位数先修条件となる。		
教員名	後藤　美恵・鈴江　智恵・佐々木　久美子・滝沢　美世志・横井　優子		
実務経験	看護師として病院勤務(鈴江・後藤・佐々木・滝沢・横井)		
オフィスアワー	各回の講義終了後、直接または研究室の内線電話・メールでアポイントを取る。必要に応じて別途ゼミナール室等で対応する。 鈴江：内線　4333　t.suzue.t@ikc.ac.jp 後藤：内線　4326　m.goto.t@ikc.ac.jp 佐々木：内線　4322　k.sasaki.t@ikc.ac.jp 滝沢：内線　4320　m.takizawa.t@ikc.ac.jp 横井：内線　4218　y.yokoi.t@ikc.ac.jp		
科目概要	看護過程の展開の一連のプロセスと各段階の目的と方法を学修する。事例を通して、情報収集とその分析、アセスメント、看護診断、看護計画の立案、実施、実施した結果の評価の実際を理解する。授業を通して、看護過程とは何か、看護過程を看護で活用する意義、看護理論の枠組みと看護過程および看護過程の各プロセス、ヘンダーソンの基本的ニードと看護過程の展開、ゴードンの機能的健康パターンによる看護過程の展開、看護記録の作成、看護サマリーについて学修する。なお、看護過程の展開プロセスを理解するための事例は、地域包括ケアシステムを踏まえた保健医療福祉の連携強化が意識できるような要素を組み込んだものとする。 「別表３：基礎看護学」		
到達目標	①看護過程は、看護を実践する際に用いられるツールであり、看護を計画して提供し、その結果を評価する一連のプロセスであることを理解できる。 ②看護過程の実施において、使用する看護理論の枠組みと特徴を理解できる 。 ③提示した事例の情報をアセスメントして、看護を計画することができる。 ④看護過程の学習を通して、看護の概念と看護用語を使用することができる。 ⑤根拠に基づいた看護を計画して、関連図を活用して説明ができる。 ⑥看護要約とは何かを理解し、看護要約を作成する目的・意義を理解できる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①②	学修ガイダンス ・授業の進め方、ワークシート、自己学修、小テスト、リフレクション、評価方法、定期試験について 【講義】 １）看護過程とは ２）看護過程の構成要素 ３）ヘンダーソンが考える看護 ４）ヘンダーソンの看護論とそれに基づく看護過程 ５）教科書の事例Aと課題学習の事例Bについて（学修目標③⑤の到達度を確認） 事前学修：教科書p.4～29を読み、ワークシート①に記述し、看護過程の概要を予習する。 事後学修：事前学修した内容に講義で学んだ内容をワークシート①追加し、学修する。	鈴江・後藤

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
2	①②④	【講義】ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程の展開① ・事例A（教科書p.57～151）の展開の説明 １）アセスメント ①情報収集 ・基本的欲求に影響を及ぼす常在条件 ・基本的欲求を変容させる病理的状態 ・基本的欲求の状態 ②情報の確認・分類・整理 事前学修：教科書p.39～42、ｐ.57～77、p.156～163を読む。ワークシート②にまとめる。 小テスト：事前学修および講義内容で修得した知識の確認 事後学修：事前学修した内容に講義で学んだ内容をワークシート②に追加し、学修する。	後藤
3	①②④	【講義】ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程の展開② １）アセスメント ③情報の分析・解釈 ２）看護問題の明確化 事前学修：教科書p.43～46、p.82、P.88、p.90を読む。事前にワークシート③に記述する。 小テスト：事前学修および講義内容で修得した知識の確認 事後学修：講義で学んだ内容をワークシート③に追加し、学修する。	後藤
4	①②④	【講義】ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程の展開③ １）看護問題の明確化（全体像と看護上の問題点） ・全体像 ・看護上の問題点 ・問題リストの活用方法 ２）事例Bの看護過程の進め方の説明 【個人・グループワーク】について 事前学修：教科書p.64～65、ｐ.72～75、p.110～113、p.164～166を読む。看護問題の明確化のポイントを事前にワークシート④にまとめる。 小テスト：事前学修および講義内容で修得した知識の確認 事後学修：講義で学んだ内容をワークシート④に追加し、学修する。	後藤
5	①②③④	【講義】事例Bの看護過程の展開①の進め方 【個人・グループワーク】 １）情報の確認・分類・整理 ①事例Bの常在条件 ②事例Bの病理的状態 ③事例Bの基本的欲求の状態 事前学修：事例Bの「一般的な発達課題・発達課題の特徴」、事例Bの疾患の病態関連図を作成し、病理的状態「症状・検査データ・治療内容・治療方針」の学習を事前に事例Bの記録用紙にまとめる。 リフレクション：ポータルサイトのアンケートに入力する。 事後学修：時間内にできなかった事例Bの課題①②③の続きに取り組む。	後藤、鈴江、佐々木、滝沢、横井
6	①②③④	【講義】・前回の「事例Bの情報の確認・分類・整理」の振り返り ・事例Bの看護過程の展開②の進め方 【個人・グループワーク】事例Bの看護過程の展開② ２）情報の分析・解釈、看護問題の明確化 事前学修：事例Bの情報の分析・解釈、看護問題の明確化を事例Bの記録用紙にまとめる。 リフレクション：ポータルサイトのアンケートに入力する。 事後学修：時間内にできなかった課題２）情報の分析・解釈、看護問題の明確化があれば取り組む。	後藤、鈴江、佐々木、滝沢、横井
7	①②③④⑤	【講義】・前回の「事例Bの情報の分析・解釈、看護問題の明確化」の振り返り ・事例Bの看護過程の展開③の進め方 【個人・グループワーク】事例Bの看護過程の展開③ ３）看護問題の明確化（事例Bの全体像） 事前学修：事例Bの３）看護問題の明確化（事例Bの全体像）を、事例Bの記録のまとめる。 リフレクション：ポータルサイトのアンケートに入力する。 事後学修：時間内にできなかった課題３）看護問題の明確化（事例Bの全体像）があれば取り組む。	後藤、鈴江、佐々木、滝沢、横井
8	①②③④⑤	【講義】ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程の展開 アセスメント・看護問題の明確化までのまとめ 計画立案→実施→評価 基本的ニードの未充足から看護の必要性を検討し看護問題を明確にして看護計画を立案するプロセス 事前学修：アセスメントから看護問題の明確化までを復習する。 事後学修：講義で学んだ内容をワークシートに追加し、整理する。 事例Bの時間内にできなかった課題があれば取り組む。 リフレクション：ポータルサイトのアンケートに入力する。	後藤

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
9	①②③④⑤	【講義】前回の「事例Bの看護問題の明確化（全体像）」の振り返り ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程の展開④ １）計画立案（事例A） ・優先順位の決定 ・目標設定（期待される結果） ・援助方法（具体策） 事前学修：教科書p.11～13、ｐ.114～121を読み、優先順位の決定、目標設定、援助方法のポイントを事前にワークシート⑨に記述する。 小テスト：事前学修および講義内容で修得した知識の確認 事後学修：講義で学んだ内容をワークシート⑨に追加し、整理する。	佐々木
10	①②③④⑤	【講義】 ・事例Bの看護過程の展開④の進め方 【個人・グループワーク】事例Bの看護過程の展開④ ４）計画立案 事前学修：事例Bの４）計画立案を、事例Bの記録用紙にまとめる。 リフレクション：ポータルサイトのアンケートに入力する。 事後学修：時間内にできなかった課題があれば取り組む。	後藤、鈴江、佐々木、滝沢、横井
11	①②③④⑤	【講義】・前回の「事例Bの計画立案」の振り返り ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程の展開⑤ １）実施 ２）評価 【個人ワーク】事例Bの経過記録の記載 事前学修：教科書ｐ.50～54、p.122～125を読み、経過記録・評価のポイントを事前ワークシート⑪に記述する。 小テスト：事前学修および講義内容で修得した知識の確認 事後学修：講義で学んだ内容をワークシートに追加し、整理する。 時間内に３）事例Bの経過記録の記載ができなかった課題があれば取り組む。	後藤、鈴江、佐々木、滝沢、横井
12	②⑥	【講義】看護過程のまとめ 【個人ワーク】事例Bの看護過程の展開 指導教員による個別指導 事前学修：事例Bの看護過程に取り組む。 事後課題：指導教員に指導された箇所を、追加・修正する。	後藤、鈴江、佐々木、滝沢、横井
13	①②③④⑤	【個人ワーク】事例Bの看護過程の展開 指導教員による個別指導 事前学修：事例Bの看護過程に取り組む。 事後課題：指導教員に指導された箇所を、追加・修正する。	後藤、鈴江、佐々木、滝沢、横井
14	②⑥	【講義】看護要約、ゴードンの11の機能的健康パターン・NANDA-Ⅰと看護過程の展開 事前学修：①ゴードンの11の機能的健康パターン、②NANDA-Ⅰの看護診断分類法Ⅱの13領域について調べ、事前ワークシートにまとめる。 事後学修：事前学修した内容に講義で学んだ内容をワークシートに追加し、整理する。 リフレクション：ポータルサイトのアンケートに入力する。 講義開始前までに、事例Bの看護過程を指定の場所に提出する。	後藤
試験	①②③④⑤⑥	定期試験	後藤、鈴江、佐々木、滝沢、横井
事前・事後学修		事前学修：教科書指定頁を精読する。前回の講義で提示する。各回120分 事後学修：講義最後に提示する。各回120分	
評　価　方　法		定期試験：７0% 事例Bのアセスメント・看護計画（全体像を含む）：20% 講義への参加度（グループワーク・小テスト・リフレクションの回答を含む）：10%	
課題に対するフィードバック		当日の講義、または次回の講義内で説明する。 小テストの理解度が低い場合は、講義内で解説する。 講義の最後に行うリフレクションに対して、次の講義で説明する。	
教　科　書		秋葉公子他：「看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践」（第5版）、ヌーヴェルヒロカワ 江崎フサ子他：「ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト」（第5版）、ヌーヴェルヒロカワ	
参　考　書		１．有田清子他：「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ基礎看護学②」（第17版）、医学書院 ２．任和子編「実践記録の書き方がわかる看護過程展開ガイド」、照林社 ３．ヴァージニア・ヘンダーソン著，湯槇ます・小玉香津子訳：「看護の基本となるもの」，日本看護協会出版会． ４．看護が見えるvol.４看護過程の展開、MEDIC MEDIA.	

履修上の注意点 及び取扱い	１．講義の出欠席の確認は出席管理システムと授業の最後に行うリフレクションまたは小テストへの回答で行う。 ２．配布資料、ワークシート、自己学修などの事前・事後学修は授業の順序の通りにファイルに綴じる。 ３．事例B課題の提出：事例Bの看護過程（全体像を含む看護計画）を指定された日時までに事務局前の担当教員名の書かれたボックスに提出する。 （事例Bの課題は指定されたファイルに綴じて、提出する。） ４．事例Bについての自己学修したことは、指定されたファイルに綴じる。 ５．定期試験、事例Bのアセスメント・看護計画、講義への参加度の評価の合計が大学の評価基準の合格（60点）に満たなかった場合は、再試験を受ける。 ６．評価の対象である、事例Bのアセスメント看護計画が指定された日時までに提出されない場合は、別に期限を定めて再提出を認めるが、減点となる。 ７．やむを得ず欠席した場合は、担当教員に連絡の上、次回の講義までに資料を受け取り自己学修する。

科目名	基礎看護学IV(ヘルスアセスメント)		
科目コード	34104	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B341042
授業形態	講義	開講時期	2年前期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	１．「基礎看護学Ⅰ・Ⅱ」を履修していること。２．「基礎看護学実習Ⅱ」の単位数先修条件となる。		
教員名	藤本　悦子・鈴江　智恵・後藤　美恵・佐々木　久美子・滝沢　美世志・横井　優子		
実務経験	看護師として病院勤務（鈴江・後藤・佐々木・滝沢・横井）		
オフィスアワー	各回の講義終了後、直接または研究室の内線電話・メールでアポイントを取る。必要に応じて別途ゼミナール室等で対応する。 藤本：内線　1201　e.fujimoto.t@ikc.ac.jp 鈴江：内線　4333　t.suzue.t@ikc.ac.jp 後藤：内線　4326　m.goto.t@ikc.ac.jp 佐々木：内線　4322　k.sasaki.t@ikc.ac.jp 滝沢：内線　4320　m.takizawa.t@ikc.ac.jp 横井：内線　4218　y.yokoi.t@ikc.ac.jp		
科目概要	ヘルスアセスメントの概念、目的、方法論の全容を学び、対象を全人的に把握することの意義を理解する。そのうえで、本科目ではフィジカルアセスメントの基本技術を用いて得られる客観的データの意味を理解する。 本科目では、系統別のフィジカルアセスメントの基本技術である問診・視診・触診・打診・聴診の目的・方法のを学び、提示した事例のデータから正常、正常からの逸脱をアセスメントすることによって、臨床的判断能力を養う。また、本科目ではあらゆる健康レベルの対象のヘルスアセスメントに必要なコミュニケーション技術、倫理的行動であるプライバシー保護の方法を考察する。 「別表３：基礎看護学」		
到達目標	①ヘルスアセスメントの目的を理解し、意味を説明できる。 ②フィジカル・アセスメントに必要な形態機能学の知識を確認し、説明できる。 ③ヘルスアセスメントの基本技術（問診・視診・聴診・触診・打診）が説明できる。 ④ヘルスアセスメントの基本技術を理解し、その結果から対象の健康状態（正常と正常からの逸脱）判断し記述できる。 ⑤アセスメントした結果が、看護目標、看護計画につながることが説明できる。 ⑥ヘルスアセスメント実施する際に、対象との援助的関係の構築とプライバシー保護など倫理的配慮の方法が説明できる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①⑥	１．学修ガイダンス（基礎看護学IVの学修方法） 授業の進め方、事前・事後学修、シミュレーション学修、定期試験、評価方法について ２．ヘルスアセスメントとは ３．データベースと身体的、社会的・心理的情報の意味と情報収集 ４．メディカルターム ５．聴診器の使い方 ６・生命徴候とは、バイタルサインの観察とアセスメント方法 事前学修：教科書の該当部分を読んでくる 事後学修：学修内容を振り返る。 バイタルサイン測定法を具体的にまとめ、 ワークシートに記載する。	藤本、佐々木、横井
2	①②③	・身体各部の測定、測定値の評価 ・標準体重、肥満度、BMIの評価の意味と方法 ・①バイタルサイン測定 以上のアセスメントを実施 事前学習修バイタル測定の方法のイメージトレーニング 事後学修：学修内容を振り返る。測定結果と考察を所定記録に記載する。	藤本、鈴江、後藤、佐々木、滝沢、横井

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
3	①②③④⑤⑥	・一般所見・体表からの観察（体表解剖学） ・問診 ・視診：姿勢、様子、色、長さ等、 頭部、頚部：顔面、皮膚・リンパ系、 鼻・耳・口腔・眼 事前学修：教科書の該当部分を読んでくる 事後学修：学修内容を振り返る。ワークシートにアセスメント方法を記載する	藤本、佐々木、横井
4	①②③④⑤⑥	・一般所見・体表からの観察（体表解剖学） ・問診 ・視診：姿勢、様子、色、長さ等、頭部、 ②頚部：顔面、皮膚・リンパ系、鼻・耳・口腔・眼 以上についてアセスメントを実施 事前学修：アセスメント方法のイメージトレーニング 事後学修：学修内容を振り返る。測定結果と考察を所定記録に記載する。	藤本、鈴江、後藤、佐々木、滝沢、横井
5	①②③	呼吸器系・心血管系のフィジカルアセスメント 打診・聴診 胸部（呼吸音、副雑音、心音、心雑音、清音、半濁音、鼓音） 事前学修：教科書の該当部分を読んでくる 事後学修：学修内容を振り返る。ワークシートにアセスメント方法を記載する	藤本、佐々木、横井
6	①②③④⑤	呼吸器系・心血管系のフィジカルアセスメント 打診・聴診 ③胸部（呼吸音、副雑音、心音、清音、半濁音、鼓音） （シミュレーション人形を使って副雑音、心雑音） 以上のアセスメントを実施する 事前学修：アセスメント方法のイメージトレーニング 事後学修：学修内容を振り返る。測定結果と考察を所定記録に記載する。	藤本、鈴江、後藤、佐々木、滝沢、横井
7	①②③	・腹部のフィジカルアセスメント （腸雑音、腹水チェック、臓器腫大チェック、グル音、腸雑音、マックバーネ圧痛点、ランツ点、ブルンベルグ徴候 ・同定打診（肝臓・腎臓・脾臓） 事前学修：教科書の該当部分を読んでくる 事後学修：学修内容を振り返る。ワークシートにアセスメント方法を記載する	藤本、佐々木、横井
8	①②③④⑤	④腹部のフィジカルアセスメント （腸雑音、腹水チェック、臓器腫大チェック、グル音、腸雑音、マックバーネ圧痛点、ランツ点、ブルンベルグ徴候、同定打診（肝臓・腎臓・脾臓） 以上のアセスメントを実施する 事前学修：アセスメント方法のイメージトレーニング 事後学修：学修内容を振り返る。測定結果と考察を所定記録に記載する。	藤本、鈴江、後藤、佐々木、滝沢、横井
9	①④	技術チェック（バイタルサイン）	全員
１０	①②③④⑤⑥	筋骨格系のアセスメント （関節の視診・触診、関節可動域、筋トーヌス、圧痛、筋委縮、筋力、徒手筋力テスト） 事前学修：教科書の該当部分を読んでくる 事後学修：学修内容を振り返る。ワークシートにアセスメント方法を記載する	藤本、佐々木、横井
１１	①②③④⑤⑥	⑤筋骨格系 （関節の視診・触診、関節可動域、筋トーヌス、圧痛、筋委縮、筋力、徒手筋力テスト） 以上のアセスメントを実施する 事前学修：アセスメント方法のイメージトレーニング 事後学修：学修内容を振り返る。測定結果と考察を所定記録に記載する。	藤本、鈴江、後藤、佐々木、滝沢、横井
１２	①②③④⑤⑥	神経系 意識レベル、意識障害の特殊型、言語障害、高次脳機能障害、脳神経障害、瞳孔、瞳孔不正、対光反射、視野、視野の異常、眼球運動、視力、眼振、涙流の異常、聴力異常（ウェーバーテスト、リンネテスト）、臭覚、聴力異常、平衡覚、末梢神経知覚、運動麻痺、起立・歩行の異常、不随運動、腱反射、バレー徴候、ロンベルク徴候、ロンベルク徴候、バビンスキー反射、髄膜刺激症状） 事前学修：教科書の該当部分を読んでくる 事後学修：学修内容を振り返る。ワークシートにアセスメント方法を記載する	藤本、佐々木、横井

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
１３	①②③④⑤⑥	⑥神経系 　意識レベル、意識障害の特殊型、言語障害、高次脳機能障害、脳神経障害、瞳孔、瞳孔不正、対光反射、視野、視野の異常、眼球運動、視力、眼振、涙流の異常、聴力異常（ウェーバーテスト、リンネテスト）、臭覚、聴力異常、平衡覚、末梢神経知覚、運動麻痺、起立・歩行の異常、不随運動、腱反射、バレー徴候、ロンベルク徴候、ロンベルク徴候、バビンスキー反射、髄膜刺激症状） 以上のアセスメントを実施する。 事前学修：アセスメント方法のイメージトレーニング 事後学修：学修内容を振り返る。測定結果と考察を所定記録に記載する。	藤本、鈴江、後藤、佐々木、横井
１４	①②⑥	成熟期女性と高齢者のアセスメント （解剖生理学的特徴、健康インタビュー、スケール） 事前学修：教科書の該当部分を読んでくる。 事後学修：学修内容をさらに深める（レポート）。	藤本、佐々木、横井
試験	①②④⑤	定期試験	全員
事前・事後学修		適宜、詳細な内容を指定する。 各120分	
評　価　方　法		授業参加度10%、ポートフォリオ30%、定期試験60%	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教　　科　　書		1.作成したオリジナルのプリントを配布する。授業はこれを主体に実施する。 2.山内豊明　フィジカルアセスメントガイドブック　医学書院 3.看護が見える　フィジカルアセスメント　メディックメディア	
参　　考　　書		１．教科書1.考える看護技術Ⅰ-看護技術の基本-第3版,ヌーヴェルヒロカワ,第3版. ２．教科書2.守田美奈子監修、写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメントアドバンス、インターメディカ	
履修上の注意点及び取扱い		１．事前・事後学修を含む各回の学修の積み重ねが重要である。欠席した回については、自らが担当教員に相談し、学修成果に影響しないようにする。 ２.提出を指示された記録を欠席等によって提出しなかった場合は、担当教員に連絡し、必ず提出する。 ３．成績評価は、定期試験、授業参加度、ポートフォリオの合計点で行う。合計点が60点未満の場合は定期試験後の再試験を受けることができる。	

科　目　名	基礎看護学Ⅴ(基礎看護技術論②)		
科目コード	34105	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B341052
授業形態	講義	開講時期	2年後期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	１．「基礎看護学Ⅰ・Ⅱ」を履修していること。		
教員名	佐々木　久美子・鈴江　智恵・後藤　美恵・滝沢　美世志・横井　優子		
実務経験	看護師として病院勤務(鈴江・後藤・佐々木・滝沢・横井)		
オフィスアワー	各回の講義終了後、直接または研究室に電話またはメールでアポイントを取る。必要に応じて別途ゼミナール室等で対応する。 鈴江：内線　4333　t.suzue.t@ikc.ac.jp 滝沢：内線　4320　m.takisawa.t@ikc.ac.jp 後藤：内線　4326　m.goto.t@ikc.ac.jp 佐々木：内線　4322　k.sazaki.t@ikc.ac.jp 横井：内線　4218　y.yokoi.t@ikc.ac.jp		
科目概要	診察・検査・治療などの過程を支える援助を、既習の人体構造機能学を踏まえ、援助に必要な基本的な看護の知識と診療の補助技術を学修する。 医師の指示に基づいて実施する診療の補助行為は、実施者の責任において行う対象への説明、診療環境の整備、行為の実施、観察は注意義務を果すことが必要である。 本科目では身体的侵襲を伴い、より高い安全性が要求される薬物療法、静脈血採血、注射、排泄を促す技術である導尿・浣腸を取り上げ、提示した事例の検査データ、状況や場面から援助の必要性と科学的根拠に基づいた説明、安全な援助技術の方法の選択などを安全かつ倫理的な行動がとれる臨床判断能力を身につける。 「別表３：基礎看護学」		
到達目標	①診療に伴う形態機能学の知識に基づいて、治療過程を支える援助の目的を説明できる。 ②治療過程を支える看護技術の具体的方法について科学的根拠に基づいた説明ができる。 ③診察・検査の過程において予測される危険性を理解し、安全性・安楽性を配慮した方法について説明できる。 ④基本的な検査データの正常範囲と異常を読み取り、必要な看護ケアを説明できる。 ⑤治療過程を支える看護技術を実施する際に、対象との援助的関係を構築し、プライバシー保護など倫理的配慮の方法を説明できる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①②③⑤	【講義】 学修ガイダンス（基礎看護学Ⅴの学修方法） ・授業の進め方、事前・事後学修、小テスト、評価方法、定期試験について ・診療の補助技術について ・治療・検査・処置時の看護の役割・看護過程 ・医療安全の概念、看護実践と医療安全 事前学修：教科書p.17-28を精読する。特にp.23-24の『5基礎看護技術Ⅱ第4部「治療・処置に伴う援助技術」において学ぶこと』はよく読んでおくこと。 小テスト：事前学修及び講義内容で修得した知識の確認 事後学修：授業内容や授業で提示された国家試験の過去問題、小テストについて、自分用の解説ノートを作成する。	鈴江　佐々木
2	①②③⑤	【講義】 無菌操作の基本技術 ・滅菌物の取り扱い（滅菌パック、滅菌包み、滅菌手袋など） 事前学修：教科書p131-146を精読する。 事後学修：授業内容や授業で提示された国家試験の過去問題、小テストについて、自分用の解説ノートを作成する。	佐々木

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
3	①②③⑤	【演習】 無菌操作、滅菌物の取り扱い、滅菌手袋の着脱 事前学修：演習ワークシートに取り組み、主体的に演習に参加できるように準備する。 事後学修：演習ワークシートを完成させて、指定された期日までに提出する。	佐々木　鈴江 後藤　滝沢 横井
4	①②③④⑤	【講義】 排泄を促す技術 ・尿道カテーテル挿入（導尿） ・浣腸 事前学修：教科書p194-202を精読する。 小テスト：事前学修及び講義内容で修得した知識の確認 事後学修：授業内容や授業で提示された国家試験の過去問題、小テストについて、自分用の解説ノートを作成する。演習ワークシートを完成させて、指定された期日までに提出する。	佐々木
5	①②③④⑤	【講義・演習】 呼吸を楽にする技術 ・吸入療法 ・吸引 ・酸素吸入、酸素ボンベの取り扱い 事前学修：教科書p301-314（4.吸引、6.人工呼吸器は除く）、①一時的吸引法：口腔・鼻腔・気管吸引p.443-444を精読する。 小テスト：事前学修及び講義内容で修得した知識の確認 事後学修：授業内容や授業で提示された国家試験の過去問題、小テストについて、自分用の解説ノートを作成する。演習ワークシートを完成させて、指定された期日までに提出する。	後藤
6	①②③④⑤	【講義】 検査を安全かつ正確に行う技術 ・生体検査（エックス線撮影、超音波、CT、MRI、心電図、内視鏡、核医学） ・検体検査①（尿、便、喀痰、胸水、腹水、骨髄液） 事前学修：教科書1、p416-441,450を精読する。 小テスト：事前学修及び講義内容で修得した知識の確認 事後学修：授業内容や授業で提示された国家試験の過去問題、小テストについて、自分用の解説ノートを作成する。	滝沢
7	①②③④⑤	【講義】 検査を安全かつ正確に行う技術 ・検体検査②（血液） ・注射器、注射針の取り扱い、針刺しの予防と対策 事前学修：教科書p.432-434,375-377を精読する。 小テスト：事前学修及び講義内容で修得した知識の確認 事後学修：授業内容や授業で提示された国家試験の過去問題、小テストについて、自分用の解説ノートを作成する。	佐々木
8	①②③④⑤	【演習】 静脈血採血 事前学修：演習ワークシートに取り組み、主体的に演習に参加できるように準備する。 事後学修：演習ワークシートを完成させて、指定された期日までに提出する。	佐々木　鈴江 後藤　滝沢 横井
9	①②③④⑤	【講義】 与薬を安全かつ正確に行う技術 ・与薬（経口投与、口腔内投与、直腸内投与、経皮的投与） ・与薬の副作用（有害事象）の観察、誤薬の予防と対策 事前学修：教科書p.356-375を精読する。 小テスト：事前学修及び講義内容で修得した知識の確認 事後学修：授業内容や授業で提示された国家試験の過去問題、小テストについて、自分用の解説ノートを作成する。	佐々木
１０	①②③④⑤	【講義】 薬物療法とその援助 ・注射法（筋肉内注射　皮下注射、皮内注射、点滴静脈内注射等） ・チューブ、ラインとラブルの予防と対策 事前学修：教科書p.374-403、411-414を精読する。 小テスト：事前学修及び講義内容で修得した知識の確認 事後学修：授業内容や授業で提示された国家試験の過去問題、小テストについて、自分用の解説ノートを作成する。	佐々木
１１	①②③④⑤	【演習】 前半（Aグループ）、後半（Bグループ）に分かれて演習を行う ・筋肉内注射　皮下注射　　点滴静脈内注射（滴下数の調整） 事前学修：演習ワークシートに取り組み、主体的に演習に参加できるように準備する。 事後学修：演習ワークシートを完成させて、指定された期日までに提出する。	佐々木　鈴江 後藤　滝沢 横井
１２	①②③④⑤	技術テスト	佐々木　鈴江 後藤　滝沢 横井

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
１３	①②③④⑤	【講義・演習】 皮膚・創傷を管理するための技術 ・創傷の治癒課程、創傷のアセスメント ・洗浄、保護、包帯法 ・褥瘡の予防と治癒課程 事前学修：教科書p.332-354を精読する。 小テスト：事前学修及び講義内容で修得した知識の確認 事後学修：授業内容や授業で提示された国家試験の過去問題、小テストについて、自分用の解説ノートを作成する。	横井　鈴江 佐々木
１４	①②③④⑤	【講義】 食事・栄養摂取を促す技術、まとめ ・経管栄養 ・基礎看護学Ⅴのまとめと振り返り 事前学修：教科書p.169-174を精読する。 事後学修：授業内容や授業で提示された国家試験の過去問題、小テストについて、自分用の解説ノートを作成する。演習ワークシートを完成させて、指定された期日までに提出する。	後藤　佐々木 鈴江　滝沢 横井
試験	①②③④⑤	定期試験	佐々木　鈴江 後藤　滝沢 横井
事前・事後学修		事前学修：教科書指定頁を精読する。 事後学修：講義内容を踏まえた自分用の解説ノートを作成する。	
評　価　方　法		定期試験60%、技術テスト20%、小テスト10%、演習課題（①無菌操作、②導尿・浣腸、③口腔鼻腔吸引・酸素吸入、④採血、⑤注射、⑥経管栄養）10%	
課題に対するフィードバック		課題等はコメント等を付して返却する。 講義の最後に行う小テストで正解率が低かった内容を最終回で振り返り、解説する。	
教　科　書		１．松尾ミヨ子他編：ナーシング・グラフィカ　基礎看護学③　「基礎看護技術Ⅱ　看護実践のための技術」（2022年度版）、メディカ出版.	
参　考　書		必要時、資料を配布する。 参考書： １．茂野香おる他：「基礎看護技術Ⅰ」（第18版、19版）、医学書院 ２．有田清子他：「基礎看護技術Ⅱ」（第17版、18版）、医学書院 ３．任和子他著：「根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術」（第2版）、医学書院 ４．医療情報科学研究所編：「看護技術がみえるvol.1　基礎看護技術」、メディックメディア ５．竹尾恵子監修：「看護技術プラクティス」（第4版）、学研メディカル秀潤社	
履修上の注意点及び取扱い		1．講義の出欠席の確認は、出席管理システムと授業の最後に行う小テストへの回答で行う。 2．演習の出欠席の確認は、担当教員がグループ毎に点呼する。 3．演習はA・Bの2グループに分かれて実施することが多い。また、さらに少人数グループに分かれて演習を行うことが多いので、事前に配布するメンバー表を確認して出席する。 4．演習前に取り組んだ事前課題（演習ワークシート）は演習当日に持参して教員の確認を受ける。 5．演習は身だしなみを整えて参加する。 6．やむを得ず欠席した場合は、担当教員に連絡の上、次回講義までに資料を受け取り自己学習する。 7．定期試験、レポート課題、演習課題、講義・演習への取り組みの評価の合計が大学の成績評価基準の合格（60点以上）に満たなかった場合は、再試験を受ける。	

科目名	医療と看護の倫理		
科目コード	34106	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B341062
授業形態	講義	開講時期	2年後期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	滝沢　美世志		
実務経験	看護師として病院勤務		
オフィスアワー	毎回授業後に対応、メールによる問い合わせは随時対応する。 m.takizawa.t@ikc.ac.jp		
科目概要	本科目では、医療倫理・看護倫理の起源と歴史、及び医療者の倫理的態度の基本を学修する。医療における人間の尊厳や自律的意思決定と意思決定支援のあり方、インフォームドコンセント（IC）の意味とICを得る方法、個人情報の保護法と守秘義務について、医療専門職者としての自覚を促す。そのうえで、看護職者として取るべき態度を具体的事例により討論し、代表的な倫理綱領、関係法規、ガイドラインなどを踏まえて考察する。 「別表３：基礎看護学」		
到達目標	①医療職者、看護職者としての倫理的態度を身につける必要性を理解できる。 ②看護の場にいる全ての人々に対する尊厳、自律的意思決定の意味を理解し、望ましい態度について考察できる。 ③看護者の倫理綱領に基づく看護活動を具体的に理解できる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①②	・生命倫理とは何か：生命倫理の歴史、生命倫理の4原則 ・事前課題：テキストp.23-33を読んでくる。 ・事後課題：復習ノートに学んだことを整理し、学びを定着する。	滝沢
2	①②	・インフォームドコンセント（IC） ・守秘義務と個人情報保護における倫理的課題 ・事前課題：テキストp.34-40を読んでくる。 ・事後課題：復習ノートに学んだことを整理し、学びを定着する。	滝沢
3	①②	・死の生命倫理 ・事例から医療における自律的意思決定のもつ意味を考察する。 ・事前課題：テキストp.59-72を読んでくる。 ・事後課題：復習ノートに学んだことを整理し、学びを定着する。	滝沢
4	①②	・看護の倫理原則：倫理的概念、ケアリング、倫理的判断に必要な要素 ・「ケアの本質」から対人関係職である看護職としての倫理的態度を学ぶ。 ・事前課題：テキストｐ.95-118を読んでくる。 ・事後課題：復習ノートに学んだことを整理し、学びを定着する。	滝沢
5	①②③	・看護者の倫理綱領：内容を理解し、看護学生としての倫理的態度について考察する。 ・事前課題：テキストｐ.119-136を読んでくる。 ・事後課題：復習ノートに学んだことを整理し、学びを定着する。	滝沢
6	①②③	・医療や看護場面における倫理的問題へのアプローチ：Jonsenの4分割表、トンプソンの10ステップ、4ステップ ・事前課題：テキストp.137-162を読んでくる。 ・事後課題：復習ノートに学んだことを整理し、学びを定着する。	滝沢

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
7	①②③	・事例の基づいた倫理的問題へのアプローチ：倫理的アプローチ法を用いた倫理的問題の解決のためのグループワーク ・事前課題：事例についての個人ワーク ・事後課題：復習ノートに学んだことを整理し、学びを定着する。	滝沢
試験	①②③	筆記試験 事前学修：これまでの学びを復習し、試験に臨む 事後学修：試験で解答できなかった事項について復習する。	滝沢
事前・事後学修		事前・事後学修については、各回に記載。 時間は、各120分	
評　価　方　法		定期試験（80%）　小テスト・課題レポート等（20%） 授業・GWへの参加度（提案する力、聴き受け止める力、協働しまとめる力)を考慮する。	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教　科　書		１．宮坂道夫他　系統看護学講座　別巻「看護倫理」第3版　医学書院　2024	
参　考　書		1.ミルトン・メイヤロフ　田村訳　ケアの本質　ゆみる出版　1987年 2.日本看護協会監修　看護職の基本的責務　2024年度版　日本看護協会出版会　2024年 その他の参考書は授業時に随時提示する。	
履修上の注意点及び取扱い		１．倫理は個人の価値観に委ねられるものであり、自己への振り返り（内省）が求められる。 ２．医療専門職としての態度基盤を養うことを意識し、毎回の授業態度に反映するように努める。	

科目名	基礎看護学実習Ⅰ		
科目コード	34107	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B341071
授業形態	実習	開講時期	1年後期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	45時間
先修条件	１．「基礎看護学Ⅰ・Ⅱ」を履修していること。２．「基礎看護学実習Ⅱ」の単位数先修条件となる。		
教員名	佐々木　久美子・鈴江　智恵・藤本　悦子・後藤　美恵・滝沢　美世志・横井　優子		
実務経験	看護師として病院勤務(鈴江・後藤・佐々木・滝沢・横井)		
オフィスアワー	実習終了後、メールでアポイントを取る。 藤本：e.fujimoto.t@ikc.ac.jp 鈴江：t.suzue.t@ikc.ac.jp 滝沢：m.takizawa.t@ikc.ac.jp 後藤：m.goto.t@ikc.ac.jp 佐々木：k.sasaki.t@ikc.ac.jp 横井：y.yokoi.t@ikc.ac.jp		
科目概要	すべての人にとって健康に生きること、健康に生活できることは重要な課題である。しかし、人は何らかの疾患あるいは加齢や障害による機能低下などによって、日常での生活の場から離れて新しい環境で過ごすことになる。そこで本科目では病院および介護老人施設において対象の安全性、安楽性（快適性）、自立性を考慮した環境への援助はどのように調整されているのかを学ぶ。また、多様な対象者及び他職種と触れ合うことによって看護職としての倫理的行動とは何かを考察する。 「別表３：臨地実習 基礎看護学」		
到達目標	① 病院および介護老人保健施設の構造・機能を理解し記述することができる。 ② 病院および老人保健施設における看護の機能と役割を理解し記述することができる。 ③ 看護実践の場や援助の実際を見学し、看護とは何かについて自己の考えを記述することができる。 ④ 看護職の倫理原則、看護を学ぶものとして守るべき具体的事項について説明することができる。 ⑤ 看護学生としての責任や自己の能力を自覚して報告・連絡・相談などの行動を示すことができる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	○
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
１日目	①②	全体オリエンテーション 実習記録の書き方、留意事項 カンファレンスの目的と進行方法	鈴江、藤本 滝沢、後藤 佐々木、横井
２日目	①②③④⑤	施設概要説明、施設見学 病院各部門の構造と機能、特徴の理解	鈴江、藤本 滝沢、後藤 佐々木、横井
３日目	①②③④⑤	看護師が実施する看護援助の見学 カンファレンスによる情報共有と振り返り	藤本、鈴江 滝沢、後藤 佐々木、横井
４日目	①②③④⑤	看護師が実施する看護援助の見学 カンファレンスによる情報の共有と振り返り	鈴江、藤本 滝沢、後藤 佐々木、横井
５日目	①②③④⑤	実習の総括 学びの共有、グループ討議・発表	鈴江、藤本 滝沢、後藤 佐々木、横井

事前・事後学修	事前学修：その都度指示する。 事後学修：その都度指示する。 各120分
評価方法	実習評価表を基に、実習記録、実習態度、グループへの参加度で総合的に評価する。

課題に対するフィードバック	実習中、実習後に実習記録にコメント等を付して返却する。
教　科　書	基礎看護学Ⅰで配布されたプリント、ラーニングポートフォリオが教科書となる。
参　考　書	・看護学概論、基礎看護学１：医学書院 ・看護学概論、基礎看護学１：メジカルフレンド ・看護学概論、看護とは・看護学とは；ヌーベルヒロカワ ・看護学原論、看護の本質的理解と創造性をはぐくむために：南江堂
履修上の注意点及び取扱い	１．実習前に実習オリエンテーションの時間を設けている。実習方法、事前課題、実習記録、諸注意等を説明するので出席して実習に臨む。 ２．実習は病院および老人介護施設で行う。グループによって実習する施設が異なるので確認のうえ出席する。 ３．出席時間数が実習時間の5分の4以上を満たしている場合に、成績評価を行う。 ４．実習内容が不足した時、再実習を行う場合がある。 ５．実習記録は提出期限内に提出したものを評価する。 ６．実習スケジュールは、実習施設の状況によって変更する場合がある。 ７．実習に関するいかなる情報も、ネットやSNSに挙げない。 ８．実習前には必ず研伸大学ワクチンフローチャートに沿ってワクチン接種による感染症の予防を行う。 ９．実習開始日2週間前から健康セルフチェックを行う。発熱など症状があった場合は事前に教員に相談する。

科目名	基礎看護学実習Ⅱ		
科目コード	34108	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B341082
授業形態	実習	開講時期	2年前期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	90時間
先修条件	１．「基礎看護学Ⅰ・Ⅱ」を修得していること。２．「基礎看護学実習Ⅰ」の単位を修得していること。３．「基礎看護学III・基礎看護学IV」を履修していること。４．全ての領域実習の単位数先修条件となる。		
教員名	後藤　美恵・鈴江　智恵・藤本　悦子・佐々木　久美子・滝沢　美世志・横井　優子		
実務経験	看護師として病院勤務（鈴江・後藤・佐々木・滝沢・横井）		
オフィスアワー	実習終了後、直接または研究室に電話またはメールでアポイントを取る。 藤本：内線　1202　e.fujimoto.t@ikc.ac.jp 鈴江：内線　4333　t.suzue.t@ikc.ac.jp 後藤：内線　4326　m.goto.t@ikc.ac.jp 佐々木：内線　4322　k.sasaki.t@ikc.ac.jp 滝沢：内線　4320　m.takizawa.t@ikc.ac.jp 横井：内線　4218　y.yokoi.t@ikc.ac.jp		
科目概要	基礎看護学実習Ⅰの学修を踏まえ、健康上の問題のために生活の日常性が損なわれている対象者と援助的関係を築きながら、日常生活援助を中心に、対象の安全性・安楽性・個別性、自立性を考慮した看護を計画し実践する能力を育む。1名の患者を受け持ち、科学的根拠と看護理論を活用した看護過程の展開の実際を学ぶ。また、看護実習の体験から、患者と看護師関係のあり方、看護倫理について考察する。実習中のカンファレンスやレポート作成などを通して実施した看護を振り返り、自己の学びや今後の課題を明確にする。 「別表３：臨地実習 基礎看護学」		
到達目標	①看護過程の展開を通して、受け持ち患者のニーズを全体的に把握し、健康問題が日常生活に与える影響を記述することができる。 ②受け持ち患者に必要な援助を計画し、実施・評価して、必要に応じて看護計画を修正することができる。 ③患者とのかかわりを通して援助的関係を築くことができる。 ④患者の健康上の問題を解決する目標を共有する環境や関係という視点をもとに、看護師による患者を取り巻く人々（家族、医療従事者など）との調整的役割の重要性について理解することができる。 ⑤実習での体験をふまえて、患者と看護師関係のあり方や看護実践に求められる看護倫理（倫理的な葛藤）について考えることができる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	○
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
１日目	①②④⑤	施設及び病棟オリエンテーション 受け持ち患者の紹介 事前学修：行動計画の作成 事後学修：計画を実施した結果とふり返りの記述 情報収集、アセスメント	藤本、鈴江、後藤、佐々木、滝沢、横井
２日目	①②③④⑤	受け持ち患者の情報収集、アセスメント 事前学修：行動計画の作成、情報収集とアセスメント 事後学修：実施したケアの結果と評価、ふり返りの記述 情報収集とアセスメントの追加・修正	藤本、鈴江、後藤、佐々木、滝沢、横井
３日目	①②③④⑤	受け持ち患者の情報収集、アセスメント【受け持ち患者の看護の方向性について実習指導者に助言を受ける】 事前学修：行動計画の作成、情報収集とアセスメントの追加・修正 事後学修：実施したケアの結果と評価、ふり返りの記述 アセスメント～ケアプランの作成	藤本、鈴江、後藤、佐々木、滝沢、横井
４日目	①②	情報の整理、全体像、看護問題の明確化、看護計画立案 事前学修：アセスメント～ケアプランの作成 事後学修：アセスメント～ケアプランの作成	藤本、鈴江、後藤、佐々木、滝沢、横井

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
5日目	①②③④⑤	看護計画立案発表会 受け持ち患者の看護 中間カンファレンス 事前学修：行動計画の作成、アセスメント～ケアプランの作成 事後学修：実施したケアの結果と評価、ふり返りの記述	藤本、鈴江、後藤、佐々木、滝沢、横井
6日目	①②③④⑤	看護計画立案発表会 受け持ち患者の看護 事前学修：行動計画の作成、ケアプランの追加・修正 事後学修：実施したケアの結果と評価・修正、ふり返りの記述	藤本、鈴江、後藤、佐々木、滝沢、横井
7日目	①②③④⑤	受け持ち患者の看護、援助の実施・評価･修正 事前学修：行動計画の作成 事後学修：実施したケアの結果と評価・修正、ふり返りの記述	藤本、鈴江、後藤、佐々木、滝沢、横井
8日目	①②③④⑤	受け持ち患者の看護、援助の実施・評価･修正 事前学修：行動計画の作成 事後学修：実施したケアの結果と評価・修正、ふり返りの記述、看護要約実習のまとめ作成	藤本、鈴江、後藤、佐々木、滝沢、横井
9日目	①②③④⑤	受け持ち患者の看護、援助の実施・評価･修正 最終カンファレンス 事前学修：行動計画の作成 事後学修：実施したケアの結果と評価とふり返りの記述	藤本、鈴江、後藤、佐々木、滝沢、横井
１０日目	①②③④⑤	個人面接、記録の整理、まとめ 記録等提出締め切り(時間厳守) 事前学修：自己価表の作成、実習記録の整理、 事後学修：実習記録の整理	藤本、鈴江、後藤、佐々木、滝沢、横井
事前・事後学修		事前学修：実習の進度に合わせその都度指示する。 事後学修：実習の進度に合わせその都度指示する。 各120分	
評　価　方　法		実習評価表にある項目ごとの評価の合計点数	
課題に対するフィードバック		日々の実習では、個人面談、カンファレンス、記録へのコメント等でフィートバックを行う。 実習最終日に個人面談を行う。	
教　　科　　書		基礎看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳで使用した教科書 基礎看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳで配布した資料	
参　　考　　書		適宜紹介する	
履修上の注意点及び取扱い		１．実習ガイダンスの時間を設けている。実習方法、事前課題、実習記録、諸注意等を説明するので出席して実習に臨むこと。 ２．出席時間数が実習時間の5分の4以上を満たしている場合に、成績評価を行う。 ３．実習最終日の評価面接では実習評価表を用いて自己評価と教員評価との調整を行う。 ４．実習内容が不足した時、再実習を行う場合がある。 ５．実習記録は提出期限内に提出したものを評価する。 ６．実習スケジュールは、実習施設の状況によって変更する場合がある。実習に関するいかなる情報もネットでのやり取りやSNSに挙げた場合は単位を認めない。 ７．実習前には必ず研伸大学ワクチンフローチャートに沿ってワクチン接種による感染症の予防を行う。 ８．実習開始日2週間前から健康セルフチェックを行う。発熱など症状があった場合は事前に教員に相談する。	

科目名	地域看護論		
科目コード	34201	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B342012
授業形態	講義	開講時期	2年後期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	無		
教員名	江本　厚子・犬飼　勢津子・西田　友子		
実務経験	西田・犬飼：自治体健康増進施設や企業で保健師として勤務 江本：看護師として病院勤務		
オフィスアワー	講義終了後に質問・相談に対応します(非常勤講師室)		
科目概要	地域で生活する人々を対象に展開される地域看護活動の理念や活動方法、健康・QOLの向上を目指した支援について学修する。健康指標や保健医療福祉サービスなどの視点から、地域で生活する人々の特徴や健康課題を把握し、個人・家族・集団を対象とした地域における健康増進・健康づくり・疾病予防・早期発見・早期治療・社会復帰への看護活動の実際と課題について理解する。 「別表３：地域・在宅看護論」		
到達目標	①地域看護の理念や活動の場が説明できる。 ②地域看護の対象の特徴や健康課題を説明できる。 ③地域における健康増進・健康づくり・疾病予防・早期発見・早期治療・社会復帰への支援および課題について考えることができる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	
保健 ・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	○
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につける ことができる	
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	②③	成人期の健康課題とその支援（1） 事前//事後学修：成人期の健康支援、生活習慣病対策（配布資料、参考書）	江本
2	②③	成人期の健康課題とその支援（2） 事前//事後学修：健康増進対策、行動変容へのアプローチ（配布資料、参考書）	江本
3	②③	老年期の健康課題とその支援 事前//事後学修：老年期の健康支援、フレイル、認知症、介護予防（配布資料、参考書）	江本
4	②③	慢性疾患・精神疾患とその支援 事前//事後学修：慢性疾患・難病、精神疾患、QOL向上のための支援の実際、社会資源の紹介（配布資料、参考書）	江本
5	①	プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション 事前//事後学修：プライマリヘルケア、ヘルスプロモーションとは（配布資料、参考書）	江本
6	①②	地域看護活動の場：産業や学校における看護活動 事前//事後学修：職域（企業）・学校での看護（配布資料、参考書）	江本
7	①②	地域保健医療における多職種連携・協働 事前//事後学修：地域包括ケアシステムとは（配布資料、参考書）	江本
8	①	地域看護の理念と活動の対象 事前//事後学修：地域看護とは、公衆衛生看護の理念、公衆衛生看護の対象（配布資料、参考書）	犬飼
9	②③	子どもや親の健康課題とその支援（1） 事前//事後学修：妊婦・乳幼児期の健康支援（配布資料、参考書）	犬飼
１０	②③	子どもや親の健康課題とその支援（2） 事前//事後学修：学童期・思春期の健康支援、虐待防止（配布資料、参考書）	犬飼

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
１１	①②	地域看護活動の場：行政における看護活動 事前//事後学修：保健所・保健センターでの活動（配布資料、参考書）	西田
１２	②③	地域看護活動の方法（家庭訪問、健康相談、健康教育） 事前//事後学修：保健師の行う家庭訪問、健康相談、健康教育（配布資料、参考書）	西田
１３	②③	地域診断の方法と課題への支援策 事前//事後学修：地域診断、計画策定、実施、評価の過程（配布資料、参考書）	西田
１４	②③	健康危機管理（感染症、災害） 事前//事後学習：リスクマネジメント、発生時・復興期の活動、平常時の対策（配布資料、参考書）	西田
事前・事後学修		事前・事後学修については、各回に記載。 時間は、各120分。	
評　価　方　法		評価は、各教員が課すレポート課題(100%)により行う。	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教　　科　　書		なし	
参　　考　　書		１．標美奈子他．標準保健師講座１公衆衛生看護学概論．医学書院 ２．中谷芳美他．標準保健師講座３対象別公衆衛生看護活動．医学書院 ３．荒賀直子他．公衆衛生看護学.jp．インターメディカル ４．厚生労働統計協会．国民衛生の動向．一般財団法人厚生労働統計協会 その他、必要に応じて、担当する教員が提示する。	
履修上の注意点及び取扱い		１．地域社会への看護の基本となる科目であるという意識をもって、課題に取り組むこと。 ２．授業時の私語、途中入退室など他者への迷惑行為は、減点対象となることがある。 ３．参加態度は評価対象とする。	

科　目　名	家族の健康と看護		
科目コード	34202	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B342022
授業形態	講義	開講時期	2年前期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	江本　厚子		
実務経験	看護師として病院勤務		
オフィスアワー	a.emoto.t@ikc.ac.jp		
科目概要	家族は、社会を構成する基本となる集団であり、家族が健康上の問題をもったとき、家族ユニット全体が影響を受け、個々の家族メンバーの健康に影響を及ぼす。また、個人の健康や健康行動は家族に影響を及ぼし、家族の中で学習されるという視点から、家族のヘルスケアニーズを満たし、家族の健康を促進、維持、再構築することの重要性を理解する。 本科目では、家族を取り巻く社会的側面、文化的側面について理解した上で、家族間のコミュニケーション、相互理解、意思決定などを促進するために看護職が担う役割、関係機関との連携について理解する。 「別表３：地域・在宅看護論」 「別表２：基礎助産学」		
到達目標	①家族の構成員の健康と健康な家族について理解する。 ②家族の持つケア機能を理解し、ヘルスケアニーズとは何かを考えることができる。 ③家族間のコミュニケーションを促し、家族間の相互理解、意思決定、役割分担などがスムーズに行われるよう家族を支援する看護師の役割について理解する。 ④こどもの誕生からその成長に合わせて変化する家族ならびに高齢者と家族への支援について考えることができる。 ⑤地域における家族の健康と看護支援について考えることができる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	○
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①	授業ガイダンス 単元1　家族とは、家族看護とは 事前学修：教科書p.2～７、p.18～25 事後学修：講義で提示された資料や内容を自分でまとめ理解しておく	江本
2	②③④⑤	単元2　家族の構造と機能　家族ジェノグラム 事前学修：教科書p.40～47 事後学修：講義で提示された資料や内容を自分でまとめ理解しておく	江本
3	②③④⑤	単元3　こどもの成育に携わる家族への看護と社会的背景 事前学修：教科書　P58-62の精読 事後学修：授業内容をふまえ、こどもとともに暮らす家族の役割と家族への支援についてまとめる	江本
4	②③④⑤	単元4　高齢者と家族を取り巻く社会的背景 事前学修：教科書　p75～79、ｐ262～273の精読 事後学修：日本の高齢者家族の形態の変化と課題についてまとめる	江本
5	②③④⑤	単元5　母子と家族を取り巻く社会的背景 事前学修：教科書　p81～93の精読 事後学修：家族の多様性と授かる命の多様性、妊娠・出産期に起こる家族の問題についてまとめる	江本
6	②③④⑤	単元6　慢性の健康課題を持つ人と家族への看護 事前学修：教科書4　p4-7の精読。 事後学修：①慢性の健康問題を抱えて地域で生活する療養者と、その家族への支援について理解したことをまとめる。②広義のACPについて理解したことをまとめる。	江本

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
7	②③	単元7　クリティカルケアを必要とする患者の家族への看護支援 事前学修：看護における家族の定義と代理意思決定の意味を調べる。 事後学修：家族の代理意思決定支援について考えをまとめる。	江本
試験	①②③④⑤	定期試験	江本
事前・事後学修		各回の事前・事後学修は4時間とする	
評　価　方　法		定期試験（90%）、授業参加態度（10%）	
課題に対するフィードバック		授業内で課題に取り組んだ場合は、コメントは授業内でフィードバックする。	
教　　科　　書		系統看護学講座・別巻「家族看護学」医学書院	
参　　考　　書			
履修上の注意点及び取扱い		1．事前学修内容を提示する。毎回取り組んだ上で授業に臨む。	

科　目　名	在宅看護論		
科目コード	34203	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B342032
授業形態	講義	開講時期	2年後期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	馬場　美穂・野田　明美		
実務経験	管理者・看護師として病院・医療機関勤務（野田） 管理者・看護師として病院・地域包括支援センター勤務（馬場）		
オフィスアワー	毎回の授業終了後、30分以内		
科目概要	地域で生活する在宅看護の対象者とその家族を理解し、在宅療養を支えるシステムや在宅看護の基盤となる概念について学ぶ。また、療養の場の変化に伴う継続看護や多職種との連携など、在宅における看護の提供方法について学修する。事例を通して訪問看護師が在宅で行う看護実践の特徴について理解し、少子高齢多死社会における在宅看護の役割と課題について考える。 「別表３：地域・在宅看護論」		
到達目標	①在宅療養を支えるシステム、在宅看護の基盤となる概念を学ぶ。 ②在宅看護の対象者の特徴を理解し、継続看護の必要性を理解する。 ③在宅における看護の提供方法、多職種との連携について理解する。 ④看護実践事例を通して訪問看護師が在宅で行う看護実践の特徴と在宅看護のあり方や看護倫理について理解する。 ⑤地域社会における、在宅看護の役割を理解する。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
各専門職の役割を理解した上で、多職種と協働し、保健医療福祉のチームの一員として、看護職の役割を果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	○
継続的に学ぶ姿勢を身につけている	
自己を研き自らの力を伸ばすことができる	

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①②	講義ガイダンス １．地域・在宅看護の概念 テキスト①P15～53 地域と生活、地域・在宅看護の背景、地域・在宅看護の基盤、地域・・在宅看護の役割り・機能、地域・在宅看護を展開するための基本理念、地域・在宅看護における倫理 事前学修　テキストの講義範囲を読む 事後学修　課題に取り組む。小テストの解答をもとに復習をする。資料整理。	馬場
2	①②③④	１．在宅療養者と家族の支援　テキスト①P55～86 在宅看護の対象者、在宅看護の対象者と在宅療養の成立要件、在宅療養の場における家族のとらえ方、在宅療養者の家族への看護 ２．在宅看護活動の実際 DVD視聴 事前学修　テキストの講義範囲を読む 事後学修　課題に取り組む。小テストの解答をもとに復習をする。資料整理。	馬場
3	②④	地域包括ケアシステムと多様な生活の場における在宅看護 テキスト①P87～139 地域包括ケアシステム、療養の場の移行に伴う看護、地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携、在宅看護におけるケースマネジメント/ケアマネジメント 事前学修　テキストの講義範囲を読む 事後学修　課題に取り組む。小テストの解答をもとに復習をする。資料整理。	馬場
4	②③	地域療養を支える制度　テキスト①P141～195 社会資源の利用、医療保険制度をはじめとする各種制度を知る 事前学修　テキストの講義範囲を読む 事後学修　課題に取り組む。小テストの解答をもとに復習をする。資料整理。	馬場

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
5	①④⑤	１．在宅療養を支える訪問看護　テキスト①P198～232 訪問看護の特徴、在宅ケアを支える訪問看護ステーション、訪問看護サービスの展開、訪問看護の記録 ２．在宅看護における安全と健康危機管理　テキスト①P233～249 在宅看護における危機管理、日常生活における安全管理、災害時における在宅療養者と家族の健康危機管理 事前学修　テキストの講義範囲を読む 事後学修　課題に取り組む。小テストの解答をもとに復習をする。資料整理。	野田
6	③	１．在宅における援助技術　テキスト①P251～274 生活ケアと医療的ケア、生活ケアの援助技術、医療的ケアの援助技術 ２．療養を支える看護技術　テキスト②P69～185　参照 日常生活を支える看護技術、療養を支える看護技術 事前学修　テキストの講義範囲を読む 事後学修　課題に取り組む。小テストの解答をもとに復習をする。資料整理。	馬場
7	③④⑤	１．地域・在宅看護の動向と今後の発展　テキスト①P770～295 在宅看護の先駆的取り組み、これからの在宅看護の発展に向けて ２．在宅看護実践の理解　DVD 視聴 ３．各講義の振り返り　筆記試験の案内 事前学修　テキストの講義範囲を読む 事後学修　課題に取り組む。小テストの解答をもとに復習をする。資料整理。	馬場
試験	①～⑤	１．各授業の確認筆記試験	馬場
事前・事後学修		事前に授業範囲のテキストを読んで授業を受けてください。 講義資料をもとに授業を振り返り、理解を深めるように努めてください。 各120分	
評　価　方　法		定期試験：60% 課題・小テスト：40% 各授業の課題への取り組みも重視します。 欠席した場合は自ら資料や課題について教員に確認をして取り組んでください。	
課題に対するフィードバック		提出課題について、全体へフィードバックは授業の中で行います。 また、個別指導が必要な場合はポータルを利用して対応します。	
教　　科　　書		「ナーシング・グラフィカ　地域・在宅看護論①：地域療養を支えるケア」メディカ出版、臺有桂ほか編 「ナーシング・グラフィカ　地域・在宅看護論②：在宅療養を支える技術」メディカ出版、臺有桂ほか編	
参　　考　　書		適宜、授業時に提示する。	
履修上の注意点及び取扱い		１．遅刻および講義時間中の離席、私語は厳禁です。 ２．教科書や参考文献をよく読み予習して、考えながら授業に参加してください。 ３．知識確認の小テストを随時行う予定です。 ４．講義後によく復習してください。	

科　目　名	エンド・オブ・ライフ看護論		
科目コード	34204	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B342043
授業形態	講義	開講時期	3年前期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	安藤　詳子		
実務経験	看護師として病院勤務		
オフィスアワー	毎回の授業終了後10分以内、及びメールによる問い合わせは随時可能 メールアドレス 安藤 <s.ando.t@ikc.ac.jp>		
科目概要	学生が、人生の終末期を生きる人の苦痛と苦悩、その家族の心理について学び、患者と家族のQOL向上を目指すケアの方法を理解して、その実践のあり方について、主体的に考察できるよう教授する。 「別表３：地域・在宅看護論」		
到達目標	①終末期ケア・緩和ケアの歴史を知り、概念を理解する。 ②患者のトータルペインとその援助方法について理解する。 ③家族・遺族ケアのあり方について知る。 ④終末期ケアにおける多職連携について考察する。 ⑤本講義を通して、自己の看護観・死生観を深める。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	◯
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①⑤	終末期ケア・緩和ケアの歴史と概念 事前・事後学修 ﾃｷｽﾄ：Ⅰ.緩和・ターミナルケア看護学序説	安藤
2	②⑤	終末期にある人の特徴・トータルペイン 事前・事後学修 ﾃｷｽﾄ：Ⅱ.ターミナル期にある人とその家族の特徴と理解	安藤
3	②⑤	終末期にある人への意思決定支援 事前・事後学修 ﾃｷｽﾄ：Ⅲ.ターミナル期にある人とその家族への看護援助	安藤
4	②⑤	身体的な苦痛症状に対する援助 事前・事後学修 ﾃｷｽﾄ：Ⅳ.症状メカニズムとそのマネジメント Ⅴ．薬剤の活用とその副作用への対処方法	安藤
5	②⑤	心理的・社会的な苦悩に対する援助 事前・事後学修 ﾃｷｽﾄ：Ⅶ.心理的支援の方法	安藤
6	②⑤	スピリチュアルペインに対する援助 事前・事後学修 ﾃｷｽﾄ：Ⅵ.コミュニケーション技術と技法	安藤
7	③④⑤	家族・遺族ケア　　終末期ケアにおける多職種連携 事前・事後学修 ﾃｷｽﾄ：Ⅸ.家族・遺族ケアの方法 Ⅹ．医療従事者のストレスとその対処方法	安藤
試験	①②③④⑤	定期試験	安藤

事前・事後学修	事前・事後学修については、各回に記載。 時間は各120分。
評価方法	定期試験90%、小テスト・課題レポート10%
課題に対するフィードバック	課題レポート等に対し、授業中に全体的にコメントする。

教　　科　　書	成人看護学　緩和・ターミナルケア看護論.ヌーヴェルヒロカワ.最新版
参　　考　　書	安藤詳子編集：成人がん看護学.理工図書.2022.　（2年次に購入済み） その他、講義内で適宜紹介する。
履修上の注意点 及び取扱い	１．講義に積極的に参加する。 ２．講義時間中は集中し、私語は厳禁である。 ３．自己の看護観・死生観について考える。 ４．教科書にそって予習・復習する。 ５．各講義における基礎的知識を確認する。

科　目　名	療養生活支援看護学Ⅰ		
科目コード	34205	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B342052
授業形態	講義	開講時期	2年後期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	「療養生活支援看護学Ⅱ・実習」の単位数先修条件となる。		
教員名	安藤　詳子・増永　悦子・小澤　直樹・小野寺　美佳		
実務経験	看護師として病院勤務(安藤・増永・小澤・小野寺)		
オフィスアワー	毎回の授業終了後10分以内、及びメールによる問い合わせは随時可能 安藤：s.ando.t@ikc.ac.jp 増永：e.masunaga.t@ikc.ac.jp 小澤：n.ozawa.t@ikc.ac.jp 小野寺：m.onodera.t@ikc.ac.jp		
科目概要	治癒することが困難で慢性に経過する健康課題（疾患を含む）をもち、医療施設や居宅で、生涯にわたり病気や障害と共に生きていく人々の健康や生活上の課題を、慢性期及び終末期を中心に理解する。対象となる人々がもつ健康や発達課題の特徴、健康障害による生活への影響、QOLに焦点を当てた看護について理論を踏まえて学修する。また、在宅看護の対象の療養者・要介護者、家族への理解を深め、療養型病床を有する地域の医療施設や居宅において提供される看護ケアの特徴と倫理的な課題について学修する。さらに、地域包括ケアシステムを踏まえて、保健・医療・福祉システムにおける協働と連携、チームマネジメントの重要性や看護師の役割について学修する。 「別表３：成人看護学」		
到達目標	①慢性の特性を有する健康課題（慢性疾患を含む）をもつ人（成人期の人を中心に）と家族の特性を理解するために、必要な関連する概念、理論を学ぶ。 ②慢性疾患を含む慢性の特性を有する健康課題をもつ人の、発達課題の特徴（成人期の人を中心に）、健康課題と療養生活過程における生活上のニーズを理解する。 ③慢性疾患を含む慢性の特性を有する健康課題をもつ人と家族に必要とされる看護を実践する際に、有用な概念・理論を理解する。 ④健康レベルに応じて医療機関や在宅において提供される看護、保健・医療・福祉システムについて理解する。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	○
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①③	ガイダンス、生涯にわたり病いや障害を持って生きる人や家族を支援するとは？	安藤 全員
2	①③	生涯にわたり自己管理を必要とする人と家族への看護①‐関連する概念・理論「病みの軌跡」	増永
3	②③④	生涯にわたり自己管理を必要とする人と家族への看護②「セルフ・マネジメント」その１	増永
4	②③④	生涯にわたり自己管理を必要とする人と家族への看護②「セルフ・マネジメント」その２	小澤
5	②③④	がん看護① がんの発生と疫学・がん治療と看護/手術療法・咽頭/喉頭がん	安藤
6	②③④	がん看護② がん治療と看護/放射線療法・子宮がん/卵巣がん	安藤
7	②③④	がん看護③ がん治療と看護/がん薬物療法・造血器腫瘍	安藤
8	②③④	慢性の運動機能障害をもつ人と家族への看護①	増永
9	②③④	慢性の運動機能障害をもつ人と家族への看護②	増永
１０	②③④	慢性の栄養摂取・消化機能障害をもつ人と家族への看護①	小澤

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
１１	②③④	慢性の栄養摂取・消化機能障害をもつ人と家族への看護②	小澤
１２	②③④	慢性の内部環境調節障害をもつ人と家族への看護①	小野寺
１３	②③④	慢性の内部環境調節障害をもつ人と家族への看護②	小野寺
１４	②③④	特別講義：がん化学療法を受ける人と家族への看護	全員
試験	①②③④	定期試験	全員
事前・事後学修		事前学修：講義の前に前回までの内容を検討する。各120分 事後学修：講義の最後に次回の学修内容を指示する。各120分	
評　価　方　法		課題提出：10% 定期試験：90%	
課題に対する フィードバック		課題のフィードバックは講義等で適宜行う。	
教　　科　　書		１．鈴木志津江、藤田佐和編：「成人看護学　慢性期看護論（第3版）」、ヌーヴェルヒロカワ ２．安藤詳子編著：「看護学専門分野教科書シリーズ『成人がん看護学』」、理工図書株式会社	
参　　考　　書		適宜、紹介する。	
履修上の注意点 及び取扱い		１．学修内容が多いので、事前・事後学修を必ず行うこと。 ２．講義への積極的な参加を求める。遅刻および講義時間中の離席、私語は厳禁である。 ３．知識確認の課題提出を随時行う予定である。 ４．欠席時の講義資料等は、該当の講義の担当教員に連絡して受け取ること。	

科　目　名	療養生活支援看護学II		
科目コード	34206	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B342063
授業形態	講義・演習	開講時期	3年前期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	45時間
先修条件	１．「療養生活支援看護学Ｉ」の単位を修得していること。２．「療養生活支援看護学実習」の単位数先修条件となる。		
教員名	安藤　詳子・増永　悦子・小澤　直樹・馬場　美穂・小野寺　美佳		
実務経験	看護師として病院勤務(安藤・増永・小澤・小野寺) 看護師として病院・地域包括支援センター勤務(馬場)		
オフィスアワー	毎回の授業終了後10分以内、及びメールによる問い合わせは随時可能 安藤：s.ando.t@ikc.ac.jp 増永：e.masunaga.t@ikc.ac.jp 馬場：m.baba.t@ikc.ac.jp 小澤：n.ozawa.t@ikc.ac.jp 小野寺：m.onodera.t@ikc.ac.jp		
科目概要	居宅や療養施設で生活する慢性疾患患者の事例を取り上げ、患者と家族に適用される理論や概念を用いて、セルフマネジメント・スキル獲得への支援を中心とした看護実践を学修する。また、在宅看護で必要となる日常生活援助技術の特徴や方法、多職種連携の必要性について学修する。さらに、慢性呼吸不全患者への看護技術（在宅酸素療法）、栄養・代謝機能障害者への看護技術（投薬、自己管理法）、事例による看護過程の展開（情報収集と整理、アセスメント、看護上の問題の抽出、課題の明確化、看護計画立案、看護計画の発表）また、終末期を迎える人と家族への看護について理解を深める。 「別表３：地域・在宅看護論」 「別表３：成人看護学」		
到達目標	①自宅や療養施設で生活する人の、発達課題や健康課題の特徴と療養生活過程における生活上のニーズ、家族支援の必要性について理解する。 ②慢性の特性を有する健康課題をもつ人と家族に適用される基本となる概念や理論を理解する。 ③自宅や療養施設で生活する人と家族に対して、セルフケアやセルフマネジメント・スキル獲得への支援の必要性と方法を理解する。 ④自宅や療養施設で生活する看護の対象事例に看護過程をの展開する。 ⑤慢性の特性を有する健康課題をもつ人と家族が地域で生活できるよう、社会資源の活用方法について説明できる。 ⑥在宅看護で必要となる日常生活援助技術の特徴と方法を理解する。 ⑦終末期を迎える人と家族への看護について理解する。 ⑧療養施設や在宅において提供される看護、保健・医療・福祉システムにおける多職種連携や協働の必要性を理解する。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	○
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①②③⑤	ガイダンス、多職種連携を必要とした在宅看護事例の展開	馬場、全員
2	③④⑤⑥⑧	多職種連携を必要とした在宅看護事例の展開 演習ガイダンス	馬場
3	③④⑤⑥⑧	【演習】多職種連携を必要とした在宅看護事例の展開	馬場、全員
4	③④⑤⑥⑧	【演習】多職種連携を必要とした在宅看護事例の展開	馬場、全員
5	①②③⑧	慢性の呼吸不全をもつ人と家族への看護：COPDを中心に	増永
6	①②③	慢性の呼吸不全をもつ人と家族への看護：COPDを中心に	増永
7	①②③	慢性の呼吸不全をもつ人と家族への看護：入院から外来、在宅までの事例紹介－COPDを中心に	増永
8	①②③④	【演習】慢性の特性を有する健康課題をもつ人と家族への看護過程の展開①－COPDを中心に	小澤、全員

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
9	①②③④	【演習】慢性の特性を有する健康課題をもつ人と家族への看護過程の展開②－COPDを中心に	小澤、全員
１０	①②③④	【演習】慢性の特性を有する健康課題をもつ人と家族への看護過程の展開③－COPDを中心に	小澤、全員
１１	①②③④	【演習】慢性の特性を有する健康課題をもつ人と家族への看護過程の展開④－COPDを中心に	小澤、全員
１２	①②③⑥	慢性の呼吸不全をもつ人と家族への看護技術演習(HOTを含む)　演習ガイダンス	増永、小野寺、全員
１３	①②③⑥	【演習】慢性の呼吸不全をもつ人と家族への看護技術演習(HOTを含む)	小野寺、全員
１４	①②③	慢性の栄養・代謝機能障害をもつ人と家族への看護	小澤
１５	①②③⑥	慢性の代謝障害をもつ人と家族への看護　演習ガイダンス	小澤
１６	①②③⑥	【演習】慢性の代謝障害をもつ人と家族への看護演習	小澤、全員
１７	①②③⑥	【演習】慢性の代謝障害をもつ人と家族への看護演習 自己血糖測定、食事管理	小澤、全員
１８	①②③	慢性の脳・神経機能障害をもつ人と家族への看護：入院から外来、在宅までの事例紹介	増永
１９	①②③⑤⑥	【演習】在宅を含めたフィジカルアセスメント①	増永、全員
２０	①②③⑤⑥	【演習】在宅を含めたフィジカルアセスメント②	増永、全員
２１	①②⑦	在宅における終末期看護	馬場、増永
事前・事後学修		事前学修：各コマのキーワードについて図書・文献等で調べ整理しておく。カスタマーサクセス看護の「なぜ どうして？」を読んでおく（講義：各回120分、演習：各回30分）。 事後学修：授業内容をまとめ、重要なポイントを整理しておく（講義：各回120分、演習：各回30分）。カスタマーサクセス看護の10分テストを実施する。	
評　価　方　法		小テスト：15% 演習(課題提出)：85%	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教　科　書		１．鈴木志津江，藤田佐和編：成人看護学「慢性期看護論」、ヌーヴェルヒロカワ（2学年次に購入済） ２．臺有桂ほか編「ナーシング・グラフィカ　地域・在宅看護論①　地域療養を支えるケア」メディカ出版（2学年次に購入済） ３．臺有桂ほか編「ナーシング･グラフィカ　地域・在宅看護論②　在宅療養を支える技術」メディカ出版（２学年次に購入済）	
参　考　書		適宜紹介する。	
履修上の注意点及び取扱い		１．学修内容が多いので、事前・事後学修を必ず行うこと。 ２．講義・演習への積極的な参加を求める。遅刻および講義時間中の離席、私語は厳禁である。 ３．知識確認の小テストを随時行う予定である。 ４．欠席した場合は、当該講義の担当教員へ連絡の上、次回授業までに資料を取りに来ること。	

科　目　名	療養生活支援看護学実習		
科目コード	34207	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B342073
授業形態	実習	開講時期	3～4年通年
必修・選択	必修		
単位数	4単位	時間数	180時間
先修条件	１．「基礎看護学Ⅲ・実習Ⅱ」「療養生活支援看護学Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること。２．「総合看護学実習」の単位数先修条件となる。		
教員名	安藤　詳子・増永　悦子・小澤　直樹・馬場　美穂・小野寺　美佳		
実務経験	看護師として病院勤務（安藤・増永・小澤・小野寺） 看護師として病院・地域包括支援センター勤務（馬場）		
オフィスアワー	帰校日（学内実習終了後から15時まで）		
科目概要	慢性の病いをもち、医療機関や地域の療養施設及び居宅で生活している患者とその家族を全人的・統合的に理解し、治療施設から居宅における日常生活に復帰するために、自らの力で生活を維持・拡大するセルフマネジメント・スキルの獲得やQOLの向上を支援する看護実践と倫理的な配慮などの看護実践能力の基礎を育む。その際、対象者及び家族の意思決定支援の重要性についても学ぶ。病院や療養施設及び居宅で生活する患者と家族への看護や家族支援の実際を理解し、切れ目のない看護を提供するために支援システムの活用上の課題や活用の在り方を考察する。訪問看護における看護マネジメントと訪問看護師によるケア提供や家族支援、多職種によるチーム連携・協働、社会資源の活 用の実際を理解し、その課題と看護師の役割について学修する。また、慢性の病いから終末期を迎える人と家族への看護についても学修する。 「別表３：臨地実習 成人看護学」 「別表３：臨地実習 地域・在宅看護論」		
到達目標	①慢性の健康課題をもつ看護の対象（家族を含む）に関連する看護の概念や主要な理論を活用できる。 ②慢性の健康課題をもつ看護の対象の発達課題の特徴、健康と生活上の課題を理解して、セルフマネジメント・スキルの獲得やQOLの向上を支援する看護、及び退院支援、継続看護を実施し評価できる。 ③訪問看護における看護マネジメントと訪問看護師によるケア提供や家族支援の場に参加し、在宅における看護提供を看護実践の基礎を身につける。 ④保健・医療・福祉システムにおける多職種との連携や協働、社会資源の活用の実際を理解し、その課題と看護師の役割を考察する。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	○
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
１日目	①②④	午前：健康状態の確認、外来看護実習の全体オリエンテーション 外来（実習部署）案内 午後：外来（実習部署）オリエンテーション、情報収集	全員
２日目	①②④	外来（退院支援センターを含む）看護実習：継続看護カンファレンス	全員
３日目	①②④	外来（退院支援センターを含む）看護実習：継続看護カンファレンス	全員
４日目	①②④	外来（退院支援センターを含む）看護実習：継続看護カンファレンス	全員
５日目	①②④	外来看護実習のまとめ、記録の整理（学内）	全員
６日目	①②④	午前：健康状態の確認、在宅看護実習の全体オリエンテーション 午後：在宅（訪問看護ステーション）オリエンテーション受け持ち患者選定、情報収集	全員
７日目	①②④	受け持ち患者の看護（訪問看護師に随行）記録　カンファレンス	全員
８日目	①②④	受け持ち患者の看護（訪問看護師に随行）記録　カンファレンス	全員
９日目	①②④	受け持ち患者の看護（訪問看護師に随行）記録　カンファレンス	全員

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
１０日目	①②④	在宅看護実習のまとめ、記録の整理（学内）	全員
１１日目	①②③	午前：健康状態の確認、病棟オリエンテーション 午後：受け持ち患者選定、情報収集	全員
１２日目	①②③	受け持ち患者の看護　情報の整理・分析 カンファレンス	全員
１３日目	①②③	受け持ち患者の看護　情報の整理・分析 カンファレンス	全員
１４日目	①②③	受け持ち患者の看護情報の統合　看護計画の立案 記録の整理（学内）	全員
１５日目	①②③	受け持ち患者の看護 中間カンファレンス：情報の統合　看護計画の立案 記録の整理（学内）	全員
１６日目	①②③	受け持ち患者の看護　看護計画に基づく実践 カンファレンス	全員
１７日目	①②③	受け持ち患者の看護　看護計画に基づく実践 カンファレンス	全員
１８日目	①②③	受け持ち患者の看護　看護計画に基づく実践の評価 カンファレンス	全員
１９日目	①②③	受け持ち患者の看護　看護計画に基づく実践の評価 病棟最終カンファレンス：実習のまとめ	全員
２０日目	①②③④	午前：自己評価　個人面接 午後：実習全体のまとめ、記録の整理（学内）	全員
事前・事後学修		事前学修：講義の前に前回までの内容を検討する。各120分 事後学修：講義の最後に次回の学修内容を指示する。各120分	
評　価　方　法		実習目標の達成度（実習記録）：50% グループワーク（主体性、探求性、協調性、客観性、知的誠実性で評価）：20% 課題レポート：30%	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教　科　書		授業科目で使用した教科書以外については、必要な場合に後日紹介する。	
参　考　書		無	
履修上の注意点及び取扱い		１．実習評価表を用いて自己評価を行い、評価面接で教員評価との調整を行う。 ２．実習記録、実習態度、グループへの参加度で総合的に評価する。 ３．上記に示した実習スケジュールは、実習施設、患者等の状況によって変更する場合がある。	

科目名	急性期看護学Ⅰ		
科目コード	34208	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B342082
授業形態	講義	開講時期	2年後期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	「急性期看護学Ⅱ・実習」の単位数先修条件となる。		
教員名	小倉　久美子・岩井　美世子		
実務経験	看護師として病院勤務(小倉・岩井)		
オフィスアワー	講義終了後の休み時間 小倉：内線4325、岩井：内線4319		
科目概要	急性期・周術期看護の基盤となる看護理論について学修する．手術侵襲による心身の反応を知り，早期回復に向けてリハビリテーションなど看護支援について学修する．地域包括ケアステム時代における急性期・周術期看護と地域・在宅との連携を知り，退院に向けた看護支援を学修する．看護の対象を総合的に捉えて，患者とその家族に関わる倫理的な課題について理解を深める． 「別表３：成人看護学」		
到達目標	①急性期・周術期の身体侵襲による心身の反応と回復の特徴を踏まえた看護について説明できる． ②急性期・周術期看護の基盤となる看護理論を理解できる． ③早期回復支援を必要とする対象とその家族への倫理的配慮を理解できる． ④治療による機能低下や自己イメージの変化とともに生きていく対象の支援を説明できる．		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①	ガイダンス 外科看護の流れと看護の特徴 外科的治療の変遷と治療の実際 周手術期の安全管理と感染予防 【事前学修】総論の以下の範囲を熟読する。 ・外科看護の流れと看護の特徴：p2-12、 p194-196、 p218-220 ・外科的治療の特徴と変遷：p14-16 ・外科感染症と術野外感染症：p28-35 ・周術期における安全管理p199-205，院内感染予防：p205 -216 【事後学修】 ・外科患者とその家族の特徴をまとめる ・外科看護の役割をまとめる ・外科感染症についてまとめる ・リスクマネジメントの重要性と周術期に発生しやすいリスクをまとめる	小倉
2	①	成人期の理解：成人の成長発達過程・社会環境と生活、治療参加への支援：意思決定支援、インフォームドコンセント 【事前学修】 ・成人の発達過程について調べる 以下の範囲を熟読する。 ・インフォームドコンセント：総論ｐ197-199 ・意思決定支援：総論ｐ223-226 【事後学修】手術を受ける人への意思決定支援についてまとめる	小倉
3	②	心理的ストレスへの支援：ストレスコーピング理論，危機理論 【事前学修】クリティカルケアの以下の範囲を熟読する。 ・ストレスコーピング理論：ｐ30-35 ・危機理論：：ｐ36-42 【事後学修】危機の定義と種類，Aguileraの危機問題解決モデル、Lazarusのストレスコーピング理論についてまとめる。	小倉

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
4	①	術前・術中の看護，麻酔の基礎知識と術中管理 【事前学修】総論の以下の範囲を熟読する。 ・麻酔法，術前・術中管理：p78-101 ・手術前患者の看護：p220-223、 p226-243 ・手術中患者の看護：p250―291 【事後学修】 ・全身麻酔と硬膜外麻酔の特徴や注意点をまとめる ・全身麻酔が呼吸・循環・消化管・体温に及ぼす影響をまとめる ・術前呼吸訓練の目的と呼吸法をまとめる ・各手術体位が器官系の機能に及ぼす影響をまとめる ・サインイン、タイムアウト、サインアウトをまとめる	岩井
5	①	手術看護の実際 【事前学修】 ・4回授業の復習および手術中患者の看護(総論：p250－282)熟読。 ・手術室看護について質問をまとめる。 【事後学修】手術室看護の要点をまとめる。	岩井
6	①	手術侵襲による生体反応と看護 【事前学修】手術侵襲と生体反応：総論ｐ17～28熟読。 【事後学修】生体の恒常性、生体防御反応、手術侵襲に対する神経・内分泌反応・サイトカインの働きについてまとめる。	小倉
7	①④	回復を促進するための看護，術後合併症①：呼吸器・循環器・消化器 【事前学修】総論の以下の範囲を熟読する。 ・合併症の発生機序：p311―316 ・術後合併症：循環器、呼吸器、消化器、代謝・内分泌系、急性腎不全：p317～326 【事後学修】循環器・呼吸系合併症をまとめる。	小倉
8	①④	回復を促進するための看護、術後合併症②：急性疼痛、術後せん妄 【事前学修】以下の範囲を熟読する。 ・術後の急性疼痛：総論ｐ301-304 ・術後せん妄：総論p355-357、ｐ378-380 【事後学修】侵害受容性疼痛発生機序、疼痛評価、せん妄の診断基準、危険因子、せん妄ケアをまとめる。	小倉
9	①④	回復を促進するための看護，術後合併症③：縫合不全・術後出血・輸血療法、合併症管理：栄養管理・創傷管理 【事前学修】総論の以下の範囲を熟読する。 ・縫合不全：ｐ314、327 ・術後出血：p311-317 ・ドレーン管理：p308 ・輸血療法：ｐ124-136 ・栄養管理：ｐ115-123 ・創傷管理：p24-25、p30-49 【事後学修】術後縫合不全と後出血の定義と観察項目をまとめる。 ドレーン管理の目的、術後の栄養管理の特徴、急性炎症のメカニズム、創傷治癒過程をまとめる。	小倉
１０	①④	回復を促進するための看護、早期離床と廃用萎縮予防(深部静脈血栓症）自己管理にむけた援助、手術を受ける高齢者看護 【事前学修】総論の以下の範囲を熟読する。 ・早期離床の促進：p294-300、 p380-381 ・自己管理に向けた援助、在宅療養者への支援：p10、 p360-370 ・手術を受ける高齢者の看護：p372-389 【事後学修】 ・早期リハビリテーションの意義と方法をまとめる。 ・退院指導の目的と方法をまとめる。 ・手術を受ける高齢者の看護の特徴をまとめる。	小倉
１１	①④	回復を促進するための看護、合併症予防管理：④体液管理と輸液管理 【事前学修】体液管理：総論ｐ110-114、 p304-307熟読 【事後学修】体液分布、膠質浸透圧、水と電解質の平衡をまとめる。	小倉
１２	①④	回復を促進するための看護、水分出納管理の実際 【事前学修】 ・10回授業の復習 ・術後の代謝水・不感蒸泄、水分出納に関する計算式を習熟する。 【事後学修】 ・演習の重要ポイントをまとめる。	小倉
１３	③	集中治療と看護、ICUにおける倫理的課題 【事前学修】集中治療を受ける患者の看護：総論ｐ334-339熟読。 【事後学修】集中治療を受ける患者とその家族の特徴、倫理的な課題をまとめる。	小倉
１４	①②③④	授業のまとめ(1～13回) 【事前学修】1～13回の授業で示した教科書の範囲を熟読する。 【事後学修】本授業で示した重要ポイントについて、各授業資料をもとにまとめる。	小倉・岩井
試験	①②③④	定期試験	小倉・岩井
事前・事後学修		事前学修：講義の前に前回までの内容を確認。各回120分 事後学修：講義最後に次回の学修内容を指示する。各回120分	

評　価　方　法	定期試験（100%）で評価する。原則、再試験は1回とする。
課題に対する フィードバック	授業中に課題のポイントを解説しフィードバックする。
教　　科　　書	①矢永勝彦他、臨床外科看護総論、医学書院 ②北島政樹他、臨床外科看護各論、医学書院 ③益田美津美、明石恵子他、急性期看護：クリティカルケア、メヂカルフレンド社
参　　考　　書	適宜紹介する。
履修上の注意点 及び取扱い	1.出席確認：授業開始時刻に出席登録認証システムで出席を取る。授業開始時刻に出席認証を操作したが認証されず「欠席」となることを防ぐために、授業終了時に学籍番号を読み上げる。該当する学生は教員に申し出ること。原則メールや電話での出席連絡は受け付けない。 2.授業中の私語など他者に迷惑をかける行為を禁止する。授業に関係のないメールやスマートフォンの操作などの行為を禁止する。 3.授業資料は各自1部受け取ること。 4.授業資料は無断での複写、SNS等への配信を禁止する。 5.本授業は臨床実習につながる重要な科目です。授業の到達目標を達成するために、欠席しないように健康管理に留意すること。

科目名	急性期看護学Ⅱ		
科目コード	34209	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B342093
授業形態	演習	開講時期	3年前期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	30時間
先修条件	１．「急性期看護学Ⅰ」の単位を修得していること。２．「急性期看護学実習」の単位数先修条件となる。		
教員名	小倉　久美子・岩井　美世子		
実務経験	看護師として病院勤務(小倉・岩井)		
オフィスアワー	講義や演習終了後の休み時間 小倉：内線4325　岩井：内線4319		
科目概要	急性期・手術期の代表的な病態と看護を学修する．看護過程の展開では，有用な理論や管理方法を用いて，適切な輸液管理，看護ケアおよびを退院支援について学修する.また呼吸・循環・体液・代謝のアセスメントについて学修する． 「別表３：成人看護学」		
到達目標	①急性期・周術期または急性増悪期の患者への看護を理解できる。 ②周術期における看護過程の展開と看護の課題を説明できる。 ③急性期・周術期看護に必要な看護ケアについて学修する。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①	ガイダンス 急性期・周手術期看護に活用できる看護理論と看護過程の展開 運動器系の治療を必要とする人への看護 【事前学修】 運動器系合併症：臨床外科看護総論ｐ326-327を熟読する。 股関節の構造と機能について調べる。 【事後学修】 ・運動器系の手術の特徴と看護の要点をまとめる。 ・変形性股関節症の主要な術後合併症をまとめる。	小倉
2	①	消化器系の治療を必要とする人への看護 【事前学修】臨床外科看護各論の下記範囲を熟読する。 ・胃がん：p171-182 ・大腸腫瘍：p183-185、 206-214 ・開腹手術を受ける患者の看護：p298-307、 314-330 【事後学修】 ・胃切除術の術前・術後について主要な観察項目と看護のポイントをまとめる。 ・大腸手術の術前・術後について主要な観察項目と看護のポイントをまとめる。	岩井
3	①	呼吸器系の治療を必要とする人への看護 【事前学修】臨床外科看護各論の下記範囲を熟読する。 肺の基礎知識：p8-14　　肺がん：16-21 肺切除を受ける患者の看護：p37-54 乳がんの基礎知識：p27-35 乳房の手術を受ける患者の看護：p59-72 【事後学修】肺切除術の術前・術後について、主要な観察項目と看護のポイントをまとめる。	小倉
4	①	循環器系の治療を必要とする人への看護 【事前学修】臨床外科看護各論の下記範囲を熟読する。 心臓の基礎知識：p74-81　　虚血性心疾患：87-92 大動脈解離：p114-116 心臓手術を受ける患者に共通する看護：p127-139 冠動脈バイパス術を受ける患者の看護：p142-146 大動脈瘤・解離患者の看護：p146-153 【事後学修】心臓手術後の主要な合併症(心不全）について、病態と看護のポイントをまとめる。大動脈解離の分類を整理する。	小倉

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
5	①	脳神経系の治療を必要とする人への看護 【事前学修】臨床外科看護各論の下記範囲を熟読する。 脳の基礎知識：p344-370 開頭術を受ける患者の看護：p393-403 開頭術・脳室ドレナージ術を受ける患者の看護：p404-408 【事後学修】 開頭手術の術後合併症と観察の視点をまとめる。 脳室ドレナージの管理をまとめる。	小倉
6	②	演習_看護過程：ガイダンス(看護過程の記録用紙の配布)。 ・事例紹介・看護過程の展開の概要説明。 【事前学修】胃がんの病態と術前・術後看護をまとめる。 【事後学修】症例に関する解剖生理・治療法をまとめる。	小倉
7	②	演習_看護過程の展開①：情報整理のポイントを説明。 【事前学修】アセスメントシートに症例の情報を整理する。 【事後学修】授業での解説を参考にアセスメントシート(1−4)の情報整理とアセスメントを行う。	小倉
8	②	演習_看護過程の展開②：アセスメントの解説および水分出納の計算。 【事前・事後学修】アセスメントシート(5−11）情報整理を行う。 【事後学修】授業での解説を参考にアセスメントシート(1-11）を完成する。	小倉
9	②	演習_看護過程の展開③：アセスメントの解説および関連図の説明。 【事前学修】アセスメントシートにもとづき関連図の構想を考える。 【事後学修】授業での解説を参考に関連図を洗練する。	小倉
１０	②	演習_看護過程の展開④：看護上の問題リストの説明 【事前学修】関連図にもとづき看護問題の抽出と優先順位を考える。 【事後学修】授業での解説を参考に看護問題と優先順位を洗練する。	小倉
１１	②	演習_看護過程の展開⑤：看護計画(看護問題・目標・計画）の説明。 【事前学修】優先順位の高い看護問題をとりあげ、 看護目標、具体的な看護計画を考える。 【事後学修】授業での解説を参考に看護計画を洗練する。	小倉
１２	③	演習_看護過程の展開⑥：演習課題の検討(看護計画ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ)。 【事前学修】演習課題の作成。 【事後学修】看護過程の展開(アセスメント・関連図、問題リスト）を完成する。	小倉
１３	③	演習_看護過程の展開⑦：胃切を受けた患者の看護(視聴覚教材)。 【事前学修】看護過程の展開提出物の整理を行う。 【事後学修】胃切を受けた患者の看護をまとめる。	小倉・岩井
１４	①②③	授業のまとめ(1〜13回) 【事前学修】1〜5回の授業で示した教科書の範囲を熟読し、 理解を深める。疑問点を調べて理解を深める。 【事後学修】本授業で示した重要ポイントを授業資料と教科書をもとにまとめる。	小倉・岩井
試験	①②③	定期試験	小倉・岩井
事前・事後学修		事前学修：講義の前に前回までの内容を検討する。各120分 事後学修：講義の最後に次回の学修内容を指示する。各120分	
評　価　方　法		定期試験60%、演習40%で総合的に評価する。	
課題に対するフィードバック		授業・演習中に課題のポイントを解説しフィードバックする。	
教　　科　　書		矢永勝彦他、臨床外科看護総論、 医学書院 北島政樹他、臨床外科看護各論、 医学書院	
参　　考　　書		適宜紹介する。	
履修上の注意点及び取扱い		1.出席確認：授業開始時刻に出席登録認証システムで出席を取る。授業開始時刻に出席認証を操作したが認証されず「欠席」となることを防ぐため、 授業終了時に学籍番号を読み上げる。該当する学生は教員に申し出る。原則メールや電話での出席連絡を受け付けない。 ２.授業・演習中の私語など他者に迷惑をかける行為を禁止する。授業・演習に関係のないメールやスマートフォンの操作などの行為を禁止する。 3.看護過程のレポート提出について、 公的な理由がない限り指定した日時・場所に提出すること。 4.授業資料は各自1部受け取ること。 5.授業資料は無断での複写、SNS等への配信を禁ずる。 6.本授業は臨床実習につながる重要な科目です。授業の到達目標を達成するために、欠席しないように健康管理に留意すること。	

科　目　名	急性期看護学実習		
科目コード	34210	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B342103
授業形態	実習	開講時期	3～4年通年
必修・選択	必修		
単位数	3単位	時間数	135時間
先修条件	１．「基礎看護学III・実習Ⅱ」「急性期看護学Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること。 ２．「総合看護学実習」の単位数先修条件となる。		
教員名	小倉　久美子・岩井　美世子		
実務経験	看護師として病院勤務(小倉・岩井)		
オフィスアワー	実習時間後、 自習室		
科目概要	急性期・周手術期看護を必要とする対象を総合的に理解し、根拠に基づいた看護計画の立案・実施・評価の一連の看護過程の展開を実施する。 また看護過程の展開の中で、 患者との援助的な人間関係の構築について体験する。 退院後の生活を見据えて、早期回復へのリハビリテーションおよび退院後の日常生活に必要な教育・看護支援について計画立案し実施する。 「別表３：臨地実習　成人看護学」		
到達目標	①周術期または急性増悪の患者を身体的・心理的・社会的側面から総合的に理解する。 ②周術期または急性増悪の患者に対して看護計画を立案することができる。 ③疾患や手術・治療による生体反応や回復を促進するための条件および予測される問題のリスクを踏まえ、 援助の優先順位を判断し実践・評価することができる。 ④周術期または急性増悪の患者に対して退院後の生活を見据えて、 リハビリテーションなど回復の援助ができる。 ⑤看護専門職としての態度を習得できる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	○
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
１日目	①⑤	手術室・ICU実習オリエンテーション	全員
２日目	①⑤	手術室・ICU実習	全員
３日目	①⑤	手術室・ICU実習	全員
４日目	①⑤	手術室・ICU実習	全員
５日目	①⑤	手術室・ICU実習	全員
６日目	①②⑤	病棟オリエンテーション、受け持ち患者の選定と情報収集	全員
７日目	①②③④⑤	受け持ち患者に対して観察の実践およびコミュニケーションを通した情報収集	全員
８日目	①②③④⑤	受け持ち患者の回復に向けて、 行動計画に基づいた看護実践	全員
９日目	①②③④⑤	受け持ち患者の回復に向けて、 行動計画に基づいた看護実践	全員
１０日目	①②③④⑤	受け持ち患者の回復に向けて、行動計画に基づいた看護実践	全員
１１日目	①②③④⑤	受け持ち患者の回復に向けて、行動計画に基づいた看護実践	全員
１２日目	①②③④⑤	受け持ち患者の回復に向けて、行動計画に基づいた看護実践	全員
１３日目	①②③④	受け持ち患者の回復に向けて、行動計画に基づいた看護実践および退院指導	全員

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
１４日目	①②③④⑤	受け持ち患者の回復に向けて、 行動計画に基づいた看護実践および退院指導	全員
１５日目	①②③⑤	受け持ち患者の看護過程展開の振り返りとカンファレンスの実施	全員
事前・事後学修		事前学修：急性期・周手術期看護に関する学修。各回60分。 事後学修：看護過程の記録の整理と不明な点を調べる。各回60分。	
評　価　方　法		臨床実習の評価は、臨床での実習行動および実習レポートで総合的に評価する。	
課題に対するフィードバック		看護過程のフィードバックは実習時間内に行う。	
教　　科　　書		①矢永勝彦他、臨床外科看護総論、医学書院 ②北島正樹他、 臨床外科看護各論、医学書院 ③益田美津美他、急性期看護：クリティカルケア、メヂカルフレンド社	
参　　考　　書		急性期ⅠとⅡの授業で配布した資料。適宜紹介する。	
履修上の注意点及び取扱い		1.実習スケジュールは入院患者の状況によって変更する場合がある。 2.実習レポートの提出について、公的な理由がない限り指定した日時、指定場所に提出すること。 3.その他、注意点は実習オリエンテーションにおいて説明する。	

科目名	高齢者の健康生活支援看護学Ⅰ		
科目コード	34211	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B342112
授業形態	講義	開講時期	2年後期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	「高齢者の健康生活支援看護学Ⅱ・実習Ⅰ・実習Ⅱ」の単位数先修条件となる。		
教員名	野村　千文・佐久間　美里・川井　伸恵		
実務経験	看護師として病院勤務(野村・佐久間・川井)		
オフィスアワー	野　村：授業日・授業終了後～17：00（c.nomura.t@ikc.ac.jp） 佐久間：授業日・授業終了後～17：00（m.sakuma.t@ikc.ac.jp） 川　井：授業日・授業終了後～17：00（n.kawai.t@ikc.ac.jp）		
科目概要	高齢期にある人を身体的、心理・精神的、社会的側面から捉え、高齢者が生涯を終える時まで発達する存在であることを理解し、高齢者看護の特徴について学修する。本科目では高齢者がいきいきと日常生活を送ることができる看護を目指し、看護の対象である高齢者の特徴、高齢者に発症しやすい健康課題に対する基本的な看護を理解したうえで、高齢者とその家族を支援するための保健医療福祉制度や支援システムの活用についても学修する。また、高齢者をめぐる倫理課題を理解し、看護職の担う役割についても考察する。 「別表３：老年看護学」		
到達目標	①高齢者の加齢に伴う身体的・心理的・社会的特性について説明できる。 ②加齢に伴う変化が高齢者の生活に及ぼす影響について説明できる。 ③高齢者に発症しやすい健康課題について説明できる。 ④高齢者の生活を支える看護の基本について述べることができる。 ⑤保健医療福祉制度における看護職の役割について説明できる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	○
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①	オリエンテーション 単元1　高齢期にある人々の生活（課題レポート対象） 1.社会的側面：役割機能、ライフスタイル、老年観、生活機能 事前学修：教科書指定頁の精読（①P18-33） 事後学修：学習記録作成	野村
2	①	2.身体的側面：加齢による生理機能の変化 事前学修：教科書指定頁の精読（①P59-69） 事後学修：学習記録作成	野村
3	①②	2.身体的側面：加齢による生理機能の変化、バイタルサインの特性 事前学修：教科書指定頁の精読（①P224-230） 事後学修：学習記録作成	野村
4	①②	3.心理的側面：老いの受容、QOL、生きがい支援 事前学修：教科書指定頁の精読（①P69-77） 事後学修：学習記録作成	野村
5	①②	4.高齢者のヘルスプロモーション：フレイル、サルコペニア、転倒予防 事前学修：教科書指定頁の精読（①P282-290） 事後学修：学習記録作成	野村
6	①②③	単元2　高齢期に発症しやすい健康課題と看護 1.認知症①：病態、症状、診断、予防と治療 事前学修：教科書指定頁の精読（①P296-298，②P242-266） 事後学修：学習記録作成	佐久間
7	①②③	1.認知症②：支援体制、看護 事前学修：教科書指定頁の精読（②P242-287） 事後学修：授業内容のまとめ	佐久間

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
8	①②③④	中間テスト 単元2　高齢期に発症しやすい健康課題と看護 2.転倒リスク要因と予防対策 事前学修：教科書指定頁の精読（②P292-295） 事後学修：授業内容のまとめ	野村
9	①②③④	３．摂食，嚥下障害，低栄養 事前学修：教科書指定頁の精読（②P35-48） 事後学修：授業内容のまとめ	野村
１０	①②③④	４．排泄（尿失禁，排便障害），掻痒・ドライスキン 事前学修：教科書指定頁の精読（②P54-77，92-96） 事後学修：授業内容のまとめ	佐久間
１１	①②③④	単元3　高齢者看護における倫理的課題 ：高齢者看護における諸理論，高齢者の自己決定，高齢者虐待 事前学修：教科書指定頁の精読（①P194-216） 事後学修：授業内容のまとめ	佐久間
１２	①②③④⑤	単元4　人生の最期の迎え方 ：ACP，エンド・オブ・ライフケア，家族支援 事前学修：教科書指定頁の精読（①P217-221，②p350-368） 事後学修：授業内容のまとめ	佐久間
１３	①②③④⑤	単元５　高齢者を支える保健・医療・福祉制度 ：介護保険制度、社会資源、地域包括ケアシステム 事前学修：教科書指定頁の精読（①P106-146） 事後学修：授業内容のまとめ	佐久間
１４	①②③④⑤	単元５　高齢者を支える保健・医療・福祉制度 ：多様な生活の場における看護職の役割，高齢者看護におけるチームアプローチ 事前学修：教科書指定頁の精読（①P146-183，259-266） 事後学修：授業内容のまとめ 単元６　授業まとめ	佐久間
試験	①②③④⑤	定期試験	全員
事前・事後学修		各回の事前・事後学修は4時間とする	
評　価　方　法		定期試験60%、中間テスト20%、課題レポート10%、授業参加態度10%	
課題に対するフィードバック		課題レポートはコメントを付して返却する	
教　　科　　書		１．堀内ふき他、編：「ナーシング・グラフィカ老年看護学①高齢者の健康と障害」（第7版）、メディカ出版、2023 ２．堀内ふき他、編：「ナーシング・グラフィカ老年看護学②高齢者看護の実践」（第6版）、メディカ出版、2023	
参　　考　　書		無	
履修上の注意点及び取扱い		１．事前学習内容を提示する。毎回取り組んだ上で授業に臨む。 ２．欠席した場合、当日の授業資料は、次回授業前日までに、学生が教員に連絡し受領する。次回までに自己学修しておく。 ３．体調不良などにより授業中に一時的に退室が必要な場合は、挙手にて教員に申し出てから退室し、戻った際は教員に報告する。申し出なく退室した場合は、退室時間にかかわらず欠席とみなす。	

科目名	高齢者の健康生活支援看護学Ⅱ		
科目コード	34212	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B342123
授業形態	講義	開講時期	3年前期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	１．「高齢者の健康生活支援看護学Ⅰ」の単位を修得していること。２．「高齢者の健康生活支援看護学実習Ⅰ・Ⅱ」の単位数先修条件となる。		
教員名	野村　千文・佐久間　美里・川井　伸恵		
実務経験	看護師として病院勤務(野村・佐久間・川井)		
オフィスアワー	野　村：授業日・授業終了後～18：00（c.nomura.t@ikc.ac.jp） 佐久間：授業日・授業終了後～18：00（m.sakuma.t@ikc.ac.jp） 川　井：授業日・授業終了後～17：00（n.kawai.t@ikc.ac.jp）		
科目概要	本科目では、高齢者の加齢に伴う生活機能の変化及び特徴的な健康課題を理解した上で、生活の質の維持・向上を目指した看護支援の方法について学修する。高齢者及び家族の看護に関する概念や理論を活用し看護過程を展開する。さらに代表的な看護技術について学修する。 「別表３：老年看護学」		
到達目標	①高齢者の加齢に伴う身体的・心理的・社会的特性について説明できる。 ②高齢者の健康課題と生活機能障害との関連について考察できる。 ③高齢者の健康課題や生活機能障害に対する看護援助の方法について述べることができる。 ④高齢者看護における代表的な看護技術について高齢者に実施する際の留意点を述べることができる。 ⑤保健医療福祉制度における看護職の役割と今後の課題について考察できる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①②③④	ガイダンス 高齢者看護学における看護過程展開（ポイント概説）／情報収集用紙・アセスメント・全体像・看護問題抽出・計画立案 事前学修：教科書指定頁の精読（②P370-374） 事後学修：学修課題	野村　佐久間
2	①②③④	単元１：転倒予防・教育計画１（手順書・媒体の作成） 事前学修：教科書指定頁の精読（①P292-295，②P136-141） 事後学修：学修課題	佐久間　野村
3	①②③④	単元１：転倒予防・教育計画２（転倒予防教育の実施，振り返り） 事前学修：教科書指定頁の精読（①P292-295，②P136-141） 事後学修：学修課題	佐久間　野村
4	①②③④	単元２：転倒予防・援助計画１（要介護高齢者の移乗介助，リスクアセスメント） 事前学修：教科書指定頁の精読（①P292-295，②P136-141） 事後学修：学修課題	佐久間　野村
5	①②③④	単元２：転倒予防・援助計画２（要介護高齢者の移乗介助，リスクアセスメント） 事前学修：教科書指定頁の精読（①P292-295，②P136-141） 事後学修：学修課題	佐久間　野村
6	①②③④	単元３：生活機能低下を伴う高齢者への看護１（褥瘡ケア，ポジショニング） 事前学修：教科書指定頁の精読（②P152-164） 事後学修：学修課題	佐久間　野村
7	①②③④	単元３：生活機能低下を伴う高齢者への看護２（褥瘡ケア，ポジショニング） 事前学修：教科書指定頁の精読（②P152-164） 事後学修：学修課題	佐久間　野村

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
8	①②③④	単元４：高齢者を対象とした健康増進プログラム１（リアリティオリエンテーション，回想法，嚥下体操） 事前学修：教科書指定頁の精読（①P35-48,P296-298,②P35-48,P242-287） 事後学修：学修課題	野村　佐久間
9	①②③④	単元４：高齢者を対象とした健康増進プログラム２（リアリティオリエンテーション，回想法，嚥下体操） 事前学修：教科書指定頁の精読（①P35-48,P296-298,②P35-48,P242-287） 事後学修：学修課題	野村　佐久間
１０	①②③④	単元５：高齢者看護学における看護過程展開／事例検討１（事例解説、情報収集・全体像・看護問題） 事前学修：教科書指定頁の精読（③P79-103,P140-189） 事後学修：学修課題	野村
１１	①②③④	単元５：高齢者看護学における看護過程展開／事例検討２（看護計画） 事前学修：教科書指定頁の精読（③P79-103,P140-189） 事後学修：学修課題	野村
１２	①②③④	単元５：高齢者看護学における看護過程展開 特別講義 事前学修：教科書指定頁の精読（③P79-103,P140-189） 事後学修：学修課題	野村
１３	①②③④	単元５：高齢者看護学における看護過程展開／事例検討３（経過記録・看護要約） 事前学修：教科書指定頁の精読（③P79-103,P140-189） 事後学修：学修課題	野村
１４	①②③④	単元５：高齢者看護学における看護過程展開／事例検討４（全体像／看護計画発表） まとめ 事前学修：教科書指定頁の精読（③P79-103,P140-189） 事後学修：学修課題	佐久間　野村
試験	①②③④	定期試験	野村　佐久間

事前・事後学修	事前学修：講義の前に前回までの内容を検討する。各120分 事後学修：講義の最後に次回の学修内容を指示する。各120分
評　価　方　法	定期試験：50%、看護過程：20%、課題レポート：20%、授業参加態度：10%
課題に対するフィードバック	課題レポート等はコメント等を付して返却する。
教　科　書	１．堀内ふき他、編：「ナーシング・グラフィカ老年看護学①高齢者の健康と障害」（第7版）、メディカ出版 ２．堀内ふき他、編：「ナーシング・グラフィカ老年看護学②高齢者看護の実践」（第6版）、メディカ出版 ３．渡邊トシ子他、編：「ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく 実践看護アセスメント （第3版）」、ヌーベルヒロカワ
参　考　書	１．奥宮 暁子他、編：「ウェルネスの視点にもとづく老年看護過程第2版 生活機能に焦点をあてたアセスメント（第2版）」、医歯薬出版 ２．上鶴 重美訳：「NANDA-I看護診断　定義と分類 2021-2023（原書第12版）」、医学書院
履修上の注意点及び取扱い	１．事前学修を行い臨む。 ２．欠席した場合は、以下のように対処する。 1）授業資料は、次回授業前日までに、学生が単元の主担当教員に連絡し受領する。次回までに自己学修しておく。 2）看護技術の自己練習は、教員のオフィスアワーで対応する。希望者は事前に主担当教員に連絡する。 ３．体調不良などにより授業中に一時的に退室が必要な場合は、挙手にて教員に申し出てから退室し、戻った際は教員に報告する。申し出なく退室した場合は、退室時間にかかわらず欠席とみなす。 ４．課題レポートの内容は、事前に説明する。計画的に取り組む。

科目名	高齢者の健康生活支援看護学実習Ⅰ		
科目コード	34213	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B342133
授業形態	実習	開講時期	3年後期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	90時間
先修条件	１．「基礎看護学Ⅲ・実習Ⅱ」「高齢者の健康生活支援看護学Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること。２．「高齢者の健康生活支援看護学実習Ⅱ」の単位数先修条件となる。		
教員名	野村　千文・佐久間　美里・川井　伸恵		
実務経験	看護師として病院勤務(野村・佐久間・川井)		
オフィスアワー	野　村：授業日・授業終了後～18：00（c.nomura.t@ikc.ac.jp） 佐久間：授業日・授業終了後～18：00（m.sakuma.t@ikc.ac.jp） 川　井：授業日・授業終了後～18：00（n.kawai.t@ikc.ac.jp）		
科目概要	高齢者施設に入所している高齢者に対して、権利と尊厳を守り、健康維持・増進、日常生活行動の回復、生活の質の向上を目指した看護実践における基礎的能力を身につける。また、高齢者の家族への支援について、地域や高齢者の周囲にある社会資源の活用、保健・医療・福祉システムにおける多職種連携と看護職の役割について理解する。 「別表３：臨地実習 老年看護学」		
到達目標	1．対象者の身体的・心理的・社会的側面を理解し，アセスメントできる ①高齢者の加齢に伴う身体的側面に関する特徴を説明できる。 ②高齢者の加齢に伴う心理的側面に関する特徴を説明できる。 ③高齢者の加齢に伴う社会的・文化的側面に関する特徴を説明できる。 ④対象者の加齢に伴う身体的特性を観察・測定し、健康課題と生活行動上の課題をアセスメントできる。 2．対象者の全体像をふまえた看護計画を立案し，個別性のある援助を安全に実施できる ⑤対象者と家族の情報を統合して全体像を記述できる。 ⑥全体像を基に、看護問題、看護目標、期待される結果を作成できる。 ⑦看護目標を基に、個別性のある看護計画を作成できる。 ⑧対象者の看護問題や生活機能の低下が家族の機能や役割に与える影響について説明できる。 ⑨対象者の生活を整える援助の留意点について分析できる。 ⑩対象者の生活を整える援助を適切な時間内に安全に実施できる。 ⑪認知症高齢者への関わりが理解でき、生活援助が実施できる。 3．実施した援助を振り返り，評価することができる ⑫実施した援助を対象者の反応や結果をふまえて報告・記録できる。 ⑬看護実践を踏まえ、看護計画を評価できる。 ⑭実施した看護の要約を記述できる。 4．看護専門職として、対象者を尊重し、倫理的な配慮ができる ⑮看護倫理を踏まえ対象者や家族に対して、尊重した態度で対応できる。 ⑯看護において人々の基本的人権を擁護するための手段・方法が実施できる。 ⑰保健・医療・福祉システムにおける多職種間の連携の現状と課題を理解し、看護職の役割について考察できる。 5．実習に主体的に臨み，看護観を深めることができる ⑱チームの一員としてケアに参画できる。 ⑲主体的に、実習に臨むことができる。 ⑳自己の看護を振り返り看護観について考えることができる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
１日目	①	施設オリエンテーション：施設案内、受持ち決定、避難経路、物品の取扱い、日課と週間予定など 看護過程の展開（情報収集）、身体診察 事前・事後学修：実習オリエンテーションで指示する。	全員
２日目	②③	看護過程の展開（情報収集、アセスメント）、身体診察、ケア場面の見学、カンファレンス 事前・事後学修：実習オリエンテーションで指示する。	全員

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
３日目	④⑤⑲	看護過程の展開（全体像記述、看護問題抽出、看護計画立案）、カンファレンス 事前・事後学修：実習オリエンテーションで指示する。	全員
４日目	⑥	看護過程の展開（看護計画立案）、看護実践、カンファレンス 事前・事後学修：実習オリエンテーションで指示する。	全員
５日目	⑦⑧	看護過程の展開（初期看護計画の完成）、看護実践、カンファレンス 事前・事後学修：実習オリエンテーションで指示する。	全員
６日目	⑨⑩⑲	看護過程の展開（看護計画修正、経過記録）、シミュレーション演習（対象者への看護技術） 事前・事後学修：実習オリエンテーションで指示する。	全員
７日目	⑪⑫⑬⑮⑯	看護過程の展開（看護計画修正、経過記録）、看護実践、カンファレンス 事前・事後学修：実習オリエンテーションで指示する。	全員
８日目	⑭⑲	看護過程の展開（看護計画修正、経過記録）、看護実践、カンファレンス 事前・事後学修：実習オリエンテーションで指示する。	全員
９日目	⑱	看護過程の展開（看護問題の評価、要約作成） 実習まとめカンファレンス 事前・事後学修：実習オリエンテーションで指示する。	全員
１０日目	⑰⑳	評価面接、実習記録整理、学びの整理、記録提出 事前・事後学修：実習オリエンテーションで指示する。	全員
事前・事後学修		事前学修：講義の前に前回までの内容を検討する。各120分 事後学修：講義の最後に次回の学修内容を指示する。各120分	
評　価　方　法		1．実習評価表の項目に基づき実施する。	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教　　科　　書		1．堀内ふき他、編：「ナーシング・グラフィカ老年看護学①高齢者の健康と障害」（第7版）、メディカ出版 2．堀内ふき他、編：「ナーシング・グラフィカ老年看護学②高齢者看護の実践」（第6版）、メディカ出版 3．渡邊トシ子他、編：「ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく 実践看護アセスメント （第3版）」、ヌーベルヒロカワ	
参　　考　　書		1．奥宮 暁子他、編：「ウェルネスの視点にもとづく老年看護過程第2版 生活機能に焦点をあてたアセスメント（第2版）」、医歯薬出版 2．上鶴 重美訳：「NANDA-I看護診断　定義と分類 2021-2023（原書第12版）」、医学書院	
履修上の注意点及び取扱い		1．上記に示した実習スケジュールは、対象者の状況によって変更する場合がある。	

科　目　名	小児看護学Ⅰ		
科目コード	34215	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B342152
授業形態	講義	開講時期	2年後期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	「小児看護学Ⅱ・実習」の単位数先修条件となる。		
教員名	小平　由美子・河村　江里子		
実務経験	看護師として病院勤務(小平・河村)		
オフィスアワー	講義終了後60分（事前に各教員にコンタクトをとることを希望） 小平：y.kohira.t@ikc.ac.jp　河村：e.kawamura.t@ikc.ac.jp		
科目概要	小児看護の基本である「権利主体としての子ども」と「成長・発達」、「子ども観の変遷と子どもの権利」、「子どもを取り巻く環境や社会の課題」、「子どもや家族の生活を守るための法と施策」について概観する。その上で、健康障害がこどもの成長・発達及び家族に及ぼす影響を理解し、子どもと家族に必要な看護を学修する。また、子どもに関連する保健・医療・福祉の制度や社会資源とその意義についても学ぶ。 「別表３：小児看護学」		
到達目標	①子どもの健康的な成長発達の特徴を説明できる。 ②子どもに特徴的な健康問題と家族に及ぼす影響を説明できる。 ③子どもの成長発達や健康増進を促す看護を説明できる。 ④子どもの権利擁護に基づいた倫理的配慮を考えることができる。 ⑤子どもと家族を支援するための保健・医療・教育・福祉制度、母子保健施策及び社会資源、多職種連携について説明できる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	○
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①②③④⑤	【小児看護学Ⅰ】のオリエンテーション/子どもと家族を取り巻く環境①；【小児看護学Ⅰ】の講義概要を知り、小児医療や小児看護の変遷について理解する。 ＜事前学修＞指定教科書の該当部分を熟読してくる。 ＜事後学修＞授業で配付したレジュメ等を活用し、必要時ポートフォリオを作成する。	小平・河村
2	①	子どもの成長と発達；発達理論、子どもの成長・発達の原則および影響因子、形態的・機能的発達について理解する。 ＜事前学修＞指定教科書の該当部分を熟読してくる。 ＜事後学修＞授業で配付したレジュメ等を活用し、必要時ポートフォリオを作成する。	小平・河村
3	①②③	小児各期における子どもと家族の特徴と生活①；新生児・乳児期における子どもと家族の特徴および生活について理解する。 ＜事前学修＞指定教科書の該当部分を熟読してくる。 ＜事後学修＞授業で配付したレジュメ等を活用し、必要時ポートフォリオを作成する。	小平・河村
4	①②③	小児各期における子どもと家族の特徴と生活②；幼児期における子どもと家族の特徴および生活について理解する。 ＜事前学修＞指定教科書の該当部分を熟読してくる。 ＜事後学修＞授業で配付したレジュメ等を活用し、必要時ポートフォリオを作成する。	小平・河村
5	①②③	小児各期における子どもと家族の特徴と生活③；学童期における子どもと家族の特徴および生活について理解する。 ＜事前学修＞指定教科書の該当部分を熟読してくる。 ＜事後学修＞授業で配付したレジュメ等を活用し、必要時ポートフォリオを作成する。	小平・河村
6	①②③	小児各期における子どもと家族の特徴と生活④；思春期・AYA世代における子どもと家族の特徴および生活について理解する。 ＜事前学修＞指定教科書の該当部分を熟読してくる。 ＜事後学修＞授業で配付したレジュメ等を活用し、必要時ポートフォリオを作成する。	小平・河村

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
7	①②③④⑤	小テスト（子どもの成長・発達）/子どもの事故と教育；小テストは、各自作成したポートフォリオのみ持ち込み可（教科書・レジュメのコピーは不可）/子どもの事故防止と安全教育の子どもと家族への看護について理解する。 ＜事前学修＞指定教科書の該当部分を熟読してくる。 ＜事後学修＞授業で配付したレジュメ等を活用し、必要時ポートフォリオを作成する。	小平・河村
8	①②③④⑤	子どもと家族を取り巻く環境②子どもの権利；子どもの権利と擁護（アドボカシー）および小児看護における倫理的配慮について理解する。 ＜事前学修＞指定教科書の該当部分を熟読してくる。 ＜事後学修＞授業で配付したレジュメ等を活用し、必要時ポートフォリオを作成する。	小平・河村
9	①②③④⑤	病気や診療・入院が子どもと家族に与える影響および看護①病気に対する子どもの理解；子どもの発達段階における病気の理解と説明（インフォームドコンセントとアセント）、プレパレーションについて理解する。 ＜事前学修＞指定教科書の該当部分を熟読してくる。 ＜事後学修＞授業で配付したレジュメ等を活用し、必要時ポートフォリオを作成する。	小平・河村
１０	①②③	急性期症状のある子どもと家族への看護；発熱、脱水、下痢・嘔吐、呼吸困難、けいれんの特徴および子どもと家族の看護について理解する。 ＜事前学修＞指定教科書の該当部分を熟読してくる。 ＜事後学修＞授業で配付したレジュメ等を活用し、必要時ポートフォリオを作成する。	小平・河村
１１	①②③④⑤	病気や診療・入院が子どもと家族に与える影響および看護②外来における子どもと家族への看護；外来看護および小児感染症、予防接種および感染症対策における子どもと家族の看護について理解する。 ＜事前学修＞指定教科書の該当部分を熟読してくる。 ＜事後学修＞授業で配付したレジュメ等を活用し、必要時ポートフォリオを作成する。	小平・河村
１２	①②③④⑤	病気や診療・入院が子どもと家族に与える影響および看護③活動制限・隔離が必要な子どもと家族への看護；活動制限や隔離による子どもと家族への影響およびその看護について理解する。 ＜事前学修＞指定教科書の該当部分を熟読してくる。 ＜事後学修＞授業で配付したレジュメ等を活用し、必要時ポートフォリオを作成する。	小平・河村
１３	①②③④⑤	特別な状況にある子どもと家族の看護①；災害を受けた子どもと家族の看護；災害による子どもと家族への影響および看護と支援について理解する。 ＜事前学修＞指定教科書の該当部分を熟読してくる。 ＜事後学修＞授業で配付したレジュメ等を活用し、必要時ポートフォリオを作成する。	河村・小平
１４	①②③④⑤	特別な状況にある子どもと家族への看護②；子ども虐待と子どもへの影響およびその支援について理解する。 ＜事前学修＞指定教科書の該当部分を熟読してくる。 ＜事後学修＞授業で配付したレジュメ等を活用し、必要時ポートフォリオを作成する。	小平・河村
試験	①②③④⑤	定期試験 ※持ち込み不可	小平・河村
事前・事後学修		・各回の事前・事後学修は4時間とする ・事前・事後学修については各回に示す	
評　価　方　法		筆記試験70%、小テスト30% 筆記試験の配点については教員の担当する回数に準ずる	
課題に対するフィードバック		・レポート等は必要に応じてコメント等を付して返却する。 ・小テストは授業内で補足説明をする。	
教　　科　　書		１．奈良間美保他：小児看護学[1]小児看護学概論　小児臨床看護総論，第14版，医学書院　2020年 ２．奈良間美保他：小児看護学[2]小児臨床看護各論　第14版，医学書院　2020年	
参　　考　　書		１．ナーシング・グラフィカ，小児看護学(1)：小児の発達と看護　第7版，メディカ出版，2023年 ※適宜授業中に提示する。	
履修上の注意点及び取扱い		1．出席方法は授業当日に提示する。 2．出席確認はスマートフォン・タブレット等を使用する場合がある。使用困難な場合は適宜申し出る。 3．各授業のリフレクションの提出による双方向の授業展開を実施する。 4．授業を欠席する場合は、事前に担当教員に連絡の上、次回授業までに直接配付資料等を受け取る。	

科目名	小児看護学Ⅱ		
科目コード	34216	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B342163
授業形態	講義・演習	開講時期	3年前期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	45時間
先修条件	１．「小児看護学Ⅰ」の単位を修得していること。２．「小児看護学実習」の単位数先修条件となる。		
教員名	小平　由美子・河村　江里子		
実務経験	看護師として病院勤務(小平・河村)		
オフィスアワー	講義終了後60分（事前に各教員にコンタクトをとることを希望） 小平：y.kohira.t@ikc.ac.jp　河村：e.kawamura.t@ikc.ac.jp		
科目概要	あらゆる健康問題、そして、様々な困難な状況に置かれている子どもとその家族を理解し、適切な看護支援について学修する。また、そのような子どもと家族に対しては、事例を通して看護計画を立案し、その計画をもとに支援方法を考える。そして、目的と留意点を踏まえた小児看護技術を演習にて学修する。 「別表３：小児看護学」		
到達目標	①健康課題をもち、様々な状況におかれた子どもと家族の特徴を理解することができる。 ②小児事例の看護過程の展開を通して、根拠に基づいた看護援助を理解することができる。 ③小児看護に必要な基本的技術について、子どもに実施する際の留意点を説明できる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	○
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①②③	〔小児看護学Ⅱ〕のオリエンテーション：講義概要およびスケジュールを確認し、講義および演習の学修方法について理解する。 ＜事前学修＞指定教科書の該当部分を熟読してくる。 ＜事後学修＞授業で配付したレジュメ等を活用し、必要時ポートフォリオを作成する。	小平・河村
2	①	急性期における子どもと家族の看護①：出生直後から集中治療が必要な子どもと家族への看護；ハイリスク新生児の特徴およびケア（ディベロップメンタルケア）と子どもと家族への看護について理解する。 ＜事前学修＞指定教科書の該当部分を熟読してくる。 ＜事後学修＞授業で配付したレジュメ等を活用し、必要時ポートフォリオを作成する。	河村・小平
3	①	急性期における子どもと家族の看護②：先天性疾患のある子どもと家族への看護；先天性疾患（主に心疾患）のある子どもと家族への看護について理解する。 ＜事前学修＞指定教科書の該当部分を熟読してくる。 ＜事後学修＞授業で配付したレジュメ等を活用し、必要時ポートフォリオを作成する。	河村・小平
4	①	慢性的な疾患・障害がある子どもと家族への看護：慢性的な経過をとる疾患のある子どもと家族への看護；慢性疾患（主に重症心身障害）および医療的ケアを必要とする子どもと家族への看護と多職種連携、社会資源の活用および在宅への移行支援について理解する。 ＜事前学修＞指定教科書の該当部分を熟読してくる。 ＜事後学修＞授業で配付したレジュメ等を活用し、必要時ポートフォリオを作成する。	河村・小平

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
5	①	急性期における子どもと家族の看護③：アレルギー疾患のある子どもと家族への看護；アレルギー疾患（気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー）のある子どもと家族への看護について理解する。 ＜事前学修＞指定教科書の該当部分を熟読してくる。 ＜事後学修＞授業で配付したレジュメ等を活用し、必要時ポートフォリオを作成する。	河村・小平
6	①	特別な状況にある子どもと家族の看護：災害を受けた子どもと家族の看護；災害による子どもと家族への影響および看護と支援について理解する。 ＜事前学修＞指定教科書の該当部分を熟読してくる。 ＜事後学修＞授業で配付したレジュメ等を活用し、必要時ポートフォリオを作成する。	河村・小平
7	①②	小児の看護過程①小児の看護過程（ゴードンの機能的看護パターン）の特徴および事例紹介 ＜事前学修＞指定教科書の【川崎病の看護】について、疾患および看護について事前学習としてまとめてくる。 ＜事後学修＞授業で配付した事例を活用し、発達段階等不足分についてポートフォリオを追加する。	小平・河村
8	①②	小児の看護過程②一次アセスメント①（ゴードンの機能的健康パターン1・2・4・6） ＜事前学修＞授業で配付したレジュメをもとにゴードンの機能的看護パターン1・2・4・6をアセスメントしてくる。 ＜事後学修＞授業で配付したレジュメを活用し、不足分についてアセスメントを追加する。	小平・河村
9	①②	小児の看護過程③一次アセスメント②（ゴードンの機能的健康パターン3・5・7・8） ＜事前学修＞授業で配付したレジュメをもとにゴードンの機能的看護パターン3・5・7・8をアセスメントしてくる。 ＜事後学修＞授業で配付したレジュメを活用し、不足分についてアセスメントを追加する。	小平・河村
１０	①②	小児の看護過程④一次アセスメント③（ゴードンの機能的健康パターン9・10・11） ＜事前学修＞授業で配付したレジュメをもとにゴードンの機能的看護パターン9・10・11をアセスメントしてくる。 ＜事後学修＞授業で配付したレジュメを活用し、不足分についてアセスメントを追加し、一次アセスメントを完成させる（課題提出※期日については、授業中に提示する）	小平・河村
１１	①③	小児の看護技術①検査を受ける子どもと家族の看護 ＜事前学修＞指定教科書の該当部分を熟読し、ポートフォリオを作成してくる。 ＜事後学修＞授業で配付したレジュメ等を活用し、必要時ポートフォリオを追加する。	小平・河村
１２	①③	小児の看護技術②小児のフィジカルアセスメント ＜事前学修＞指定教科書の該当部分を熟読し、事前課題を作成してくる。 ＜事後学修＞授業で配付したレジュメ等を活用し、必要時事前課題を追加する。	小平・河村
１３	①②	小児の看護過程⑤一次アセスメントの整理と二次（統合）アセスメント ＜事前学修＞ゴードンの機能的看護パターンから看護問題抽出に向けて方向性を考えてくる。 ＜事後学修＞授業で配付したレジュメを活用し、不足分について二次アセスメントを修正する。	小平・河村
１４	①②	小児の看護過程⑥二次（統合）アセスメントと看護問題の明確化（グループワーク） ＜事前学修＞グループワークにて看護問題についてディスカッションできるよう仮の看護問題を立案してくる。 ＜事後学修＞授業で配付したレジュメを活用し、看護問題を修正する。	小平・河村
１５	①②	小児の看護過程⑦二次（統合）アセスメントと看護問題の明確化（グループ発表） ＜事前学修＞グループ内で発表にむけて二次アセスメントの完成および看護問題を立案してくる。 ＜事後学修＞グループ発表をもとに、看護問題を修正・決定する。	小平・河村
１６	①②	小児の看護過程⑧看護問題の明確化（全体グループ発表） ＜事前学修＞グループで発表にむけて二次アセスメントおよび看護問題について役割分担等してくる。 ＜事後学修＞全グループ発表をもとに、看護問題を修正・決定する。	小平・河村
１７	①②	小児の看護過程⑨看護目標の設定・看護計画の立案 ＜事前学修＞抽出した看護問題について看護目標（長期・短期）の設定および看護計画を立案してくる。 ＜事後学修＞グループワークおよび講義を通して、看護目標（長期・短期）および看護計画を修正してくる。	小平・河村

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
１８	①②③	小児の看護過程⑩小児の看護技術③；演習〉看護計画の実施（看護過程の事例におけるフィジカルアセスメントを中心とした小児看護援助技術の実際） ＜事前学修＞立案した看護計画について小児のフィジカルアセスメント（主に小児のバイタルサイン測定）技術が実施できるよう準備をしてくる。 ＜事後学修＞小児看護技術の実施を通して、SOAPを展開してくる。	小平・河村
１９	①②	小児の看護過程⑪看護計画の実施（SOAP）および評価 ＜事前学修＞立案した看護計画の看護目標（長期・短期）に基づき評価（SOAP）してくる。 ＜事後学修＞評価（SOAP）の追加・修正をし、看護過程の課題提出にむけて、一連の看護過程の振り返りをする。	小平・河村
２０	①②	小児の看護過程⑫小児看護および小児の看護過程のまとめ ＜事前学修＞自身で展開した小児看護過程について、課題を抽出してくる。 ＜事後学修＞展開した小児看護過程について、課題を解決し、指定した期日までに過不足なく看護過程を完成・提出する。	小平・河村
２１	①	エンド・オブ・ライフにある子どもと家族の看護：終末期にある子どもと家族への看護について、子どもの死の理解および緩和ケアについて理解する。 ＜事前学修＞指定教科書の該当部分を熟読してくる。 ＜事後学修＞授業で配付したレジュメ等を活用し、必要時ポートフォリオを作成する。	河村・小平
試験	①③	定期試験 ※持ち込み不可	小平・河村
事前・事後学修		・各回の事前・事後学修は4時間とする ・事前・事後学修については各回に示す	
評　価　方　法		筆記試験30%、看護過程演習等レポート70%。 筆記試験の配点については教員の担当する回数に準ずる（看護過程の内容は含まない）	
課題に対するフィードバック		・看護過程・レポート等は必要に応じてコメント等を付して返却する。 ・定期試験終了後、平均点および正答率の低い問題について、ポータルにて解説を配信する。	
教　科　書		１．奈良間美保他：「系統看護学講座　小児看護学［1］小児看護学概論　小児臨床看護総論」（第14版）　医学書院　2020年 ２．奈良間美保他：「系統看護学講座　小児看護学［2］小児臨床看護各論」（第14版）　医学書院　2020年 ２．浅野みどり：「根拠と事故防止からみた小児看護技術」（第3版）　医学書院　2020年	
参　考　書		１．浅野みどり　杉浦太一　大村知子：「発達段階から見た小児看護過程」（第4版）　医学書院　2021年 ２．ナーシング・グラフィカ，小児看護学(2)：小児看護技術　第5版，メディカ出版，2023年 ※　授業の中で適宜提示する。	
履修上の注意点及び取扱い		1．出席方法は授業当日に提示する。 2．出席確認はスマートフォン・タブレット等を使用する場合がある。使用困難な場合は適宜申し出る。 3．各授業のリフレクションの提出による双方向の授業展開を実施する。 4．看護過程の紙上展開については、ジグゾー法によるグループワークを実施する。 5．授業を欠席する場合は、事前に担当教員に連絡の上、次回授業までに直接配付資料等を受け取る。	

科　目　名	小児看護学実習		
科目コード	34217	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B342173
授業形態	実習	開講時期	3～4年通年
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	90時間
先修条件	１．「基礎看護学Ⅲ・実習Ⅱ」「小児看護学Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること。 ２．「総合看護学実習」の単位数先修条件となる。		
教員名	河村　江里子・小平　由美子		
実務経験	看護師として病院勤務(小平、河村)		
オフィスアワー	実習時間外は各教員にコンタクトを取ることを希望する。 小平：y.kohira.t@ikc.ac.jp　河村：e.kawamura.t@ikc.ac.jp		
科目概要	子どもと家族についての主要な看護理論や発達理論を理解したうえで、実際の子どもについて理解する。 小児病棟での受け持ち実習・外来実習を通して、子どもとその家族への身体的・心理的・社会的側面を理解し、適切な看護を行うための基本的な知識・技術・態度を習得する。また、健康障害をもちながら家庭や地域で生活するこどもと家族の継続看護の在り方を考察する。 さらに子どもの看護実践における倫理と権利の擁護者としての看護師の役割について理解を深める。 「別表３：臨地実習　小児看護学」		
到達目標	①ヘルスプロモーションの視点から、こどもの成長・発達過程および発達課題を説明できる。 ②子どもと家族の情報をもとに、健康障害をもつ子どもの心身の状態をアセスメントできる。 ③根拠に基づき、子どもと家族に必要な看護計画が立案できる。 ④看護計画に基づき、看護上の問題解決に向けた援助の実施と評価ができる。 ⑤子どもの安全・安楽に心がけた看護実践ができる。 ⑥地域における子どもの健康な生活（QOL）および成長・発達に向けた社会制度を理解し、多職種連携の必要性が説明できる。 ⑦看護専門職者としての基本的姿勢をもち、子どもの人権擁護にもとづいた倫理的配慮ができる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	○
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
１日目	①②⑥⑦	学内実習：実習オリエンテーション（一般外来と乳児健診・特殊外来について）、技術演習（身体計測、ディストラクション・遊び等を含めた外来での対応）、発達段階・特殊外来患者の一般的な病態生理・看護の予習・復習をする。 【事前学修】行動計画の作成、実習前に指示された事前学習 【事後学修】本日の振り返りの記述	全員
２日目	①②③④⑤⑥⑦	外来実習：一般外来において、予習をもとに患者家族とコミュニケーション、子どもへのディストラクションを通して患者家族を理解する。 【事前学修】行動計画の作成、外来看護計画の作成 【事後学修】実施したケアの結果と評価、本日の振り返りの記述 情報収集とアセスメントの追加・修正	全員
３日目	①②③④⑤⑥⑦	外来実習：乳児健診・特殊外来（アレルギー外来）において、情報収取・予習をもとに患者家族とコミュニケーション、子どもへのディストラクションを通して患者家族を理解する。 【事前学修】行動計画の作成、外来看護計画の作成 【事後学修】実施したケアの結果と評価、本日の振り返りの記述 情報収集とアセスメントの追加・修正	全員
４日目	①②⑥⑦	学内実習：健康な子ども・健康問題をもつ子どもとその家族の動画視聴から、双方の類似点・相違点を理解する。/情報共有・振り返り、記録のまとめ 【事前学修】行動計画の作成 【事後学修】本日の振り返りの記述	全員

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
５日目	①②⑥⑦	学内実習：１週間の学びを共有・まとめ、実習記録の整理 【事前学修】行動計画の作成、発表資料の作成 【事後学修】本日の振り返りの記述	全員
６日目	①②⑤⑥	病棟実習：実習オリエンテーション（受け持ち患児の紹介・あいさつ） 受け持ち患児や家族の情報収集・アセスメント、看護の方向性について相談・検討 【事前学修】行動計画の作成 【事後学修】本日の振り返りの記述、情報収集、アセスメント	全員
７日目	①②③④ ⑤⑥⑦	病棟実習：受け持ち患児の看護・情報収集・アセスメント・統合、看護計画の立案、カンファレンス 【事前学修】行動計画の作成、情報収集とアセスメント 【事後学修】実施したケアの評価（SOAP）、本日の振り返りの記述 情報収集とアセスメントの追加・修正、計画立案	全員
８日目	①②③④ ⑤⑥⑦	病棟実習：受け持ち患児の看護・実践と評価、看護計画の修正・立案、カンファレンス 【事前学修】行動計画の作成、看護計画の立案 【事後学修】実施したケアの評価（SOAP）、本日の振り返りの記述	全員
９日目	①②③④ ⑤⑥⑦	病棟実習：受け持ち患児の看護・実践と評価、看護計画の修正・立案、カンファレンス 【事前学修】行動計画の作成、看護計画の追加、修正 【事後学修】実施したケアの評価（SOAP）、本日の振り返りの記述	全員
１０日目	①②③④ ⑤⑥⑦	病棟実習：受け持ち患児の看護・実践と評価、最終カンファレンス 病棟実習の学びの整理 【事前学修】行動計画の作成、看護計画の追加、修正 【事後学修】実施したケアの評価（SOAP）、本日の振り返りの記述、 実習記録の整理	全員
事前・事後学修		【事前学修】実習の進度に合わせその都度指示する：各120分 【事後学修】実習の進度に合わせその都度指示する：各120分	
評　価　方　法		実習評価表にある項目ごとの評価の合計点数で評価する。	
課題に対するフィードバック		日々の実習で、個人指導、カンファレンス、記録へのコメント等でフィートバックを行う。	
教　科　書		１．奈良間美保他：系統看護学講座　小児看護学１　小児看護学概論　小児臨床看護総論（第14版）、医学書院、2022年、3040円 ２．奈良間美保他：系統看護学講座　小児看護学２　小児看護学各論（第14版）、医学書院、2022年、3440円 ３．浅野みどり編：根拠と事故防止からみた小児看護技術（第３版）、医学書院、2020年、4400円	
参　考　書		浅野みどり　杉浦太一　山田知子編集：発達段階から見た小児看護過程（第4版）、医学書院、2021年、4290円 その他講義資料を積極的に活用する	
履修上の注意点及び取扱い		１．実習ガイダンスには必ず出席する。実習方法、実習内容、実習施設を確認し、実習要項、実習資料を熟読して実習に臨む。 ２．学生としての基本的態度を厳守し、主体的に実習する。 ３．小児看護学Ⅰ・Ⅱの講義内容を復習し、活用する。 ４．実習評価表を用いて自己評価を行う。 ５．実習スケジュールは、対象の状況等によって変更する場合がある。	

科　目　名	母性看護学Ⅰ		
科目コード	34218	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B342182
授業形態	講義	開講時期	2年前期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	「母性看護学実習」の単位数先修条件となる。		
教員名	小島　徳子・大瀬　恵子・野々山　英里・平野　友美		
実務経験	助産師として病院勤務(小島・大瀬・野々山・平野)		
オフィスアワー	講義前後の休み時間		
科目概要	時代の変遷とともに、生涯を通じて性と生殖に関する健康をまもるという観点から、母性看護の対象や母性看護の役割が拡大している。そこで、母性看護の対象を身体的・心理的・社会的・文化的側面から広範囲にとらえアセスメントする能力を学修する。また、子どもをより健康な状態で産み育てる女性とその家族への看護実践能力を養うため、妊娠・分娩・産褥・新生児期にある対象者への知識を深め、各期の特徴や健康課題に対する看護援助方法を学修する。 「別表３：母性看護学」 「別表２：基礎助産学」		
到達目標	①妊娠期の母体の変化、心理・社会的特性、マイナートラブルを理解する。 ②分娩機序と分娩経過、産婦の身体的、心理・社会的変化やハイリスク分娩を理解する。 ③褥婦の身体的、心理・社会的変化と母乳栄養、乳汁分泌のメカニズムを理解する。 ④胎児の成長発達、母体外生活適応過程や新生児の生理的特徴を理解する。 ⑤妊産褥婦・新生児が順調な経過をたどるための看護を理解する。 ⑥正常から逸脱した各期の対象者への看護を理解する。 ⑦母子関係確立および家族役割構築のための看護を理解する。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①⑤	ガイダンス、母性看護の基盤となる概念・母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状　事前・事後学修　「母性看護学概論」p2-56、p58-97	小島
2	①④⑤	妊娠期の看護①：妊娠期の身体的特性　事前・事後学修「母性看護学各論」p62-81	小島
3	①④⑤⑦	妊娠期の看護②：妊娠期の心理・社会的特性、妊婦と家族の看護　事前・事後学修「母性看護学各論」p82-91、p133-182	小島
4	①④⑤	妊娠期の看護③：妊婦と胎児のアセスメントと看護の実際　事前・事後学修「母性看護学各論」p92-132	小島
5	①⑥	妊娠期の看護④：妊娠の異常と看護　事前・事後学修「母性看護学各論」p380-422	小島
6	②⑤	分娩期の看護①：分娩の要素、分娩の経過　事前・事後学修「母性看護学各論」p184-211	大瀬
7	②⑦	分娩期の看護②：分娩が母児に及ぼす影響、産婦・胎児、家族のアセスメントと看護の実際　事前・事後学修「母性看護学各論」p211-226	大瀬
8	②⑥	分娩期の看護③：分娩の異常と看護　事前・事後学修「母性看護学各論」p423-489	大瀬
9	③⑤	産褥期の看護①：産褥期の母体の生理的変化、産褥経過と褥婦のアセスメントと看護の実際　事前・事後学修「母性看護学各論」p322-345	野々山
１０	③⑦	産褥期の看護②：褥婦と家族、退院後の看護　事前・事後学修「母性看護学各論」p345-378	野々山
１１	③⑥	産褥期の看護③：産褥の異常と看護　事前・事後学修「母性看護学各論」p514-535	野々山

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
１２	④⑤	新生児期の看護①：新生児の生理　事前・事後学修「母性看護学各論」p262-281	小島
１３	④⑤	新生児期の看護②：新生児のアセスメントと看護の実際　＊事前・事後学修「母性看護学各論」p281-320	小島
１４	④⑥	新生児期の看護③：新生児の異常と看護　＊事前・事後学修「母性看護学各論」p489-514	小島
試験	①-⑦	定期試験	全員
事前・事後学修		事前学修：教科書該当ページを精読する。各120分 事後学修：配付した資料をもとに学修内容を整理する。各120分	
評　価　方　法		定期試験：小島55%、大瀬20%、野々山25%	
課題に対するフィードバック		定期試験終了後、正答率の低い問題について、ポータル等使用して解説を行う。	
教　科　書		１．森恵美編「系統看護学講座専門分野　母性看護学概論」（第14版）、医学書院 ２．森恵美編「系統看護学講座専門分野　母性看護学各論」（第14版）、医学書院	
参　考　書		１．有森直子編著「母性看護学Ⅰ：概論」、医歯薬出版 ２．有森直子編著「母性看護学Ⅱ：周産期各論」、医歯薬出版 ３．「病気がみえるVol.10　産科」（第4版）、メディックメディア ４．仁志田博司「新生児学入門」（第5版）、医学書院 ５．横尾京子「新生児ベーシックケア」、医学書院	
履修上の注意点及び取扱い		１．学修内容が多いので、事前（教科書の該当箇所を読んでくる）事後（配布資料等で再確認する）の学修を怠らないこと。 ２．講義中の飲食、メールのやり取り、写メ、私語は禁止する。 ３．積極的に授業に参加すること。	

科目名	母性看護学II		
科目コード	34219	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B342192
授業形態	講義	開講時期	2年後期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	１．「母性看護学Ⅰ」を履修していること。２．「母性看護学実習」の単位数先修条件となる。		
教員名	小島　徳子・大瀬　恵子・野々山　英里・平野　友美		
実務経験	助産師として病院勤務(小島・大瀬・野々山・平野)		
オフィスアワー	講義時間前後の休み時間		
科目概要	女性の生涯において、特に周産期にある女性とその家族を対象に、発達課題や健康上の諸問題に焦点を当て、より良い健康生活を送れるようになるため、ウエルネスの視点からの看護を展開し、援助方法を学修する。また、母性看護における特有な援助技術を学ぶため、妊娠・分娩・産褥・新生児期において必要な看護技術演習を行い、実践的なケアや母子保健活動の方法を修得する。これより、次世代の健全育成を目指した実践科学としての母性看護活動を理解する。 「別表３：母性看護学」		
到達目標	①妊娠・分娩・産褥・新生児期の生理的な変化及び特徴についての理解をもとに、対象のヘルスアセスメントができる。 ②紙上事例をとおして情報を分析し、ウェルネス診断に基づいて計画立案までの母性看護の看護過程の展開ができる。 ③技術演習により、母性看護に特有な看護技術を修得できる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①	科目ガイダンス、母性看護技術演習オリエンテーション、事前学修等	全員
2	①③	妊産褥婦・新生児のケア①　事前配布資料、「根拠と事故防止からみた母性看護技術」（第3版）	全員
3	①③	妊産褥婦・新生児のケア②　事前配布資料、「根拠と事故防止からみた母性看護技術」（第3版）	全員
4	①③	妊産褥婦・新生児のケア③　事前配布資料、「根拠と事故防止からみた母性看護技術」（第3版）	全員
5	①③	妊産褥婦・新生児のケア④　事前配布資料、「根拠と事故防止からみた母性看護技術」（第3版）	全員
6	①	女性のライフステージ各期における看護、リプロダクティブヘルスケア　事前・事後学修「母性看護学概論」p190-227、p252-316	野々山
7	①	女性のライフステージ各期における看護、リプロダクティブヘルスケア　事前・事後学修「母性看護学概論」p227-250、p317-326	小島
8	①②	看護過程演習①：母性看護に必要な技術　事前・事後学修「母性看護学概論」p156-188　参考書「ウエルネスからみた母性看護過程＋病態関連図」	小島
9	①②	看護過程演習②：事例による看護過程の展開（事例の説明）事前・事後学修　事前配布資料、「母性看護学各論」p552-586、参考書「ウエルネスからみた母性看護過程＋病態関連図」	小島
１０	①②	看護過程演習③：事例による看護過程の展開（ワーク）事前・事後学修　事前配布資料	全員
１１	①②	看護過程演習④：事例による看護過程の展開（ワーク）事前・事後学修　事前配布資料	全員
１２	①②	看護過程演習⑤：事例による看護過程の展開（ワーク）事前・事後学修　事前配布資料	全員
１３	①	母性看護にかかわる指標、法律や施策　事前・事後学修「母性看護学概論」付録　関係法規の抄録p323-338	小島

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
１４	①②③	まとめ：妊産褥婦・新生児のケア、看護過程	小島
試験	①②③	定期試験	全員
事前・事後学修		事前学修：教科書該当ページを精読する。各120分 事後学修：配付した資料をもとに学修内容を整理する。各120分	
評　価　方　法		定期試験：50%、技術演習（演習内容・事前事後レポート）：各20%（合計40%）、 看護過程（アセスメントシート・関連図・看護計画）：10% 最終評価は、総合的に判定する。	
課題に対する フィードバック		提出されたレポートはコメントを付して返却する。	
教　科　書		１．森恵美編「系統看護学講座専門分野　母性看護学概論」（第14版）、医学書院 ２．森恵美編「系統看護学講座専門分野　母性看護学各論」（第14版）、医学書院 ３．石村由利子編「根拠と事故防止からみた母性看護技術」（第３版）、医学書院	
参　考　書		１．佐世正勝「ウエルネスからみた母性看護過程＋病態関連図」（第3版）、医学書院 ２．太田操編「ウェルネス看護診断に基づく母性看護過程」（第3版）、医歯薬出版 ３．「病気がみえるVol.10　産科」（第4版）、メディックメディア ４．仁志田博司「新生児学入門」（第5版）、医学書院 ５．横尾京子「新生児ベーシックケア」、医学書院 ６．写真でわかる母性看護技術、インターメディカ	
履修上の注意点 及び取扱い		１．事前（教科書の該当箇所）事後（配布資料等）の学修を怠らないこと。 ２．講義中の飲食、メールのやり取り、写メ、私語は禁止する。 ３．積極的に授業やグループワークに参加すること。 ４．技術演習について １）必ずオリエンテーションを受けて臨むこと。 ２）身だしなみを整えること（基礎看護学演習に準ずる）。 ３）スマホや携帯の演習室への持ち込みは禁止する。 ４）演習（含補修）を受けない場合、領域実習が不可となることがある。 ５）欠席した場合、正当な理由がある場合は補習を行う。 ５．課題レポートは、提出日を厳守すること。	

科目名	母性看護学実習		
科目コード	34220	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B342203
授業形態	実習	開講時期	3～4年通年
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	90時間
先修条件	１．「基礎看護学Ⅲ・実習Ⅱ」「母性看護学Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること。 ２．「総合看護学実習」の単位数先修条件となる。		
教員名	小島　徳子・大瀬　恵子・野々山　英里・平野　友美		
実務経験	助産師として病院勤務(小島・大瀬・野々山・平野)		
オフィスアワー	実習時間内		
科目概要	周産期における母子とその家族の身体的・心理的・社会的特性を理解し、それぞれの発達過程に応じた個別的な看護を実践するための基礎的能力を養う。また、母子保健医療チームの一員である看護者の役割と責任について考える。各種保健指導や妊婦健康診査見学などを行い、周産期の対象に実施される健康教育について学修し、母子とその家族への継続した支援を考える。 「別表３：臨地実習 母性看護学」		
到達目標	①対象（妊婦・産婦・褥婦・胎児・新生児）の特徴を理解する。さらに、対象の生活や発達課題を理解し、家族を含めたケアや支援を実践する。 ②外来の特性を理解し、地域の中で、母性看護が妊産褥婦および新生児とその家族に果たす役割について考えることができる。 ③母子保健に関連する法規や制度を理解し、母子および家族支援のための社会資源の活用について考えることができる。 ④対象や家族との関わりの中で、自己の母性・父性意識を発展させることができる。 ⑤カンファレンスを通して、母性看護について考察し、自分の考えを深め、看護職者として守るべき看護倫理を理解し、必要な資質を養うことができる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	○
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
１日目	①②③④⑤	学内実習：実習オリエンテーション、母性看護に必要な技術練習 病棟実習：病棟案内、避難経路、病棟内の物品の場所、受け持ち対象選定、対象への挨拶、情報収集	全員
２日目	①②③④⑤	病棟実習：受け持ち対象の看護（情報収集・アセスメント）、カンファレンス	全員
３日目	①②③④⑤	病棟実習：受け持ち対象の看護（アセスメント・計画立案）、カンファレンス	全員
４日目	①②③④⑤	病棟実習：受け持ち対象の看護（実施・評価）、カンファレンス	全員
５日目	①②③④⑤	病棟実習：受け持ち対象の看護（実施・評価）、振り返り、まとめ、最終カンファレンス	全員
６日目	①②③④⑤	学内技術練習：実習オリエンテーション、母性看護に必要な技術練習補佐 学内実習：DVD視聴等	全員
７日目	①②③④⑤	学内実習：妊婦健診事前学修、母親学級などの動画視聴、トピックスの発表準備	全員
８日目	①②③④⑤	外来実習：妊婦健診、マタニティヨガの見学、学びの発表 学内実習：トピックスの発	全員
９日目	①②③④⑤	外来実習：妊婦健診、母親学級の見学、学びの発表　学内実習：トピックスの発表準備、実習記録の整理・まとめ	全員
１０日目	①②③④⑤	学内実習：母子保健に関するトピックス発表、妊婦健診での学びの発表、振り返り、記録のまとめ	全員
事前・事後学修		事前学修はあらかじめ指示された課題を、実習で活用できるようにまとめておく。 事後学修については実習初日のオリエンテーション時に指示する。	

評　価　方　法	実習評価表を基に、実習記録、カンファレンスへの参加、出席状況等、総合的に評価する。
課題に対する フィードバック	課題レポート等はコメント等を付して返却する。
教　　科　　書	母性看護学Ⅰ・Ⅱに準じる。
参　　考　　書	事前学修としてまとめたものや講義時に配布した資料や演習資料等を活用する。領域に関連する国家試験問題（mediLink等）なども参考にする。
履修上の注意点 及び取扱い	１．学生としての基本的態度を厳守する。 １）限られた実習期間であるため主体的に実習できるよう心掛ける。 ２）服装、身だしなみについては、清潔・安全・機能性に留意する。 ３）報告・連絡・相談を徹底する。 ２．事前学修課題について １）事前学修の書式は自由、実習中に活用しやすいよう、各自工夫して作成する。 ２）アセスメントや計画は実践に活かせるよう、十分な知識と具体的な看護を記載する。 ３）これまでの講義資料と演習資料（看護過程演習を含む）をよく復習する。 ４）実習前に提出する。 ３．事前技術練習を十分に実施していない場合、実習対象とならないことがある。 ４．レポートや記録物の提出日時は厳守する。 ５．規程の出席を満たし、実習記録が提出された場合に評価対象となる。

科　目　名	精神看護学Ⅰ		
科目コード	34221	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B342212
授業形態	講義	開講時期	2年後期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	１．「病態治療学D（精神科学）」を履修していること。 「精神看護学Ⅱ」の単位数先修条件となる。		
教員名	大谷　恵・村岡　大志・髙島　孝晃		
実務経験	看護師として病院勤務（大谷・村岡・高島）		
オフィスアワー	授業日:授業終了後～17：30。 その他は、アポイントメントを取ってください。 メールによる問い合わせ先は以下の通りです。 大谷：m.otani.t@ikc.ac.jp、村岡：h.muraoka.t@ikc.ac.jp、 高島：t.takashima.t@ikc.ac.jp		
科目概要	精神保健および精神看護の基盤となる人間理解を目的に、人間のこころのしくみと発達、危機状況におけるこころのはたらきを踏まえ、精神保健と医療福祉における今日的な課題を明らかにしたうえで、生物学的・心理学的・社会的視点から精神看護の援助に必要な基礎的な概念を学修する。具体的には、精神看護の対象、看護の目的、精神看護に必要な知識と技術を理解する。こころの健康の概念、ライフサイクルにおけるこころの発達と危機を理論に基づいて理解する。危機状況におけるこころの働きを理論を用いて理解する。精神看護の基礎的な概念を理解する。 「別表３：精神看護学」		
到達目標	①現代社会における精神保健・看護のニーズと精神看護学の基本的な考え方を説明できる。 ②こころの健康の概念を説明できる。 ③発達、ストレス、危機の観点からこころのしくみやはたらきを説明できる。 ④精神保健医療福祉の現状や課題を、治療の歴史と人権、法制度をふまえ、説明できる。 ⑤精神看護の対象、目的、活動の場、精神看護に必要な知識と技術を説明できる。 ⑥精神看護における援助の基礎概念を列挙し、説明できる。 ⑦当事者の体験から精神看護の役割について自分の考えを述べることができる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる。	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる。	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる。	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる。	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる。	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる。	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる。	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①	精神看護学を学ぶことの意義：現代社会における精神保健・医療のニーズ、精神看護とその課題、精神看護学の基本的な考え方 ＊事前学修：教科書【1】第1章を読む。 ＊事後学修：教科書【1】p22ゼミナール「課題と復習」①②③を各200字程度にまとめる。	大谷
2	②	精神の健康と健康障害：精神の健康の概念、精神障害のとらええ方、医学モデルと社会モデル、国際生活機能分類 ＊事前学修：教科書【1】第2章A・Dを読む。精神の健康について調べる。 ＊事後学修：教科書【1】p53ゼミナール「課題と復習」①②③を各200字程度にまとめる。	村岡
3	③	こころのはたらきと人格の成長：こころのはたらき、人格と気質、人格の発達に関する諸理論 ＊事前学修：教科書【1】第3章を読む。 ＊事後学修：教科書【1】p113ゼミナール「課題と復習」①③を各400字程度にまとめる。	村岡
4	③	心身の危機とストレス：危機という考え方、心理的ストレスとライフイベント、防衛機制、予防の概念、コーピング ＊事前学修：危機理論について調べる。また、教科書【1】第2章B・Cを読む。 ＊事後学修：教科書【1】p113ゼミナール「課題と復習」②を600字程度にまとめる。	高島

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
5	④	社会のなかの精神障害①：精神障害の治療と歴史、偏見や差別と多様性 ＊事前学修：教科書【1】第7章A～Dを読む。精神保健医療福祉における歴史的変遷について調べる。 ＊事後学修：教科書【1】p369ゼミナール「課題と復習」①を300字程度にまとめる	高島
6	④	社会のなかの精神障害②：精神保健福祉にかかわる法制度と看護職の役割 ＊事前学修：教科書【1】第7章E・Fを読む。p360～361③をA4・1枚にまとめる。 ＊事後学修：教科書【1】p369ゼミナール「課題と復習」③を300字程度にまとめる。	村岡
7	⑤	精神看護の基礎概念：精神看護とは、精神看護者の役割、ケアの前提、ケアの原則、ケアの方法、治療的関係・治療的環境 ＊事前学修：教科書【2】第8章A～Cを読む。 ＊事後学修：授業時に提示する課題に取り組む。授業内容についてノートにまとめる。	大谷
8	⑥	援助の基礎概念１精神看護における患者―看護師関係：患者－看護師関係の発展段階、治療的コミュニケーション、関係のアセスメント、プロセスレコード ＊事前学修：教科書【2】第8章D～F②、事前配布資料を読む。さらに1年時に学修した「看護援助的関係論」の内容を復習する。 ＊事後学修：生活上の1場面を取り上げ、プロセスレコードを記載する。	大谷
9	⑥	援助の基本概念１　精神看護における患者―看護師関係 【演習】ロールプレイによる体験学修・再構成の活用 ＊事前学修：第8回までの授業内容を復習する。授業資料を読み、患者の人となりを想像するとともに、自分なりのかかわりを考える。 ＊事後学修：授業時に提示する課題に取り組む。	大谷・村岡・髙島
１０	⑥	援助の基礎概念2　精神症状の意味と症状を体験している人の理解：精神を病むことと生きること、精神症状の意味と状態像、特異症状と非特異症状 ＊事前学修：教科書【1】第1章B、第5章A～C①を読む。また、「病態治療学D（精神）」の既習内容を復習する。 ＊事後学修：特異症状と非特異症状、思考・感情・意欲・知覚・意識・記憶障害の特徴を各100字程度にまとめる。	村岡
１１	⑥	援助の基礎概念3　回復とはどういうことか：リカバリー、ストレングスモデル、ピアサポート ＊事前学修：教科書【2】第9章、第10章p146～150を読む。 ＊事後学修：授業時に提示する課題に取り組む。授業内容についてノートにまとめる。	髙島
１２	⑥	援助の基礎概念4　人間と集団：集団と個人、グループダイナミクス、全体としてのグループ、グループの方法 ＊事前学修：教科書【1】第4章Cを読む。 ＊事後学修：教科書【1】p142ゼミナール「課題と復習」③を400字程度にまとめる。	大谷
１３	⑦	援助の基礎概念3 精神障害をもつ当事者の体験からから学ぶ：精神障害とともに生きる意味（ゲストスピーカー） ＊事前学修：13回目までの授業内容を復習する。 ＊事後学修：授業時に提示する課題に取り組む。	大谷
１４	⑥	援助の基礎概念5 家族と精神の健康：現代社会と家族、家族内コミュニケーション、システムとしての家族 ＊事前学修：教科書【1】第4章A・Bを読む。 ＊事後学修：教科書【1】p142ゼミナール「課題と復習」①②を各200字程度にまとめる。	大谷
試験	①②③④⑤⑥⑦	定期試験	大谷・村岡・髙島
事前・事後学修		事前：指定された事前課題を実施する。各120分 事後：指定された事後課題を実施する。各120分	
評　価　方　法		定期試験：60% 課題：20% ミニッツノート・学修ノート：20%	
課題に対するフィードバック		課題：コメント等を付して返却する。 試験：平均点および正答率の低い問題について、ポータルにて解説を配信する。	
教　科　書		武井麻子　他（2022)系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護の基礎　精神看護学①　医学書院 武井麻子　他（2022）系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護の展開　精神看護学②　医学書院	
参　考　書		武井麻子（2005）精神看護学ノート第2版、医学書院 落合滋之監修、秋山剛、音羽健司（2015）精神神経ビジュアルブック、学研メディカル秀潤社 中井久夫、山口直彦（2004）看護のための精神医学第2版、医学書院 適宜、紹介する。	

履修上の注意点 及び取扱い	１．授業の進め方：本科目は基本的に講義を中心とするが、適宜、学生が討論する時間を設ける。 ２．予習：次回予定している授業内容や教科書の範囲を提示する。次回の授業までに、提示された教　科書の範囲をよく読んでおく。予習を通しての次回の授業に関する疑問や問題意識をもって、授業に臨む。 ３．ミニッツノート：授業終了直前、短時間でのミニッツノートの記載を課題とする。ミニッツノートには、授業を振り返り、学んだことや感想、疑問、今後の課題など自由に記載する。記載された内容は授業の中でフィードバックする。 ４．学修ノート：授業後は授業を振り返り、事前に抱いていた疑問や問題意識がどのように変化したか、何を学んだか、今後の学修課題等について学修ノートにまとめる。学修ノートは、単に知識をまとめて記載するだけでなく、思考力を育てる役割も担う。授業内で提示する問題を解いて、授業内容の理解を確認する。なお、授業期間中に学修ノートを2回提出する（7回目・15回目）。 ５．疑問やわからないことがあれば、面談を受け付けているので、電子メールでアポイントをとる。 ６．授業を欠席した場合は、担当教員に連絡のうえ、次回授業前までに資料を取りにくる。 ７．授業を途中退出する場合は、授業開始までに理由書を担当教員に提出する。

科目名	精神看護学II		
科目コード	34222	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B342223
授業形態	講義	開講時期	3年前期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	１．「精神看護学Ⅰ」の単位を修得していること。２．「精神看護学実習」の単位数先修条件となる。		
教員名	大谷　恵・村岡　大志・髙島　孝晃		
実務経験	看護師として病院勤務(大谷・村岡・髙島)		
オフィスアワー	授業日・授業終了後～17：30 その他は、アポイントメントを取ってください。 メールによる問い合わせ先は以下の通りです。 大谷：m.otani.t@ikc.ac.jp、村岡：h.muraoka.t@ikc.ac.jp、 高島：t.takashima.t@ikc.ac.jp		
科目概要	精神看護の対象をその人のみならず家族や地域社会との関わりを視野に入れたうえで理解し、必要な看護実践のための知識や技術、看護実践の方法を学修する。授業では、こころを病むことへの理解、基本となる精神看護実践の基盤となる治療的関係や看護の役割に関する理論・知識、個人や集団への治療的アプローチ、精神科リハビリテーションと看護師の役割、地域生活支援、家族支援、身体疾患を持つ人のこころのケア等について学修し、精神看護を実践するための基本的な知識や技法について理解するとともに、身体疾患をもつ人や看護職のメンタルヘルスについても理解を深める。 「別表３：精神看護学」		
到達目標	①精神科における治療の方法や場の特徴について説明できる。 ②精神障害をもつ人に対する看護実践のためのアセスメントの視点、考え方について説明できる。 ③精神障害をもつ人の治療や回復過程ををふまえた看護アプローチについて述べることができる。 ④精神障害をもつ人の地域生活を支える制度や社会資源、方法について説明できる。 ⑤精神看護における個人の尊厳や権利擁護について自分なりの考えを述べることができる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる。	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる。	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる。	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる。	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる。	○
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる。	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる。	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①②	精神看護におけるアセスメントの特徴：さまざまな精神症状と生活への影響、TIC、患者―看護師関係の感情体験、医療の場のダイナミクス ＊事前学修：教科書【2】第8章を読む。「精神看護学Ⅰ」「病態治療学D（精神）」を復習する。 ＊事後学修：教科書【2】p68ゼミナール「復習と課題」①②を各400字程度のまとめる。	大谷
2	①②③	回復を支える：入院治療の目的と意味、入院形態、治療的環境、リハビリテーション、回復のためのプログラム、セルフマネジメントに役立つ方法 ＊事前学修：教科書【2】第11章を読む。 ＊事後学修：自分のWRAPプランを作成する。授業内容についてノートにまとめる。	髙島
3	②③	精神看護における身体的ケアの意味：看護における身体ケア、存在の基盤としての自我感覚、身体的ケアの持つ意味、精神療法としての身体ケア ＊事前学修：教科書【2】第12章A・B・Eを読む。また、基礎看護学で学習した日常生活援助について復習する。 ＊事後学修：教科書【2】p310ゼミナール「復習と課題」①②をまとめる。授業内容についてノートにまとめる。	大谷

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
4	②③	身体面への治療と援助－精神科治療と身体ケア、身体合併症 ＊事前学修：教科書【1】第6章A・C・D、【2】第12章C・Dを読む。脳の神経伝達物質について復習する。 ＊事後学修：教科書【2】p310ゼミナール「復習と課題」③④をまとめる。授業内容についてノートにまとめる	村岡
5	②③	精神面・社会面への治療と援助－回復過程に応じた活動、行動療法、環境療法、社会療法（SST、レクリエーション） ＊事前学修：教科書【１】第6章B①②・E、【2】第9章Fを読む。 ＊事後学修：授業内容についてノートにまとめる。	村岡
6	②③⑤	安全を守る援助－リスクマネジメント、行動制限、緊急事態への対処、災害時の対応 ＊事前学修：教科書【2】第13章を読む。 ＊事後学修：教科書【2】p348ゼミナール「復習と課題」①②③④をまとめる。	髙島
7	①④⑤	精神障害者の家族支援：家族支援とは、家族療法の考え方、家族支援の方法 ＊事前学修：精神障害者の家族支援について調べる。教科書【1】第4章A・B、第6章B③、【2】第10章C⑤を読む。 ＊事後学修：授業時に提示する課題に取り組む。授業内容についてノートにまとめる。	大谷
8	①④⑤	地域生活を支える看護①：精神障害者の地域生活を支える諸制度、地域生活支援の方法 ＊事前学修：精神障害者の地域生活支援について調べる。教科書【2】第10章A～Cを読む。 ＊事後学修：授業内容についてノートにまとめる。	高島
9	①④⑤	地域生活を支える看護②：精神科訪問看護、就労支援、セルフヘルプグループの機能と役割 ＊事前学修：教科書【2】第10章A～Cを読む。 ＊事後学修：授業内容についてノートにまとめる。	高島
１０	②④	アディクションという病い：アディクション、特にアルコール依存症をもつ人の理解と看護、当事者の体験 ＊事前学修：教科書【1】第4章B･p127～129、第5章C･p201～207、第7章F②、【2】第10章B･p146～150、p351のColumを読む。 ＊事後学修：授業時に提示する課題に取り組む。授業内容についてノートにまとめる。	大谷
１１	①②③④⑤	【演習1】精神障害をもつ人への看護展開『患者の人となりを理解する』：グループディスカッション、全体発表 ＊事前学修：個人ワークを行い、グループディスカッションの準備をする。 ＊事後学修：個人ワークの提出・グループディスカッションで学んだことを提出する。	大谷・村岡・高島
１２	①④⑤	精神看護師の活動の実際：精神障害からの回復と精神保健医療福祉チーム（ゲストスピーカー） ＊事前学修：教科書【2】第9～10章を読む。	大谷
１３	①②③④⑤	【演習2】精神看護における倫理的課題へのアプローチ：各グループで模擬倫理検討会の実施、全体発表　＊事前学修：個人ワークとして、提示された看護場面での倫理的葛藤や問題について4分割表を用いて分析する。 ＊事後学修：個人ワークの提出・グループディスカッションで学んだことを提出する。	大谷・村岡・高島
１４	①③	リエゾン精神看護：リエゾン精神看護の役割、医療の場と心の健康、看護師のメンタルヘルス ＊事前学修:教科書【2】第14章を読む。 ＊事後学修:教科書【2】p372ゼミナール「復習と課題」①②③をまとめる。	村岡
試験	①②③④⑤	定期試験	大谷・村岡・髙島
事前・事後学修		事前学修：指定された事前課題を実施する。　各120分 事後学修：指定された事後課題を実施する。　各120分	
評　価　方　法		定期試験：50% 看護展開に関する課題（個人ワーク、グループディスカッション）：10% 看護倫理に関する課題（個人ワーク、振り返りレポート）：10% 課題レポート（第7回、第10回、第13回）：15% ミニッツノート・学修ノート：15%	
課題に対するフィードバック		課題：コメント等を付して返却する。 試験：平均点および正答率の低い問題について、ポータルにて解説を配信する。	
教　科　書		武井麻子　他（2022)系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護の基礎　精神看護学①　医学書院 武井麻子　他（2022）系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護の展開　精神看護学②　医学書院	
参　考　書		武井麻子（2005）精神看護学ノート第2版、医学書院 落合滋之監修、秋山剛、音羽健司（2015）精神神経ビジュアルブック、学研メディカル秀潤社 中井久夫、山口直彦（2004）看護のための精神医学第2版、医学書院 適宜、紹介する。	

履修上の注意点 及び取扱い	１．授業の進め方：本科目は基本的に講義を中心とするが、適宜、学生が討論する時間を設ける。 ２．予習：次回予定している授業内容や教科書の範囲を提示する。次回の授業までに、提示された教　科書の範囲をよく読んでおく。予習を通しての次回の授業に関する疑問や問題意識をもって、授業に臨む。 ３．ミニッツノート：授業終了直前、短時間でのミニッツノートの記載を課題とする。ミニッツノートには、授業を振り返り、学んだことや感想、疑問、今後の課題など自由に記載する。記載された内容は授業の中でフィードバックする。 ４．学修ノート：授業後は授業を振り返り、事前に抱いていた疑問や問題意識がどのように変化したか、何を学んだか、今後の学修課題等について学修ノートにまとめる。学修ノートは、単に知識をまとめて記載するだけでなく、思考力を育てる役割も担う。授業内で提示する問題を解いて、授業内容の理解を確認する。なお、授業期間中に学修ノートを2回提出する（7回目・15回目）。 ５．疑問やわからないことがあれば、面談を受け付けているので、電子メールでアポイントをとる。 ６．授業を欠席した場合は、担当教員に連絡のうえ、次回授業前までに資料を取りにくる。 ７．授業を途中退出する場合は、授業開始までに理由書を担当教員に提出する。

科　目　名	精神看護学実習		
科目コード	34223	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B342233
授業形態	実習	開講時期	3～4年通年
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	90時間
先修条件	１．「基礎看護学III・実習Ⅱ」「精神看護学Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること。 ２．「総合看護学実習」の単位数先修条件となる。		
教員名	大谷　恵・村岡　大志・髙島　孝晃		
実務経験	看護師として病院に勤務（大谷・村岡・高島）		
オフィスアワー	実習時間後30分間（実習施設）。その他はアポイントメントをとってください。 メールによる問い合わせ先は以下の通りです。 大谷：m.otani.t@ikc.ac.jp、村岡：h.muraoka.t@ikc.ac.jp、 高島：t.takashima.t@ikc.ac.jp		
科目概要	精神障害をもつ人を対象に、その人となりを生活上の文脈において理解し、対象のリカバリーに向けた課題にともに取り組むための支援について学修する。 「別表３：臨地実習 精神看護学」		
到達目標	①精神障害をもつ人が日常生活を送る上で，身体・行動・対人関係などの面でどのような課題を抱えているのか，また，それはどのような生きにくさの体験なのかを理解することができる。 ②精神障害をもつ人が体験している生きにくさをその人の生育史や生活背景から捉え、対象のストレングスやレジリエンスに着目した援助の方向性を考えることができる。 ③対象とかかわる中で生じた自らの感情や考えを言語化し，患者－看護者の治療的関係の視点からやりとりを解釈し，考察したことをかかわりに活かすことができる。 ④治療的環境が，精神障害をもつ人にどのような相互作用を生み出しているのかを捉えるとともに，自らが治療的環境の一部として存在していることを意識して行動することができる。 ⑤精神保健医療福祉における各職種の役割を知り、調整・協働・連携における看護師の役割を考察できる。 ⑥精神障害をもつ人を取り巻く環境や支援の現状について、その人の立場に立って考え、今後の課題を考察できる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	○
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
１日目	①②④⑤	実習施設・病棟オリエンテーション 患者とのかかわり ＊事前学修：既習科目の学修内容を復習する。学内実習オリエンテーションの資料を読む。 ＊事後学修：実習内容を記録に整理する。	全員
２日目	①②④⑤	患者とのかかわり、受け持ち患者の決定 患者の日常生活への参加をとおしてアセスメント プロセスレコードによる患者―看護師関係の振り返り① ＊事前学修：実習1日目の学びや課題を振り返り ＊事後学修：実習内容を記録に整理する	全員
３日目	①②③⑤	患者とのかかわり：患者の日常生活への参加をとおして アセスメント：観察・かかわり・記録物などをとおして ＊事前学修：実習２日目の学びや課題を振り返り、必要なアセスメント項目を確認する。 ＊事後学修：実習内容を記録に整理する。	全員
４日目	①②③④	患者とのかかわり：患者の日常生活への参加をとおして アセスメント：観察・かかわり・記録物などをとおして ＊事前学修：実習３日目の学びや課題を振り返り、必要なアセスメント項目を確認する。 ＊事後学修：実習内容を記録に整理する。	全員

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
５日目	①②④⑤	地域で暮らす精神障害をもつ人を支援する施設での活動を学ぶ ＊事前学修：学内実習オリエンテーションの資料を読む。地域移行支援、地域生活支援について調べる。 ＊事後学修：実習内容を記録に整理する。	全員
６日目	①②③④	患者とのかかわり：患者の日常生活への参加をとおして アセスメント（全体像の理解）：観察・かかわり・記録物などをとおして ＊事前学修：1週目の実習を振り返り、2週目に向けての課題と取り組みを考え、現時点までの患者の全体像を言語化する。 ＊事後学修：実習内容を記録に整理する。	全員
７日目	①②③④⑤	患者とのかかわり：患者の日常生活への参加をとおして 患者の全体像、援助の方向性の検討 ＊事前学修：実習６日目の学びや課題を振り返り、アセスメントの修正を行い、患者のありたい姿、希望を検討する。 ＊事後学修：実習内容を記録に整理する。	全員
８日目	①②③④⑤⑥	患者とのかかわり：患者の日常生活への参加をとおして 患者の全体像、援助の方向性の検討 プロセスレコードによる患者―看護師関係の振り返り② ＊事前学修：実習7日目までの患者とのかかわりを振り返り、患者のリカバリーを支援するかかわりを考える。関係の終結について調べる。 ＊事後学修：実習内容を記録に整理する	全員
９日目	①②③④⑤⑥	患者とのかかわり：患者の日常生活への参加をとおして 患者と援助の方向性を話し合う 実習での学びの整理・終結の準備 ＊事前学修：実習8日目までの患者とのかかわりを振り返り、援助の方向性について考える。終結の具体的な方法について考える。 ＊事後学修：実習内容を記録に整理する	全員
１０日目	①②③④⑤⑥	受け持ち患者との終結 実習のまとめ・ケースカンファレンス 個人面談 ＊事前学修：実習9日目までの患者とのかかわりを振り返り、患者との関係の終結、継続看護について考える。ケースカンファレンスの準備を行う。 ＊事後学修：実習内容を記録に整理する。	全員
事前・事後学修		事前学修：指定された事前学修課題を実施する。各120分 事後学修：指定された事後学修課題を実施する。　各120分	
評　価　方　法		実習目標の達成度：60% カンファレンスの参加度（主体的参加、積極性）：20% 記録物の提出：20%	
課題に対するフィードバック		日々の実習では、個人面談、カンファレンス、記録へのコメント等でフィートバックを行う。 実習最終日に個人面談を行う。	
教　　科　　書		武井麻子　他（2022)系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護の基礎　精神看護学①　医学書院 武井麻子　他（2022）系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護の展開　精神看護学②　医学書院	
参　　考　　書		適宜、紹介する。	
履修上の注意点及び取扱い		１．主体性をもって取り組むこと。 ２．実習前ガイダンスに参加すること。 ３．実習スケジュールは、対象の状況等によって変更する場合がある。	

科　目　名	医療安全管理論		
科目コード	34224	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B342243
授業形態	講義	開講時期	3年前期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	青山　恵美		
実務経験	感染管理認定看護師として病院勤務		
オフィスアワー	授業終了後10分間(講師控室)およびメールでの問い合わせ メールアドレス：e_ao@aichi-med-u.ac.jp		
科目概要	医療安全・医療事故の概念と事故発生のメカニズム、医療の場における事故防止対策、事故防止教育、事故発生後の対応とその課題、医療事故防止システムと看護職の役割、医療安全に関する法や政策について学修する。また、具体的な看護業務に関連して発生する事故の具体的な防止方法、サーベイランス、事故防止のための安全用具の活用について理解する。病院内で発生する医療関連感染の予防と清掃、消毒、物品管理などの病院内衛生管理についても理解を深める。 「別表３：看護の統合と実践」		
到達目標	①医療安全の基本的な考え方について説明できる。 ②看護業務の範囲と責任について説明できる。 ③ヒューマンエラーの知識を活かした事故防止対策が説明できる。 ④事故報告の意味と必要性について説明できる。 ⑤医療施設内感染を予防するための管理について説明できる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①②	授業概要説明 医療安全と看護の理念，医療安全への取り組みと医療の質評価 事前学修　教科書P.14～64を読む。安全な医療とは何かについて考えてくる。 事後学修　医療安全を学ぶことの重要性と、看護師が行う業務と安全管理、日本の医療安全への取り組み、医療事故に伴う法的責任についてまとめる。	青山
2	③	医療安全の取り組みと医療の質評価（1回目の続き） 事故発生のメカニズムとリスクマネジメント 事前学修：教科書P.74～121を読む。自身がこれまでに失敗した事例（どんなシチュエーションでも可）を提示できるように考えてくる。 事後学修：ヒューマンエラーのメカニズム、自身が実施するエラー防止対策、医療事故分析の方法と考え方をまとめる。	青山
3	③	チームで取り組む安全文化の醸成 事後学修：教科書P.124～136までを読む。 事後学修：安全文化について考え、安全文化を醸成するために自身がこれから実行することをまとめる。	青山
4	③	看護学生の実習と安全 未然防止対策：危険予知トレーニング（KYT)の実際（グループワーク） インシデント報告の意味と必要性について 事前学修：教科書P.242～273までを読み、KYTについて予習する。また，これまでの実習経験で、ヒヤッとした出来事や、危険だと思った出来事を提示できるように考えてくる。 事後学修：KYTから学んだことをまとめる。インシデントレポートの記載から学んだこと、報告の重要性についてまとめる。	青山
5	②④	看護業務に関連する事故と安全対策 事前学修：P.126～175まで読む。 事前学修：看護場面で発生しやすい事故について2つ取り上げ、その原因と対策をまとめる。	青山

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
6	②③④	在宅看護における医療事故と安全対策 医療従事者の安全を脅かすリスクと対策 事前学修：教科書P.194 ～240まで読む。 事後学修：医療従事者の業務上のリスクとその予防策についてまとめる。	青山
7	④	医療事故後の対応/医療事故分析(グループワーク) 事前学修：これまで学んだことを復習する。特に、P.65～72までを読み、事故分析の実施に向けて手法について予習する。 事後学修：事故発生後の対応について、拡大防止と発生防止の視点からまとめる。	青山
試験	①～⑤	定期試験	青山
事前・事後学修		事前学修：講義の前に前回までの内容を検討する。各120分 事後学修：講義の最後に次回の学修内容を指示する。各120分	
評　価　方　法		グループワーク：30%(積極性、協調性、発表・記録の内容、グループのチームワーク) 定期試験：70%	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教　　科　　書		松下由美子、他編「ナーシング･グラフィカ　看護の統合と実践② 医療安全」メディカ出版	
参　　考　　書		無	
履修上の注意点及び取扱い		グループ討論に積極的に参加すること。 グループワーク（4回・7回）を欠席すると30%は評価できないので注意すること。	

科　目　名	感染予防看護論		
科目コード	34225	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B342253
授業形態	講義	開講時期	3年前期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	畠山　和人		
実務経験	看護師として病院勤務		
オフィスアワー	講義終了後の休み時間で対応（講師控室）		
科目概要	地域社会や医療の場で問題となっている感染症とその感染対策について理解を深め、感染成立のメカニズムと感染予防および感染管理の理論と基本となる感染予防技術を学修する。また、医療関連感染として問題となっている伝染性の強い感染症や薬剤耐性菌感染症の感染経路、病態、診断・治療、感染予防対策、感染症患者の看護について学修する。さらに、医療の場で問題となっている病院内の高頻度接触環境表面の汚染と、清掃、消毒、物品管理などの衛生管理について理解を深める。 「別表３：看護の統合と実践」		
到達目標	①感染成立のメカニズムと感染予防の具体的方法が理解できる。 ②感染症とその対策の歴史的変遷および感染対策に関する法制度・施策が理解できる。 ③医療関連感染とその予防策が理解できる。 ④医療・療養施設および在宅など様々な場面において感染管理の方法が理解できる。 ⑤職業感染発生のメカニズムと防止策について理解できる。 ⑥感染症およびその予防管理にかかわる倫理的な問題を考えることができる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	②	ガイダンス 感染予防の歴史、本邦における感染症発生動向と感染症関連法規・施策等 【事前学修】第2種学校感染症の出席停止基準について調べる。 【事後学修】①学校感染症と感染症法の違い、②感染症法の指定感染症、1類から5類の主な疾患や届け出のタイミング、③第2種学校感染症（季節性インフルエンザ、麻疹、水痘、風疹、流行性耳下腺炎）の出席停止基準、についてまとめる。	畠山
2	①③	感染成立のメカニズム、標準予防策、感染経路別予防策 【事前学修】テキスト1：第13章のB.「標準予防策」、C.「感染経路予防策」を熟読。 【事後学修】①感染成立に必要な要素、②日和見感染症の定義とその対象となる患者や微生物叢、③経路別予防策の代表的な疾患と予防策、についてまとめる。	畠山
3	③	医療関連感染と看護ケア 【事前学修】テキスト1：第13章のG.「カテーテル関連血流感染対策」、テキスト2：第1章のD.「感染症」を熟読。 【事後学修】授業で紹介した4つの医療関連感染について、資料に沿ってまとめる。	畠山

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
4	①②③④	サーベイランス、新興感染症と再興感染症 洗浄・消毒・滅菌の基本的概念と具体的な方法 【事前学修】テキスト１：第13章のD.「洗浄・消毒・滅菌」を熟読。 【事後学修】①結核の感染と発病、治療と検査、②感度と特異度について、③洗浄・消毒・滅菌の定義、④スポルディングの分類、⑤滅菌の種類とインジケーターの特徴、についてまとめる。	畠山
5	④⑤⑥	職業感染（切創・体液曝露、流行性ウイルス感染症など）と予防 【事前学修】テキスト1：第13章のH.「針刺し防止策」を熟読。 【事後学修】医療従事者が事前にワクチン接種で抗体を獲得しておく必要性についてまとめる。	畠山
6	②④	医療廃棄物と療養環境の整備（特にグラム陰性菌対策）、微生物検査 【事前学修】テキスト1：第13章のF.「感染性廃棄物の取り扱い」を熟読。 【事後学修】①バイオハザード別の廃棄内容について、②グラム陰性菌に対する予防策、③血液培養検査で2セット採取する理由、についてまとめる。	畠山
7	②⑥	薬害B型肝炎について、まとめ（すべての講義資料を持参すること） 【事前学修】インターネットにアクセスして、B型肝炎訴訟の手引き（第５版）P3-12までを読んでください。 【事後学修】当事者との取引についてお話や弁護士のお話を聞いて、考えたことについてまとめる。	畠山
試験	①②③④ ⑤⑥	定期試験	畠山
事前・事後学修		事前学修：講義の前に前回までの内容を検討する。各120分 事後学修：講義の最後に次回の学修内容を指示する。各120分	
評　価　方　法		定期試験（90%） 薬害B型肝炎に関する振り返り用紙の提出（10%）	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教　　科　　書		毎回、授業資料を配布する。また以下の教科書は事前・事後学修として使用する。 １．任和子他：「基礎看護学３　基礎看護技術Ⅱ」、医学書院 ２．矢永勝彦、高橋則子編：「別巻　臨床外科看護総論」、医学書院	
参　　考　　書		１．洪愛子：「感染管理ナーシング」、学研 ２．医療情報科学研究所編：「病気がみえる⑥　免疫・膠原病・感染症」、メディックメディア ３．大曲貴夫他、編：「感染管理・感染症看護テキスト」、照林社	
履修上の注意点及び取扱い		１．講義中の飲食や携帯電話の使用は禁止する。 ２．積極的に授業に参加すること。	

科　目　名	クリティカルケア論		
科目コード	34226	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B342263
授業形態	講義	開講時期	3年前期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	小倉　久美子		
実務経験	看護師として病院勤務		
オフィスアワー	講義終了後～休み時間：内線4325		
科目概要	クリティカルケアの領域は、 予期せぬ事故や突発的な出来事による生命の危機的状況にある人に対して、 急変時の対応から集中的な治療・看護および終末期までの過程を範囲とする。本授業では、クリティカルケアの基盤になる理論と看護について学修する。また侵襲的な病態および治療、重症患者のリスクとなる二次障害を知り、根拠に基づいた看護ケアを学修する。そして生命の危機状況にある患者とその家族の倫理的課題を考え、クリティカルケア看護の専門性を学修する。 「別表３：看護の統合と実践」		
到達目標	①クリティカルケアにおける看護師の役割と看護の専門性が理解できる. ②生命の危機状況にある患者に対して、倫理的側面を踏まえた看護が理解できる. ③クリティカルな患者の病態と回復を促す看護が理解できる. ④重症患者の二次障害予防について理解できる. ⑤生命の危機状況にある患者とその家族の心理が理解できる.		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①⑤	ガイダンス，クリティカルケア看護の基本 ・地域包括ケアシステム時代におけるクリティカルケア看護 ・クリティカルケア看護の概要 ・クリティカルケア看護の専門性 【事前学修】急性期看護：クリティカルケアの下記範囲を熟読する。 p2-28、p78-88 【事後学修】クリティカルケア看護の範囲と定義をまとめる。看護の対象の全人的苦痛についてまとめる。	小倉
2	③	クリティカルケアにおける看護実践：呼吸機能障害の病態とアセスメント、 呼吸機能維持・回復を促すための看護援助 【事前学修】急性期看護：クリティカルケアの下記範囲を熟読する。急性呼吸窮迫症候群 p283-295、 呼吸管理 p138-148、鎮痛・鎮静管理 p167-173 【事後学修】人工呼吸器のしくみと使用目的をまとめる。人工呼吸中のポジショニングについてまとめる。	小倉
3	③	クリティカルケアにおける看護実践：脳神経機能障害の病態とアセスメント、 頭蓋内圧亢進予防、 意識障害回復への看護援助 【事前学修】急性期看護：クリティカルケアの下記範囲を熟読する。クモ膜下出血 p307-321 【事後学修】頭蓋奈圧亢進についてまとめる。 急激に意識障害を来した患者家族の心理を考察する。	小倉
4	③	クリティカルケアにおける看護実践：循環障害の病態とアセスメント、循環機能維持、回復を促すための看護援助：急性冠症候群 【事前学修】下記の範囲を熟読する。 急性期看護：クリティカルケア、p241-247 臨床外科看護各論　p74-78、p96-98 【事後学修】胸痛の初期観察をまとめる。 突発的に生命を脅かされるような苦痛をもつ患者の反応を考察する。	小倉

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
5	③④	集中治療を受ける重症患者の二次障害予防と日常性への支援 【事前学修】急性期看護：クリティカルケアの下記範囲を熟読する。p94-95、 p78-88 【事後学修】クリティカルな状態にある患者の日常性への支援について整理する。	小倉
6	①～④	クリティカルケア看護の実際 【事前学修】 ・第1回～5回の授業の復習。 ・クリティカルケアに関する質問を考える。 【事後学修】クリティカルケア看護の要点を整理する。	小倉
7	①②⑤	救急外来における看護実践：初療時の対応と看護師の役割。生命の危機状況にある患者とその家族の心理。 【事前学修】下記の範囲を熟読する。 急性期看護：クリティカルケア、p100-108 臨床外科総論、p185-191 【事後学修】救急看護の特徴をまとめる。クリティカルケアにおける倫理的課題を考察する。	小倉
試験	①～⑤	定期試験	小倉
事前・事後学修		事前学修：講義の前に前回までの内容を検討する。各120分 事後学修：講義の最後に次回の学修内容を指示する。各120分	
評　価　方　法		筆記試験(100%）で評価する。	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教　　科　　書		明石恵子他、急性期看護：クリティカルケア、メヂカルフレンド社 矢永勝彦他、臨床外科看護総論、医学書院 北島政樹他、臨床外科看護各論、医学書院	
参　　考　　書		授業で紹介する.	
履修上の注意点及び取扱い		1.出席確認：授業開始時刻に出席登録認証システムで出席を取る。授業開始時刻に出席認証を操作したが認証されず「欠席」となることを防ぐため、授業終了時に学籍番号を読み上げる。該当する学生は教員に申し出る。原則メールや電話での出席連絡を受け付けない。 ２.授業・演習中の私語など他者に迷惑をかける行為を禁止する。授業・演習に関係のないメールやスマートフォンの操作などの行為を禁止する。 3.授業資料は各自1部受け取ること。 4.授業資料は無断での複写，SNS等への配信を禁ずる。 5.クリティカルケアに興味・関心がもてるよう、クリティカルケア専門家の講義を組み入れています。クリティカルな状態の患者の苦悩や看護実践について一緒に考えていきましょう。	

科目名	国際看護論		
科目コード	34301	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B343013
授業形態	講義	開講時期	3年前期
必修・選択	選択		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	榊原　久孝・淺野　いずみ・佐藤　千歳・山田　優子・若林　真美		
実務経験	榊原：産業医として勤務 淺野：保健師として保健所勤務 佐藤：臨床検査技師として保健所勤務、JICA派遣(モザンビーク) 山田：看護師として病院勤務、海外診療所派遣(ミャンマー)		
オフィスアワー	講義終了後10分間(講義室もしくは講師控室)		
科目概要	個々の民族やグループが持つ文化や健康観、保健行動の違いを理解し、異なる文化的な背景を持つ人々の健康向上のための仕組みと保健医療の実現における課題について学修する。さらに、国際保健医療の見地から、国内外で求められる看護活動の実際とその課題を理解する。 「別表３：看護の統合と実践」		
到達目標	①異なる背景を持つ人々の健康向上のための仕組みと保健医療の実現の課題を理解できる。 ②国際保健の見地から、保健医療の実現における課題を理解できる。 ③国内外で求められる看護活動の実際と課題を理解できる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	○
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①②③	国際看護活動の実践①：国際看護とJICA青年海外協力隊活動	佐藤
2	①②③	国際看護活動の実践②：国際看護と緊急人道援助活動	佐藤
3	①②③	国際協力の機能と構造 開発途上国における看護実践：JICA海外協力隊保健師隊員の活動 ◇事前学修：ウェブサイトにて「JICA」「 JICA海外協力隊」「WHO」「UNICEF」というキーワーズで検索、内容を理解しまとめておく。各回120分 ◇事後学修：講義内容の振返り、関連資料の確認。各回120分	淺野
4	①②③	ミャンマーでの診療所活動と看護 事前課題・事後学修はその都度指示	山田
5	①②③	在留外国人への健康支援と外国人看護師との連携・協働 ◇事前学修：ウェブサイトにて「在留外国人」「外国人労働者」「外国人看護師」というキーワーズで検索、内容を理解しまとめておく。各回120分 ◇事後学修：講義内容の振返り、関連資料の確認。各回120分	淺野
6	①②③	グローバルヘルスにかかわる企業を通した関わり3つの事例（医療観光、医療製品の輸出、医療技術の共有）を通して、グローバルヘルスにおける官民連携を理解する。グローバルヘルスの様々なかかわり方の１つとして、グローバルヘルスにおける官民連携が活発化してきている背景について説明できる。 キーワード：官民連携、国際協力、COVID-19	若林
7	①②③	内容：新型コロナウイルス感染症対策にかかわる国際機関とその仕組みの事例（特に、ワクチンの供給に関する国際的枠組み：COVAX）を通して、国際機関同士の連携や地球規模での課題への取り組みについて理解する。グローバルヘルスに関して、特に国際機関等での国際貢献やその物事の決まり方について説明できる。 キーワード：官民連携、国際協力、COVID-19	若林

事前・事後学修	事前学修：講義の前に前回までの内容を検討する。各120分 今まで学修した国際看護論の中で印象に残ったことを書き出しておく。 ウェブサイトにて「JICA」「 JICA海外協力隊」「WHO」「UNICEF」「在留外国人」「外国人労働者」「外国人看護師」というキーワーズで検索、内容を理解しまとめておく。各回120分 事後学修：講義の最後に次回の学修内容を指示する。各120分 授業の内容を整理し、自分の関心と結び付けて、授業感想を書く。 講義内容の振返り、関連資料の確認。
評 価 方 法	各担当教員による講義後のリアクションペーパーやレポートで評価する。
課題に対するフィードバック	課題レポート等はコメント等を付して返却する。
教 科 書	無
参 考 書	木原正博他監訳（2017）「グローバルヘルス」、MEDSi．柳澤理子編（2017）「改訂版国際看護学」、PILAR． 指定文献(1) 厚生労働省ウェブサイト ：https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/iryouhoken/iryouhoken01/index.html その他必要に応じて、資料・文献を提示する。 1．実践グローバルヘルスー現場における実践力向上を目指して（編）日本国際保健医療学会（2022） 2．若林真美，磯博康，日本におけるグローバルヘルス外交の動向と官民連携，保健医療科学 72(5)，2024年1月 3．若林真美，高橋麻奈，磯 博康，COVAXファシリティ等を通じた新型コロナワクチン支援－太平洋島嶼国を事例として－国際保健医療 37(2) 2022年6月 その他必要に応じて、資料・文献を提示する。
履修上の注意点及び取扱い	1．オンラインでの講義の可能性あり。授業中の携帯電話・スマートフォンの使用は講義で必要な場合のみ可能とします。 2．積極的に授業に臨み、授業を活性化させる発言を期待しています。 3．グループ討議には積極的に参加すること。

科　目　名	キャリア形成論		
科目コード	34304	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B343043
授業形態	講義	開講時期	3年前期
必修・選択	選択		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	清水　輝子		
実務経験	管理者・看護師として病院勤務		
オフィスアワー	授業終了後10分間(講師控室)		
科目概要	キャリアとは、組織内の昇進、専門職の体系的なステップ、生涯にわたる職業経歴、社会的な認知、仕事に関連した生涯にわたる諸経験などである。本科目では、キャリア形成とは、どのようなことかを問い、そのプロセスを通じて、看護職となる自分を見つめ、将来の仕事・職業、社会に主体的に向き合い、自己の目標を実現する考え方や能力を育む。授業では、キャリア形成の概念、自分らしさの発見、職業観の形成、看護職の特性、キャリア準備、キャリア・ラダー、自己管理、自己実現、社会貢献について事例の提示や討論によって理解を深める。 「別表３：看護の統合と実践」		
到達目標	①キャリアの概念とキャリア形成の意義を理解できる。 ②社会の看護へのニーズと看護職のキャリア形成との関連を考えることができる。 ③自己の職業観、将来像について考えることができる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①②③	ガイダンス　キャリア形成の概念 事前・事後学修はその都度指示する。	清水
2	①②③	自分らしさの発見 事前・事後学修はその都度指示する。	清水
3	②	将来の職業像 事前・事後学修はその都度指示する。	清水
4	②	看護職のキャリア形成とは 事前・事後学修はその都度指示する。	清水
5	②	キャリア・ラダーとは 事前・事後学修はその都度指示する。	清水
6	②③	キャリア形成の道（プロセス） 事前・事後学修はその都度指示する。	清水
7	②③	なりたい自分の将来像を明らかにする 事前・事後学修はその都度指示する。	清水
レポート	①②③	レポート	清水

事前・事後学修	事前学修：講義の前に前回までの内容を検討する。各120分 事後学修：講義の最後に次回の学修内容を指示する。各120分
評価方法	レポート：100%
課題に対するフィードバック	課題レポート等はコメント等を付して返却する。
教科書	必要に応じて、資料を提示する。
参考書	必要に応じて、提示する。
履修上の注意点及び取扱い	無

科目名	卒業研究(卒論ゼミナール)		
科目コード	34305	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B343053
授業形態	演習	開講時期	3～4年通年
必修・選択	必修		
単位数	3単位	時間数	90時間
先修条件	2年次後期までの必修科目をすべて修得していること。		
教員名	大谷　恵・安藤　詳子・石井　成郎・榊原　久孝・鈴江　智恵・野村　千文・藤本　悦子・小倉　久美子・小島　徳子・小平　由美子・増永　悦子・伊東　裕康・岩井　美世子・大瀬　恵子・小澤　直樹・河村　江里子・後藤　美恵・佐久間　美里・佐々木　久美子・滝沢　美世志・肥田　武・村岡　大志		
実務経験	産業医として勤務（榊原） 助産師として病院勤務(小島・大瀬) 看護師として病院勤務(安藤・大谷・鈴江・野村・小倉・小平・増永・岩井・小澤・河村・後藤・佐久間・佐々木・滝沢・村岡)		
オフィスアワー	授業日・授業終了後から17時まで・担当教員メールアドレス宛てに連絡		
科目概要	本科目では、文献学修を踏まえ研究目的を明らかにし、研究計画書（プロジェクト計画書）を作成する。指導教員のもと研究（プロジェクト実践）を行い、結果を分析し論文を作成する。学修成果は発表会で報告し、学生間で意見交換を行う。これら一連の過程を通して、学術的なものの見方・態度、企画力・行動力、コミュニケーション力など、総合的な課題解決能力を培う。また、指導教員や研究協力者などとの交流を通して人間理解を深め、看護の可能性を広げる視点を養う。 「別表３：看護の統合と実践」		
到達目標	①文献学修を踏まえ、研究目的、研究方法を明確にすることができる。 ②研究計画書（プロジェクト計画書）を作成することができる。 ③倫理的配慮に関する手続きについて、考察することができる。 ④データを分析し、結果・考察を導くことができる。 ⑤研究結果（プロジェクト実施結果）をまとめ、論文を作成することができる。 ⑥発表会にて、自らの成果を報告し意見交換することができる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	○
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①	ガイダンス 研究疑問（テーマ）に関する文献学修・資料収集 ①	各教員
2	①	研究疑問（テーマ）に関する文献学修・資料収集 ②	各教員
3	①	研究疑問（テーマ）に関する文献学修・資料収集 ③	各教員
4	①	研究疑問（テーマ）に関する文献学修・資料収集 ④	各教員
5	①②	文献学修まとめ	各教員
6	①②	研究目的（プロジェクトテーマ）の検討	各教員
7	①②	研究計画書（プロジェクト計画書）の作成①	各教員
8	①②	研究計画書（プロジェクト計画書）の作成②	各教員
9	①②	研究計画書（プロジェクト計画書）の作成③	各教員
１０	①②	研究計画書（プロジェクト計画書）の作成④	各教員
１１	①②③	倫理的配慮に関する手続きの検討	各教員
１２	③④	研究計画（プロジェクト計画）の実施①	各教員

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
１３	③④	研究計画（プロジェクト計画）の実施②	各教員
１４	③④	研究計画（プロジェクト計画）の実施③	各教員
１５	④	結果の分析①	各教員
１６	④	結果の分析②	各教員
１７	⑤	論文執筆①	各教員
１８	⑤	論文執筆②	各教員
１９	⑤	論文執筆③	各教員
２０	⑤⑥	発表会①	各教員
２１	⑤⑥	発表会②	各教員

科目名	周産期医学論		
科目コード	35101	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B351013
授業形態	講義	開講時期	3年前期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	助産師課程に在籍していること。		
教員名	大瀬　恵子・今永　弓子・坂井　啓造・嶋津　光真・西川　有紀子・服部　慎之介・南谷　智之		
実務経験	大瀬：助産師として病院勤務 嶋津：指導医・専門医として病院勤務 坂井：指導医・専門医として病院勤務 西川：専門医として病院勤務 南谷：指導医・専門医・認定医として病院勤務 今永：医師として病院勤務 服部：医師として病院勤務		
オフィスアワー	授業終了後10分間(講師控室)		
科目概要	妊婦初期から中期・末期、産後における代表的な疾患について、疫学的状況、病態、特徴的な症候、治療法、予後等の基本的事項を学修する。授業では、可能な限り症例を提示し、母親及び新生児の正常からの逸脱を早期に発見、予知、さらには予防するために必要な知識や判断について、事例検討を行う。また、公衆衛生的な取り組みや倫理的事項についても、事例を検討することを通して理解を深める。 「別表２：助産診断・技術学」		
到達目標	①妊娠、分娩、産褥各期の正常からの逸脱の識別に必要な基礎知識と検査法が理解できる。 ②習得した知識を活用して、異常の早期発見はもとより、予防的ケアを考えることができる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①	妊娠期の異常(妊娠持続期間の異常、着床異常、他) 事前学修：キーワードについて各自テキストを読み、ノートにまとめて授業に臨むこと。 事後学修：授業内容をノートにまとめ、学修内容を整理すること。	嶋津
2	①	不妊治療 事前学修：キーワードについて各自テキストを読み、ノートにまとめて授業に臨むこと。 事後学修：授業内容をノートにまとめ、学修内容を整理すること。	嶋津
3	①	新生児の異常と救急 事前学修：「ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」p.234-302、「病気がみえる」p.400-431 事後学修：授業内容をノートにまとめ、学修内容を整理すること。 内科的合併症妊娠の管理　（心・血管系疾患合併妊娠、血液疾患合併妊娠、腎疾患合併妊娠） 事前学修：「ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」p.81-84・90-97、「病気がみえる」p.195-198 事後学修：授業内容をノートにまとめ、学修内容を整理すること。	嶋津
4	①	母子感染症の診断と治療 事前学修：「ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」p.118-127、「病気がみえる」p.206-226 事後学修：授業内容をノートにまとめ、学修内容を整理すること。	服部

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
5	①	出生前診断 事前学修：キーワードについて各自テキストを読み、ノートにまとめて授業に臨むこと。 事後学修：授業内容をノートにまとめ、学修内容を整理すること。	西川
6	①②	母子感染症の診断と治療 事前学修：「ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」p.118-127、「病気がみえる」p.206-226 事後学修：授業内容をノートにまとめ、学修内容を整理すること。	西川
7	①②	胎児異常妊娠、遺伝カウンセリング 事前学修：キーワードについて各自テキストを読み、ノートにまとめて授業に臨むこと。 事後学修：授業内容をノートにまとめ、学修内容を整理すること。	南谷
8	①②	産科手術、無痛分娩 事前学修：キーワードについて各自テキストを読み、ノートにまとめて授業に臨むこと。 事後学修：授業内容をノートにまとめ、学修内容を整理すること。	南谷
9	①②	分娩期の異常（分娩3要素の異常） 事前学修：キーワードについて各自テキストを読み、ノートにまとめる。 事後学修：教科書や参考書、授業で配布したプリントをもとに授業内容を整理すること。	今永
１０	①②	出産に伴う偶発合併症（弛緩出血、子宮内反症、頸管裂傷、DIC、産褥熱など） 事前学修：キーワードについて各自テキストを読み、ノートにまとめて授業に臨むこと。 事後学修：授業内容をノートにまとめ、学修内容を整理すること。	南谷
１１	①②	産褥期の異常（精神疾患、他） 事前学修：キーワードについて各自テキストを読み、のーとにまとめる。 事後学修：教科書や参考書、授業で配布したプリントをもとに授業内容を整理すること。	今永
１２	①②	産科救急、外国人妊産婦へのケア 事前学修：キーワードについて各自テキストを読み、ノートにまとめて授業に臨むこと。 事後学修：授業内容をノートにまとめ、学修内容を整理すること。	南谷
１３	①②	ハイリスク妊娠 事前学修：キーワードについて各自テキストを読み、ノートにまとめて授業に臨むこと。 事後学修：授業内容をノートにまとめ、学修内容を整理すること。	坂井
１４	①②	婦人科疾患合併妊娠 事前学修：キーワードについて各自テキストを読み、ノートにまとめて授業に臨むこと。 事後学修：授業内容をノートにまとめ、学修内容を整理すること。	坂井
試験	①②	定期試験	全員
事前・事後学修		事前学修：講義の前に前回までの内容を検討する。各120分 事後学修：講義の最後に次回の学修内容を指示する。各120分	
評　価　方　法		定期試験：100%	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教　科　書		１．遠藤俊子編「助産師基礎教育テキスト７　ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」、日本看護協会出版会 ２．医療医用法研究会編「病気がみえる　Vol.10　産科」（第３版）、メディックメディア	
参　考　書		１．荒木勤「最新産科学　正常編」（第22版）、文光堂 ２．荒木勤「最新産科学　異常編」（第22版）、文光堂	
履修上の注意点及び取扱い		院内での緊急事態により、授業回が前後する可能性がある。 その場合は学務課を通じて掲示等で連絡するため、注意すること。	

科　目　名	助産学総論		
科目コード	35102	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B351023
授業形態	講義	開講時期	3年前期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	「助産管理論」の単位数先修条件となる。		
教員名	大瀬　恵子・小島　徳子・野々山　英里・平野　友美		
実務経験	助産師として病院勤務(小島・大瀬・野々山・平野)		
オフィスアワー	講義前後の休み時間内		
科目概要	助産の基本概念、変遷過程を理解し、対象の特性及び国際的な視野を含めた幅広い助産活動を行うために必要な基本知識を学修する。助産師の社会的使命と役割・機能を理解するとともに、助産の意義や対象を広くとらえ「助産、助産師とは何か」を絶えず自らに問いかけながら助産師の専門性、助産師に求められる姿勢や態度について考え、学修することをねらいとする。 「別表２：助産診断・技術学」		
到達目標	①助産師の実践活動について歴史的変遷を踏まえ、その役割と責務を理解できる。 ②助産師の専門性と自律した業務活動について理解できる。 ③助産師の職業倫理について理解できる。 ④助産活動について、日本と諸外国の活動を比較検討できる。 ⑤助産師教育について、日本と諸外国の教育を比較検討できる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①②	助産師課程概要・授業の進め方　助産の概念 ※事前事後「助産学講座１」該当ページと配布資料	小島
2	②③	助産師の定義と業務　助産師と教育 ※事前事後「助産学講座１」該当ページと配布資料	小島
3	③	プレコンセプションケア ※事前事後「助産学講座１・２・３」該当ページと配布資料	野々山
4	①	助産師を支える理論と研究 ※事前事後「助産学講座１」該当ページと配布資料	小島
5	①	助産師と倫理 ※事前事後「助産学講座１」該当ページと配布資料	小島
6	②	母子保健の動向 ※事前事後「助産学講座１・９」該当ページと配布資料	小島
7	②	助産の歴史と文化 ※事前事後「助産学講座１」該当ページと配布資料	小島

事前・事後学修	事前学修：講義の前に前回までの内容を検討する。各120分 事後学修：講義の最後に次回の学修内容を指示する。各120分
評価方法	課題レポート１００％
課題に対するフィードバック	課題レポート等はコメント等を付して返却する。
教科書	１．我部山キヨ子、安達久美子編：「助産学講座１　基礎助産学[１]　助産学概論」（第６版）、医学書院 ２．我部山キヨ子、武谷雄二編、藤井知行：「助産学講座２　基礎助産学[２]　母子の基礎科学」（第６版）、医学書院 ３．我部山キヨ子編：「助産学講座３　基礎助産学[３]　母子の健康科学」（第６版）、医学書院
参考書	山本あい子編：「助産師基礎教育テキスト１　助産概論」、日本看護協会出版会 吉沢豊予子：「助産師基礎教育テキスト２　女性の健康とケア」、日本看護協会出版会

履修上の注意点 及び取扱い	【履修について】 1　事前事後の学修を怠らないこと。 2　課題やレポートは、提出日時を厳守すること。 【出欠席について】 1　無断欠席は一切認めない。 2　やむを得ず欠席する場合は、担当教員に連絡すること。 【定期試験の受験資格について】 学修ガイダンスに準ずる。 【定期試験（課題レポート）不合格者に対する取扱いについて】 （助産師課程要項参照） 不合格（再試験でD評価）の場合、次年度に再履修することはできない。 したがって、助産師課程離脱となる。

科　目　名	助産管理論		
科目コード	35103	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B351033
授業形態	講義	開講時期	3年後期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	１．「助産学総論」・「助産診断技術学Ⅰ」の単位を修得していること。２．「助産学演習」の単位数先修条件となる。		
教員名	大瀬　恵子・鈴江　智恵・小島　徳子・野々山　英里・平野　友美・中村　尚子・真野　真紀子		
実務経験	看護師として病院勤務（鈴江） 助産師として病院勤務(小島・大瀬・野々山・平野) 管理者・助産師として病院勤務(真野) 管理者・助産師として助産院勤務（中村）		
オフィスアワー	講義前後の休み時間		
科目概要	助産業務の管理に必要な知識、法的範囲と責任と助産師外来や院内助産を含めた助産所のマネジメントとしての管理運営の基本に関する理解を深め、助産師業務を評価・調整する基礎的な能力を養う。また、周産期医療を取り巻く助産管理の実際と課題（医療安全の確保と医療事故防止とその対応、災害時の看護等）を様々な助産活動の場を通して理解する。 「別表２：助産管理」		
到達目標	①助産業務・管理の基本概念とプロセスについて理解する。 ②助産活動に関連した法規と責任について理解する。 ③助産業務管理の理論と実際を理解し、その課題を考えることができる。 ④助産に関わる事故・災害について理解し、その対応・対策を考えることができる。 ⑤自立した助産師活動について考えることができる。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	○
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①③	助産管理の基本と助産業務管理：組織における管理とは 「助産学講座10　助産管理」該当ページ	鈴江
2	①③	助産管理の基本と助産業務管理：組織における管理とは 「助産学講座10　助産管理」該当ページと配布資料	鈴江
3	②③	助産業務管理と医療経済、関連法規と助産師の業務・責任：関連法規、助産師の法的責任と義務 「助産学講座10　助産管理」」該当ページと配布資料	小島
4	②③	関連法規と助産師の業務・責任：関連法規、助産師の法的責任と義務 「助産学講座10　助産管理」該当ページと配布資料 母子保健行政の体系：母子保健にかかわる法律 「助産学講座9　地域母子保健・国際母子保健」該当ページと配布資料	小島
5	①③	周産期医療体制と地域連携 助産学講座10　助産管理」」該当ページ	小島
6	②③	地域母子保健の考え方 「助産学講座9　地域母子保健・国際母子保健」該当ページ	小島
7	③⑤	場に応じた助産業務管理：周産期棟・混合病棟の管理 「助産学講座10　助産管理」」該当ページと配布資料	真野
8	③⑤	場に応じた助産業務管理：院内助産・院内助産院の管理 「助産学講座10　助産管理」」該当ページと配布資料	真野
9	④⑤	助産に関する医療安全と危機管理：助産師が行う安全対策と医療事故防止 「助産学講座10　助産管理」該当ページと配布資料	小島
１０	③⑤	国際母子保健：諸外国の母子保健活動、海外在日外国人の母子保健 在留外国人の母子保健 「助産学講座9　地域母子保健・国際母子保健」該当ページと配布資料	小島

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
１１	③⑤	災害対策：災害時の地域母子保健活動 「助産学講座10　助産管理」「助産学講座9　地域母子保健・国際母子保健」該当ページと配布資料	小島
１２	③④	助産所における助産業務管理：助産所の管理・運営、助産所の管理に関する法規 「助産学講座10　助産管理」該当ページと配布資料	中村/大瀬
１３	③④	地域母子保健活動の基盤：母子保健活動における連携・協働、地域の様々な場に おける助産師の役割 「助産学講座9　地域母子保健・国際母子保健」該当ページと配布資料	中村/大瀬
１４	③④	地域母子保健活動の実際：産前の地域母子保健活動、産後の地域母子保健活動、 特定の状況における地域母子保健活動 「助産学講座9　地域母子保健・国際母子保健」該当ページと配布資料	中村/大瀬
試験	①②③④⑤	定期試験	全員
事前・事後学修		事前学修：講義の前に前回までの内容を検討する。各120分 事後学修：講義の最後に次回の学修内容を指示する。各120分	
評　価　方　法		定期試験：１００％	
課題に対する フィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教　　科　　書		我部山キヨ子、毛利多恵子編：「助産学講座10　助産管理」（第６版）、医学書院 我部山キヨ子、武谷雄二編：「助産学講座９　地域母子保健・国際母子保健」（第６版）、医学書院	
参　　考　　書		日本助産師会：「助産所開業マニュアル」（改訂版）、日本助産師会 福井トシ子編：「新版 助産師業務要覧 第4版 Ⅰ　基礎編 」2024年版、日本看護協会出版会 福井トシ子編：「新版 助産師業務要覧 第4版 II実践編」 2024年版、日本看護協会出版会 福井トシ子編：「新版 助産師業務要覧 第4版 III アドバンス編」 2024年版、日本看護協会出版会 日本助産師会：助産業務ガイドライン2019、日本助産師会出版	
履修上の注意点 及び取扱い		【履修について】 1　事前事後の学修を怠らないこと。 2　課題やレポートは、提出日時を厳守すること。 【出欠席について】 1　無断欠席は一切認めない。 2　やむを得ず欠席する場合は、担当教員に連絡すること。 【定期試験の受験資格について】学修ガイダンスに準ずる。 【定期試験（課題レポート）の不合格者に対する取扱いについて】 （助産師課程要項参照） 　不合格（再試験でD評価）の場合、次年度に再履修することはできない。 　したがって、助産師課程離脱となる。	

科　目　名	助産診断技術学Ⅰ		
科目コード	35104	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B351043
授業形態	講義	開講時期	3年前期
必修・選択	必修		
単位数	3単位	時間数	45時間
先修条件	「助産診断技術学Ⅱ」の単位数先修条件となる。		
教員名	大瀬　恵子・小島　徳子・野々山　英里・平野　友美		
実務経験	助産師として病院勤務(小島・大瀬・野々山・平野)		
オフィスアワー	講義前後の休み時間		
科目概要	正常な経過をたどる対象者（妊婦・褥婦・新生児とその家族）の助産診断を臨床推論（Clinical Reasoning: CR）を通じて系統的に学修する。初期情報のアセスメントに基づき、探索的な情報収集を行うことにより診断の精度を高めていくという姿勢を獲得する。その上で、科学的根拠、女性の語り、文化・社会背景といったさまざまな視点から助産ケアの方向性を決定していくプロセスを学ぶ。これより、科学的根拠に基づき、対象者へ安全に助産実践できる基礎的能力を身につける。 「別表２：助産診断・技術学」		
到達目標	①助産診断・技術学の概要、マタニティサイクル各期の助産過程の展開について理解する。 ②正常な経過をたどる助産の対象者（妊婦・褥婦・新生児およその家族）の経過診断、健康生活診断するために必要な知識を修得する。 ③ハイリスク妊娠および妊娠期の異常にある妊婦の助産診断と援助を理解する。 ④ハイリスク・異常状態にある褥婦の援助を理解する。 ⑤健康教育を行うための基礎知識を理解する。 ⑥健康教育を行うための企画・運営・評価を理解できる。 ⑦マタニティサイクル各期で行われる検査や使用される薬剤を理解する。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①	科目ガイダンス 助産診断入門【臨床推論アプローチ】	小島
2	①②	妊娠期の助産診断：妊娠経過の診断、胎児の発達・健康状態の診断 ※事前事後「助産学講座５・６」該当ページと配布資料	小島
3	①②	妊娠期の助産診断：妊婦の健康生活の診断、妊婦の心理社会的側面の診断※事前事後「助産学講座４・６」該当ページと配布資料	小島
4	①②	妊娠期の助産診断：事例展開と健康課題と健康教育と保健指導 ※事前事後「助産学講座５・６」該当ページと配布資料	小島
5	①②③	ハイリスク管理：妊娠期、産褥・新生児期 ※事前事後「助産学講座６・７・８」該当ページと配布資料	小島
6	②③④⑦	妊娠・産褥期｛講義｝：検査・薬剤・手術 ※事前事後「助産学講座６・７」該当ページと配布資料	小島
7	②④⑤	産褥期の助産診断：診断産褥経過の診断、褥婦の健康生活の診断 ※事前事後「助産学講座７」該当ページと配布資料	小島
8	②④⑤	産褥期の助産診断：褥婦の心理社会的側面の診断 ※事前事後「助産学講座４・７」該当ページと配布資料	小島
9	②④⑤	産褥期の助産診断：育児能力の診断、母乳育児に関する診断 ※事前事後「助産学講座７・８」該当ページと配布資料	小島
１０	②⑤⑥	産褥期の助産診断：健康課題と教育 ※事前事後「助産学講座５・７」該当ページと配布資料	小島
１１	②⑤⑥	産褥期の助産診断：事例展開と健康課題と保健指導 ※事前事後「助産学講座７」該当ページと配布資料	小島
１２	②⑤⑥	産褥期の助産診断：事例展開と健康課題と保健指導 ※事前事後「助産学講座７」該当ページと配布資料	小島

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
１３	②	新生児期の助産診断：出生後24時間以内の経過診断 ※事前事後「助産学講座８」該当ページと配布資料	小島
１４	②	新生児期の助産診断：事例展開 ※事前事後「助産学講座８」該当ページと配布資料	小島
１５	②⑤⑥	産褥/新生児期の健康課題と保健指導｛演習｝	大瀬/野々山
１６	②⑤⑥	産褥/新生児期の健康課題と保健指導｛演習｝	大瀬/野々山
１７	②⑤⑥	産褥/新生児期の健康課題と保健指導｛演習｝	大瀬/野々山
１８	②⑤⑥	産褥/新生児期の健康課題と保健指導｛演習｝	大瀬/野々山
１９	⑤⑥	健康課題と教育｛演習｝集団指導の実際：出産準備教育	大瀬/野々山
２０	⑤⑥	健康課題と教育｛演習｝集団指導の実際：出産準備教育	大瀬/野々山
２１	⑤⑥	健康課題と教育｛演習｝集団指導の実際：出産準備教育	大瀬/野々山
試験	①②③④⑦	定期試験	小島
事前・事後学修		事前学修：講義の前に前回までの内容を検討する。各120分 事後学修：講義の最後に次回の学修内容を指示する。各120分	
評　価　方　法		定期試験：75%（内訳：妊娠期50%　産褥/新生児期50%） 助産過程・保健指導案：25% 最終評価は総合的に判定する。	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する	
教　　科　　書		１．堀内成子、片岡弥恵子編：「助産学講座５　助産診断・技術学Ⅰ」（第６版）、医学書院 ２．我部山キヨ子、武谷雄二編：「助産学講座２[２]　基礎助産学」（第６版）、医学書院 ３．我部山キヨ子、菅原ますみ編：「助産学講座４[4]　基礎助産学」（第6版）、医学書院 ４．我部山キヨ子、武谷雄二編：「助産学講座６[１]　妊娠期」（第６版）、医学書院 ５．我部山キヨ子、武谷雄二編：「助産学講座７[２]　分娩期・産褥期　」（第６版）、医学書 ６．我部山キヨ子、武谷雄二編：「助産学講座８[３]　新生児期・乳幼児期　」（第６版）、医学書院 ７．佐々木くみ子編：「助産師基礎教育テキスト５　分娩期の診断とケア」、日本看護協会出版会 ８．小林康江編：「助産師基礎教育テキスト７　ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」、日本看護協会出版会 ９．北川眞理子：「今日の助産」（第３版）、南山堂 １０．医療医用法研究会編：「病気がみえる　Vol.10　産科」（第４版）、メディックメディア １１．日本産婦人科学会/日本産婦人科医会編：「産婦人科診療ガイドライン　産科編2023」、日本産婦人科学会	
参　　考　　書		森恵美編：「助産師基礎教育テキスト4　妊娠期の診断とケア」、日本看護協会出版会 横尾京子編：「助産師基礎教育テキスト6　産褥期のケア/新生児期・乳幼児期のケア」、日本看護協会出版会 太田操編著：「助産ケア臨床ノート分娩期の母児」、医歯薬出版株式会社 我部山キヨ子、大石時子：「助産師のためのフィジカルイグザミネーション」、医学書院 仁志田博司：「新生児学入門」（第5版）、医学書院 吉沢豊予子、鈴木幸子編：マタニティアセスメントガイド（新訂第4版）、真興交易（株）医書出版部	
履修上の注意点及び取扱い		【履修について】 該当する教科書や参考書等の頁を提示するので、事前事後の学習を怠らないこと。 【出欠席について】 無断欠席は一切認めない。やむを得ず欠席する場合は、担当教員に連絡すること。 【定期試験の受験資格について】 学修ガイダンスに準ずる。 【定期試験の不合格者に対する取扱いについて】 （助産師課程要項参照） 不合格（再試験でD評価）の場合、次年度に再履修することはできない。 したがって、助産師課程離脱となる。	

科　目　名	助産診断技術学Ⅱ		
科目コード	35105	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	B351053
授業形態	演習	開講時期	3年後期
必修・選択	必修		
単位数	3単位	時間数	90時間
先修条件	１．「助産学総論」・「助産診断技術学Ⅰ」の単位を修得していること。２．「助産学演習」の単位数先修条件となる。		
教員名	大瀬　恵子・小島　徳子・野々山　英里・平野　友美		
実務経験	助産師とし助産師として病院勤務(小島・大瀬・野々山・平野)		
オフィスアワー	講義前後の休み時間		
科目概要	妊娠・分娩・産褥各期における女性の身体的・心理社会状態について、正常経過とその逸脱を独自に判断でき、対象により良い健康レベルの援助を提供するための必要な基礎実践能力について学修する。助産過程に必要な原理と技法を理解し、事例展開を行って、実際に活用できる能力を修得する。 「別表２：助産診断・技術学」		
到達目標	①正常な経過をたどる助産の対象者（妊産褥婦、新生児およその家族）の経過診断、健康生活診断するために必要な知識・技術を修得する。 ②正常からの逸脱や異常の有無を判断するために必要な妊娠・分娩・産褥・新生児の異常に関する基礎的な知識を修得する。 ③分娩介助技術の科学的根拠と介助技術を理解する。 ④正常から逸脱した状態にある産婦の助産診断と援助を理解する。 ⑤習得した知識や技術を活用し、分娩各期における助産計画を立案できる。 ⑥産科手術および産科的医療処置、産科救急、会陰縫合術などを理解する。 ⑦マタニティサイクル各期で行われる検査や使用される薬剤を理解する。 ⑧健康教育・保健指導の企画や方法・運営・評価について修得する。		

学位授与方針	対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる	○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる	
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる	○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる	○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる	
自己を研き継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる	○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる	○

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
1	①②	助産診断技術学Ⅱオリエンテーション	大瀬
2	①②⑧	健康教育・保健指導に必要な方法や運営の実際について｛演習｝ 出産準備教育の企画・運営方法の理解（企画・運営）する。	大瀬
3	①②⑧	健康教育・保健指導に必要な方法や運営の実際について｛演習｝ 教育の企画・運営方法の理解（対象・ニーズについて）する。	大瀬
4	①②⑧	健康教育・保健指導に必要な方法や運営の実際について｛演習｝ 企画・運営の実際を理解する。	大瀬/全員
5	①②⑧	健康教育・保健指導に必要な方法や運営の実際について｛演習｝ 企画・運営の実際を理解する。	大瀬/全員
6	①②③	健康教育・保健指導に必要な方法や運営の実際について｛演習｝ 企画・運営の実際を理解する。	大瀬/全員
7	①②③	健康教育・保健指導に必要な方法や運営の実際について｛演習｝ 企画・運営の実際を理解する。	大瀬/全員
8	①②	分娩期｛講義｝：分娩期の生理、分娩経過のアセスメントに必要な知識と技術 ※事前事後「助産学講座7　助産診断技術学Ⅱ」該当ページと配布資料	大瀬
9	①②	分娩期｛講義｝：分娩期のニーズ・健康課題と看護 ※事前事後「助産学講座7　助産診断技術学Ⅱ」該当ページと配布資料	大瀬
１０	①②⑥⑦	分娩期｛講義｝：分娩期に起こりうる正常からの逸脱 ※事前事後「助産学講座7　助産診断技術学Ⅱ」該当ページと配布資料	大瀬
１１	①②③	分娩介助方法の原理と原理を踏まえた分娩介助技術｛講義｝ 分娩介助の意義・原理	大瀬

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
１２	①②③	分娩介助方法の原理と原理を踏まえた分娩介助技術｛講義・演習｝ 正常分娩介助法の原理（正常分娩の娩出機転など） ※事前事後「助産学講座7」の該当ページと配布資料	大瀬
１３	①②③	分娩介助方法の原理と原理を踏まえた分娩介助技術｛講義・演習｝ 分娩介助時の技術（努責方法・会陰保護）付属物の検査と計測（計測の実際） 「助産学講座7」の該当ページと配布資料	大瀬
１４	①②③	分娩介助方法の原理と原理を踏まえた分娩介助技術｛講義・演習｝ 分娩介助技術の実際（分娩マニュアルの作成、初期診断・パルトグラムの作成） ※事前事後「助産学講座7」の該当ページと配布資料	大瀬
１５	①②④⑤	分娩期の助産診断｛講義｝：分娩時おける助産診断とは ※事前事後「助産学講座7」の該当ページと配布資料　参考「今日の助産」	大瀬
１６	①②④⑤	分娩期の助産診断｛講義｝：電話連絡時・入院時の初期診断と助産計画立案 ※事前事後「助産学講座7」の該当ページと配布資料　参考「今日の助産」	大瀬
１７	①②④⑤	分娩期の助産診断｛演習｝：事例展開	大瀬
１８	①②④⑤	分娩期の助産診断｛演習｝：事例展開	大瀬
１９	①②③	分娩介助法の原理と原則を踏まえた分娩介助技術の実際について｛演習｝正常分娩介助（分娩セットの準備、手洗い、ガウン・グローブ装着）	大瀬/全員
２０	①③	分娩介助法の原理と原則を踏まえた分娩介助技術の実際について｛演習｝正常分娩介助（清潔野の作成、分娩介助の準備、間接介助）、直接介助の実際	大瀬/全員
２１	①②③	分娩介助法の原理と原則を踏まえた分娩介助技術の実際について｛演習｝正常分娩介助（清潔野の作成、分娩介助の準備、間接介助）、直接介助の実際	大瀬/全員
２２	①③	分娩期の診断内容とフィジカルアセスメントに必要な助産技術｛講義・演習｝分娩期に伴う技術（内診、人工破膜、導尿）	大瀬/全員
２３	①②⑧	教育・保健指導に必要な方法や運営の実際：出産準備教育の企画・運営の実施	大瀬/全員
２４	①②⑥⑦	産科手術および産科的医療処置｛講義｝：産科手術（帝王切開・無痛分娩）、産科麻酔、救急処置 ※事前事後「助産学講座6」「助産学講座7」該当ページと配布資料	小島
２５	①②⑥⑦	産科手術および産科的医療処置｛講義｝：産科手術（帝王切開・無痛分娩）、産科麻酔、救急処置 ※事前事後「助産学講座6」「助産学講座7」該当ページと配布資料	小島
２６	①②⑥⑦	分娩期の診断内容とフィジカルアセスメントに必要な助産技術｛講義・演習｝破水を生じた産婦の看護（破水の種類、診察方法など）、誘発分娩、点滴管理 ※事前事後「助産学講座6」「助産学講座7」該当ページと配布資料	小島
２７	③	分娩期の診断と援助｛講義｝：CTG装着と判読、児心音低下時の対応とケア ※事前事後「助産学講座6」「助産学講座7」該当ページと配布資料	小島
２８	①②④⑤	分娩期の助産診断｛演習｝：事例展開(助産計画の発表)	大瀬
２９	①②④⑤	分娩期の助産診断｛演習｝：事例展開(助産計画の発表)	大瀬
３０	①②④⑤	分娩期の助産診断｛演習｝：事例展開(助産計画の発表)	大瀬
３１	①③	分娩期の診断内容とフィジカルアセスメントに必要な助産技術｛講義・演習｝分娩期に伴う技術（内診、人工破膜、導尿）	大瀬
３２	①②③	分娩介助法の原理と原則を踏まえた分娩介助技術の実際について｛演習｝付属物の検査と測定・出血量測定・分娩第3期のケア・分娩第4期のケア ※事前事後「助産学講座7」該当ページと配布資料	大瀬
３３	③④	分娩介助法の原理と原則を踏まえた分娩介助技術の実際について｛演習｝新生児の診断と援助、分娩期の助産技術の確認と振り返り	大瀬
３４	①②③⑥	分娩期の診断内容とフィジカルアセスメントに必要な助産技術｛講義・演習｝分娩期に伴う技術（会陰縫合） ※事前事後「助産学講座7」該当ページと配布資料	大瀬
３５	①②③⑥	分娩期の診断内容とフィジカルアセスメントに必要な助産技術｛講義・演習｝分娩期に伴う技術（会陰縫合） ※事前事後「助産学講座7」該当ページと配布資料	大瀬

授業計画（回数）	該当する 到達目標	内容・事前／事後学習	担当者
３６	①②⑧	教育・保健指導に必要な方法や運営の実際：出産準備教育の企画・運営の実施	大瀬/全員
３７	①②⑧	教育・保健指導に必要な方法や運営の実際：出産準備教育の企画・運営の実施	大瀬/全員
３８	①②⑧	教育・保健指導に必要な方法や運営の実際：出産準備教育の企画・運営の実施	大瀬/全員
３９	①②③	出生直後の新生児の管理｛演習｝：間接介助・新生児係の役割・早期母子接触）	野々山
４０	①②③	出生直後の新生児の管理｛演習｝：間接介助・新生児係の役割・早期母子接触）	野々山
４１	①②③	出生直後の新生児の管理｛演習｝：間接介助・新生児係の役割・早期母子接触）	野々山
４２	①②③	出生直後の新生児の管理｛演習｝：間接介助・新生児係の役割・早期母子接触）	野々山
試験	①②③⑥⑦	定期試験	大瀬
事前・事後学修		事前学修：講義の前に前回までの内容を検討する。各120分 事後学修：講義の最後に次回の学修内容を指示する。各120分	
評　価　方　法		定期試験：50% 分娩介助技術試験：40% 健康教育・保健指導発表、課題レポート等：10% 最終評価は総合的に判定する。	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する	
教　　科　　書		北川眞理子：「今日の助産」（第4版）、南山堂 堀内成子編：「助産学講座5　助産診断・技術学Ⅰ」（第6版）、医学書院 我部山キヨ子、武谷雄二編：「助産学講座6[1]　妊娠期」（第6版）、医学書院 我部山キヨ子、藤井知行編：「助産学講座7[2]　分娩期・産褥期　」（第6版）、医学書院 石井邦子、廣間武彦編：「助産学講座8[3]　新生児期・乳幼児期　」（第6版）、医学書院 佐々木くみ子編：「助産師基礎教育テキスト5　分娩期の診断とケア」、日本看護協会出版会 遠藤俊子編：「助産師基礎教育テキスト7　ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」、日本看護協会出版会 日本産婦人科学会/日本産婦人科医会編：「産婦人科診療ガイドライン　産科編2023」、日本産婦人科学会	
参　　考　　書		森恵美編：「助産師基礎教育テキスト4　妊娠期の診断とケア」、日本看護協会出版会 横尾京子編：「助産師基礎教育テキスト6　産褥期のケア/新生児期・乳幼児期のケア」、日本看護協会出版会 分娩期ケアガイドライン翻訳チーム：「WHO推奨　ポジティブな出産体験のための分娩期ケア」（2021年版）、医学書院 太田操編著：「助産ケア臨床ノート分娩期の母児」、医歯薬出版株式会社 医療医用法研究会編：「病気がみえる　Vol.10　産科」（第4版）、メディックメディア 我部山キヨ子、大石時子：「助産師のためのフィジカルイグザミネーション」、医学書院 仁志田博司：「新生児学入門」（第5版）、医学書院 細野茂春監修：「新生児蘇生法テキスト」（第4版）、メジカルビュー社 戸田律子、「マタニティクラスBOOK」、医学書院	
履修上の注意点及び取扱い		【履修について】 1　事前事後の学修と技術練習を怠らないこと。 2　課題やレポートは、提出日時を厳守すること。 【定期試験の受験資格について】 学修ガイダンスに準ずる。 【定期試験の不合格者に対する取扱いについて】（助産師課程要項参照） ※1　分娩介助技術試験は再試験を実施する。 ※2　不合格（再試験でD評価）の場合、次年度に再履修することはできない。したがって、助産師課程離脱となる。	